

2017年度

九州歯科大学 シラバス

歯学部

歯学科

目次

歯学部

歯学科

政治学	〔非常勤講師〕朝倉 拓郎	16
文化人類学	〔非常勤講師〕徳安 祐子	18
アジア文化史	〔非常勤講師〕榎崎 洋一郎	20
哲学	〔非常勤講師〕清水 満	23
文学	〔非常勤講師〕今川 英子	25
心理学	〔非常勤講師〕秋保 亮太	27
スポーツ実習	鯨 吉夫	29
	〔非常勤講師〕加倉井 美智子	
スポーツ実習	鯨 吉夫	32
	〔非常勤講師〕加倉井 美智子	
健康教育学	鯨 吉夫	35
法学	〔非常勤講師〕日下部 謙二	38
倫理学	〔非常勤講師〕清水 満	41
情報リテラシー	中原 孝洋	43
情報リテラシー	中原 孝洋	45
行動科学	〔非常勤講師〕今本 繁	47
基礎教育セミナー	福泉 隆喜	50
歯学概論	学長	52
	歯学部長	
	歯学科長	
	角舘 直樹	
	福泉 隆喜	
	曾我部 浩一	
	岩崎 正則	
	富永 和宏	
	〔非常勤講師〕小林 繁	
歯学概論	歯学科長	56
	北村 知昭	
	竹内 弘	
	牧 憲司	
	中島 秀彰	
	〔非常勤講師〕田中 裕望	
	〔非常勤講師〕間宮 清	
	〔非常勤講師〕自見 英治郎	
経済学	〔非常勤講師〕前田 淳	58
社会歯科学	福泉 隆喜	60
	邵 仁浩	
	日高 勝美	
	〔非常勤講師〕尾崎 哲則	
	〔非常勤講師〕和田 康志	
社会歯科学	福泉 隆喜	64
	岩崎 正則	
	日高 勝美	
	〔非常勤講師〕遠藤 浩正	
	〔非常勤講師〕森田 学	
社会歯科学	福泉 隆喜	68
	辻澤 利行	
	〔非常勤講師〕古賀 克重	
医療コミュニケーション	木尾 哲朗	72
	永松 浩	
	鬼塚 千絵	
	曾我部 浩一	
	大住 伴子	

		郡司掛 香織	
		黒石 加代子	
		笹栗 正明	
		國領 真也	
		園木 一男	
		引地 尚子	
		〔非常勤講師〕俣木 志朗	
		〔非常勤講師〕灘光 洋子	
		〔非常勤講師〕吉田 登志子	
		〔非常勤講師〕藤崎 和彦	
医療コミュニケーション	木尾 哲朗	76
		永松 浩	
		鬼塚 千絵	
		曾我部 浩一	
		大住 伴子	
		森川 和政	
		郡司掛 香織	
		黒石 加代子	
		笹栗 正明	
		國領 真也	
		〔非常勤講師〕田中 純子	
		〔非常勤講師〕伊藤 孝訓	
		〔非常勤講師〕田口 則宏	
		〔非常勤講師〕鈴木 一吉	
医療マネジメント	中原 孝洋	80
		〔非常勤講師〕福重 真佐子	
プロフェッショナリズム	学長	82
		歯学部長	
		鯨 吉夫	
		木尾 哲朗	
		有吉 渉	
		園木 一男	
		吉野 賢一	
プロフェッショナリズム	歯学部長	85
		栗野 秀慈	
		中原 孝洋	
		木尾 哲朗	
		永松 浩	
		鬼塚 千絵	
		曾我部 浩一	
		北村 知昭	
		園木 一男	
		引地 尚子	
		〔非常勤講師〕岩佐 康行	
		〔非常勤講師〕甲斐 康晴	
		〔非常勤講師〕村木 祐孝	
		〔非常勤講師〕仲山 智恵	
		〔非常勤講師〕濱寄 朋子	
		〔非常勤講師〕岡留 朝子	
プロフェッショナリズム	歯学部長	89
		栗野 秀慈	
		福泉 隆喜	
		鯨 吉夫	
		木尾 哲朗	
		曾我部 浩一	
		正木 千尋	
		清水 博史	
プロフェッショナリズム	栗野 秀慈	91
		木尾 哲朗	
		村岡 宏祐	

	富永 和宏 高橋 由希子 〔非常勤講師〕曾我 賢彦 臨床研修センター長	94
プロフェッショナリズム	歯学研究科長 粟野 秀慈 福泉 隆喜 日高 勝美 〔非常勤講師〕藤田 茂之 〔非常勤講師〕藤本 篤士 〔非常勤講師〕金成 雅彦	
物理学特論	〔非常勤講師〕中尾 基	96
生物学特論	瀬田 祐司 小野 堅太郎 古株 彰一郎 松原 琢磨 〔非常勤講師〕自見 英治郎	98
化学特論	〔非常勤講師〕河岸 重則 大住 伴子	101
基礎医学（細胞生物学・生化学）	瀬田 祐司 古株 彰一郎 松原 琢磨 〔非常勤講師〕自見 英治郎	103
基礎医学（骨格系）	瀬田 祐司 豊野 孝 片岡 真司 小野 堅太郎 〔非常勤講師〕自見 英治郎	106
基礎医学（神経系）	中富 満城 小野 堅太郎	109
基礎医学（体液循環・調節）	豊野 孝 片岡 真司 小野 堅太郎	112
基礎生命科学実習	古株 彰一郎 松原 琢磨	115
基礎生命科学実習	矢田 直美 東 泉 吉野 賢一 辻澤 利行 引地 尚子	118
口腔基礎医学（歯）	瀬田 祐司 人見 涼露 〔非常勤講師〕自見 英治郎	121
口腔基礎医学（頭頸部）	瀬田 祐司 中富 満城 豊野 孝 片岡 真司 人見 涼露	124
口腔基礎医学（摂食・内分泌）	瀬田 祐司 片岡 真司 小野 堅太郎 人見 涼露 古株 彰一郎 松原 琢磨	127
口腔基礎医学（発生・再生・病態医学）	中富 満城 片岡 真司 〔非常勤講師〕自見 英治郎	130
解剖学実習	瀬田 祐司 中富 満城 豊野 孝	133

	片岡 真司 〔非常勤講師〕児玉 淳	
生体材料学入門	清水 博史	138
	永松 有紀 池田 弘	
生体材料学総論	清水 博史	141
	永松 有紀 池田 弘	
生体材料学各論	清水 博史	144
	永松 有紀 池田 弘	
生理学実習	小野 堅太郎	147
	人見 涼露 園木 一男 吉野 賢一	
分子生物学実習	古株 彰一郎	149
	松原 琢磨	
口腔解剖学実習	瀬田 祐司	152
	中富 満城 豊野 孝 片岡 真司	
組織学実習	〔非常勤講師〕里田 隆博 瀬田 祐司	156
	中富 満城 豊野 孝 片岡 真司	
口腔病理学	松尾 拡	161
	矢田 直美 張 皿	
口腔病理学	松尾 拡	164
	矢田 直美 張 皿	
口腔病理学	松尾 拡	167
	矢田 直美 張 皿	
口腔病理学	松尾 拡	170
	矢田 直美 張 皿	
感染と免疫	西原 達次	173
	有吉 渉 沖永 敏則	
感染と免疫	西原 達次	176
	有吉 渉 沖永 敏則	
感染と免疫	〔非常勤講師〕小松澤 均 〔非常勤講師〕山下 喜久 西原 達次	179
	有吉 渉 沖永 敏則 東 泉 安細 敏弘 福原 正代	
感染と免疫	西原 達次	182
	有吉 渉 沖永 敏則 東 泉 安細 敏弘 福原 正代	
薬理学・歯科薬理学	竹内 弘	185
	大住 伴子	

薬理学・歯科薬理学	東 泉 竹内 弘	188
	大住 伴子	
薬理学・歯科薬理学	東 泉 竹内 弘	191
	大住 伴子	
薬理学・歯科薬理学	東 泉 園木 一男 竹内 弘	194
	大住 伴子	
	東 泉	
	引地 尚子	
	(非常勤講師) 佐加良 英治	
	(非常勤講師) 柳田 俊彦	
臨床歯科医学概論	歯学科長	198
	鷺尾 絢子	
	臼井 通彦	
	河野 稔広	
	正木 千尋	
	森川 和政	
	郡司掛 香織	
	國領 真也	
	椎葉 俊司	
成長発育総論	牧 憲司	200
	藤田 優子	
	森川 和政	
	佐伯 桂	
	川元 龍夫	
	森田 淳平	
	志賀 百年	
口腔顎顔面画像解剖学概論	諸富 孝彦	203
	細川 隆司	
	正木 千尋	
	中富 満城	
	森本 泰宏	
	田中 達朗	
	鬼頭 慎司	
	國領 真也	
歯の治療学	北村 知昭	206
	諸富 孝彦	
	鷺尾 絢子	
	吉居 慎二	
	宮下 桂子	
歯の治療学	北村 知昭	210
	諸富 孝彦	
	鷺尾 絢子	
	吉居 慎二	
	宮下 桂子	
	(非常勤講師) 寺下 正道	
	(非常勤講師) 田畑 泰彦	
	(非常勤講師) 金崎 伸幸	
歯の治療学実習	北村 知昭	215
	諸富 孝彦	
	鷺尾 絢子	
	吉居 慎二	
	宮下 桂子	
	細川 隆司	
	正木 千尋	
	近藤 祐介	
	柄 慎太郎	

	安細 敏弘	
	岩崎 正則	
	角田 聡子	
	富永 和宏	
	笹栗 正明	
	土生 学	
	吉賀 大午	
	岩永 賢二郎	
	三次 翔	
	高橋 理	
	河野 通直	
	藤井 誠子	
	吉岡 泉	
	國領 真也	
	坂口 修	
	大澤 賢次	
	田中 純平	
	渡邊 誠之	
	椎葉 俊司	
	原野 望	
	左合 徹平	
	茂山 幸代	
歯周病学 (講義)	中島 啓介	219
	臼井 通彦	
	中村 太志	
	守下 昌輝	
	花谷 智哉	
歯周病学 (実習)	中島 啓介	222
	臼井 通彦	
	中村 太志	
	守下 昌輝	
	花谷 智哉	
部分欠損補綴治療学 (講義)	有田 正博	225
	榎原 絵理	
	八木 まゆみ	
	河野 稔広	
部分欠損補綴治療学 (実習)	有田 正博	228
	榎原 絵理	
	八木 まゆみ	
	河野 稔広	
口腔機能再建治療学 (講義)	細川 隆司	230
	正木 千尋	
	小城 辰郎	
	近藤 祐介	
	柄 慎太郎	
	清水 博史	
	〔非常勤講師〕市川 哲雄	
口腔機能再建治療学 (実習)	細川 隆司	233
	正木 千尋	
	小城 辰郎	
	近藤 祐介	
	柄 慎太郎	
	清水 博史	
	永松 有紀	
	池田 弘	
	笹栗 正明	
	土生 学	
	吉賀 大午	
	岩永 賢二郎	
	三次 翔	

	高橋 理	
	河野 通直	
	藤井 誠子	
	國領 真也	
	坂口 修	
	大澤 賢次	
	田中 純平	
栄養と食生活	柿木 保明	237
	藤井 航	
	多田 葉子	
	辻澤 利行	
	〔非常勤講師〕村松 宰	
ヘルスプロモーション臨地実習	安細 敏弘	241
	岩崎 正則	
	角田 聡子	
小児歯科学	牧 憲司	243
	西田 郁子	
	森川 和政	
	佐伯 桂	
	〔非常勤講師〕藤原 卓	
	〔非常勤講師〕朝田 芳信	
小児歯科学 (講義)	牧 憲司	246
	西田 郁子	
	藤田 優子	
	森川 和政	
	佐伯 桂	
	〔非常勤講師〕尾崎 正雄	
	〔非常勤講師〕香西 克之	
	〔非常勤講師〕山崎 要一	
小児歯科学 (実習)	牧 憲司	250
	西田 郁子	
	藤田 優子	
	森川 和政	
	佐伯 桂	
	〔非常勤講師〕野村 信人	
	〔非常勤講師〕古谷 充朗	
歯科矯正学	川元 龍夫	253
	瀧口 玲子	
	郡司掛 香織	
	黒石 加代子	
	森田 淳平	
	志賀 百年	
	〔非常勤講師〕黒田 敬之	
歯科矯正学 (講義)	川元 龍夫	256
	瀧口 玲子	
	郡司掛 香織	
	黒石 加代子	
	森田 淳平	
	志賀 百年	
	〔非常勤講師〕森山 啓司	
歯科矯正学 (実習)	川元 龍夫	259
	瀧口 玲子	
	郡司掛 香織	
	黒石 加代子	
	森田 淳平	
	志賀 百年	
地域口腔保健学	安細 敏弘	263
	岩崎 正則	
	角田 聡子	
	〔非常勤講師〕宮崎 秀夫	

全部欠損補綴治療学（講義）	〔非常勤講師〕横山 博司 鱒見 進一 槇原 絵理 八木 まゆみ 河野 稔広 宮嶋 隆一郎 清水 博史 永松 有紀 池田 弘	266
全部欠損補綴治療学（実習）	〔非常勤講師〕皆木 省吾 鱒見 進一 槇原 絵理 八木 まゆみ 河野 稔広 宮嶋 隆一郎 清水 博史 永松 有紀 池田 弘	270
口腔インプラント学（講義）	臼井 通彦 細川 隆司 正木 千尋 近藤 祐介 柄 慎太郎 古株 彰一郎 森本 泰宏	274
口腔インプラント学（実習）	〔非常勤講師〕渡邊 文彦 〔非常勤講師〕阿部 伸一 〔非常勤講師〕坂本 菊男 細川 隆司 正木 千尋 近藤 祐介 柄 慎太郎	277
歯科放射線学	森本 泰宏 田中 達朗 鬼頭 慎司 若杉 奈緒	279
歯科放射線学（講義）	森本 泰宏 田中 達朗 鬼頭 慎司 若杉 奈緒	283
歯科放射線学（実習）	〔非常勤講師〕本田 浩 〔非常勤講師〕桑原 康雄 〔非常勤講師〕一矢 有一 森本 泰宏 田中 達朗 鬼頭 慎司 若杉 奈緒	287
歯科麻酔学	渡邊 誠之 椎葉 俊司 原野 望 左合 徹平 茂山 幸代	290
歯科麻酔学（講義）	〔非常勤講師〕趙 成三 渡邊 誠之 椎葉 俊司 原野 望 左合 徹平 茂山 幸代 大渡 凡人 〔非常勤講師〕茅島 顕治	296

歯科麻酔学 (実習)	渡邊 誠之 椎葉 俊司 原野 望 左合 徹平 茂山 幸代	300
口腔外科学	富永 和宏 笹栗 正明 土生 学 吉賀 大午 岩永 賢二郎 三次 翔 高橋 理 河野 通直 吉岡 泉	303
口腔外科学	富永 和宏 土生 学 吉賀 大午 岩永 賢二郎 三次 翔 高橋 理 河野 通直 國領 真也 坂口 修 大澤 賢次 田中 純平	308
口腔内科学	吉岡 泉 國領 真也 引地 尚子 〔非常勤講師〕山元 修	311
口腔内科学	河野 通直 吉岡 泉 國領 真也 坂口 修 大澤 賢次 田中 純平 〔非常勤講師〕大矢 亮一 〔非常勤講師〕平島 惣一	314
口腔内科学	笹栗 正明 河野 通直 吉岡 泉 坂口 修 大澤 賢次 〔非常勤講師〕神園 淳司	317
内科学	中道 郁夫 福原 正代 藤澤 律子 井手 均	320
内科学	中道 郁夫 福原 正代 井手 均	324
内科学	福原 正代	329
外科学	中島 秀彰 〔非常勤講師〕安永 親生 〔非常勤講師〕伊藤 重彦	333
外科学	中島 秀彰 〔非常勤講師〕三井 信介 〔非常勤講師〕後 信	337
高齢・障害者歯科学 (講義)	柿木 保明 藤井 航 多田 葉子	341

	木村 貴之		
	久保田 潤平		
	〔非常勤講師〕緒方 克也		
	〔非常勤講師〕迫田 綾子		
	〔非常勤講師〕遠藤 眞美		
高齢・障害者歯科学 (実習)	柿木 保明	344
	藤井 航		
	多田 葉子		
	木村 貴之		
	久保田 潤平		
高齢・障害者歯科学	柿木 保明	347
	藤井 航		
	多田 葉子		
	木村 貴之		
	久保田 潤平		
臨床推論学 (口腔内科系)	富永 和宏	350
	吉岡 泉		
	國領 眞也		
	坂口 修		
	大澤 賢次		
	田中 純平		
歯科診療システム管理学	〔非常勤講師〕笠井 史朗	353
	〔非常勤講師〕林 恵子		
	〔非常勤講師〕白土 清司		
	〔非常勤講師〕柘植 紳平		
	〔非常勤講師〕中野 充		
	〔非常勤講師〕舟谷 文男		
	〔非常勤講師〕白木 裕子		
歯科法医学・災害歯科学	中富 満城	357
	〔非常勤講師〕山田 良広		
顎顔面補綴学	鱒見 進一	359
	槇原 絵理		
	笹栗 正明		
	吉岡 泉		
摂食機能療法学	柿木 保明	362
	藤井 航		
	〔非常勤講師〕岩佐 康行		
総合講義	歯学科長	365
	福泉 隆喜		
	諸富 孝彦		
	中島 啓介		
	臼井 通彦		
	有田 正博		
	正木 千尋		
	竹内 弘		
	岩崎 正則		
	牧 憲司		
	川元 龍夫		
	富永 和宏		
	吉岡 泉		
	椎葉 俊司		
	柿木 保明		
総合講義	歯学科長	368
	福泉 隆喜		
	中原 孝洋		
	永松 浩		
	諸富 孝彦		
	鷺尾 絢子		
	吉居 慎二		
	臼井 通彦		

	細川 隆司	
	正木 千尋	
	永松 有紀	
	瀬田 祐司	
	竹内 弘	
	牧 憲司	
	富永 和宏	
	笹栗 正明	
	吉岡 泉	
	椎葉 俊司	
	〔非常勤講師〕自見 英治郎	
基礎数学	深井 康成	371
統計学概論	深井 康成	373
統計学概論	深井 康成	375
保健医療統計学	安細 敏弘	377
	岩崎 正則	
	角田 聡子	
Evidence-Based Dentistry	角館 直樹	379
臨床体験実習	栗野 秀慈	381
	村岡 宏祐	
	森川 和政	
臨床体験実習	栗野 秀慈	383
	森川 和政	
	高橋 由希子	
臨床体験実習	栗野 秀慈	387
	村岡 宏祐	
スキルアップ実習	栗野 秀慈	390
	村岡 宏祐	
	安細 敏弘	
	岩崎 正則	
	角田 聡子	
スキルアップ実習	栗野 秀慈	393
	諸富 孝彦	
	村岡 宏祐	
	河野 稔広	
	小城 辰郎	
	河野 通直	
スキルアップ実習	栗野 秀慈	396
	吉居 慎二	
	村岡 宏祐	
	河野 稔広	
	小城 辰郎	
クリニカルクラークシップ	附属病院長	399
	歯学部長	
	歯学科長	
	栗野 秀慈	
クリニカルクラークシップ	附属病院長	401
	歯学部長	
	歯学科長	
	栗野 秀慈	
クリニカルクラークシップ	附属病院長	403
	歯学部長	
	歯学科長	
	栗野 秀慈	
歯科医療リスクマネジメント	大渡 凡人	405
連携医学（小児科学）	〔非常勤講師〕河田 泰定	409
連携医学（精神医学）	〔非常勤講師〕稲員 修平	411
連携医学（医療心理学）	〔非常勤講師〕安田 弘之	413
連携医学（連携医学）	吉岡 泉	415
	藤井 航	

	大渡 凡人		
	〔非常勤講師〕瀬戸口 雅裕		
	〔非常勤講師〕古田 功彦		
	〔非常勤講師〕喜久田 利弘		
	〔非常勤講師〕笠井 新一郎		
	〔非常勤講師〕村岡 衛		
	〔非常勤講師〕中島 健		
	〔非常勤講師〕尼田 覚		
	〔非常勤講師〕高島 健		
	〔非常勤講師〕鈴木 裕也		
	〔非常勤講師〕大野 友久		
	〔非常勤講師〕小柳 靖裕		
	〔非常勤講師〕賀屋 邦彦		
臨床救急救命実習	栗野 秀慈	420	
	渡邊 誠之		
	左合 徹平		
英語 (A)	高尾 浩二	422	
英語 (B)	〔非常勤講師〕船方 浩子	424	
英語 (A)	〔非常勤講師〕船方 浩子	426	
英語 (B)	高尾 浩二	428	
ドイツ語	〔非常勤講師〕平川 要	430	
ドイツ語	〔非常勤講師〕平川 要	433	
中国語	〔非常勤講師〕板谷 俊生	435	
中国語	〔非常勤講師〕板谷 俊生	437	
韓国語	〔非常勤講師〕元 道吉	439	
韓国語	〔非常勤講師〕元 道吉	441	
医学英語	〔非常勤講師〕Michael Thomas MacKay	443	
医学英語	〔非常勤講師〕Michael Thomas MacKay	445	
国際歯科医学概論	角館 直樹	447	
	〔非常勤講師〕長谷川 了		
	久藤 元		
国際歯科医学実習	学長	449	
	角館 直樹		
研究室配属	松尾 拓	451	
最新生命科学	瀬田 祐司	453	
	小野 堅太郎		
	〔非常勤講師〕片桐 岳信		
	〔非常勤講師〕仲村 一郎		
	〔非常勤講師〕脇坂 聡		
	〔非常勤講師〕田畑 純		
	〔非常勤講師〕羽地 達次		
	〔非常勤講師〕山村 健介		
	〔非常勤講師〕小見山 道		
	〔非常勤講師〕加藤 隆史		
	〔非常勤講師〕自見 英治郎		
最新応用生命科学	北村 知昭	456	
	中島 啓介		
	細川 隆司		
	竹内 弘		
	富永 和宏		
	〔非常勤講師〕竹中 繁織		
	〔非常勤講師〕中澤 浩二		
	〔非常勤講師〕望月 慎一		
教養特講	秋房 住郎	458	
高齢者支援学	秋房 住郎	460	
	引地 尚子		
	泉 繭依		
	〔非常勤講師〕荒木 剛		
	〔非常勤講師〕納戸 美佐子		
	〔非常勤講師〕坂巻 路可		

〔非常勤講師〕新木 真理子
〔非常勤講師〕竜口 隆三

2017年度

政治学 (Politics)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕朝倉 拓郎						
担当教員	〔非常勤講師〕朝倉 拓郎						

授業の概要

本講義の目的は、市民（＝民主政治の担い手、つまり我々自身）が、自分たちの手で政治を運営していく上で必要となる政治的教養を身につけることである。本講義の内容は、大きく以下の三つの部分に分けられる。

- (1)政治の言葉：政治を理解する上で重要な言葉をいくつか取り上げ、その言葉の概念と歴史的背景を説明する。
- (2)戦後日本の政治：現代日本の政治がどのように形成されたのかを説明する。
- (3)現代政治の諸問題：我々が直面している政治的課題を、上記の議論をふまえて説明する。

学生の到達目標

- 政治を理解するための基本的概念、歴史的知識を身につける。
- 政治に関してより適切な判断を下すための幅広い視野を身につける。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

テキストは指定せず、毎回資料を配布する。
出) 著)

参考書

資料の中で適宜紹介する。
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	100%

その他

講義の前後、またはメールで相談を受け付ける。

2017年度

政治学 (Politics)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕朝倉 拓郎						
担当教員	〔非常勤講師〕朝倉 拓郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	イントロダクション 本講義の概要と、受講上の注意点等について説明する。	講義	朝倉	301講義室
2	政治の言葉(1):「国家」 政治の主要な舞台となる「国家」という共同体の特徴について学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
3	政治の言葉(2):「自由主義」 「自由主義」の思想とその歴史的背景について学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
4	政治の言葉(3):「立憲主義」 「立憲主義」の思想とその歴史的背景について学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
5	政治の言葉(4):「民主主義」 「民主主義」の特徴とそれが持つ危うさについて学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
6	戦後日本の政治(1):占領期の日本 新憲法制定と日米安保条約締結までの歴史を学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
7	戦後日本の政治(2):安保改定と高度成長 55年体制の成立から高度成長期までの歴史を学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
8	戦後日本の政治(3):沖縄返還 戦後沖縄の歴史について沖縄返還交渉を軸に学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
9	戦後日本の政治(4):55年体制の崩壊 55年体制の崩壊とその要因について学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
10	戦後日本の政治(5):ビデオの視聴 戦後日本の政治に関するビデオを視聴する。	ビデオの視聴	朝倉	301講義室
11	現代政治の諸問題(1):安全保障問題 日本の安全保障をめぐる現状と課題について学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
12	現代政治の諸問題(2):格差問題 格差が拡大する要因とその政治的影響について学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
13	現代政治の諸問題(3):選挙で何を選ぶのか? 日本の選挙制度の現状と課題について学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
14	現代政治の諸問題(4):市民自治の可能性 地方自治(地域自治)の意義と課題について学ぶ。	講義	朝倉	301講義室
15	確認テスト 本講義のまとめと確認テストを行う。	講義	朝倉	301講義室

2017年度

文化人類学 (Cultural anthropology)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕徳安 祐子						
担当教員	〔非常勤講師〕徳安 祐子						

授業の概要

文化人類学とは、人間について文化的・社会的側面から理解しようとする学問である。本講義では、とくに医療人類学が対象とする健康や病気に関する領域を中心に取り上げる。文化人類学において重要な考え方は、当たり前のことを当たり前としない考え方である。健康や病気、身体に対する考え方も社会や文化によってさまざまである。授業ではさまざまな社会の死生観や伝統的医療、現代医療の社会的影響などを具体的に紹介し、近代的な医療や身体観を相対化する見方、それらを「当たり前」としない医療人類学の考え方について学ぶ。

学生の到達目標

健康や病気、身体に対する考え方が、社会や文化によって多様であることを理解することができる。
さまざまな社会の伝統的な医療や身体観について知り、現代医療を客観的に捉えることができる。
近代医療の普及、発展がなにをもたらしたのかを文化的、社会的側面から考えることができる。
現代医学が普遍的、絶対的なものではないという医療人類学の考え方を理解することができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

随時、プリントを配布する。
出)

著)

参考書

医療人類学のレッスン
出)学陽書房

著)池田光穂・奥野克巳 編

いのちの文化人類学
出)新潮社

著)波平恵美子 著

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	80%
毎回講義後に課す小レポート	20%

その他

- ・講義前、講義後の空き時間に相談に応じる。
- ・質問の受付、回答はEメールでもおこなう。

2017年度

文化人類学 (Cultural anthropology)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕 徳安 祐子						
担当教員	〔非常勤講師〕 徳安 祐子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	文化人類学とはなにか 文化人類学とはなにか、また、文化人類学を学ぶことの意味について概説する。	講義	徳安	312講義室
2	文化人類学と医療人類学 文化人類学のなかでも医療に関するトピックを中心に扱う医療人類学について概説する。	講義	徳安	312講義室
3	文化としての身体と病い 身体や病を文化的、社会的に捉えることの意味について、事例を用いて解説する。	講義	徳安	312講義室
4	生と死の人類学 1. 人の一生 人間の過ごす一生の時間が人々にどのように捉えられているのかを、文化的、社会的側面から考える。	講義	徳安	312講義室
5	生と死の人類学 2. 誕生 出産や新生児に対する考え方など、人間の誕生について文化人類学的な視点から考える。	講義	徳安	312講義室
6	生と死の人類学 3. 死 「死後の世界」や死者儀礼など、人間の死に対する考え方について文化人類学的な視点から考える。	講義	徳安	312講義室
7	近代医療と伝統医療 1. 伝統医療とは何か 医療人類学における多様な医療の捉え方や、伝統的な医療のあり方について解説する。	講義	徳安	312講義室
8	近代医療と伝統医療 2. 呪術 伝統医療としての呪術について解説し、呪術を通して近代医療について考える。	講義	徳安	312講義室
9	近代医療と伝統医療 3. シャーマニズム 伝統医療としてのシャーマニズムについて解説し、現代のシャーマニズムについて考える。	講義	徳安	312講義室
10	近代医療と伝統医療 4. 憑依 憑依について解説し、憑依を通して病における身体や主体について考える。	講義	徳安	312講義室
11	文化人類学と心の問題 文化人類学における「心の問題」の捉え方について解説し、心の問題を社会・文化的側面から考える。	講義	徳安	312講義室
12	医療人類学と現代社会 1. グローバル化と近代医療 国際公衆衛生の成立と医療人類学の果たした役割について解説し、医療人類学の社会への実践的関与について考える。	講義	徳安	312講義室
13	医療人類学と現代社会 2. 開発と医療人類学 開発援助、国際協力に対する医療人類学の立場について解説し、医療協力における医療人類学の役割について考える。	講義	徳安	312講義室
14	医療人類学と現代社会 3. 現代医療と医療人類学 文化人類学を通して現代社会における医療を考える。健康や医療について文化的、社会的側面から捉えることの意味を検討する。	講義	徳安	312講義室
15	確認テスト これまで学んだ内容の理解について、テストをおこなって確認する。	試験	徳安	312講義室

2017年度

アジア文化史 (Cultural History of Asia)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕 榎崎 洋一郎						
担当教員	〔非常勤講師〕 榎崎 洋一郎						

授業の概要

この講義では、アジア（主に東アジア地域）の文化・思想・習俗などを、日本人がどのように受け入れ、変容させてきたか。あるいは逆に、日本が周辺諸国にどのような影響を与えてきたかを取り上げる。そこから、アジア諸国の文化上の共通点と相違点、及び現在の各国民の相互認識における問題点にアプローチし、あわせて日本文化がアジア世界、ひいては全世界の中で占める文化的な位置などについても考えを深めていく。

学生の到達目標

アジア諸国の文化・歴史などに対して、日本をその中に位置づけた上での総合的な理解ができるようになる。
 アジア諸国との過去・現在・未来にわたる関係について、広い視野から考えることができるようになる。
 「世界の中の日本」ということについて、時間的・空間的に複眼的・立体的な見方ができるようになる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

プリント配布
 出)

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

不合格者には再試験としてレポートを実施する。

その他

2017年度

アジア文化史 (Cultural History of Asia)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕 榎崎 洋一郎						
担当教員	〔非常勤講師〕 榎崎 洋一郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	<p>イントロダクション 東アジアとはどのような地域なのか。その一部である日本に対して、この地理的環境はどのような影響を与えてきたのか。 東アジア地域についての概括的な基礎知識と、その中で日本が置かれてきた状況に関する知識が得られるようにする。</p>	講義	榎崎	311講義室
2	<p>東アジアにおける「国名」の歴史 東アジア諸国の「国名」やその由来、およびその「意味」について学ぶ。 国家の名称と、そこに示された国民の「アイデンティティ」について、歴史的・文化的な視点から考える。</p>	講義	榎崎	311講義室
3	<p>東アジアにおける「王権」の諸様相 東アジア諸国の「王権」のあり様について、その沿革や意味などについて学ぶ。 第2回の授業内容を踏まえ、東アジア諸国民の国家認識・君主認識における共通点と相違点について理解を深める。</p>	講義	榎崎	311講義室
4	<p>封建と中央集権 第3回の授業内容を踏まえ、中国の歴史における、中央政府と地方権力との関係のあり方について主に学ぶ。 中国における「王」という称号の沿革、及び東アジアにおける「冊封体制」成立の背景について理解する。</p>	講義	榎崎	311講義室
5	<p>律令制と封建制 第2・3回の授業内容を踏まえ、日本の歴史における、君主と地方権力との関係のあり方について学ぶ。 日本における天皇と征夷大將軍との関係について、また將軍はなぜ「王」とならなかったのか、などについて考察を深め、日中韓三国の辿った歴史の相違について理解する。</p>	講義	榎崎	311講義室
6	<p>仏教・儒教・道教 アジア宗教史概論 インド人・中国人の宗教観、死生観、靈魂観について、仏教・儒教・道教についての基本的知識と共に学ぶ。 あわせて、中国・日本に伝播した仏教（大乘仏教）と、タイ・ミャンマーに伝播した南伝仏教（上座部仏教）との相違についても理解する。</p>	講義	榎崎	311講義室
7	<p>神道・仏教・儒教 日本宗教史概論 日本人の宗教観・死生観・靈魂観について、神道・仏教・儒教についての基本的知識と共に学ぶ。 日本古代における死生観・靈魂観と、仏教伝来後に蒙った変容、儒教や国学（復古神道）興隆後の動向についても理解する。</p>	講義	榎崎	311講義室
8	<p>東アジアにおける「文字」の諸様相 中国における漢字の歴史や、それが「中国文明」の形成にあたって果たした役割について学ぶ。 甲骨文字に始まる漢字の書体の歴史、その使用法、及びその「文字」としての長所や欠点、中国・日本以外の「漢字文化圏」で、近代以降漢字がどのような運命を辿ったかを理解する。</p>	講義	榎崎	311講義室
9	<p>東アジアにおける「文字」の諸様相 日本への漢字の伝来から、仮名文字の成立へと至る沿革について学ぶ。 渡来人や帰化人による漢字の伝承から、万葉仮名の成立、平仮名・片仮名の成立、そして漢字仮名混じり文の確立へと至る経過について理解する。</p>	講義	榎崎	311講義室
10	<p>東アジアにおける「文字」の諸様相 「ハングル」誕生の経緯と、その他の諸民族の作った文字について学ぶ。 韓国において、どのような意図と経緯のもとで「ハングル」が作成されたか、それが日本の仮名文字とどのように相違していたか、また他の諸民族の作った文字の歴史について理解する。</p>	講義	榎崎	311講義室

2017年度

アジア文化史 (Cultural History of Asia)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕 榎崎 洋一郎						
担当教員	〔非常勤講師〕 榎崎 洋一郎						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
11	朝鮮半島における仏教と儒教 朝鮮半島における仏教と儒教の歴史について学ぶ。 最初に日本に仏教を伝えたと言われる朝鮮半島において、その後、仏教がどのような歴史をたどったか、仏教と儒教に関する、日本と朝鮮半島の歴史的に見た共通点・相違点はどこにあるかについて理解する。	講義	榎崎	311講義室
12	「漢字文化圏」の一員としてのベトナム 「漢字文化圏」の一員としてのベトナムについて、文化・歴史的な視点から学んでいく。 中国の政治的・軍事的な圧倒的「脅威」に、常に晒され続けた越南（ベトナム）の歴史に関して、日本や韓国などとの相違点に着目しつつ理解を深める。	講義	榎崎	311講義室
13	西欧近代文明と東アジア 西欧近代文明の衝撃に対して、東アジア諸国がどのように対応しようとしたかを学ぶ。 「ウェスタン・インパクト」という事態を前にして、東アジア諸国が各々どのようにそれに対応しようとしたか、そのこととこれまでに見た諸国の文化的性格との関連などについて理解する。	講義	榎崎	311講義室
14	「社会主義」と東アジア 東アジア諸国と「社会主義」との関係について、歴史的視点から考えていく。 中国や北朝鮮はなぜ今でも「社会主義」体制を維持しているのか、そのことと古代以来の東アジアの歴史的・文化的伝統との間には、どのような関係があるのか等について思考を深める。	講義	榎崎	311講義室
15	学習内容のまとめ 東アジア諸国の過去と現在、そして未来について考える。 これまでの授業内容を再確認した上で、主に文化的側面から、今後の諸国間の相互理解の望ましいあり方について考える。	講義	榎崎	311講義室

2017年度

哲学 (Philosophy)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕清水 満						
担当教員	〔非常勤講師〕清水 満						

授業の概要

ヨーロッパの哲学的伝統、思想史の概説を行う。哲学の基本となるギリシャ（ヘレニズム）とキリスト教（ヘブライズム）から始まり、近代哲学の誕生を示す大陸合理主義のデカルトとスピノザ、イギリスのホブズ、そしてその完成形のドイツ観念論とその現代版の思想を講義していく。

学生の到達目標

ヨーロッパの哲学史の基本的な知識・概念を獲得する。
それによって、世界や自己を考察する基本的な概念と視点を得る。
現実の問題に対して、哲学的思考が有効であることを理解し、自己の今後の生き方に役立てる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

毎回レジメのプリントを配付する。

出) 著)

参考書

そのつど紹介する。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
考察の記入状況	20%
出席	20%

その他

質問その他は講義時間後とする。

2017年度

哲学 (Philosophy)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕清水 満						
担当教員	〔非常勤講師〕清水 満						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	イントロダクションとギリシャの思想(1) ソクラテスの知と徳 哲学とは何かを学ぶ。	講義	清水	311講義室
2	ギリシャの思想(2) プラトンの思想 プラトンの国家論の基礎を学ぶ。	講義	清水	311講義室
3	ギリシャの思想(3) アリストテレスの思想 「賢慮」と「友愛」の概念を学ぶ。	講義	清水	311講義室
4	キリスト教の思想(1) イエスとパウロの思想 史的イエスとキリスト教の成立を学ぶ。	講義	清水	311講義室
5	キリスト教の思想(2) ルターの思想 近代思想の基礎となったプロテスタンティズムの基礎を学ぶ。	講義	清水	311講義室
6	近代の思想(1) マキアヴェリ ルネッサンスに生まれた近代的人間観を学ぶ。	講義	清水	311講義室
7	近代の思想(2) デカルトの思想 デカルトの『方法序説』を主に、彼の思想を学ぶ。	講義	清水	311講義室
8	近代の思想(3) ホッブズの思想 社会契約説と機械論的人間観を学ぶ。	講義	清水	311講義室
9	近代の思想(4) スピノザの思想 「マルティチユード」と「知的愛」について学ぶ。	講義	清水	311講義室
10	ドイツ観念論の思想(1) カントの思想 「定言命法」と「人格主義」について学ぶ。	講義	清水	311講義室
11	ドイツ観念論の思想(2) フィヒテの思想 「自覚」と「相互承認」について学ぶ。	講義	清水	311講義室
12	ドイツ観念論の思想(3) ヘーゲルの思想 「国家」と「理性」について学ぶ。	講義	清水	311講義室
13	近代から現代への思想 マルクスの思想 「物象化」とコミュニケーションについて学ぶ。	講義	清水	311講義室
14	現代の思想 フランクフルト学派とハーバマスの思想 フランクフルト学派と第二世代のハーバマスの思想を学ぶ。	講義	清水	311講義室
15	まとめ これまでの講義の総括	講義	清水	311講義室

2017年度

文学 (Literature)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕今川 英子						
担当教員	〔非常勤講師〕今川 英子						

授業の概要

一般教養としての文学習得の一環として、近現代（明治以降）の日本文学を中心に講義する。文学とは人間世界の謎解きともいえる。殊に小説は社会と心理の複雑さを言葉で表現していて、人間存在のしくみを理論的に考える最良の素材となる。作品世界を読み解くことで、人間の普遍的な心理から自己の内面への気付き、人間としての生き方への認識、さらに他者への理解へとつなげ、医療従事者に求められる知性と感性を磨く。

学生の到達目標

文学作品を読み、思考力を涵養できる。
文学作品を鑑賞し、自分なりに感じたことや考えたことを表現できる。
文学表現に触れ、表現の豊かさや日本文学の特徴を理解できる。
読書の魅力に触れ、「高級な楽しみ」を身につけることができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
適宜課す小論文	30%
出席状況	20%

その他

(テキスト・参考文献等)
その都度教室で指示する。文庫本で出版されている作品を選ぶので、各自入手して一読されたい。
コピーで収まる短編や資料などはプリントで配布する。

2017年度

文学 (Literature)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕今川 英子						
担当教員	〔非常勤講師〕今川 英子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	近代文学入門 文学とは何か。物語と文学の違いは何か。近代文学を学ぶことや読書の意義について考える。	講義	今川	312講義室
2	桜の文学史 万葉や古事記の時代から、桜がどのように詠まれ、さらに中古、中世、近世を経て、近現代に至るまでいかに変容していったかを具体的に作品にふれながら学ぶ。それは自ずと日本文化史につながる。	講義	今川	312講義室
3	日本近代文学史（散文編） 明治初期からの小説の歴史を、それぞれの作品にふれながら時代背景とともに学ぶ。それは日本人の精神史でもある。	講義	今川	312講義室
4	日本近代文学史（散文篇） 明治初期からの小説の歴史を、それぞれの作品にふれながら時代背景とともに学ぶ。それは日本人の精神史でもある。	講義	今川	312講義室
5	日本近代文学史（詩歌編） 古代からの詩歌の歴史をひもとく。俳句、短歌など、日本特有の文学形式についても学ぶ。	講義	今川	312講義室
6	森鷗外の生涯と作品 明治文学を代表する森鷗外の生涯（小倉時代の意味も含め）をたどり、組織と個人、公と私、西洋と東洋など相反するベクトルをどう統合して生ききったかを、作品に添いながら学ぶ。	講義	今川	312講義室
7	森鷗外の生涯と作品 明治文学を代表する森鷗外の生涯（小倉時代の意味も含め）をたどり、組織と個人、公と私、西洋と東洋など相反するベクトルをどう統合して生ききったかを、作品に添いながら学ぶ。	講義	今川	312講義室
8	夏目漱石を読む「草枕」「夢十夜」 漱石の生涯と初期の作品を中心に、個人主義、文明批評について学ぶ。	講義	今川	312講義室
9	夏目漱石を読む「三四郎」「それから」「門」 前期三部作を丁寧に読みながら、恋愛、男と女の相克などをテーマに、人間の普遍的な問題に取り組む。	講義	今川	312講義室
10	夏目漱石を読む「彼岸過迄」「行人」「こころ」 後期三部作を読み、人間のエゴイズムや孤独の問題について学ぶ。	講義	今川	312講義室
11	「青鞥」と女性作家たち 新しい女 を生んだ「青鞥」とはどんな雑誌だったのか？平塚らいてう、後継の伊藤野枝のほか、周辺の与謝野晶子、岡本かの子などをとりあげながら、フェミニズムやセクシャリティの問題も考える。	講義	今川	312講義室
12	「青鞥」と女性作家たち 新しい女 を生んだ「青鞥」とはどんな雑誌だったのか？平塚らいてう、後継の伊藤野枝のほか、周辺の与謝野晶子、岡本かの子などをとりあげながら、フェミニズムやセクシャリティの問題も考える。	講義	今川	312講義室
13	川端康成「雪国」を読む 川端の文学的美質の究極が開花したと言われる代表作。各国で翻訳され世界的にも評価が高い。丁寧に読みながら、その魅力に迫る。	講義	今川	312講義室
14	村上春樹「ノルウェイの森」を読む 純愛小説 として、圧倒的な読者を獲得したその文学の新しさや、死と性の問題を考える。	講義	今川	312講義室
15	北九州ゆかりの作家・松本清張、林芙美子 清張や芙美子の文学の魅力や、作品にふれながら学ぶ。	講義	今川	312講義室

2017年度

心理学 (Psychology)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕秋保 亮太						
担当教員	〔非常勤講師〕秋保 亮太						

授業の概要

本講義では、これまでの心理学の基礎的な知見を幅広く紹介しながら、心理学の主要領域について概説していく。基本的理論に触れることで、人間の心理や行動のメカニズムについての理解を深め、科学的に研究する方法を学ぶことを目的とする。更に、理論を自分の生活に結びつける機会を提供することで、自分や周りの物事を客観的かつ多角的に見るための視点を養う。

学生の到達目標

- 心理学の主要領域の基本的理論や重要なキーワードの説明ができる。
- 心理学の科学的な検証方法について説明することができる。
- 心理学の思考方法に沿って具体的な事象を解釈することができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

出) (著)

参考書

授業中、適宜紹介する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	70%
課題提出、出席状況、授業態度	30%

その他

(学習相談) 授業後またはメールにて質問や相談を行う。

2017年度

心理学 (Psychology)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕秋保 亮太						
担当教員	〔非常勤講師〕秋保 亮太						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	オリエンテーション 心理学とは何か、歴史を踏まえながら学ぶ。	講義	秋保	301講義室
2	感覚と知覚 人間はどのように外界を認識しているのかを学ぶ。	講義	秋保	301講義室
3	学習 学習と行動の関係性について学ぶ。	講義	秋保	301講義室
4	記憶(1) 記憶の過程と種類について学ぶ。	講義	秋保	301講義室
5	記憶(2) 記憶の方略、忘却のメカニズムについて学ぶ。	講義	秋保	301講義室
6	対人認知 人間が他者を認知するときの傾向の基礎を学ぶ。	講義	秋保	301講義室
7	モチベーション 人間の欲求と動機づけの基本的理論について学ぶ。	講義	秋保	301講義室
8	性格 性格とは何か、類型や特性から学ぶ。	講義	秋保	301講義室
9	社会的ジレンマ 日常にありふれる協力と競争の心理について学ぶ。	講義	秋保	301講義室
10	集団(1) 集団特有の行動や心理的について学ぶ。	講義	秋保	301講義室
11	集団(2) 集団での意思決定やリーダーシップの役割について学ぶ。	講義	秋保	301講義室
12	状況の力 服従や人助けについて、実際の事件や実験を元に学ぶ。	講義	秋保	301講義室
13	文化 心と文化の関係性について、東洋と西洋の差を学ぶ。	講義	秋保	301講義室
14	対人魅力 他者に感じる魅力について、恋愛を例に学ぶ。	講義	秋保	301講義室
15	確認テスト	講義	秋保	301講義室

2017年度

スポーツ実習 (Sports practical training)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	鯨 吉夫、〔非常勤講師〕加倉井 美智子						

授業の概要

安全かつ計画的に身体活動を行い、心身の育成、体力の向上、友愛、共同、奉仕、公正を学ぶ。災害時における避難方法および防災の知識を習得する。

学生の到達目標

健康維持と体力増進のため、身体活動の必要性を理解する。
スポーツを通して、仲間づくりやストレスの発散方法を習得する。
災害時における避難方法および防災の知識を習得する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文章を準備できる。
A	6	1)			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	7	1)			信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
A	7	1)			コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
B	1				健康の概念を説明できる。
F	1				適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正しい態度で接することができる。
F	1				基本的なコミュニケーションができる。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	50%
運動状況	50%

その他

質問・相談・用件がある場合には、本館3階総合教育学研究室3へ来室すること。
オフィスアワー 授業および会議中を除いて、常時研究室に在室しているので随時受け付ける。

2017年度

スポーツ実習 (Sports practical training)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	鯨 吉夫、〔非常勤講師〕加倉井 美智子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	オリエンテーション 各種スポーツ競技において、安全かつ計画的に身体活動を行うとともに、心身の育成、体力の向上、友愛、共同、奉仕、公正を学び、仲間づくり・ストレスの発散方法を習得することを理解する。	講義	鯨 加倉井	301講義室
2	体力テスト 文部科学省作成の新体力テストを行うことにより、自身の体力の現状を把握させ、今後の授業展開に役立たせる。握力・体前屈・立ち幅とび・上体起こし・反復横とびを行い、筋力・柔軟性・瞬発力の現状を知る。	実習	鯨 加倉井	体育館
3	体力テスト 文部科学省作成の新体力テストを行うことにより、自身の体力の現状を把握させ、今後の授業展開に役立たせる。20mシャトルランテストを行い持久力の現状を知る。	実習	鯨 加倉井	体育館
4	避難訓練 災害時における避難方法および防災の知識を習得する。 (体育館からグラウンドへの避難)	実習	鯨 加倉井	体育館
5	スポーツ実践 バドミントン・卓球・フットサルを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館
6	スポーツ実践 バドミントン・卓球・フットサルを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館
7	スポーツ実践 バレーボール・バスケットボール・ソフトボールを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館
8	スポーツ実践 バレーボール・バスケットボール・ソフトボールを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館
9	スポーツ実践 バレーボール・バスケットボール・ソフトボールを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館
10	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館
11	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館
12	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館
13	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館

2017年度

スポーツ実習 (Sports practical training)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	鯨 吉夫、〔非常勤講師〕加倉井 美智子						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
14	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館
15	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学ぶ。	実習	鯨 加倉井	体育館

2017年度

スポーツ実習 (Sports practical training)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	鯨 吉夫、〔非常勤講師〕加倉井 美智子						

授業の概要

安全かつ計画的に身体活動を行い、心身の育成、体力の向上、友愛、共同、奉仕、公正を学び、自分に適した身体活動を計画し実践する。

学生の到達目標

健康維持と体力増進のため、身体活動の必要性を理解する。
スポーツを通して、仲間づくりやストレスの発散方法を習得する。
自分に適した身体活動を見つけ出す。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文章を準備できる。
A	6	1)			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	7	1)			信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
					コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
B	1				健康の概念を説明できる。
F	1				適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正しい態度で接することができる。
					基本的なコミュニケーションができる。

テキスト

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	50%
運動状況	50%

その他

質問・相談・用件がある場合には、本館3階総合教育学研究室3へ来室すること。
オフィスアワー 授業および会議を除いて、常時研究室に在室しているので随時受け付ける。

2017年度

スポーツ実習 (Sports practical training)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	鯨 吉夫、〔非常勤講師〕加倉井 美智子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	オリエンテーション 各種スポーツ競技において、安全かつ計画的に身体活動を行うとともに、心身の育成、体力の向上、友愛、共同、奉仕、公正を学び、仲間づくり・ストレスの発散方法を習得することを理解し、自分に適した身体活動を見つけ出す。	講義	鯨 加倉井	体育館
2	体力テスト 文部科学省作成の新体力テストを行うことにより、自身の体力の現状を把握させ、今後の授業展開に役立たせる。握力・体前屈・立ち幅とび・上体起こし・反復横とびを行い、筋力・柔軟性・瞬発力の現状を知る。	実習	鯨 加倉井	体育館
3	体力テスト 文部科学省作成の新体力テストを行うことにより、自身の体力の現状を把握させ、今後の授業展開に役立たせる。20mシャトルランテストを行い持久力の現状を知る。	実習	鯨 加倉井	体育館
4	スポーツ実践 バドミントン・卓球・フットサルを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館
5	スポーツ実践 バドミントン・卓球・フットサルを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館
6	スポーツ実践 バドミントン・卓球・フットサルを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館
7	スポーツ実践 バレーボール・バスケットボール・ソフトボールを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館
8	スポーツ実践 バレーボール・バスケットボール・ソフトボールを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館
9	スポーツ実践 バレーボール・バスケットボール・ソフトボールを安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館
10	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館
11	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館
12	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館

2017年度

スポーツ実習 (Sports practical training)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	鯨 吉夫、〔非常勤講師〕加倉井 美智子						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
13	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館
14	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館
15	スポーツ実践 チームを作り、選択したスポーツ種目を安全かつ計画的に行うことにより、健康維持および体力増進のための、身体活動の必要性や仲間づくり・ストレスの発散方法を学び、自分に適した身体活動を見つけ出す。	実習	鯨 加倉井	体育館

2017年度

健康教育学 (Health education)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	鯨 吉夫 塩川 康子、西山 かわり						

授業の概要

心身ともに健康に過ごすためには、規則正しい食生活、適度な運動、休養が大切である。健康維持と体力増進を、日々の生活の中で実践する習慣を養うことの大切さを指導する。また、救急救命法の授業では、人口蘇生法、心臓マッサージ法、AEDの使用方法を習得する。災害時における避難方法および防災の知識を習得する。

学生の到達目標

健康維持と体力増進のために必要な知識を習得し、日々の生活の中で実践できる。
命の尊さを理解し、救急救命法の正しい手順を習得する。
災害時における避難方法および防災の知識を習得する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文章を準備できる。
A	6	1)			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	7	1)			信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
A	7	1)			コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
B	1				健康の概念を説明できる。
B	2	4)			環境による健康への影響を説明できる。
C	2	3)			生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。
E	1	5)			意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。
E	1	5)			気道確保と呼気吹き込みによる人工呼吸を実施できる。
E	1	5)			胸骨圧迫とAEDの操作を実施できる。
F	1				適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正しい態度で接することができる。
F	1				基本的なコミュニケーションができる。

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	50%
レポート	50%

2017年度

健康教育学 (Health education)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	鯨 吉夫 塩川 康子、西山 かおり						

その他

質問・相談・用件がある場合には、本館3階総合教育学研究室3へ来室すること。
オフィスアワー 授業および会議を除いて、常時研究室に在室しているので随時受け付ける。

2017年度

健康教育学 (Health education)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	鯨 吉夫 塩川 康子、西山 かおり						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	オリエンテーション 健康維持と体力増進のために必要な知識を習得し、日々の生活の中で実践できる習慣を養うことを理解するとともに、救急救命法の手順を学び習得する。	講義	鯨	301講義室
2	食生活 人は生きていく上で、食べることは必要不可欠である。食品添加物の知識、栄養素、バランスのよい食事などについて学ぶ。	講義	鯨	301講義室
3	災害時の防災指導および避難訓練 災害時（地震・火災等）における防災知識の指導および避難訓練を行う。（本館から館外への避難）	講義	鯨	301講義室
4	避難訓練反省会	講義	鯨	301講義室
5	BMI値・適正体重・適正エネルギー量 適度な運動、規則正しい食生活、休養の3要素は大切である。日々の生活の中で健康的な生活を実践するため、肥満度（BMI値）、適正体重、適正エネルギー量の計算式について学ぶ。	講義	鯨	301講義室
6	発育と発達 栄養と発育、咀嚼、身体の発育曲線、発達と運動、タバコの害などについて学ぶ。	講義	鯨	301講義室
7	スポーツ傷害 スポーツ時に発生する外傷原因や予防策、対処方法について学ぶ。	講義	鯨	301講義室
8	応急手当法 倒れている人、止血法、骨折、やけど、熱中症についての対処方法を学び習得する。	講義	鯨	301講義室
9	運動生理学 人体の骨格の作り、頭頸部の名称、筋肉の名称について学ぶ。	講義	鯨	301講義室
10	運動生理学 生命現象、生命維持システム、運動調節システムについて学ぶ。	講義	鯨	301講義室
11	運動生理学 DNA、内臓器官、健康日本21について学ぶ。	講義	鯨	301講義室
12	学生の福利厚生 学生の健康を管理する健康管理室、メンタル面の援助をするカウンセリング室の利用方法を紹介する。	講義	鯨 塩川 西山	301講義室
13	スポーツ心理 競技スポーツを行う際の心理的なアドバイスについて学ぶ。	講義	鯨	301講義室
14	トレーニング法 トレーニングを行う際に大切な、時間、頻度の原理を学ぶ。	講義	鯨	301講義室
15	総括・課題作成 歯科医療人としての将来像を考える。	講義	鯨	301講義室

2017年度

法学 (Study of Law)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕日下部 謙二						
担当教員	〔非常勤講師〕日下部 謙二						

授業の概要

わが国では、他の先進諸国と違い、大学入学前に、法について学ぶ機会がほとんどないため、法の実在について意識することは少ないかもしれない。

本授業では、歯科医師・歯科衛生士など医療従事者（医療専門職）にとって重要な医療に関する法（医事法）の、特に重要かつ基本的な部分を、法学的観点から説明する。その際、一般市民として日常生活に必要不可欠な法の内容についても、必要な限りで触れることとする。

学生の到達目標

法に関する一般的な基礎知識を知る。

医療法を概説できる。

歯科医師法と歯科衛生士法を概説できる。

個人情報保護制度・守秘義務について概説できる。

民事責任・刑事責任・行政法上の責任・懲戒責任の違いを、具体例を示しつつ、概説できる。

通常は法律から一義的な結論が導き出せないことを知る。

規範と現実にズレがあるとき、様々な対応策があることを知る。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

コ・メディカルのための医事法学概論 2011年〔ただし、最新版を優先〕
出) ミネルヴァ書房 著) 野崎和義 著

参考書

〔その他〕に詳細記載。
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	70%
平常点	30%

定期試験の不合格者等にはレポートを課す。

2017年度

法学 (Study of Law)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕日下部 謙二						
担当教員	〔非常勤講師〕日下部 謙二						

その他

〔参考書〕

法学入門

- ・大学入学前までに使用していた社会科の教科書・資料集
- ・憲法主義（内山奈月＝南野森著、PHP研究所、2014年〔文庫版：2015年〕）
- ・高校から大学への法学（君塚正臣編、法律文化社、第2版、2016年）
- ・医療・福祉のための法学入門（野崎和義著、ミネルヴァ書房、2013年〔ただし、最新版を優先〕）

医事法

- ・医事法学（久々湊春夫＝姫嶋瑞穂著、成文堂、2016年）などの医事法・医療に関する法の教科書
 - ・医療六法 平成29年版（中央法規出版、2017年）や、実務衛生行政六法 平成28年版（衛生法規研究会、新日本法規出版、2015年〔ただし、最新版を優先〕）などの法令集（少なくとも、歯科医師法・歯科衛生士法・医療法などの医療に関する法律のほか、これらの政省令が載っているもの。）
 - ・歯科五法コンメンタール（社会歯科学研究会編、ヒョーロン・パブリッシャーズ、第2版、2016年）
 - ・医事法判例百選（甲斐克則＝手嶋豊編、有斐閣、第2版、2014年）
- 上記以外については、各回の講義の際に適宜紹介する。

〔学習相談〕

講義終了後に質問を受け付ける。

2017年度

法学 (Study of Law)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕日下部 謙二						
担当教員	〔非常勤講師〕日下部 謙二						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	法と法学 「法とは何か」「法学とは何か」を学ぶ。 法（法学）一般を学ぶ上で必要な基礎知識を学ぶ。	講義	日下部	301講義室
2	医療と法・医療施設 医療に関する法体系を概観する。 医療施設を概観する。	講義	日下部	301講義室
3	歯科医師・歯科衛生士の免許（その1） 歯科医師・歯科衛生士の免許制度について概観する。	講義	日下部	301講義室
4	歯科医師・歯科衛生士の免許（その2） 他の医療従事者の免許制度との比較を行う。 歯科医師・歯科衛生士の免許に関する手続法を概観する。	講義	日下部	301講義室
5	歯科医師の業務 歯科医師の業務を学ぶ。 医師・歯科医師の医療行為・業務独占の内容を学ぶ。	講義	日下部	301講義室
6	歯科衛生士などの業務 歯科衛生士の業務を学ぶ。 看護師など他の医療従事者の業務との違いを学ぶ。	講義	日下部	301講義室
7	治療行為と同意 治療行為と同意の関係を学ぶ。 民法上の制限行為能力者制度などを学ぶ。	講義	日下部	301講義室
8	民事手続・刑事手続 民事手続・刑事手続を概観する。 厳罰化の議論を概観する。	講義	日下部	301講義室
9	医療過誤（1）：民事責任（その1） 医療過誤があった場合の責任の類型を学ぶ。 損害賠償責任の債務不履行・不法行為構成の相違点を学ぶ。	講義	日下部	301講義室
10	医療過誤（2）：民事責任（その2） 医療従事者の注意義務を概観する。 医事紛争の処理手続を概観する。	講義	日下部	301講義室
11	医療過誤（3）：刑事責任 業務上過失致死傷罪の意義・成立要件を学ぶ。 チーム医療と信頼の原則について概観する。 医師法の異状死体等の届出義務と黙秘権について概観する。	講義	日下部	301講義室
12	医療過誤（4） これまでに学んだ法的責任を、事例において確認する。	講義	日下部	301講義室
13	患者の人権と個人情報保護 個人情報保護法を概観する。 医療従事者の守秘義務について概観する。	講義	日下部	301講義室
14	医療従事者と労働法（1） 具体例を通じて、未払い賃金・過労死の問題を考える。	講義	日下部	301講義室
15	医療従事者と労働法（2） 未払い賃金・過労死についての法的規制を概観する。	講義	日下部	301講義室

2017年度

倫理学 (Ethics)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕清水 満						
担当教員	〔非常勤講師〕清水 満						

授業の概要

日常の諸問題でどのように考えればよいのか、毎回、問題が課され、自分で解答を作成する。その後、事例を通して、現代倫理学の基本的な考え方を講義する。現代応用倫理学の主要なテーマ、概念から初め、後半は、歯科医療従事者に必要な医療倫理の基本的な考え方を講義する。

学生の到達目標

現代社会で生きる一人の人間としての「倫理」とは何かを考え、個々の状況において、適切な対応ができる「判断力」を涵養する。医療従事者、科学者としての基本的な倫理観を身につける。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

適宜、レジメのプリントを配布する。
出)

著)

参考書

そのつど指示する。
出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	60%
練習問題の回答状況	30%
出席状況	10%

その他

質問その他は講義時間後に受け付ける。

2017年度

倫理学 (Ethics)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕清水 満						
担当教員	〔非常勤講師〕清水 満						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	倫理学序論 「うまく生きること」と「よく生きること」の違いを理解する。	講義	清水	301講義室
2	応用倫理学の基礎(1) 功利主義 難破船のパラドックス 功利主義について事例をもとに学び、現実への適用ができるようにはかる。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
3	応用倫理学の基礎(2) 自由主義 「人に迷惑をかけなければ何をしてもかまわない」は正しいか？ 現代倫理学の基礎である自由主義を学び、現実への適用を可能にする。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
4	応用倫理学の基礎(3) カントの倫理学 「ウソも方便」は正しいか？ カント倫理学の要諦を学び、現実への適用可能性をはかる。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
5	応用倫理学の基礎(4) 日常生活への応用 恋愛と結婚の倫理社会学 日常生活に学問的な考察が以下に適用できるかを事例などで学び、応用できるようにする。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
6	科学者の社会的責任(1) STAP細胞問題、ノバルティス社問題など、科学におけるデータ偽造、過度な業績主義の弊害などを素材に、科学者の倫理を学び、大学や社会で研究者倫理を実行できるようにする。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
7	科学者の社会的責任(2) 核兵器開発、原発、731部隊など著名な事例を参考に、科学者の社会的責任を考察し、医療倫理、科学倫理に反した研究をしない判断力を身につける。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
8	医療倫理(1) インフォームド・コンセントと患者の権利を学び、現場で応用できるようにする。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
9	医療倫理(2) 高齢者、障害者たちのノーマライゼーションを考察し、歯科治療の患者として対応できるようにする。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
10	医療倫理(3) エンハンスメントの倫理的問題を考察し、医療倫理に反する治療をしない判断力を身につける。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
11	医療倫理(4) 医療経済の基礎について学び、診療報酬などの理解を得る。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
12	医療倫理(5) フォーコーなどの医療社会批判を手がかりに社会と医療制度の関係を考察し、批判的な視点も得る。	講義 視聴覚教材 練習問題	清水	301講義室
13	医療倫理(6) ケアの実践例を見て、ケーススタディとする。	講義 視聴覚教材	清水	301講義室
14	医療倫理(7) ケアの実践例を見て、ケーススタディとする。	講義 視聴覚教材	清水	301講義室
15	まとめ これまでの講義のまとめと補遺	講義	清水	301講義室

2017年度

情報リテラシー (Information Literacy)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	中原 孝洋						
担当教員	中原 孝洋						

授業の概要

大学の講義や実習では、データの解析やレポートの作成など、パソコンの活用は欠かせないものとなっている。また、本学をはじめ医学系教育では、PBLテュートリアル（少人数グループ学習など）による気づきを主体にした学びの実践や、研究室配属による研究者としての視点を育成するカリキュラムが編成されている。検索や調査、プレゼンテーションなど、より一層の「情報の使いこなし」が求められる。本実習は、歯学部学生がツールとしてのパソコンに習熟し、卒業後も活用できることを目標にする。

学生の到達目標

理系学生として必要なオフィスソフトが利用できる。
メールやWebなど、インターネットアプリケーションが利用できる。
収集した情報について、自らが基準をもって判断できる。
情報の利用にあたって、倫理的な視点を持つことができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

例題30 + 演習問題70でしっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint
出) 技術評論社 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
グループによるプレゼンテーション（スクリーン投影による発表）	40%
ワープロ（プリントアウトしたもの）	30%
表計算（プリントアウトしたもの）	30%

その他

（学習相談）随時、本館4階情報処理室またはメールにて受け付ける。

2017年度

情報リテラシー (Information Literacy)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	中原 孝洋						
担当教員	中原 孝洋						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	大学ネットワークの利用法、PCの基本操作 本学におけるPCの操作方法、プリンタ使用上の注意を含め、基本的な操作方法を学ぶ。	実習	中原	コンピュータ演習室
2	情報倫理、著作権とセキュリティ ネットワーク社会の中で遵守すべき軌範、セキュリティを確保する重要性と、トラブルへの対処法について学ぶ。	実習	中原	コンピュータ演習室
3	Webによる情報収集とメールの利用 ネット上の情報を検索エンジンや文献検索サイトなどを用いて、効率的に収集する方法について学ぶ。	実習	中原	コンピュータ演習室
4	メディアとのつきあい方 SNSやブログなどで起きる、さまざまなトラブルについてビデオを視聴しながらディスカッション(チャット)を行う。	実習	中原	コンピュータ演習室
5	プレゼンテーションソフトの利用 PowerPointの基本操作、オブジェクトの配置、入力について各自で取り組む。	実習	中原	コンピュータ演習室
6	プレゼンテーションソフトの利用 スライドの編集、レイアウト、デザインについて取り組むと共に、視覚的効果を学ぶ。	実習	中原	コンピュータ演習室
7	プレゼンテーションソフトの利用 アニメーションを組み込み、より効果的なプレゼンテーションを作成する。	実習	中原	コンピュータ演習室
8	プレゼンテーションソフトの利用 班ごとに課題を与える。課題について、情報収集を行いこれまでに学んだ手法を用いプレゼンテーションを作成する。	実習	中原	コンピュータ演習室
9	プレゼンテーションソフトの利用 班ごとに作成したプレゼンテーションを発表する。発表について、相互に意見を述べ合うとともに評価する。	実習	中原	コンピュータ演習室
10	ワードプロセッサの利用 Wordの基本操作、文章の入力方法と文字飾りについて各自で取り組む。	実習	中原	コンピュータ演習室
11	ワードプロセッサの利用 ページのデザイン、図表の配置・レイアウトや、簡易な編集について実践する。	実習	中原	コンピュータ演習室
12	ワードプロセッサの利用 よりよいワープロ文書にするためのテクニックや、表の作成などについて取り組む。	実習	中原	コンピュータ演習室
13	表計算ソフトの利用 Excelの基本操作、動作の原理、入力方法、計算方法について学ぶ。	実習	中原	コンピュータ演習室
14	表計算ソフトの利用 関数の利用、グラフの作成、表のデザインについて実践し、より見やすく理解できる成果物を目指す。	実習	中原	コンピュータ演習室
15	表計算ソフトの利用、アウトラインプロセッサとは データベースの原理、データの扱い方と、Excelでの各機能との対応を学び、実際のデータを操作する。 また、考え方をまとめるツールとしての「アウトラインプロセッサ」について説明する。	実習	中原	コンピュータ演習室

2017年度

情報リテラシー (Information Literacy)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	中原 孝洋						
担当教員	中原 孝洋						

授業の概要

日常のあらゆる場面でコンピュータを利用するが、その原理や構造を知る機会は少ない。しかし、在学中はもとより卒業後もコンピュータやネットワークを使う以上、理解していくことは必須である。

また、情報セキュリティやサイバー攻撃への対策についても、当然に必要な技術・知識となってきた。

これから安全に生活し、仕事を進めていく上で必要な法律や技術について理解を深める授業を行う。

さらに演習として、基礎教育セミナーや情報リテラシーと連動してディスカッションを具体的に実践させる。

学生の到達目標

コンピュータの原理が理解できる。

インターネットの原理が理解できる。

メディアの特性について区別することができる。

情報セキュリティやネット犯罪について説明することができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

キーワードでわかる情報トピックス2017 (発刊予定)

出) 日経BP社

著) 久野靖 他

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
第5回レポート	15%
第6回レポート	15%
定期試験	70%

不合格の場合、口頭試問とレポート(4000文字程度)を課し、評価する。

その他

随時、本館4階情報処理室またはメールにて受け付ける。

2017年度

情報リテラシー (Information Literacy)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	中原 孝洋						
担当教員	中原 孝洋						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	コンピュータの原理 コンピュータの内部構造の説明。どのような構成部品があり、どのように性能が決まるのかを学ぶ。	講義	中原	301講義室
2	インターネットの仕組み インターネットは、どのように構築されているのか、メールやWebは、どのようにして伝送されるのかを学ぶ。	講義	中原	301講義室
3	LANとWi-Fi インターネットを組織や家庭内で使う際に必要な設定や基本技術はどのようになっているかを学ぶ。	講義	中原	301講義室
4	情報セキュリティ コンピュータウイルスやネット犯罪の例を元に、その対策方法を知る。	講義	中原	301講義室
5	ディスカッション(1) KJ法によるディスカッションと、自らのレポートのブラッシュアップを行う。	演習	中原	301講義室 72実習室
6	ディスカッション(2) ワールドカフェによるディスカッションと、自らのレポートのブラッシュアップを行う。	演習	中原	301講義室 72実習室
7	入出力の原理、メディアの操作 コンピュータのさまざまな周辺機器について説明するとともに、データの単位等について理解を深める。	講義	中原	301講義室
8	これからのコンピューティング ロボットや自動化、クラウドなど、近年トピックになっている技術についての解説を理解する。	講義	中原	301講義室

2017年度

行動科学 (Behavioral Science)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕今本 繁						
担当教員	〔非常勤講師〕今本 繁						

授業の概要

行動科学とは、人間を含む生物の行動を科学的に研究する学問である。本講では中でも心理学の一学派である行動分析学について取り上げる。行動分析学の目標は、どういう環境条件のもとで行動が生じるのか、その行動の制御変数を見出すことである。それを実際の社会の問題を解決するために応用されたものが応用行動分析である。行動分析学の基本的考え方、枠組み、重要な概念を学び、人間行動の科学的理解を深める。さらに、対人支援に応用する上での実践法や研究法についても学ぶ。歯科関連分野として障害児歯科への応用がある。

学生の到達目標

行動分析学の背景となる哲学や基本的考え方を学ぶ。
 日常生活の自身や他者の行動の改善や技能の向上において行動分析学の知識と技術を応用できる。
 実践した内容を論理的にレポートにまとめ、考察することができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

自分を変えたい人のためのABCモデル 教育・福祉・医療職を目指す人のための応用行動分析学
 出)ふくろう出版 著)今本繁

参考書

対人支援の行動分析学 看護・教育・福祉職を目指す人のためのABA入門
 出)ふくろう出版 著)今本繁・島宗理

行動分析学入門
 出)集英社新書 著)杉山尚子

パフォーマンスマネジメント
 出)米田出版 著)島宗理

行動の基礎
 出)培風館 著)小野浩一

成績評価方法・基準

評価項目	割合
授業中に課される課題と最後の小テストの点数	20%
最終レポート	80%

授業中に時々提示する課題とそれをまとめた最終レポートを主な評価の対象とする。最終レポートの形式は教科書の付録3に沿い、必要とする項目内容が網羅され分析や記述が適格であることを重視する。

その他

授業中やその前後の時間に随時応じる。
 必要な人はEメールで質疑に随時応じる。

2017年度

行動科学 (Behavioral Science)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕今本 繁						
担当教員	〔非常勤講師〕今本 繁						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	人間行動の理解の枠組み-行動分析学の小テスト- 心理学としての行動科学の歴史をおさらいし、行動分析学とはどのような学問かについて解説する。学生が行動についてどのような見方をしているかについて探るための小テストを実施する。テストの点数は成績には加味されない。	講義 小テスト	今本	301講義室
2	行動の法則-改善目標を考える- まず行動についての定義から始まり、行動の諸法則についての概略を説明する。これから授業を通して取り組んでもらう目標を考えるヒントとして学生自身の行動で改善したいことを複数書いてもらう。	講義 演習	今本	301講義室
3	行動のアセスメント-行動目標を考える- 前回の課題を基に具体的な行動目標を1つに絞り、具体的な行動目標を立ててもらう。そのための説明を行う。	講義 演習	今本	301講義室
4	行動の観察と記録-ベースライン記録を取る- 立ててもらった行動目標の記録の方法について決定してもらう。記録の種類と取り方について説明する。実際に行動のベースライン記録を取ってもらう。	講義 演習	今本	301講義室
5	シングルケーススタディ-記録をグラフ化する- 単一事例における改善法の効果を調べるためのシングルケーススタディを紹介する。録ってきてもらった記録を基にベースラインデータを座標軸上にグラフ化する。	講義 演習	今本	301講義室
6	行動の理論分析-現状を理論分析- 自身の行動目標を基に、望ましくない行動がなぜ生じるのか、獲得したい行動がなぜ生じないのかについて行動随伴性を分析してもらう。	講義 演習	今本	301講義室
7	行動修正法-改善法を考える- 目標行動の原因を探ってもらった後に、介入法、改善法について具体的に考えてもらう。そのためのアイデアについていくつか説明してもらう。介入法が決定したら、実際に改善のための方法を実施すると同時に記録を録ってもらう。	講義 演習	今本	301講義室
8	セルフ & パフォーマンスマネジメント-ルール支配行動- 自己管理行動に関して行動論における重要な概念であるルール支配行動について解説する。行動目標に取り入れられる場合に介入法として取り入れてもらう。	講義 演習	今本	301講義室
9	介入法の理論分析とレポートの書き方 グラフの左半分がベースライン記録、その右半分に介入後の記録をグラフ化してもらう。その後、介入がなぜうまくいったのか、あるいはいかなかったのかについて理論分析をしてもらう。またレポートを書くために必要な事柄について解説する。	講義 演習	今本	301講義室
10	恐怖と不安へのアプローチ-行動療法の技法に関する演習- 恐怖や不安に関する行動論的なメカニズムについて解説する。不安を減少させる簡易の筋弛緩訓練を実際に体験してもらう。	講義 演習	今本	301講義室
11	医療への応用 行動分析学の医療場面への応用について解説する。	講義	今本	301講義室
12	発達障害や子どもへの対応 自閉症をはじめとする発達障害についての説明と、その対応方法の概略を説明する。	講義	今本	301講義室
13	歯科診療への応用 発達障害児は新規の場面、特に診療場面を回避しがちで、なかなか治療に協力的でない場合が多い。歯科診療場面への参加を促したり、治療への協力を促したりする行動論的な工夫について解説する。	講義	今本	301講義室
14	コミュニティや社会問題 世の中の様々な社会問題を取り上げ、その問題となる行動を行動論の観点で理解し、具体的に世の中をよくするための取り組みについて一緒に考える。	講義 演習	今本	301講義室

2017年度

行動科学 (Behavioral Science)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕今本 繁						
担当教員	〔非常勤講師〕今本 繁						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
15	<p>まとめ -行動分析学の小テスト-</p> <p>これまで行動分析学によって提示されてきた行動の理解や問題解決の方法について振り返る。行動分析学の知識についてどのくらい習得されているかを確かめるための小テストと答え合わせをして修了とする。テストの点数自体は成績には加味されない。</p>	小テスト 答え合わせ	今本	301講義室

2017年度

基礎教育セミナー (Basic education seminar)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜 1年次生助言教員、協力教員						

授業の概要

1年次生全体を数名の班に分け、各助言教員のもとで初年次教育（高校あるいは他大学からの円滑な移行を図り、九州歯科大学での学習および人格的な成長に必要なチューデントスキル、スタディースキル等）を学ぶ。特に、クリティカルシンキングおよびロジカルライティングを自ら実践する。

学生の到達目標

- 「大学での学びとは何か」を理解できる。
- クリティカルシンキングを実践できる。
- ロジカルライティングが実践できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	6	1			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	6	1			歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。

テキスト

クリティカルシンキング・ロジカルライティング
出)ベネッセ 著)

ゾウの時間 ネズミの時間
出)中公新書

著)本川達雄 著

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
共通評価項目を用いた各助言教員による評価 (授業への取り組み・授業態度等)	40%
授業の提出物	10%
授業の総括レポート(最終回に実施)	50%

その他

(学習相談) 福泉隆喜：相談は随時受け付け可能。

2017年度

基礎教育セミナー (Basic education seminar)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜 1年次生助言教員、協力教員						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	授業概要の説明 インタビュー形式による自己紹介	実習説明 レポート	福泉 助言教員	301講義室 テュートリアル 演習室
2	教員及び学生の自己紹介 クリティカルシンキング 「大学での学びとは何か」「どんなことが求められているのか」を知る。 「クリティカルシンキング」「ロジカルライティング」とは何か、を学ぶ。 大学で求められる「考える力」とは何か、を考える。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
3	クリティカルシンキング 相手の発言(文章)を正確に理解する「議論の明確化」について学習する。 「議論の明確化」のやり方を、問題を通じて学ぶ。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
4	クリティカルシンキング クリシンの要素の1つである「隠れた前提」について、概要を把握させる。 「隠れた前提」の見抜き方を、問題を通じて学ぶ。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
5	クリティカルシンキング クリシンの要素の1つである「根拠の確かさ」について、概要を把握させる。 「根拠の確かさ」の見極め方を、問題を通じて学ぶ。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
6	クリティカルシンキング 普段授業を受けるときや、資料を読むときに意識すべき点を、クリシンを踏まえながら幅広い観点で学ぶ。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
7	クリティカルシンキング 状況整理、分析、判断という一通りの流れを知る。 「問題解決」の考え方を、問題を通じて学ぶ。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
8	読書課題について 入学前に課したレポートについてクリシンの観点から討論する。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
9	ロジカルライティング 「ロジライとは」を考え、ロジライの文章の形を解説する。 ロジライトライアングル(主張 3つの根拠 念押し)を意識しながら実際に書いてみる。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
10	ロジカルライティング 「主張や意見を考える」の概要と方法を知り、エクササイズを通して身につける。 主観的な根拠だけでなく、客観的な根拠を出す必要性について学習する。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
11	ロジカルライティング 根拠を整理し、まとめる作業を学ぶ。 「整理する」方法を、エクササイズを通して身につける。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
12	ロジカルライティング 文章としてまとめる方法を学ぶ。 実際にロジライトライアングルに即した文章を書き、グループ内で相互にチェックする。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
13	ロジカルライティング クリシンとロジライの両方を使うことで、学びの質を高められることを知る。資料作成やプレゼンテーション、ディスカッションにおいてもクリシン・ロジライが生かされることを知る。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
14	ロジカルライティング 大学で学ぶことは「知識」「スキル」の両方であることを認識させる。大学で身に付けた「スキル」は社会に出てからも生かせることを認識させる。	グループワーク	助言教員	テュートリアル 演習室
15	授業の総括	レポート	助言教員 (一部) 福泉	301講義室

2017年度

歯学概論 (Orientation Dentistry)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長						
担当教員	歯学科長、学長、角館 直樹、〔非常勤講師〕小林 繁、福泉 隆喜、歯学部長、岩崎 正則、富永 和宏、曾我部 浩一						

授業の概要

歯科医学・歯科医療への導入を行うことにより、歯学部学生としての意識を高める。

学生の到達目標

- 歯学科の学生としての自覚と意識を高める。
- 歯科医学史を学び、職業としての歯科医師の社会的意識を高める。
- 歯科臨床の現場を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	3				個人的、社会的背景等異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
A	3				歯科医師の法的義務を列挙できる。
A	6	1)			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	7	1)			コミュニケーションの目的と技法（言語的と非言語的）を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】
A	7	1)			信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
A	7	1)			コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
A	7	3)			患者中心のチーム医療
B	2	2)			保健・医療制度を説明できる。【産業保健および医療供給体制を含む。】
B	3	2)			主な口腔疾患（う蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。【生活習慣病の改善指導を含む。】
E	4	6)			歯科医師に必要な医学知識

テキスト

出) 著)

参考書

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 歯学概論
出)医歯薬出版 | 著)総山孝雄 著 |
| 医学概論
出)朝倉書店 | 著)檜學・島久洋 編 |
| 国際歯科保健医療学
出)医歯薬出版 | 著)中村修一 編著 |
| 歯科医療倫理Q&A
出)太陽出版 | 著)大井賢一・木阪昌知 編 |
| スタンダード歯科医学史
出)学建書院 | 著)石井拓男・渋谷敏・西巻明彦 編 |
| 医学の歴史 (2003)
出)講談社学術文庫 | 著)梶田昭 |
| むし歯の歴史
出)砂書房 | 著)竹原直道 ほか |

2017年度

歯学概論 (Orientation Dentistry)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長						
担当教員	歯学科長、学長、角館 直樹、〔非常勤講師〕小林 繁、福泉 隆喜、歯学部長、岩崎 正則、富永 和宏、曾我部 浩一						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

- ・ 毎回、講義内容に対するレポートを1枚提出させる。レポートに対し、各担当者が5段階評価（90、80、70、60、50の点数）を行い、その平均点を各学生の点数とする。
- ・ 講義における各評価の平均が不可と判断された場合、再レポート提出および面談を実施する。

その他

2017年度

歯学概論 (Orientation Dentistry)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長						
担当教員	歯学科長、学長、角館 直樹、〔非常勤講師〕小林 繁、福泉 隆喜、歯学部長、岩崎 正則、富永 和宏、曾我部 浩一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	歯科医学を学ぶにあたって 歯科医学を学ぶにあたり、国内外において社会的使命を果たす歯科医療人の育成を目標にした本学の教育指針について学習する。	講義 スライド 資料配布	学長	301講義室
2	歯学部における教育について 日本の歯科医療教育の全体像、海外短期派遣プログラムを提示すると共に、本学の歯科医療カリキュラムの概要を示し、歯学部生が歯科医療を修得するための教育システムについて学習する。	講義 スライド 資料配布	歯科医学教育センター長（学長） 副センター長（角館）	301講義室
3	九州歯科大学での学び（学修） 九州歯科大学の教育理念、ディプロマポリシーを理解するとともに、大学での学びについて考える。また、本学が辿ってきた歴史を紹介し、建学以来100年以上にわたって九州歯科大学が歩んできた道程を知る。	講義	歯学科長 小林	301講義室
4	歯科医学史 歯科医療の変遷。古代（メソポタミア、エジプト、インド、中国）医療、歯科医療。ヒポクラテスの歯科分野における業績。ルネサンス期以降のヨーロッパ医学の大変革と近代歯科医学の萌芽について学習する。	講義	小林	301講義室
5	歯科医学史 歯科医療機関のはじまり、医科からの独立とその理由、歯科医学の分科のはじまり、麻酔、口腔外科の発達の経緯、これらの発展に寄与した人物について学習する。	講義	小林	301講義室
6	歯科医学史 日本の歯科医療の歴史を古代から現代までの変遷ならびに発展に寄与した人物、医令（律令制度の中での医師養成制度）と「医心方」、木床義歯、歯科医師の誕生、歯科医療機関の発達について学習する。	講義	小林	301講義室
7	歯科医療の特性 「医学」と「医療」の位置付けを知り、医療の一分野である歯科医療に従事する歯科医師の業務内容、法的な責務、公衆衛生分野において果たす役割などを学習する。	講義 スライド 資料配布	福泉	301講義室
8	日本の歯科診療所の現状 我が国の医療制度の概要、医療提供体制における歯科診療所及び歯科診療所に勤務する歯科医師等の現況を知り、地域歯科保健医療における歯科診療所及び歯科医師の役割について学習する。	講義	福泉	301講義室
9	歯科医師に関する法律や制度 歯科医師は国家資格を有する専門職として、法律や制度に則り業務を行う責務があることを示すとともに、歯学教育を通じて習得すべき主な法律や制度の概要について学習する。	講義 スライド 資料配布	福泉	301講義室
10	歯学教育について プロフェッショナリズムを含め、九州歯科大学の歯科医学教育の現状を説明し、今後歯科医療人として研鑽を深める必要性についてその重要性や意義を学習する。	講義 スライド 資料配布	歯学部長	301講義室
11	歯科医師の健康問題と喫煙 歯科医師がかかえる健康問題の特徴ならびに医療系大学における喫煙問題と禁煙対策をとりあげる。その上で喫煙の口腔と全身への影響や禁煙教育のすすめ方を学習する。	講義 スライド 資料配布	岩崎	301講義室
12	日本の税制度について 日本の税制の現状と今後の税の必要性を理解してもらい、税制のあり方を学習する。	講義 スライド 資料配布	税務署からの講師	301講義室
13	総合（一般）歯科診療と歯科健診 歯科医療の中心である総合（一般）歯科診療（保存系・補綴系治療）を概説し、予防・治療・メンテナンスの流れ、及び他の専門診療との連携、歯科健診の実際を学習する。	講義 スライド 資料配布	曾我部	301講義室

2017年度

歯学概論 (Orientation Dentistry)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長						
担当教員	歯学科長、学長、角館 直樹、〔非常勤講師〕小林 繁、福泉 隆喜、歯学部長、岩崎 正則、富永 和宏、曾我部 浩一						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
14	クリニカルエクスポージャー 歯科健診（患者体験） 歯科健診を体験する。患者体験を通じて、歯科診察時の患者への配慮や歯科ユニットや基本診療器具などの歯科診療における基本的な医療機器等について学習する。	実習	曾我部	相互実習室
15	口腔外科・口腔内科について 口腔外科、口腔内科が対象とする疾患を概説し、医療における歯科医療の位置付け、ならびに歯科医療における全身疾患の理解の重要性を学習する。	講義 スライド 資料配布	富永	301講義室

2017年度

歯学概論 (Orientation Dentistry)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長						
担当教員	歯学科長、牧 憲司、竹内 弘、北村 知昭、中島 秀彰、〔非常勤講師〕自見 英治郎、〔非常勤講師〕間宮 清、〔非常勤講師〕田中裕望						

授業の概要

歯科医師として医学から独立して存在する歯学の歴史的発展経緯を知り、歯学の社会における存在意義、位置づけを理解する前提としての倫理と社会的責任について概説する。更に、歯科医学を学ぶにあたり非常に重要な基本的人権や医療に関する患者の権利保護についても概説を行う。

学生の到達目標

医療の基本的な立場を理解する。
生命倫理について理解する
歯科医学研究について理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	6	2)			生命科学や医療技術の成果について生涯を通じて学び、病院や病態を解明するなどの研究マインドを涵養する。
E	3	1)			歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。【構成成分とその変化を含む。】
E	2	4)	(1)		口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。
E	4	2)			小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる。
E	4	2)			乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴、う蝕予防を説明できる。
E	4	2)			小児の虐待の徴候と対応について説明できる。
E	4	6)			小児の代表的な疾患を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	10%
出席	90%

・講義における各評価の平均が不可と判断された場合、再レポート提出および面談を実施する。

その他

2017年度

歯学概論 (Orientation Dentistry)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長						
担当教員	歯学科長、牧 憲司、竹内 弘、北村 知昭、中島 秀彰、〔非常勤講師〕自見 英治郎、〔非常勤講師〕間宮 清、〔非常勤講師〕田中裕望						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	口腔の成長・発育？歯並びとは？ 「歯並び」には歯科医療人に限らず、多くの人に関心を持っている。歯並びは乳歯から永久歯への交換、顎顔面の成長の調和の中で構築されていく。ここでは口腔の成長・発育からみた歯並びについて概要を学習する。	講義	牧	301講義室
2	生命倫理 臨床医療現場にとどまらず、基礎歯科医学研究にも生命倫理の諸問題が存在することを理解し、その基礎知識と考え方を事例を交えて学習する。	講義	竹内	301講義室
3	歯科医学の研究について（基礎歯科医学） ライフサイエンスやマテリアルサイエンスの知識・技術を応用した先端の歯科医学研究から再生医療迄、歯科基礎医学の現状を紹介し、バイオロジーの歯科医療への応用について学習する。	講義	自見	301講義室
4	歯科医学の研究について（臨床歯科医学） 臨床系歯科医学が取り組む歯科医学研究（トランスレーショナル・リサーチ、臨床疫学研究等）の概要と臨床応用、社会への還元等について知り、歯科医学研究の歯科医療における貢献・重要性について学習する。	講義	北村	301講義室
5	医科と歯科の連携について 近年急増している、糖尿病・癌・心疾患・脳卒中等の医科の全身疾患を併発する歯科患者に対して、適切な対処をするために必要な医科と歯科の連携について学習する。	講義	中島	301講義室
6	薬害被害の現状と課題について 薬害被害に遭われた方の意見・体験を直接聞き、薬害の現状と医療倫理や人権における課題とあり方について学ぶ。	講演	間宮	301講義室
7	人権・ハラスメント・デートDV セクハラ・パワハラ・アカハラなどをキーワードに、人権・ハラスメントについて考える。 また、現在、若い世代に起こっている「デートDV」とその防止について学ぶ。	講演	田中	301講義室
8	同和問題について考える 社会構造の中に存在する差別を通じて、人権について考える。	講演	講師団講師	301講義室

2017年度

経済学 (Economics)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕前田 淳						
担当教員	〔非常勤講師〕前田 淳						

授業の概要

経済学の基礎であるミクロ経済理論をわかりやすく解説する。また、最近の医療経済にかかわるトピックスを題材として解説する。とりわけ日本と他の先進国での医療保険制度の違い、混合診療の解禁問題、などに言及する。また、日本が現在直面する経済問題も題材として取りあげる。すなわち、少子高齢化と社会保障、物価、財政赤字、日本企業と産業の競争力、などがそうした題材の主な内容である。

学生の到達目標

日常生活で触れる基本的な経済用語の意味を説明できる。
新聞やニュースで報道される経済現象を理解できる。
経済時事問題について書かれた平易な書物を読んで理解できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

出) (著)

参考書

マンキュー経済学〔第2版〕ミクロ編 (2005)
出)東洋経済新報社 (著)N・グレゴリー・マンキュー

医療の経済学〔第2版〕第8章(2012)
出)日本評論社 (著)河口洋行

持続可能な医療を創る グローバルな視点からの提言 序章 第5章
(2013)
出) (著)森臨太郎

成績評価方法・基準

評価項目	割合
平常点(ミニテスト・課題)	30%
定期試験	70%

その他

2017年度

経済学 (Economics)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕前田 淳						
担当教員	〔非常勤講師〕前田 淳						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	経済学の十大原理 機会費用、トレードオフなど、経済学の基本的な考え方を説明する。	講義	前田	301講義室
2	相互依存と交易（貿易）からの利益 分業や貿易がなぜ生じるのかを比較優位の理論を使って説明する。	講義	前田	301講義室
3	市場における需要と供給の作用 需要曲線と供給曲線を軸に、価格への弾力性などを説明する。	講義	前田	301講義室
4	需要、供給、および政府の政策 政府などによる価格規制の市場への影響を説明する。	講義	前田	301講義室
5	消費者、生産者、市場の効率性 需要曲線・供給曲線の性質を踏まえながら、消費者余剰、生産者余剰、市場の失敗を説明する。	講義	前田	301講義室
6	外部性 外部性が市場に与える影響、および外部性に対する公共政策の効果を説明する。	講義	前田	301講義室
7	公共財と公有資源 公共財と私有財の区別を軸に、政府が市場のもたらす成果を改善できることを説明する。	講義	前田	301講義室
8	生産の費用 総費用や限界費用など、生産者にとっての費用概念を展開しながら、生産関数を導出する。	講義	前田	301講義室
9	競争市場における企業 完全競争市場の前提のもとで、企業がどのような行動を取るのかを説明する。	講義	前田	301講義室
10	独占 完全競争市場の対局である独占状態の前提のもとで、企業の取る行動を説明し、社会的な非効率が生じることを解説する。	講義	前田	301講義室
11	寡占 完全競争と独占の間である寡占状態のもとでの企業行動を説明し、さらにゲーム理論に言及する。	講義	前田	301講義室
12	消費者選択の理論 予算制約線と無差別曲線をベースにして、消費者が取る行動を説明する。	講義	前田	301講義室
13	ミクロ経済学のフロンティア モラルハザード、情報の非対称性など、ミクロ経済学のその他の重要概念を説明する。	講義	前田	301講義室
14	混合診療解禁のメリット・デメリット 医療格差と医療費の増大問題について、混合診療解禁を例に経済学の理論を使って説明する。	講義	前田	301講義室
15	日本の医療制度はどうあるべきか。 出来高払いと包括払いの二つの制度比較を軸に、日本の医療保険の直面する問題を説明する。	講義	前田	301講義室

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、邵 仁浩、日高 勝美、〔非常勤講師〕尾崎 哲則、〔非常勤講師〕和田 康志						

授業の概要

地域の中で生活する全ての人々の健康課題、なかでも歯科領域の課題について、臨床歯科医学的なアプローチではなく、疫学的な手法や社会制度との関わりに着目して課題に取り組む重要性について講義する。特に、歯科保健医療や歯科医療従事者が、我が国の社会保障制度のなかでどのように位置付けられているか講義する。

学生の到達目標

患者の権利を熟知し、その現状と問題点を理解する。
医療、歯科医療および医学・歯学研究における倫理の重要性を理解する。
歯科医師の義務と責任に関する基本的な知識、態度および考え方を身につける。
医療上の事故等や医療関連感染症等は日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例から事故を防止し、患者の安全確保を最優先することで信頼される医療を提供しなければならないことを理解する。
医療従事者が遭遇する危険性（事故、感染等）について、基本的な予防・対処および改善の方法を学ぶ。
健康と疾病の概念を理解する。
歯科医師法および関連法規の基本的な考え方、保健、医療、福祉、介護に関連する社会制度、地域医療および社会環境を理解する。
公衆衛生と歯科医療における予防の概念を理解する。
主な保健医療統計（国民医療費、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、歯科疾患実態調査、学校保健統計調査、福祉行政報告例等）を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	1				患者の権利を説明できる。
A	1				患者の自己決定権を説明できる。
A	1				患者が自己決定ができない場合の対応を説明できる。
A	2				医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
A	2				医の倫理に関する規範・国際規範（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等）を概説できる。
A	2				生と死に関わる倫理的問題を説明できる。
A	3				患者に最も適した医療を説明できる。
A	3				歯科医師の法的義務を列挙できる。
A	4				インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。
A	5	1)			歯科医療における事故の特異性を説明できる。
A	5	1)			実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。
A	5	1)			医療上の事故等を防止するには、個人の注意力はもとより組織的なリスク管理が重要であることを説明できる。
A	5	1)			医療現場における報告・連絡・相談および診療録記載の重要性について説明できる。
A	5	1)			医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例（経緯を含む）、やってはいけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立つための分析の重要性を説明できる。
A	5	1)			医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントリポート、リスク管理者、事故防止委員会、事故調査委員会等）を概説できる。
A	5	1)			医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、邵 仁浩、日高 勝美、〔非常勤講師〕尾崎 哲則、〔非常勤講師〕和田 康志						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	2)			医療事故と医療過誤の違いを説明できる。
A	5	2)			医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）の事例の原因を分析し、防止対策を説明できる。
A	5	2)			医療過誤に関連して歯科医師に科せられた社会的責任と罰則規定（行政処分、民事責任、刑事責任、司法解剖）の基本的事項を説明できる。
A	5	2)			基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルプルーフの考え方など）について概説できる。
B	1				健康の概念を説明できる。
B	1				疾病の概念、種類および予防を概説できる。
B	2	1)			歯科医師法を概説できる。
B	2	1)			医療法を概説できる。
B	2	2)			保健・医療制度を説明できる。【産業保健および医療供給体制を含む。】
B	2	2)			医療保険制度を説明できる。【医療経済（国民医療費）を含む。】
B	2	2)			介護保険制度を説明できる。
B	2	2)			社会福祉制度を説明できる。
B	2	2)			高齢者のおかれた社会環境を説明できる。
B	2	2)			地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。
B	2	2)			地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。
B	2	2)			地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。
B	3	1)			第一次、第二次および第三次予防を説明できる。
B	3	1)			プロフェッショナルケア、セルフケアおよびコミュニティケアを説明できる。
B	3	1)			プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。
B	4	2)			主な保健医療統計（人口動態・静態統計、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、歯科疾患実態調査、学校保健統計調査）を説明できる。
B	4	2)			主な健康指標（平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率）を説明できる。
B	4	2)			調査方法と統計的分析法を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

スタンダード社会歯科学 第5版

出)学建書院

著)石井拓男 他

シンプル衛生公衆衛生学 2017

出)南江堂

著)辻一郎 他

公衆衛生がみえる2016-2017 (第2版)

出)メディックメディア

著)医療情報科学研究所(編)

歯科医療管理 - 医療の質と安全確保のために -

出)医歯薬出版

著)日本歯科医療管理学会(編集)

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、邵 仁浩、日高 勝美、〔非常勤講師〕尾崎 哲則、〔非常勤講師〕和田 康志						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

提出を求められる講義の感想および要望等の内容は成績判定の評価対象としない。

その他

(学習相談) 福泉隆喜：相談は随時受け付け可能
非常勤講師への質問・相談等がある場合は、科目担当責任者(福泉)に連絡すること。

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、邵 仁浩、日高 勝美、〔非常勤講師〕尾崎 哲則、〔非常勤講師〕和田 康志						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	社会と歯科医療 国の施策と歯科医療の関係や社会歯科学のカバーする領域について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
2	社会と歯科医療 患者の尊厳とこれを支える医の倫理及び各種の規範等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
3	社会と歯科医療 公衆衛生の基盤となる健康の概念、社会・環境との関わり、予防の概念、社会保障制度の全体像について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
4	社会と歯科医療 歯科医療と社会との関わり、歯科医師の責務等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	尾崎	402講義室
5	医療保険制度 医療を支える国民皆保険制度、診療報酬制度、後期高齢者医療制度、高額療養費制度等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
6	年金保険制度、労災保険制度 年金保険制度の特徴、負担と給付のバランス、労災保険制度の概要について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
7	労災保険制度、雇用保険制度 労災保険給付の内容と雇用保険制度の概要について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
8	社会福祉制度、介護保険制度 社会保障の構成要素である社会福祉及び公的扶助について学習する。また、我が国における高齢化と要介護高齢者の現況を理解し、介護保険制度の全体像について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
9	介護保険制度 介護予防の重要性、介護保険制度における口腔関連介護サービスの概要、老人福祉施設と介護保険施設との関係について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
10	歯科医師法 歯科医師の責務や業務を規定する歯科医師法の概要を理解し、関連統計から歯科医師をめぐる現況について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
11	歯科医師法 歯科医師臨床研修制度、処方せん及び診療録の取扱い等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
12	歯科医師と社会保障制度・保健行政 我が国における歯科保健医療行政の現状を理解し、将来の展望について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	和田	402講義室
13	薬事関連法規 医薬品医療機器等法の概要を理解し、薬局の管理、医薬品の審査、医療機器と保険診療の関係等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	日高	402講義室
14	薬事関連法規 医薬品医療機器等法に規定する広告規制、副作用報告等を理解し、毒劇物及び麻薬等の規制について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	日高	402講義室
15	社会と人口統計 統計法の概要を理解し、基幹統計及び一般統計のうち、保健医療に関連する代表的な公的統計及びその代表的指標について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	邵	402講義室

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、日高 勝美、岩崎 正則、〔非常勤講師〕森田 学、〔非常勤講師〕遠藤 浩正						

授業の概要

疫学の基本的な考え方、地域歯科保健、学校歯科保健、健康増進、疾病予防、国際保健、精神保健など、各分野の保健事業と歯科医師の関与、根拠法令等について講義する。

学生の到達目標

健康と疾病の概念を理解する。
 歯科医師に関連する法規の基本的な考え方、保健、医療、福祉、介護に関連する社会制度、地域医療および社会環境を理解する。
 環境と健康との関わりを理解する。
 公衆衛生と歯科医療における予防の概念を理解する。
 集団レベルの予防と健康管理（地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健）を説明できる。
 口腔ケアの意義と効果を説明できる。
 疫学と科学的根拠にもとづいた医療(EBM: Evidence-based Medicine)の歯科医療への応用を理解する。
 主な保健医療統計（国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査、人口動態・静態統計、医師・歯科医師・薬剤師調査、衛生行政報告例、福祉行政報告例、歯科疾患実態調査、学校保健統計調査等）とその応用を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	3)			医療従事者の健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる。
A	5	3)			標準予防策の必要性を説明できる。
A	5	3)			患者隔離の必要な場合について説明できる。
B	1				健康の概念を説明できる。
B	1				口腔と全身の健康との関連を説明できる。
B	2	1)			歯科衛生士法と歯科技工士法を概説できる。
B	2	1)			医師法、薬剤師法および保健師助産師看護師法を概説できる。
B	2	2)			保健・医療制度を説明できる。【産業保健および医療供給体制を含む。】
B	2	2)			介護保険制度を説明できる。
B	2	2)			社会福祉制度を説明できる。
B	2	2)			高齢者のおかれた社会環境を説明できる。
B	2	2)			地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。
B	2	2)			地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。
B	2	2)			地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。
B	2	4)			環境による健康への影響を説明できる。
B	2	4)			環境基準と環境汚染を説明できる。
B	3	1)			第一次、第二次および第三次予防を説明できる。
B	3	1)			プロフェッショナルケア、セルフケアおよびコミュニティケアを説明できる。

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、日高 勝美、岩崎 正則、〔非常勤講師〕森田 学、〔非常勤講師〕遠藤 浩正						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
B	3	1)			プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。
B	3	2)			ライフステージにおける予防を説明できる。
B	3	2)			集団レベルの予防と健康管理（地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健）を説明できる。
B	3	2)			口腔ケアの意義と効果を説明できる。
B	4	1)			疫学とEBMの概念を説明できる。
B	4	1)			スクリーニング検査を説明できる。
B	4	1)			口腔疾患の疫学的指標を説明できる。
B	4	2)			主な保健医療統計（人口動態・静態統計、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、歯科疾患実態調査、学校保健統計調査）を説明できる。
B	4	2)			主な健康指標（平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率）を説明できる。
B	4	2)			調査方法と統計的分析法を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

スタンダード社会歯科学 第5版

出)学建書院

著)石井拓男 他

シンプル衛生公衆衛生学 2017

出)南江堂

著)辻一郎 他

公衆衛生がみえる2016-2017 (第2版)

出)メディックメディア

著)医療情報科学研究所(編)

改訂7版 疫学マニュアル

出)南山堂

著)柳川洋 他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

提出を求められる講義の感想および要望等の内容は成績判定の評価対象としない。

その他

(学習相談) 福泉隆喜：相談は随時受け付け可能
非常勤講師への質問・相談等がある場合は、科目担当責任者(福泉)に連絡すること。

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、日高 勝美、岩崎 正則、〔非常勤講師〕森田 学、〔非常勤講師〕遠藤 浩正						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	都道府県における歯科保健行政の実際 国の推進する歯科保健医療行政の動向を踏まえ、都道府県で実施されている歯科保健行政の具体的取組について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	遠藤	402講義室
2	環境と健康 国民の健康に影響を及ぼす各種の環境因子等と環境基本法の関係を理解し、上下水道の衛生基準等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	岩崎	402講義室
3	医療関係職種と関連法規 歯科衛生士法、保健師助産師看護師法の概要や関連する政省令、法に基づく制度、就業の状況等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	日高	402講義室
4	医療関係職種と関連法規 歯科技工士法、薬剤師法、医師法の概要や関連する政省令、法に基づく制度、就業の状況等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	日高	402講義室
5	医療関係職種と関連法規 診療放射線技師法、言語聴覚士法、理学療法士及び作業療法士法、栄養士法等の関係職種の法の概要、就業の状況等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	日高	402講義室
6	医療提供体制 我が国における医療提供体制を規定する医療法の概要を理解し、医療機能情報提供制度、広告規制等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
7	医療提供体制 医療安全管理、病院等の開設・管理等医療法に規定する病院、診療所等の管理等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
8	医療提供体制 医療提供体制を担保する立入検査、特定機能病院と地域医療支援病院制度、医療計画、医療法人制度等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
9	成人保健 我が国における疾病構造の変化と生活習慣病の現状を理解し、市町村の健康増進事業、特定健診・特定保健指導、健康日本21（第2次）に規定する目標値等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
10	成人保健、地域保健 歯科口腔保健法の概要と基本的事項に規定する目標値、地域の公衆衛生の拠点となる保健所及び市町村保健センター等の業務を理解し、地域診断の重要性について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
11	母子保健 小児の健やかな成長を支える母子保健の概要を把握し、我が国における母子保健施策について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
12	学校保健 学童期における健康管理に重要な学校保健の概念を理解し、学校保健安全法に規定する各種の対策について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
13	国際保健・疾病予防 国際的な協力のもとに健康問題の解決策を実践する国際保健の概要を理解し、国際交流と国際協力の相違点、代表的国際機関等について学習する。また、公衆衛生において極めて重要な疾病予防の概念を理解し、感染症法及び予防接種法に規定する各種の感染症対策について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室
14	疫学と歯科医療 公衆衛生の基盤となる疫学の基本的な考え方、疫学的手法、研究手順、歯科医学への応用等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	森田	402講義室

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、日高 勝美、岩崎 正則、〔非常勤講師〕森田 学、〔非常勤講師〕遠藤 浩正						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
15	疫学と歯科医療 スクリーニングの概念を理解し、代表的な疫学指標と歯科医療への応用等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	402講義室

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、辻澤 利行、〔非常勤講師〕古賀 克重						

授業の概要

産業歯科保健、労務管理、医療情報管理、食品衛生、障害者保健福祉、医療過誤への対応等への対応策について、各種の制度上の位置付けや必要とされる取組について講義する。

学生の到達目標

患者の権利を熟知し、その現状と問題点を理解する。
医療、歯科医療および医学・歯学研究における倫理の重要性を理解する。
歯科医師の義務と責任に関する基本的な知識、態度および考え方を身につける。
患者本位の医療を実践するため、適切な説明を行った上で、患者の主体的な同意を得るために必要な対話能力と態度および考え方を身につける。
医療上の事故等や医療関連感染症等は日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例から事故を防止し、患者の安全確保を最優先することで信頼される医療を提供しなければならないことを理解する。
保健、医療、福祉、介護に関連する社会制度、地域医療および社会環境を理解する。
職場環境と健康との関わりを理解する。
医療情報の利用と管理方法を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	1				患者の権利を説明できる。
A	1				患者の自己決定権を説明できる。
A	1				患者が自己決定ができない場合の対応を説明できる。
A	2				医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
A	2				医の倫理に関する規範・国際規範（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等）を概説できる。
A	2				生と死に関わる倫理的問題を説明できる。
A	3				患者との信頼関係を築くことができる。
A	3				個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
A	3				患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
A	3				患者に最も適した医療を説明できる。
A	3				歯科医師の法的義務を列挙できる。
A	4				インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。
A	4				説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
A	5	1)			歯科医療における事故の特異性を説明できる。
A	5	1)			実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。
A	5	1)			医療上の事故等を防止するには、個人の注意力はもとより組織的なリスク管理が重要であることを説明できる。
A	5	1)			医療現場における報告・連絡・相談および診療録記載の重要性について説明できる。

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、辻澤 利行、〔非常勤講師〕古賀 克重						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	1)			医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例（経緯を含む）、やっではないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
A	5	1)			医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントリポート、リスク管理者、事故防止委員会、事故調査委員会等）を概説できる。
A	5	1)			医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。
A	5	2)			医療事故と医療過誤の違いを説明できる。
A	5	2)			医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）の事例の原因を分析し、防止対策を説明できる。
A	5	2)			医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）が発生した時の緊急処置や記録、報告について説明できる。
A	5	2)			医療過誤に関連して歯科医師に科せられた社会的責任と罰則規定（行政処分、民事責任、刑事責任、司法解剖）の基本的事項を説明できる。
A	5	2)			本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルブルーフの考え方など）について概説できる。
A	5	3)			医療従事者の健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる。
A	5	3)			医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。
B	1				疾病の概念、種類および予防を概説できる。
B	2	1)			歯科医師法を概説できる。
B	2	1)			医療法を概説できる。
B	2	2)			保健・医療制度を説明できる。【産業保健および医療供給体制を含む。】
B	2	2)			障害者のおかれた社会環境を説明できる。
B	2	2)			ノーマライゼーションの考え方を説明できる。
B	2	2)			地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。
B	2	2)			地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。
B	2	2)			地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。
B	3	1)			第一次、第二次および第三次予防を説明できる。
B	3	2)			集団レベルの予防と健康管理（地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健）を説明できる。
B	4	1)			スクリーニング検査を説明できる。
B	4	2)			主な保健医療統計（人口動態・静態統計、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、歯科疾患実態調査、学校保健統計調査）を説明できる。
B	4	2)			主な健康指標（平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率）を説明できる。
B	4	2)			調査方法と統計的分析法を説明できる。
B	4	3)			保健医療情報の取扱いと情報のセキュリティーを説明できる。【診療情報（診療録等）を含む。】
B	4	3)			医療情報の開示に関する注意点を説明できる。

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、辻澤 利行、〔非常勤講師〕古賀 克重						

テキスト

出) 著)

参考書

- スタンダード社会歯科学 第5版
出)学建書院 著)石井拓男 他
- シンプル衛生公衆衛生学 2017
出)南江堂 著)辻一郎 他
- 公衆衛生がみえる2016-2017 (第2版)
出)メディックメディア 著)医療情報科学研究所 (編)
- 改訂7版 疫学マニュアル
出)南山堂 著)柳川洋 他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

提出を求められる講義の感想および要望等の内容は成績判定の評価対象としない。

その他

(学習相談) 福泉隆喜：相談は随時受け付け可能
非常勤講師への質問・相談等がある場合は、科目担当責任者(福泉)に連絡すること。

2017年度

社会歯科学 (Social Dentistry)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜、辻澤 利行、〔非常勤講師〕古賀 克重						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	産業保健 労働者の健康管理を担う産業保健の概要を理解し、労働基準法及び労働安全衛生法に規定する労働者保護対策について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	501講義室
2	産業保健 労働者保護対策のひとつである労働契約法の概要を理解し、歯科医師の有期労働契約の取扱い及び医療契約の特徴について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	501講義室
3	医療情報とその管理 歯科診療所における個人情報の取扱いを理解し、個人情報保護法、取扱いのためのガイドライン等における規定について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	501講義室
4	患者の視点から見た歯科医療 患者の尊厳、医の倫理等を理解し、歯科医師の責務に関する法的な位置付けを学習する。	講義（パワーポイントと資料）	古賀	501講義室
5	コンフリクト・マネジメント 医療紛争の解決法として注目される医療メディエーション、裁判外紛争解決手続きを理解し、医療訴訟の動向等を学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	501講義室
6	国民栄養と食品保健（国民健康・栄養調査、食品衛生法等） 国民健康・栄養調査の意義を理解し、国民の健康に密接に関わる食品衛生の概要及び食中毒の動向について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	501講義室
7	障害者保健福祉 障害者に対する保健福祉対策の概要を理解し、障害者総合支援法の制定に至る経緯、障害者権利条約、ノーマライゼーションについて学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	501講義室
8	精神保健福祉 精神保健福祉の概要を理解し、精神保健福祉法及び医療観察法等について学習する。	講義（パワーポイントと資料）	福泉	501講義室

2017年度

医療コミュニケーション (Medical Communication)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、引地 尚子、園木 一男、大住 伴子、永松 浩、笹栗 正明、曾我部 浩一、鬼塚 千絵、國領 真也、郡司掛 香織、黒石 加代子、〔非常勤講師〕俣木 志朗、〔非常勤講師〕灘光 洋子、〔非常勤講師〕吉田 登志子、〔非常勤講師〕藤崎 和彦						

授業の概要

良好な歯科医療人・患者関係を築くのに必要なコミュニケーション能力の基礎を身につける。そのために、基本的なコミュニケーションスキルを医療コミュニケーションに活用できるような基本的態度を学ぶ。

講義では医療面接に必要なコミュニケーションスキルを学び、演習ではロールプレイや模擬患者を活用した医療面接を行い、自分のもつコミュニケーションスキルを向上させ、省察（振り返り）の姿勢を育成する。

学生の到達目標

- 医療コミュニケーションを説明できる。
- 歯科医療人の態度を説明できる。
- 医療コミュニケーションスキルを実践する。
- インフォームドコンセントの意義を説明できる。
- 医療面接を実践する。
- 患者の社会心理的背景を説明できる。
- 歯科医療人となる自覚を高める。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	3				患者との信頼関係を築くことができる。
A	3				個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
A	3				患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
A	4				インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
A	4				説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
A	4				説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
A	4				患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
A	7	1)			コミュニケーションの目的と技法（言語的と非言語的）を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】
A	7	1)			信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
A	7	1)			コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
A	7	2)			医療面接の役割を説明できる。
A	7	2)			主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考えや治療に対する希望を把握できる。
A	7	2)			患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
A	7	2)			患者の不安、不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
A	7	2)			患者のプライバシーに配慮できる。

2017年度

医療コミュニケーション (Medical Communication)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、引地 尚子、園木 一男、大住 伴子、永松 浩、笹栗 正明、曾我部 浩一、鬼塚 千絵、國領 真也、郡司掛 香織、黒石 加代子、〔非常勤講師〕俣木 志朗、〔非常勤講師〕灘光 洋子、〔非常勤講師〕吉田 登志子、〔非常勤講師〕藤崎 和彦						

テキスト

出) 著)

参考書

歯科医療面接の実際

出)クインテッセンス

著)伊藤孝訓・寺中敏夫 編

メディカル・サポート・コーチング入門 医療者向けコミュニケーション法

出)日本医療情報センター

著)奥田弘美

はじめての医療面接 コミュニケーション技法とその学び方

出)医学書院

著)斎藤清二

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	40%
事前学習課題レポート	30%
事後テスト・振り返りレポート	30%

授業中の態度及び演習参加態度も評価対象とする。(講義中にスマートフォンを扱うなど講義に関係ないことをしている場合、演習に積極的に参加していない場合は、程度により1回の講義あたり最大10点減点する。)

その他

(学習相談)月～金曜日、随時受け付ける。原則として時間予約をメールにて行うこと。

2017年度

医療コミュニケーション (Medical Communication)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、引地 尚子、園木 一男、大住 伴子、永松 浩、笹栗 正明、曾我部 浩一、鬼塚 千絵、國領 真也、郡司掛 香織、黒石 加代子、〔非常勤講師〕俣木 志朗、〔非常勤講師〕灘光 洋子、〔非常勤講師〕吉田 登志子、〔非常勤講師〕藤崎 和彦						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	<p>概論 良好な患者 - 歯科医療人関係を築く必要性を学びその実践方法を学習する。省察（振り返り）を行い、理解を深めるためのレポートの書き方を学習する。コミュニケーションの3つの条件を学習する。欧米の歯科医学教育学会で制定されているコンピテンシーを参考に、卒業時に求められるコミュニケーションのアウトカムについて学習する。</p> <p>【事前学習課題】コミュニケーションの条件、コンピテンシー、アウトカム基盤型教育</p>	講義	木尾 園木 大住 鬼塚	402講義室
2	<p>ロールプレイ演習1（伝達と傾聴） 第一印象の大切さに気付き、効果的な自己紹介について学習する。伝達と傾聴の大切さに気付きその実践方法を学習する。インフォームドコンセントに必要な対話能力と態度を学習する。</p> <p>【事前学習課題】第一印象、傾聴技法、インフォームドコンセント</p>	演習	科目教員	402講義室 チュートリアル 演習室
3	<p>ロールプレイ演習1の省察（振り返り） 演習の省察によりわからなかったこと、わかっていたもできなかったことについて理解を深める。コミュニケーションの種類（言語的、準言語的、非言語的）を学習する。コミュニケーションの3大コアスキルと留意点について学習する。消極的（受動的）傾聴法と積極的（能動的）傾聴法について学習する。インフォームドコンセントに必要な対話能力と態度を学習する。</p> <p>【事前学習課題】言語的・準言語的・非言語的コミュニケーションの特徴</p>	講義	永松	402講義室
4	<p>（学外講師講義） 異文化コミュニケーション 他者の視点、自分の視点をより分析的に捉える姿勢を養う。 1）言語・非言語メッセージをより分析的に捉える努力をするようになる。 2）自分の内にあるステレオタイプがどのようにコミュニケーションに反映されているかに留意するようになる。 3）医者と患者のやりとりや関係性をより分析的に捉える努力をするようになる。</p> <p>【事前学習課題】「異文化コミュニケーションについての体験と、その時の感想を述べよ」</p>	講義 演習	灘光	402講義室
5	<p>医療面接について 患者中心の医療を実現するために良好な患者 - 医療者関係を構築する必要があることを学習する。医療コミュニケーションの三大コアスキルを学習する。医療者の基本的態度類型を学習する。SPの役割について学習し、フィードバックできるようにする。ロールプレイ準備（シナリオ・質問項目・評価項目作成）を行う。</p> <p>【事前学習課題】医療コミュニケーションの三大コアスキル、医療者の基本的態度類型</p>	講義	鬼塚	402講義室
6	<p>（学外講師講義） 医療面接、フィードバックについて 患者と医療者の解釈モデルについて学習する。医療面接の流れ、医療面接技法、医療面接のチェックポイントについて学習する。ロールプレイを行い、フィードバックができるようにする。</p> <p>【事前学習課題】解釈モデル、医療面接項目、SP、LEARNのアプローチ、行動変容</p>	講義 演習	藤崎	402講義室
7	<p>（学外講師講義） 行動変容のアプローチ 患者 - 歯科医療人関係（レディネス、行動変容、寄り添う心、bad news telling） 行動変容を生む患者アプローチについて学習する。患者中心の患者教育法について学習する。ガツガツを分かち合うことの大切さを学習する。</p>	講義 演習	藤崎	402講義室

2017年度

医療コミュニケーション (Medical Communication)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、引地 尚子、園木 一男、大住 伴子、永松 浩、笹栗 正明、曾我部 浩一、鬼塚 千絵、國領 真也、郡司掛 香織、黒石 加代子、〔非常勤講師〕俣木 志朗、〔非常勤講師〕灘光 洋子、〔非常勤講師〕吉田 登志子、〔非常勤講師〕藤崎 和彦						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
8	<p>ロールプレイ演習2 (医療面接)</p> <p>歯科医師、患者、観察者に分かれ、それぞれの役を経験することで、医療面接を体験する。フィードバックによりレベルアップを図る。</p> <p>【事前学習課題】ロールプレイ用のシナリオ、評価表、医療面接の流れ</p>	演習	科目教員	402講義室 311講義室 312講義室 チュートリアル演習室
9	<p>(学外講師講義)</p> <p>歯科医療人になるということ1</p> <p>医療面接の3つの役割について学習する。医療面接の基本技術と知識について学習する。医療面接の基本及び医療面接時の留意事項について学習する。doingとbeingにより治療的自我が向上することを学習する。</p> <p>【事前学習課題】医療面接の役割、治療的自我、ジョハリの窓</p>	講義	俣木	402講義室
10	<p>(学外講師講義)</p> <p>歯科医療人になるということ2</p> <p>患者接遇、敬語、適切な表現について学習する。患者さんとの良好な関係を築く基本について学習する。ジョハリの窓について学習する。</p>	講義	俣木	402講義室
11	<p>ロールプレイ演習3 (医療面接)</p> <p>歯科医師、患者、観察者に分かれ、それぞれの役を経験することで、医療面接を体験する。フィードバックによりレベルアップを図る。</p> <p>【事前学習課題】ロールプレイ演習2の時よりも設定を深めたシナリオ、フィードバックの方法</p>	演習	科目教員	402講義室 311講義室 312講義室 チュートリアル演習室
12	<p>(学外講師演習)</p> <p>ロールプレイ演習4 (模擬患者との医療面接)</p> <p>模擬患者さんを用いた医療面接を行うことで、医療面接の流れ、内容、配慮を臨床に即した状態で学習する。慢性症状と急性症状による医療面接の違いを学習する。</p> <p>【事前学習課題】医療面接の流れ・技法・チェックポイント(復習)</p>	演習	吉田 科目教員	402講義室 311講義室 312講義室 チュートリアル演習室
13	<p>(学外講師演習)</p> <p>ロールプレイ演習5 (模擬患者との医療面接)</p> <p>模擬患者さんを用いた医療面接を行うことで、医療面接の流れ、内容、配慮を臨床に即した状態で学習する。慢性症状と急性症状による医療面接の違いを学習する。</p>	演習	吉田 科目教員	402講義室 311講義室 312講義室 チュートリアル演習室
14	<p>ロールプレイ演習4・5の省察</p> <p>演習の省察によりわからなかったこと、わかっていたもできなかったことについて理解を深める。</p>	講義	鬼塚	402講義室
15	<p>総括</p> <p>行動科学からみた患者のタイプとそのマネジメント、社会的スキルについて学習する。確認テストにより到達目標の達成度を認識する。</p>	講義	木尾 引地 園木 大住 永松 曾我部 鬼塚	401講義室 402講義室 611講義室

2017年度

医療コミュニケーション (Medical Communication)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	22	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、大住 伴子、永松 浩、笹栗 正明、鬼塚 千絵、曾我部 浩一、國領 真也、森川 和政、郡司掛 香織、黒石 加代子、〔非常勤講師〕田口 則宏、〔非常勤講師〕伊藤 孝訓、〔非常勤講師〕鈴木 一吉、〔非常勤講師〕田中 純子						

授業の概要

これまで学んだ医療コミュニケーションスキルを体得するために、実践形式の演習を主体として行う。客観的臨床能力試験（OSCE）や臨床実習に向けて、推理推論しながら医療面接できる態度と能力を養う。講義では、医療面接・説明指導に必要な知識と歯科医師としての技術・態度を学ぶ。演習では小グループを作り、良好な歯科医師-患者関係を築くために必要な歯科医師としての態度に関する討論をおこない、ロールプレイや模擬患者を活用した医療面接を行い、歯学生としてのコミュニケーションと行動についての省察（振り返り）し、自ら学ぶ姿勢を作る。

学生の到達目標

- 医療コミュニケーションを説明できる。
- 歯科医療人の態度を説明できる。
- 患者中心のチーム医療を説明できる。
- 医療コミュニケーションスキルを実践する。
- インフォームドコンセントの重要性を実践する。
- 推理推論しながら医療面接を実践する。
- 患者の社会心理的背景に配慮できる。
- 歯科医療人となる自覚を高める。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	3				患者との信頼関係を築くことができる。
A	3				個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
A	3				患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
A	3				患者に最も適した医療を説明できる。
A	3				歯科医師の法的義務を列挙できる。
A	4				インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
A	4				説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
A	4				説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
A	4				患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
A	7	1)			コミュニケーションの目的と技法（言語的と非言語的）を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】
A	7	1)			信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
A	7	1)			コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
A	7	2)			医療面接の役割を説明できる。
A	7	2)			主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考えや治療に対する希望を把握できる。
A	7	2)			患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。

2017年度

医療コミュニケーション (Medical Communication)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	22	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、大住 伴子、永松 浩、笹栗 正明、鬼塚 千絵、曾我部 浩一、國領 真也、森川 和政、郡司掛 香織、黒石 加代子、〔非常勤講師〕田口 則宏、〔非常勤講師〕伊藤 孝訓、〔非常勤講師〕鈴木 一吉、〔非常勤講師〕田中 純子						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	7	2)			患者の不安、不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
A	7	2)			患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。
A	7	2)			必要に応じて、他の医療機関への適切な紹介を行うための手続きを説明できる。
A	7	2)			患者のプライバシーに配慮できる。
A	7	2)			患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。
A	7	3)			患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
A	7	3)			医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。

テキスト

出) 著)

参考書

歯科医療面接の実際

出)クインテッセンス

著)伊藤孝訓・寺中敏夫 編

メディカル・サポート・コーチング入門 医療者向けコミュニケーション法

出)日本医療情報センター

著)奥田弘美

はじめての医療面接 コミュニケーション技法とその学び方

出)医学書院

著)斎藤清二

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認試験	40%
事前学習課題	30%
事後テスト・振り返りレポート	30%

講義中の態度および演習参加態度も評価対象とする。（講義中にスマートフォンを扱うなど講義に関係ない事を行っている場合、演習に積極的に参加していない場合は、程度により1回の講義あたり最大10点減点する）

その他

2017年度

医療コミュニケーション (Medical Communication)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	22	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、大住 伴子、永松 浩、笹栗 正明、鬼塚 千絵、曾我部 浩一、國領 真也、森川 和政、郡司掛 香織、黒石 加代子、〔非常勤講師〕田口 則宏、〔非常勤講師〕伊藤 孝訓、〔非常勤講師〕鈴木 一吉、〔非常勤講師〕田中 純子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	概論、患者歯科医療人関係 医療コミュニケーションの復習を行い、歯科医療人に必要なコミュニケーションについて理解する。 【事前学習課題】医療におけるコミュニケーション	講義	木尾 大住 鬼塚	501講義室
2	(学外講師講義・演習) 医療に必要なコミュニケーションの視点 良好な患者-医療者関係を築くためには、日常とは異なるコミュニケーションの仕組みを理解しておく必要がある。そこで、コミュニケーションにおけるニーズ、医療者と患者のコミュニケーションの違い、メタ認知について学習する。 【事前学習課題】言語・準言語・非言語コミュニケーション、メタ・メッセージ	講義	鈴木	501講義室
3	(学外講師講義・演習) 臨床推論とコミュニケーション1 歯科医療の特性および日本人的コミュニケーションについて理解する。患者意識の変化と患者-医療者関係における新たなパラダイムと問題点について学習する。医科と異なる歯科医療の特徴について学習する。患者満足度と医師のコミュニケーションスキルの関係について学習する。 【事前学習課題】患者の権利章典、会話の合意、臨床推論	講義 演習	伊藤	501講義室
4	(学外講師講義・演習) 臨床推論とコミュニケーション2 臨床(診断)推論、推論エラーについて理解する。臨床問題解決アプローチについて学習する。診断能力を向上させるトレーニングについて学習する。 【事前学習課題】臨床推論、エラー、パターン認識、仮説演繹法	講義 演習	伊藤	501講義室
5	ロールプレイ演習1(医療面接) 平成28年度医療コミュニケーションIで作成したシナリオをブラッシュアップしたものをを用いロールプレイを行う。推理推論を行いながら、医療面接をする。 歯科医師役、患者役、評価者役に分かれ、それぞれの立場から効果的なフィードバックの行い方を学習し、実践する。 【事前学習課題】ロールプレイでの患者役シナリオ、医療面接の手順、フィードバックの方法	演習	科目教員	501講義室 チュートリアル室
6	(学外講師講義・演習) 世代間コミュニケーション コミュニケーションの定義と影響を与える因子を学習する。 患者-歯科医療者という異文化のコミュニケーションについて理解し、世代間コミュニケーション特に異世代である高齢者とのコミュニケーションを円滑に行うために第一印象、認識論、コンテキストについて学習する。 コミュニケーションの定義と影響を与える因子を学習する。 【事前学習課題】高齢者の特徴、認識論、コンテキスト	講義	田口	501講義室
7	多職種との連携 多職種と連携し、歯科医療を通じて地域社会に貢献する基礎的能力を身につけるために必要なことを学習する。 患者中心のチーム医療、他の医療従事者との連携について学習する。 【事前学習課題】医療チームの構成員、多職種連携	講義	曾我部	501講義室
8	行動科学と行動変容 行動科学と行動変容についての最新の知見を学習する。クレーム対応法について理解する。クレームの種類・心理・思いについて学習する。クレーム対策の基本について学習する。専門用語の使用について理解する。 【事前学習課題】プロフェッショナリズム、コンプライアンス、アドヒアランス、「病院の言葉」を分かりやすくする提案	講義 演習	木尾	501講義室

2017年度

医療コミュニケーション (Medical Communication)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	22	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、大住 伴子、永松 浩、笹栗 正明、鬼塚 千絵、曾我部 浩一、國領 真也、森川 和政、郡司掛 香織、黒石 加代子、〔非常勤講師〕田口 則宏、〔非常勤講師〕伊藤 孝訓、〔非常勤講師〕鈴木 一吉、〔非常勤講師〕田中 純子						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
9	(学外講師演習) ロールプレイ演習2(模擬患者との医療面接) 模擬患者と医療面接を行い、省察する。模擬患者さんを用いた医療面接を行うことで、医療面接の流れ、内容、配慮を臨床に即した状態で学習する。省察(振り返り)を行うことで理解を深める。慢性症状と急性症状による医療面接の違いを学習する。 【事前学習課題】臨床推論、解釈モデル、フィードバックの方法	講義 演習	前田 科目教員	501講義室 チュートリアル室
10	(学外講師演習) ロールプレイ演習3(模擬患者との医療面接) 推理推論を行いながら、模擬患者と医療面接を実践する。診断を導くために必要な面接項目について学習する。省察(振り返り)を行うことで理解を深める。	演習 講義	前田 科目教員	501講義室 チュートリアル室
11	医療コミュニケーション総括 医療コミュニケーション(平成28年度医療コミュニケーションIを含む)で学んだ事を振り返り、到達度を確認する。 【事前学習課題】省察	講義	木尾 鬼塚 大住 永松 曾我部	501講義室 601講義室

2017年度

医療マネジメント (Medical Management)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中原 孝洋						
担当教員	中原 孝洋、〔非常勤講師〕福重 真佐子						

授業の概要

医療現場では、クリティカルシンキング、コミュニケーション力を始め、チームで医療を行うスキルが求められる。一方、医療の実践には組織運営の力も必要である。少人数のチームリーダーであったり、経営に関わるまで、立場によってその意味は様々に変わる。本講義では、医療や研究を遂行するために必要なマネジメントとして、情報の取り扱いや、リーダーシップの理論、組織運営の実際を解説する。また、情報の視点から、医療のリスクマネジメントやトレーサビリティについての解説も行う。

学生の到達目標

- 医療に必要なマネジメントが理解できる。
- リーダーシップの理論と必要性が説明できる。
- 情報セキュリティの重要性及び個人情報保護の必要性が説明できる。
- インターネット・情報技術（ICT）の概略が理解できる。
- 医療現場でのスタッフ間コミュニケーションが理解できる。
- 医療リスクマネジメント並びにトレーサビリティについて説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

まんがでわかるドラッカーのリーダーシップ論
出) 著)藤家伸二

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート(10点×3回)	30%
定期試験	70%

不合格者については、口頭試問を行い、レポート(4000文字程度)で再評価を行う。

その他

随時、本館4階情報処理室またはメールにて受け付ける。

2017年度

医療マネジメント (Medical Management)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中原 孝洋						
担当教員	中原 孝洋、〔非常勤講師〕福重 真佐子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	マネジメントの必要性、組織とは 医療マネジメントとは何か。医療を提供する組織の種類、それぞれの役回りと人物について、例を挙げながら示す。	講義	中原	601講義室
2	リーダーシップ(1) ドラッカーの「リーダーシップ」をもとに、ロールプレイや説明を行う。	講義	中原	601講義室
3	リーダーシップ(2) ドラッカーの「リーダーシップ」をもとに、ロールプレイや説明を行う。	講義	中原	601講義室
4	情報セキュリティ、個人情報保護(1) 医療現場で取り扱う様々な個人情報と、歯科特有の問題について理解する。	講義	中原	601講義室
5	情報セキュリティ、個人情報保護(2) 個人情報保護法の成り立ち、諸外国との共通性について理解する。また、PCのセキュリティやネットワーク技術による対策などについて概説する。	講義	中原	601講義室
6	医療リスクマネジメント リスクマネジメントの概念について理解する。医療トレーサビリティやリスクを減らすためのICTシステムについて、事例を交えて解説する。	講義	中原	601講義室
7	ドクター、スタッフ 歯科医療と学習機会、素養の必要性、スタッフ間コミュニケーションや組織を運営する具体的なマネジメント内容について、実際の歯科診療所を例に説明する。	講義	福重	601講義室
8	医療情報システム 医療機関で用いられる様々なICTシステム、電子カルテについて、構成やメリット、諸制度との整合性について学ぶ。	講義	中原	601講義室

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	学長、鯨 吉夫、歯学部長、吉野 賢一、有吉 渉、木尾 哲朗、園木 一男 (統括責任者) 歯学部長 (実施責任者) 鯨 吉夫 (副責任者) 吉野 賢一 (口腔保健学科) (副責任者) 有吉 渉 (歯学科) 運営委員 : 木尾 哲朗、園木 一男、その他学内の教員より募集						

授業の概要

本科目では、一連の実習を通して、学生が将来の歯科医師像・歯科衛生士像を明確にすることで、今後の態度教育、基礎医学教育、臨床基礎教育、および臨床実習で修得すべき知識・技能の重要性を理解するとともに、歯科医療人としてのプロフェッショナリズムとは何かについて同僚と議論を深めることにより、歯学部学生として、さらには社会的責任を課せられた医療人としての自覚を促すことを目的としている。

学生の到達目標

同僚との共同作業により、同学年の中で円滑なコミュニケーションを図る環境を醸成する。
卒業までの行動計画をイメージできるようになる。
社会に役立つ社会人・医療人としての自覚を持つ。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文章を準備できる。
A	6	1)			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	7	1)			信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
A	7	1)			コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
F	1				適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正しい態度で接することができる。
F	1				基本的なコミュニケーションができる。

テキスト

平成29年度WADSキャンプ実施要領
出) 著)

必要に応じ資料を配布する。
出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
右記のとおり	100%

全てのセッションに参加し、プレ・ポストアンケートの提出および誓いの言葉を作成してグループ発表をすること。
WADSキャンプの報告書に各自が取り組んだプロダクト(誓いの言葉をまとめたもの)が掲載されること。
歯科医療人になるための行動計画表を提出すること。

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
	学長、鯨 吉夫、歯学部長、吉野 賢一、有吉 渉、木尾 哲朗、園木 一男						
担当教員	(統括責任者) 歯学部長 (実施責任者) 鯨 吉夫 (副責任者) 吉野 賢一 (口腔保健学科) (副責任者) 有吉 渉 (歯学科)						
	運営委員 : 木尾 哲朗、園木 一男、その他学内の教員より募集						

その他

学習相談：鯨 (本館3階・総合教育学研究室No3)

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	鯨 吉夫						
担当教員	学長、鯨 吉夫、歯学部長、吉野 賢一、有吉 渉、木尾 哲朗、園木 一男 (統括責任者) 歯学部長 (実施責任者) 鯨 吉夫 (副責任者) 吉野 賢一 (口腔保健学科) (副責任者) 有吉 渉 (歯学科) 運営委員 : 木尾 哲朗、園木 一男、その他学内の教員より募集						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	事前学習	資料による説明 グループ討論	鯨	301講義室
2	開講式	講義	鯨	グローバルアリーナ
3	プレ・アンケート	自記式調査	有吉	グローバルアリーナ
4	セッション1 「校歌・自己紹介」	グループ演習	鯨	グローバルアリーナ
5	セッション2 「大学からのメッセージ」	講義	吉野	グローバルアリーナ
6	セッション3 「歯科医療人になるための行動計画」	グループ演習	木尾	グローバルアリーナ
7	セッション4 「スポーツフェスティバル」	グループ演習	鯨	グローバルアリーナ
8	セッション5 「先輩たちからのメッセージ」	講義	吉野	グローバルアリーナ
9	セッション6 「学長、出番です！」	講義	西原	グローバルアリーナ
10	セッション7 「教えてドクター！」	講義	園木	グローバルアリーナ
11	セッション8 「どうしてこのメンバーなのか」	グループ演習	鯨	グローバルアリーナ
12	セッション9 「レッツ・KATARO」	グループ演習	鯨	グローバルアリーナ
13	セッション10 「誓いの言葉」	グループ演習	吉野	グローバルアリーナ
14	ポスト・アンケート	自記式調査	有吉	グローバルアリーナ
15	閉講式	講義	吉野	グローバルアリーナ

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、引地 尚子、歯学部長、粟野 秀慈、北村 知昭、園木 一男、永松 浩、鬼塚 千絵、曾我部 浩一、中原 孝洋、〔非常勤講師〕岡留 朝子、〔非常勤講師〕村木 祐孝、〔非常勤講師〕甲斐 康晴、〔非常勤講師〕岩佐 康行、〔非常勤講師〕仲山 智恵、〔非常勤講師〕濱崎 朋子						

授業の概要

本科目では、一連の講義・実習を通して、学生が将来の歯科医療人像を明確にすることで、今後の情意教育、基礎医学教育、臨床基礎教育、および臨床実習で修得すべき知識・技能の重要性を理解する。あわせて歯科医療人像を具現化するための学習行動計画表を作成し、歯科医療人になる歯学部学生として、さらには社会的責任を課せられた医療人として自覚することを目的としている。

学生の到達目標

- 卒業までに受講するカリキュラムを理解し、受講する講義・実習内容の重要性を自覚する。
- 歯科医療人として修得すべき情意・技能に関するスキルを理解する。
- 卒業までの行動計画表を作成する。
- 上記の作業を通じて社会に役立つ社会人・医療人としての自覚を涵養する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	1				患者の権利を説明できる。
A	1				患者の自己決定権を説明できる。
A	1				患者が自己決定ができない場合の対応を説明できる。
A	2				医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
A	3				患者との信頼関係を築くことができる。
A	3				個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
A	3				患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
A	6	1)			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	6	1)			歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。
A	6	1)			医療の改善のために不断の評価・検証と倫理的および患者の利益と安全に配慮した科学研究が必要であることの重要性を説明できる。
A	7	3)			患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
A	7	3)			医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
A	7	3)			保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。

テキスト

必要に応じ資料を配布する。
出)

著)

参考書

出)

著)

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、引地 尚子、歯学部長、粟野 秀慈、北村 知昭、園木 一男、永松 浩、鬼塚 千絵、曾我部 浩一、中原 孝洋、〔非常勤講師〕岡留 朝子、〔非常勤講師〕村木 祐孝、〔非常勤講師〕甲斐 康晴、〔非常勤講師〕岩佐 康行、〔非常勤講師〕仲山 智恵、〔非常勤講師〕濱崎 朋子						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	30%
計画表提出	20%
事前学習課題レポート	25%
事後テスト・振り返りレポート	25%

その他

事前学習課題レポートは当日講義前に提出すること。

学習相談：相談は授業時間外でも随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、引地 尚子、歯学部長、栗野 秀慈、北村 知昭、園木 一男、永松 浩、鬼塚 千絵、曾我部 浩一、中原 孝洋、〔非常勤講師〕岡留 朝子、〔非常勤講師〕村木 祐孝、〔非常勤講師〕甲斐 康晴、〔非常勤講師〕岩佐 康行、〔非常勤講師〕仲山 智恵、〔非常勤講師〕濱崎 朋子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	学部長講義 歯科医学教育の変化と本学カリキュラム 歯学部学生としての責任ある行動について学修する。	講義 スライド 資料配布	学部長 科目教員	402講義室
2	歯科医療人プロフェッショナリズム (1) 歯科医療人としてのプロフェッショナリズムのコンピテンシーについて学修する。 【事前学習課題】 良き歯科医師に求められる態度について	TBL 資料配布	木尾 総合診療科 教員	402講義室 テュートリアル 演習室
3	歯科医療人プロフェッショナリズム (2) 歯学部学生としての責任ある知識・技能・行動について学修する。	TBL 発表 資料配布	木尾 総合診療科 教員	402講義室 テュートリアル 演習室
4	国家試験と歯科臨床 国家試験に対する準備方法を学修する。 (2学科は個別の講義とする)	講義 スライド 資料配布	中原 引地	402講義室 611講義室
5	技能講義 歯科医療人が社会的使命を果たすために必要な歯科医療技能教育で修得すべき内容、及びその評価方法 (OSCE等) について学修する。	講義 スライド 資料配布	北村	402講義室
6	安心・安全・信頼のコミュニケーション 患者の信頼を得るために必要なプロフェッショナリズムと医療コミュニケーションについて行動科学を通じた視点で学修する。	講義 スライド 資料配布	木尾	402講義室
7	学外講師講義 (1) 病棟でのNSTや口腔ケアの話を通して歯科医療人としての将来像を明確にし、行動計画立案することを目的に、現在、活躍する歯科医療人の体験・経験を聞き、歯科医療前線、教育、及び研究等の様々な歯科医学・医療領域について学修する。 【事前学習課題】 歯科衛生士業務、周術期	講義 スライド 資料配布	岡留 (引地)	402講義室
8	学外講師講義 (2) 慢性期の患者対応を行う病院での歯科医療の話を通して歯科医療人としての将来像を明確にし、行動計画立案することを目的に、現在、活躍する歯科医療人の体験・経験を聞き、歯科医療前線、教育、及び研究等の様々な歯科医学・医療領域について学修する。 【事前学習課題】 摂食嚥下障害、オーラルフレイル、地域包括ケアシステム	講義 スライド 資料配布	岩佐 (木尾)	402講義室
9	学外講師講義 (3) 地域医療を実践する歯科医療の話を通して歯科医療人としての将来像を明確にし、行動計画立案することを目的に、現在、活躍する歯科医療人の体験・経験を聞き、歯科医療前線、教育、及び研究等の様々な歯科医学・医療領域について学修する。 【事前学習課題】 病診連携、生涯研修、訪問歯科診療	講義 スライド 資料配布	甲斐 (木尾)	402講義室
10	学外講師講義 (4) 急性期の患者対応を行う病院での歯科医療の話を通して歯科医療人としての将来像を明確にし、行動計画立案することを目的に、現在、活躍する歯科医療人の体験・経験を聞き、歯科医療前線、教育、及び研究等の様々な歯科医学・医療領域について学修する。 【事前学習課題】 病院歯科・口腔外科、有病者歯科医療、口腔癌	講義 スライド 資料配布	村木 (木尾)	402講義室
11	学外講師講義 (5) 公衆衛生・口腔衛生学を専攻する大学研究者の話を通して歯科医療人としての将来像を明確にし、行動計画立案することを目的に、現在、活躍する歯科医療人の体験・経験を聞き、歯科医療前線、教育、及び研究等の様々な歯科医学・医療領域について学修する。 【事前学習課題】 高齢者の低栄養	講義 スライド 資料配布	濱崎 (栗野)	402講義室

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、引地 尚子、歯学部長、粟野 秀慈、北村 知昭、園木 一男、永松 浩、鬼塚 千絵、曾我部 浩一、中原 孝洋、〔非常勤講師〕岡留 朝子、〔非常勤講師〕村木 祐孝、〔非常勤講師〕甲斐 康晴、〔非常勤講師〕岩佐 康行、〔非常勤講師〕仲山 智恵、〔非常勤講師〕濱崎 朋子						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
12	学外講師講義(6) 地域支援行政に関わる歯科医療人の話を通して歯科医療人としての将来像を明確にし、行動計画立案することを目的に、現在、活躍する歯科医療人の体験・経験を聞き、歯科医療前線、教育、及び研究等の様々な歯科医学・医療領域について学修する。 【事前学習課題】歯科口腔保健の推進に関する法律、母子健康手帳、学校歯科健診、健康増進法、歯科医師法または歯科衛生士法	講義 スライド 資料配布	仲山 (栗野)	402講義室
13	歯科医療人プロフェッショナリズム(3) 歯学部学生としての責任ある知識・技能・行動について学修する。 【事前学習課題】医のプロフェッショナリズム、アウトカム基盤型医学教育	PBL 資料配布	木尾 科目教員	402講義室
14	行動計画表作成(1) これまでの本科目において学習した内容、及び自己学習の過程で収集した資料等を元に、歯科医療人としての将来像を明確にするための行動計画表を作成・提出する。	講義・演習(計画表の説明・作成)	作学部長 科目教員	402講義室
15	行動計画表作成(2) これまでの本科目において学習した内容、及び自己学習の過程で収集した資料等を元に、歯科医療人としての将来像を明確にするための行動計画表を作成・提出する。	講義・演習(計画表の説明・作成)	木尾 科目教員	402講義室

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	(統括責任者) 歯学部長 (実施責任者) 正木 千尋						
担当教員	清水 博史、歯学部長、粟野 秀慈、正木 千尋、福泉 隆喜、曾我部 浩一、鯨 吉夫、木尾 哲朗 4年次学年主任 (実施アドバイザー) 鯨 吉夫、木尾 哲朗						

授業の概要

本科目では、一連の実習を通して、学生が将来の歯科医師像・歯科衛生士像を明確にすることで、今後の態度教育、基礎医学教育、臨床基礎教育、および臨床実習で修得すべき知識・技能の重要性を理解するとともに、歯科医療人としてのプロフェッショナリズムとは何かについて同僚と議論を深めることにより、歯学部学生として、さらには社会的責任を課せられた医療人としての自覚を促すことを目的としている。

学生の到達目標

- 卒業までに受講するカリキュラムを理解し、受講する講義・実習内容の重要性を自覚する。
- 歯科医師として修得すべき態度・技能に関するスキルを理解する。
- 卒業までの行動計画表を作成する。
- 上記の作業を通じて社会に役立つ社会人・医療人としての自覚を持つ。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	3				患者との信頼関係を築くことができる。
A	3				個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
A	3				患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
A	3				歯科医師の法的義務を列挙できる。
A	6	1)			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	6	1)			歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。
A	6	1)			医療の改善のために不断の評価・検証と倫理的および患者の利益と安全に配慮した科学研究が必要であることの重要性を説明できる。

テキスト

平成29年度WADSキャンプ実施要領
出) 著)

参考書

必要に応じ資料を配布する。
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
WADSキャンプ報告書	100%

〔評価方法〕全てのセッションに参加し、プレ・ポストアンケートを提出し、行動計画を作成し、グループ毎に決意表明を発表すること。
〔評価基準〕WADSキャンプの報告書に各自が取組んだプロダクトが掲載されることで単位修得とする。

その他

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	(統括責任者) 歯学部長 (実施責任者) 正木 千尋						
担当教員	清水 博史、歯学部長、粟野 秀慈、正木 千尋、福泉 隆喜、曾我部 浩一、鯨 吉夫、木尾 哲朗						
	4年次学年主任 (実施アドバイザー) 鯨 吉夫、木尾 哲朗						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	事前学習	資料による説明 グループ討論	正木 4年次学年主任	501講義室
2	開講式	講義	学部長	グローバルアリーナ
3	プレ・アンケート	自記式調査	正木 4年次学年主任	グローバルアリーナ
4	レクチャー1・2「研修歯科医」	講義	研修医	グローバルアリーナ
5	レクチャー3「女性大学院生」	講義	大学院生	グローバルアリーナ
6	レクチャー4「女性医員」	講義	医員	グローバルアリーナ
7	セッション2「全体討論」	SGD	全員	グローバルアリーナ
8	セッション3「スポーツフェスティバル」	集団行動	鯨 4年次生	グローバルアリーナ
9	セッション4「グループ討論」	SGD	全員	グローバルアリーナ
10	セッション5「自由討論」	SGD	全員	グローバルアリーナ
11	レクチャー5「医療行政・技官」	講義	福泉	グローバルアリーナ
12	レクチャー6「歯科臨床研修制度」	講義	曾我部	グローバルアリーナ
13	セッション6「行動計画書作成」	SGD	全員	グローバルアリーナ
14	ポストアンケート	自記式調査	正木	グローバルアリーナ
15	閉講式	講義	学部長	グローバルアリーナ

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	歯学科 5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	粟野 秀慈						
担当教員	粟野 秀慈、富永 和宏、木尾 哲朗、村岡 宏祐、高橋 由希子、〔非常勤講師〕曾我 賢彦						

授業の概要

医療従事者に求められる確かな技能は、確固とした倫理観によって裏打ちされたものでなければならない。本授業では、歯科医療専門職の倫理、患者の権利、専門職の義務や歯科医療における中心的価値、倫理的意思決定プロセスなどの原理的側面を学んだ後、今後増えるであろう終末期医療の現場における歯科医療のあり方について考える。

学生の到達目標

- 患者の権利を説明できる。
- 患者の自己決定権を説明できる。
- 患者が自己決定できない場合の対応を説明できる。
- 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
- 医の倫理に関する規範・国際規範を概説できる。
- 生と死に関わる倫理的問題を説明できる。
- 患者との信頼関係を築くことができる。
- 個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
- 患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- 歯科医師・歯科衛生士の法的義務を列挙できる。
- インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。
- 情報を自ら収集、分析して問題点を探り出すことができる。
- 問題点を論理的に整理し、解決方法を自ら見出すことができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	1				患者の権利を説明できる。
A	1				患者の自己決定権を説明できる。
A	1				患者が自己決定ができない場合の対応を説明できる。
A	2				医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
A	2				医の倫理に関する規範・国際規範（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等）を概説できる。
A	2				生と死に関わる倫理的問題を説明できる。
A	3				患者との信頼関係を築くことができる。
A	3				個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
A	3				患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
A	3				歯科医師の法的義務を列挙できる。
A	4				インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。

テキスト

プリントを配布する。

出) 著)

参考書

医の倫理 何をどう考えるか

出)南山堂 著)森岡恭彦、上竹正躬 訳

デンタル・エシックス - 歯科の倫理問題 -

出)クインテッセンス出版 著)柳沢有吾 訳

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	歯学科 5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、富永 和宏、木尾 哲朗、村岡 宏祐、高橋 由希子、〔非常勤講師〕曾我 賢彦						

医療倫理Q&A

出)太陽出版

著)医療倫理Q&A刊行委員会 編

パンキーフィロソフィー

出)小西印刷所

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席点	30%
各授業後のレポートの提出	30%
レポートの内容の評価	40%

その他

(オフィスアワー) 栗野 秀慈 : 月～金 17:00～

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	歯学科 5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、富永 和宏、木尾 哲朗、村岡 宏祐、高橋 由希子、〔非常勤講師〕曾我 賢彦						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	医療倫理概論としてヒポクラテス倫理と歴史的諸問題ならびにヒポクラテス倫理の限界について学習する。医療専門職、患者の権利、歯科医療人の義務について学ぶ。	講義 スライド	富永	601講義室
2	現在の医療倫理の根幹をなすクオリティオブライフについて学習する。それを支えるためのインフォームドコンセントの重要性と偏らない考え方をするための手法としてのPOSについて学ぶ。	講義 スライド	富永	601講義室
3	現在の医療倫理の重要課題である生命倫理（生と死に関わる倫理）について学習する。がんの告知に代表される苦痛告知について学ぶ。	講義 スライド	富永	601講義室
4	倫理的意思決定プロセスについて学習する。いくつかの倫理的問題を含む事例を通して倫理的意思決定プロセスでそれらの問題の解決策を探る演習を行う。	講義 グループ演習	富永	601講義室
5	プロフェッショナリズムについて学習する。過去の事例について自己の考えと他人の考え方を共有し、臨床歯科医学に関する倫理的決定のためのアプローチを学ぶ。歯科医療人としての専門職業意識を涵養する。	講義 グループ演習 配付資料	木尾	601講義室
6	歯科医療人として終末期医療にどう関わるか考える。（1）	グループ演習（TBL）	栗野 村岡 高橋	72実習室
7	歯科医療人として終末期医療にどう関わるか考える。（2）「がんケアの実際」	講義 スライド	曾我	601講義室
8	総括 振り返りレポート	講義 スライド	栗野	601講義室

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、臨床研修センター長、日高 勝美、歯学研究科長、福泉 隆喜、〔非常勤講師〕藤田 茂之、〔非常勤講師〕藤本 篤士、〔非常勤講師〕金成 雅彦						

授業の概要

本科目では、一連の授業を通して、学生が将来の歯科医師像を明確にすることで、今後の臨床実習で修得すべき知識・技能の重要性を理解するとともに、歯科医師像を具現化するためのキャリアガイダンスを行うことで社会的責任を課せられた医療人として自覚することを目的としている。

学生の到達目標

- 歯科医学と歯科医療のそれぞれを説明できる。
- 臨床研修および大学院について説明できる。
- 歯科保健行政について説明できる。
- 歯科医師の社会における役割について説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

出) _____ 著)

参考書

出) _____ 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席点	50%
レポート提出	50%

その他

2017年度

プロフェッショナリズム (Professionalism)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、臨床研修センター長、日高 勝美、歯学研究科長、福泉 隆喜、〔非常勤講師〕藤田 茂之、〔非常勤講師〕藤本 篤士、〔非常勤講師〕金成 雅彦						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	ガイダンス1 研修制度の利用法と統計から見た歯科医療について理解する。	講義 スライド 資料配布	福泉	601講義室
2	ガイダンス2 本学の研修システム概要を理解する。	講義 スライド 資料配布	研修センター長	601講義室
3	ガイダンス3 保健医療行政における歯科医師の職務について学習する。	講義 スライド 資料配布	日高	601講義室
4	ガイダンス4 大学院の概要を理解する。	講義 スライド 資料配布	歯学研究科長	601講義室
5	ガイダンス5 地域に根ざした訪問歯科医療について学習する。	講義 スライド 資料配布	藤本	601講義室
6	ガイダンス6 医学部歯科口腔外科の現状について理解する。	講義 スライド 資料配布	藤田	601講義室
7	ガイダンス7 開業歯科医の現状について理解する。	講義 スライド 資料配布	金成	601講義室
8	総括	講義	栗野	601講義室

2017年度

物理学特論 (Physics)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕中尾 基						
担当教員	〔非常勤講師〕中尾 基						

授業の概要

物理学は自然現象の法則化を図った自然科学であり、理工学分野の根幹を担っている。当講義では、高校課程で物理学を学んでいないか或いは理解が不十分な学生にも理解できるように、身近な様々な事象を取り上げ、物理的なイメージを重視して進めていく。具体的には、物理学の基礎分野であり物体の動きに関わる「力学」、熱の挙動に関わる「熱学」、波の挙動に関わる「波動」、電荷及び磁荷の動きに関わる「電磁気学」、及び原子の構造に関わる「原子物理学」の基本事項の講義を行う。

学生の到達目標

- 物理量を表す基本単位を説明でき、物体の速度、加速度、及び変位の関係を説明できる。
- ニュートンの運動の法則を説明できるとともに、力を受けた物体の運動を説明できる。
- 剛体に力を加えたときに生じる変形や破壊を説明できる。
- 熱伝導、対流、及び熱輻射による熱の移動を説明できる。
- 波は、波源で生じた振動が伝わっていく現象であることが理解できる。
- 電気現象の根源である電荷がつくる電場の性質を説明できる。
- 電流及び電圧が何を表すか、及び電流の周りに磁場が生じることを説明できる。
- 原子の構造を説明でき、エックス線及びレーザーが原子内から放射した光に基づくことを説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

第4版基礎物理学
出) 学術図書出版社

著) 原康夫

参考書

物理学通論 及び
出) 学術図書出版社

著) 原康夫

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	60%
確認テスト	20%
出席など	20%

その他

学習相談：中尾（九州工業大学工学研究院）

2017年度

物理学特論 (Physics)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕中尾 基						
担当教員	〔非常勤講師〕中尾 基						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	はじめに 物理量はどのように表されるか？ 物理量の表し方、基本単位、及び有効数字について学ぶ。	講義	中尾	301講義室
2	力学の基本 物体の運動状態はどのような物理量で表すか？ 直線運動を行っている物体、及び自由落下している物体を例にして、速度、加速度の定義を理解するとともにこれらと位置（変位）を含めた3つの間の関係を学ぶ。	講義	中尾	301講義室
3	力と運動 力が作用すると物体はどのような運動を行うか？ 重力（放物運動）、粘性抵抗（雨滴の落下）を受けた物体と共に、復元力を受けて運動する物体の運動（振動）を学ぶ。	講義	中尾	301講義室
4	力と変形-1 物体に力を加えたときに生じる変形はどのように表すか？ 変形を定量的に取り扱うときに用いるひずみ、応力、弾性係数、及び塑性変形などについて学ぶ。	講義	中尾	301講義室
5	力と変形-2 剛体の破壊はどのようにして生じるか？ 応力集中や繰り返し加重に伴う破壊等を取り上げ、これらが生じる力学的原因を学ぶ。	講義	中尾	301講義室
6	波動 波とは何か？ 波を表す量とそれらの関係、波の重ね合わせの原理や波の干渉など波の持つ一般的な性質を学ぶ。	講義	中尾	301講義室
7	熱学 熱の実体は何か？ 温度、比熱、内部エネルギーなど熱に関する基本的事項を学ぶ。熱の移動には熱伝導、対流、熱輻射がある事を学ぶ。気体の分子の運動が温度に深く関わっていること（気体の分子運動論）を学ぶ。	講義	中尾	301講義室
8	達成度確認テスト（60分） その解答	テスト 解説	中尾	301講義室
9	電荷と電場-1 あらゆる電気現象の根源となる実体は何か？ 電荷間に働く電気力を表したクーロンの法則、電荷による電場、電気力線、及び電場のガウスの法則について学ぶ。	講義	中尾	301講義室
10	電荷と電場-2 単位ボルトで表される電圧とは？ 電位の定義・性質、及び電位差（電圧）について学ぶ。	講義	中尾	301講義室
11	電流と磁場-1 電流、抵抗とは何か？ 電流が電荷の流れであることを理解して、オームの法則、及び抵抗の接続例（直列回路）を学ぶ。	講義	中尾	301講義室
12	電流と磁場-2 なぜ地球自体が大きな磁石なのか？ 磁場、磁極（磁荷）間に働く磁気力、電流がつくる磁場、及びモーターの原理を学ぶ。	講義	中尾	301講義室
13	原子物理学-1 原子ってどのような構造なのか？ 原子の構造を理解するとともに、光と電子が粒子として、及び波動としての性質をもつことを学ぶ。	講義	中尾	301講義室
14	原子物理学-2 原子から放出した光の利用は？ 線スペクトルを理解して、エックス線発生装置、及びレーザーの原理を学ぶ。	講義	中尾	301講義室
15	授業の総括	講義	中尾	301講義室

2017年度

生物学特論 (Biology)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、小野 堅太郎、古株 彰一郎、松原 琢磨、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業の概要

ヒトの体は約60兆個の細胞から成り立っている。ヒトを対象とした歯科医学の様々な領域を理解する上で、生物学の基本的な知識を理解することは必須である。生物学特論では、人体諸器官の構造および生理機能とその機序を理解し、生命現象の最小単位である細胞が生物として様々な機能を営む「しくみ」と分子生物学の基礎事項を解説する。

学生の到達目標

細胞膜、核および細胞内小器官の構造と機能を説明できる。
アミノ酸とタンパク質の構造、機能を説明できる。
糖質の構造、機能を説明できる。
脂質の構造、機能を説明できる。
酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。
遺伝子（染色体）の構造とセントラルドグマを説明できる。
DNAの複製と修復の機序を説明できる。
転写と転写調節の機序を説明できる。
翻訳の機序を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	1	1)			アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1)			糖質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1)			脂質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1)			生体内におけるエネルギー利用を説明できる。
C	1	1)			酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。
C	1	2)			遺伝子（染色体）の構造とセントラルドグマを説明できる。
C	1	2)			DNA複製と修復の機序を説明できる。
C	1	2)			転写と転写調節の機序を説明できる。
C	1	2)			翻訳の機序を説明できる。
C	1	3)			細胞膜、核および細胞内小器官の構造と機能を説明できる。
C	1	3)			細胞の分泌と吸収機構を説明できる。
C	1	3)			細胞死（壊死とアポトーシス）の基本的機序を説明できる。
C	1	4)			細胞の接着装置、細胞間と細胞・マトリックス間の接着分子を説明できる。
C	1	4)			受容体を介するホルモン、成長因子、サイトカイン等による細胞間、細胞内の情報伝達機構を概説できる。
C	2	1)			身体の一部を解剖学的に区別できる。
C	2	1)			身体の方向用語を正確に用いることができる。
C	2	3)	(1)		上皮を形態的および機能的に分類できる。
C	2	3)	(1)		皮膚と粘膜の基本構造と機能を説明できる。

2017年度

生物学特論 (Biology)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、小野 堅太郎、古株 彰一郎、松原 琢磨、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3)	(1)		腺を分泌物の性状、形態および分泌機構に基づいて分類できる。
C	2	3)	(1)		結合組織の線維要素と細胞要素を説明できる。
C	2	3)	(1)		硝子軟骨、弾性軟骨および線維軟骨の特徴を説明できる。
C	2	3)	(2)		骨の基本構造と結合様式を説明できる。
C	2	3)	(2)		骨の改造現象と全身および局所因子による調節機構を概説できる。
C	2	3)	(5)		神経の活動電位の発生とその伝播の機序を説明できる。

テキスト

スタンダード生化学・口腔生化学
出)学建書院

著)自見英治郎ら

参考書

標準生理学
出)医学書院

著)本郷ら

標準組織学 総論・各論
出)医学書院

著)藤田恒夫、藤田尚男

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(学習相談)月～金曜日、随時受け付ける。原則として時間予約を電話・メールにて行うこと。

2017年度

生物学特論 (Biology)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、小野 堅太郎、古株 彰一郎、松原 琢磨、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	解剖学総論 人体の構成、身体の区分、身体の方向用語について学ぶ。	講義	瀬田	301講義室
2	生体を構成する物質 元素、化学結合と分子、酸?延期と緩衝作用、同位元素について学ぶ。	講義	古株	301講義室
3	人体の構成(細胞学総論) 細胞の微細構造と機能、細胞の分泌・吸収機構、細胞死の基本的機序について学ぶ。	講義	瀬田	301講義室
4	人体の構成(組織1) 上皮の形態的および機能的分類、腺の構造について学ぶ。	講義	瀬田	301講義室
5	人体の構成(組織2) 結合組織の線維要素と細胞要素について学ぶ。	講義	瀬田	301講義室
6	人体の構成(組織3) 支持組織(軟骨・骨)について学ぶ。	講義	自見	301講義室
7	興奮性膜 細胞の構造と機能を含めた生体膜電位および静止膜電位の発生機構について学ぶ。	講義	小野	301講義室
8	興奮性膜 イオンチャンネルと活動電位の発生機序について学ぶ。	講義	小野	301講義室
9	糖質 生体内で働く糖質の化学性状、主な単糖の機能とその誘導体の重要性、および主な二糖やホモ多糖、ヘテロ多糖の種類とその化学性状および体内での働きについて学ぶ。	講義	古株	301講義室
10	脂質 脂質の一般的性状および分類、脂肪、ステロイドおよび極性脂質(リン脂質や糖脂質)の基本構造および化学的性状について学ぶ。	講義	古株	301講義室
11	タンパク質 アミノ酸の種類や各々の性状、主なペプチドタンパク質の性状、およびタンパク質の立体構造とその機能について学ぶ。	講義	古株	301講義室
12	酵素 酵素の構造を機能、酵素の反動速度に与える因子、基質濃度と反応速度の関係、および酵素活性の調節機構について学ぶ。	講義	自見	301講義室
13	ビタミンと補酵素 ビタミンの構造と機能について学ぶ。	講義	松原	301講義室
14	遺伝情報1-遺伝子とDNA複製?修復 核酸の構造、セントラルドグマ、染色体、クロマチン、および遺伝子の複製?修復について学ぶ。	講義	自見	301講義室
15	遺伝情報2-転写、翻訳、修飾 遺伝発現のしくみ、転写調節機構、タンパク質合成の機序について学ぶ。	講義	自見	301講義室

2017年度

化学特論 (Chemistry)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕 河岸 重則						
担当教員	〔非常勤講師〕 河岸 重則、大住 伴子						

授業の概要

生命現象の一つの側面は、水溶液中で起きている化学反応である。それらの化学反応は酵素という触媒によって起こっているが、生体の化学も一般の化学と同じ法則によって支配されている。それゆえ医療を含めた生命科学を専門に学ぶためには、化学の知識がきわめて重要である。化学特論では、まず高校レベルで学んだものより専門的な原子や分子に関する基本概念を講義する。次いで我々の体を構成している基本的な有機化合物の構造と反応性、それらと医薬品の生体内における反応の関係を講義する。

学生の到達目標

- 原子の電子構造を説明できる。
- 化学結合を説明できる。
- 有機化合物の構造と電子の偏りが化学反応に与える基本的な影響を説明できる。
- 酵素の構造と触媒作用のメカニズムを説明できる。
- 有機化合物の構造と反応、それらと医薬品の生体内における反応の関係を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

プリントを配布する。
出) 著)

著)

参考書

- 生命科学のための基礎シリーズ「化学」
出)実教出版 著)大島泰郎 監修
- マクマリー生物有機化学〔有機化学編〕第4版
出)丸善出版 著)菅原二三男 監訳
- 化学構造と薬理作用 ~ 医薬品を化学的に読む ~ 第2版
出)廣川書店 著)柴崎正勝 他監修
- 医・薬・看護系のための化学
出)東京化学同人 著)原浩 他訳

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

定期試験不合格者(60点未満)には再試験を実施する。60点以上を合格とする。

その他

2017年度

化学特論 (Chemistry)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕 河岸 重則						
担当教員	〔非常勤講師〕 河岸 重則、大住 伴子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	・ 原子の電子構造 1) 微視的レベルでの法則 ミクロとマクロの世界では支配する法則が異なることを学ぶ。	講義 資料配布	河岸	301講義室
2	・ 原子の電子構造 2) 微視的レベルの粒子 微視的レベルでは光や電子などは粒子と波の両方の性質を示すことを学ぶ。	講義 資料配布 演習問題	河岸	301講義室
3	・ 2) 原子軌道 原子の中の電子の波としての存在形態を原子軌道で表示することを学ぶ。 ・ 3) 原子の電子配置 原子の電子配置を原子軌道で表示することを学ぶ。	講義 資料配布 演習問題	河岸	301講義室
4	・ 化学結合 1) 二原子分子 二原子分子中の化学結合における電子の分布(分子軌道)及びその分布と分子の極性の関連について学ぶ。	講義 資料配布 演習問題	河岸	301講義室
5	・ 2) 混成軌道 原子軌道が分子を形成する際に、原子の中で軌道の混成が起こり新たな軌道が形成されることを学ぶ。 ・ 3) パイ共役系分子 単結合を挟んだ二重結合では、電子が原子間を移動し非局在性を持つことを学ぶ。	講義 資料配布 演習問題	河岸	301講義室
6	・ 4) 無機分子の構造 水、アンモニア、二酸化炭素などの立体構造が混成軌道を用いて説明できること、さらに金属結合中の分子軌道と電子の分布について学ぶ。	講義 資料配布 演習問題	河岸	301講義室
7	・ 有機化学の基礎 1) 分子の構造 立体異性体の種類とその表示方法について学ぶ。	講義 資料配布 演習問題	河岸	301講義室
8	・ 有機化学の基礎 1) 分子の構造 立体異性体の種類とその表示方法について学ぶ。	講義 資料配布 演習問題	河岸	301講義室
9	・ 2) 分子中の電子の動き シグマ結合を介する誘起効果、パイ結合を介する共鳴効果について学ぶ。	講義 資料配布 演習問題	河岸	301講義室
10	・ 3) 酵素の構造と触媒機能のメカニズムについて学ぶ。	講義 資料配布	河岸	301講義室
11	水溶液・溶液 水溶液・溶液の性質・濃度表示について学ぶ。 医薬品溶液の濃度計算について学ぶ。	講義 演習問題 資料配布	大住	301講義室
12	有機化合物と薬物 薬物として用いられる有機化合物の構造、作用を学ぶ。	講義 資料配布	大住	301講義室
13	有機化合物と薬物 薬物として用いられる有機化合物の構造、作用を学ぶ。	講義 資料配布	大住	301講義室
14	有機化合物反応と薬物 薬物の体内動態を有機化学反応から学ぶ。	講義 資料配布	大住	301講義室
15	有機化合物反応と薬物 薬物の作用を有機化学反応から学ぶ。	講義 資料配布	大住	301講義室

2017年度

基礎医学 (細胞生物学・生化学) (Advanced Biology)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	古株 彰一郎、瀬田 祐司、松原 琢磨、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業の概要

生物が生命維持の為に起こす化学反応を代謝という。代謝には有機物を分解して低分子化することによってエネルギーを得る過程（異化）とエネルギーを使って有機物を合成する過程（同化）がある。また、ヒトの体は約60兆の細胞から構成されているが、これはたった1個の細胞（受精卵）が細胞分裂と分化を繰り返すことによって作り上げられたものである。その神秘的な発生過程のメカニズムの解明は分子生物学の著しい発展に伴って急速に展開した。本講義では、代謝と発生過程特に顎顔面頭蓋の発生ならびに歯や舌の発生について解説し、さらに分子生物学的手法やシグナル伝達の基本事項も解説する。

学生の到達目標

- アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。
- 糖質の構造、機能および代謝を説明できる。
- 脂質の構造、機能および代謝を説明できる。
- 生体内におけるエネルギー利用を説明できる。
- 酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。
- 転写と転写調節および翻訳の機序を説明できる。
- 受容体を介するホルモン、成長因子、サイトカインによる細胞間および細胞内情報伝達機構を概説できる。
- 生殖細胞（精子、卵子）の発生過程を理解できる。
- 子宮周期とホルモンについて説明できる。
- 受精から第8週までの胚仔の発生過程を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	1	1)			アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1)			糖質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1)			脂質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1)			生体内におけるエネルギー利用を説明できる。
C	1	2)			遺伝子（染色体）の構造とセントラルドグマを説明できる。
C	1	2)			DNA複製と修復の機序を説明できる。
C	1	2)			転写と転写調節の機序を説明できる。
C	1	2)			翻訳の機序を説明できる。
C	1	2)			遺伝性疾患の発生の機序を説明できる。
C	1	4)			受容体を介するホルモン、成長因子、サイトカイン等による細胞間、細胞内の情報伝達機構を概説できる。
C	2	3)	(10)		男性生殖器、女性生殖器の構造と機能を説明できる。【ホルモンによる調節を含む。】
C	2	4)			人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。
C	4	4)			炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】
C	4	4)			炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。

2017年度

基礎医学 (細胞生物学・生化学) (Advanced Biology)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	古株 彰一郎、瀬田 祐司、松原 琢磨、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

テキスト

スタンダード生化学・口腔生化学
出)学建書院

著)自見英治郎ら

参考書

ラングマン人体発生学
出)MEDSi

著)安田峯生 訳

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(学習相談)月～金曜日、随時受け付ける。原則として、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

基礎医学 (細胞生物学・生化学) (Advanced Biology)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	古株 彰一郎、瀬田 祐司、松原 琢磨、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	糖質代謝 解糖系、TCA回路、電子伝達系、ペントースリン酸回路、グリコーゲン代謝および糖新生について学ぶ。	講義	古株	301講義室
2	脂質代謝 脂質の消化・吸収、脂肪酸の分解とATP産生、脂肪酸および脂肪の生合成、複合脂質の代謝およびコレステロール代謝について学ぶ。	講義	古株	301講義室
3	タンパク質代謝 タンパク質の消化・吸収、タンパク質代謝と先天代謝異常について学ぶ。	講義	古株	301講義室
4	核酸代謝・ポルフィリン代謝 核酸代謝の役割と概要およびヘムの生合成とビリルビン代謝について学ぶ。	講義	古株	301講義室
5	分子生物学 -遺伝子工学の概要 遺伝子工学の進歩を通して、形質転換、トリプレットコドン、制限酵素、PCR法について学ぶ。	講義	松原	301講義室
6	分子生物学 -遺伝子産物の解析技術 遺伝子産物 (DNA,mRNA,およびタンパク質) の解析方法の原理と応用 (遺伝子治療) を学ぶ。	講義	松原	301講義室
7	細胞情報伝達 受容体を介するホルモン、成長因子およびサイトカインによる細胞間の情報伝達機構について学ぶ。	講義	自見	301講義室
8	細胞情報伝達 サイトカインの分類と機能、および炎症のメディエーターについて学ぶ。	講義	自見	301講義室
9	生殖器 男性生殖器の構造を学ぶ。	講義	瀬田	301講義室
10	生殖器 女性生殖器の構造を学ぶ。	講義	瀬田	301講義室
11	発生生物学 生物発生の概要を学習する。	講義	瀬田	301講義室
12	人体発生 原始生殖細胞 (精子) の発生を学習する。	講義	瀬田	301講義室
13	人体発生 原始生殖細胞 (卵子) の発生と子宮周期、受精、着床を学習する。	講義	瀬田	301講義室
14	胚盤葉形成 栄養膜形成、二層性胚盤葉、二層性胚盤葉形成を学習する。	講義	瀬田	301講義室
15	神経管・神経堤 神経管、神経堤の発生・分化と役割を学習する。	講義	瀬田	301講義室

2017年度

基礎医学 (骨格系) (Bone and Muscle)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、片岡 真司、小野 堅太郎、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業の概要

動物の器官系の1つである運動器系は、体を支え、運動を可能にする役目を担っている。基礎医学では運動器系に属する骨と筋について、その構造と機能について解説する。

学生の到達目標

- 生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。
- 骨の基本構造と結合様式を説明できる。
- 骨格筋の構造と機能を説明できる。
- 骨の改造現象と全身および局所因子による調節機構を概説できる。
- 硬組織石灰化の基本的機序を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3)	(1)		硬組織石灰化の基本的機序を説明できる。
C	2	3)	(1)		筋組織の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(2)		生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。
C	2	3)	(2)		骨の基本構造と結合様式を説明できる。
C	2	3)	(2)		骨格筋の構造と機能を説明できる。【収縮の特徴と筋収縮の機序を含む。】
C	2	3)	(3)		心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激(興奮)伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】

テキスト

分冊解剖学アトラス 第6版 I 運動器
出)文光堂 著)平田幸男 訳

スタンダード生化学・口腔生化学
出)学建書院 著)安孫子宣光ら

参考書

口腔生化学
出)医歯薬出版 著)早川太郎ら

標準組織学 総論
出)医学書院 著)藤田恒夫、藤田尚男

標準生理学
出)医学書院 著)本郷ら

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

2017年度

基礎医学 (骨格系) (Bone and Muscle)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、片岡 真司、小野 堅太郎、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

その他

(学習相談) 月～金曜日、随時。メールにて時間予約をすること。

2017年度

基礎医学 (骨格系) (Bone and Muscle)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、片岡 真司、小野 堅太郎、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	骨学総論・関節 骨を構成する細胞、骨の基本構造、機能ならびに関節の構造について学ぶ。	講義	豊野	301講義室
2	骨学各論1(脊椎・胸郭) 脊椎・胸郭。脊椎の基本構造、種類、および胸郭を構成する骨とその特徴を学ぶ。	講義	豊野	301講義室
3	骨学各論2(上肢・下肢) 上肢・下肢、を構成する骨の形態的特徴とその機能について学ぶ。	講義	豊野	301講義室
4	骨学各論3(頭蓋) 頭蓋を構成する骨の特徴と機能について学ぶ。	講義	豊野	301講義室
5	筋学総論 筋の基本構造、筋の分類法、筋の付属器官等について学ぶ。	講義	片岡	301講義室
6	筋学各論1(頭頸部) 頭頸部の筋(表情筋、咀嚼筋、舌骨上筋、舌骨下筋)について、それぞれに属する筋の走行と機能について学ぶ。	講義	片岡	301講義室
7	筋学各論2(体幹) 体幹の筋(胸部、腹部、固有背筋)について、それぞれに属する筋の走行と機能について学ぶ。	講義	片岡	301講義室
8	筋学各論3(上肢) 上肢の筋(特に上腕と前腕の筋)について、それぞれに属する筋の走行と機能について学ぶ。	講義	片岡	301講義室
9	筋学各論4(下肢) 下肢の筋(特に大腿と下腿の筋)について、それぞれに属する筋の走行と機能について学ぶ。	講義	片岡	301講義室
10	筋組織 骨格筋、心筋、平滑筋の組織構造について学ぶ。	講義	瀬田	301講義室
11	筋収縮 骨格筋および平滑筋の構造と機能および筋収縮機序を学ぶ。	講義	小野	301講義室
12	骨に存在する細胞の分化調節 骨形成と骨吸収の調節機構 骨組織の形成と吸収の調節機構について軟骨細胞、骨芽細胞、および破骨細胞の分化や機能に関わる分子について学ぶ。	講義	自見	301講義室
13	骨と歯の無機成分1 骨、象牙質およびセメント室に共通な有機成分、他の結合組織にも存在する非コラーゲン性タンパク質、エナメル質および象牙質に特有の非コラーゲン性タンパク質の特徴と機能について学ぶ。	講義	自見	301講義室
14	骨と歯の無機成分2 ハイドロキシアパタイトの結晶構造、特異な性質、エナメル質アパタイトの特徴およびエナメル質の無機成分の特徴について学ぶ。	講義	自見	301講義室
15	石灰化のしくみ 骨の石灰化について押上げ説、エピタキシー説および基質小胞説について学習する。またエナメル質の石灰化について学ぶ。	講義	自見	301講義室

2017年度

基礎医学 (神経系) (Nervous system)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、中富 満城						

授業の概要

中枢・末梢神経系の構造と機能を総合的に理解できるよう説明し、細胞から個体・行動調節に至る機序について解説する。基礎医学 Ⅰでは末梢感覚神経系の詳細は除く。

学生の到達目標

脳と脊髄の基本構造と機能について説明できる。
自律神経系の基本構造と機能について説明できる。
神経興奮機序とシナプス伝達について説明できる。
運動機能と行動発現について説明できる。
体温調節・発熱について説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3	(5)		脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。
C	2	3	(5)		末梢神経系の機能分類（体性神経系と自律神経系）を説明できる。
C	2	3	(5)		交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(5)		脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。【主要な自律機能（呼吸、循環、体温）の調節中枢の働きを含む。】
C	2	3	(5)		血液脳関門を説明できる。
C	2	3	(5)		反射、半自動運動、随意運動の発現と調節の機序を説明できる。
C	2	3	(5)		ニューロンとグリアの構造と機能を説明できる。
C	2	3	(5)		神経の活動電位の発生とその伝播の機序を説明できる。
C	2	3	(5)		シナプスにおける興奮伝達を概説できる。
C	2	3	(5)		神経伝達物質の種類と機能を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

分担解剖学
出)金原出版 著)小川ら

解剖学講義
出)南山堂 著)伊藤ら

人体解剖学
出)南江堂 著)藤田

標準生理学 第7版
出)医学書院 著)小澤・福田ら

基礎歯科生理学 第6版
出)医歯薬出版 著)森本ら

2017年度

基礎医学 (神経系) (Nervous system)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、中富 満城						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

選択型共通試験の合格と定期試験の合格をもって単位認定とする。

その他

(学習相談)月～金曜日、随時受け付ける。原則として、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

基礎医学 (神経系) (Nervous system)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、中富 満城						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	神経学総論 神経系の構成・神経細胞（ニューロン）・グリア細胞・脊髄の構造について学習する。	講義	中富	301講義室
2	脳幹・小脳 延髄・橋・中脳・小脳の構造と機能について学習する。	講義	中富	301講義室
3	終脳・間脳 終脳（左右の大脳半球）と間脳の構造と機能について学習する。	講義	中富	301講義室
4	伝導路・髄膜・脳室系 上行性および下行性伝導路・髄膜（硬膜・クモ膜・軟膜）・脳室系（側脳室等）について学習する。	講義	中富	301講義室
5	脳神経 12対の脳神経の構成・走行・機能について学習する。	講義	中富	301講義室
6	脊髄神経 31対の脊髄神経の構成・走行・機能について学習する。	講義	中富	301講義室
7	自律神経 自律神経系（交感神経・副交感神経）の構成・走行・機能について学習する。	講義	中富	301講義室
8	神経興奮 無髄および有髄神経における活動電位の伝搬機序について学習する。	講義	小野	301講義室
9	シナプス伝達 興奮性および抑制性シナプス伝達について学習する。	講義	小野	301講義室
10	自律神経機能 - 自律神経概論 遠心性および求心性自律神経系の構造と機能について学習する。	講義	小野	301講義室
11	自律神経機能 - 自律神経の調節 脊髄における自律神経反射および脳幹・間脳による自律神経系の調節機構について学習する。	講義	小野	301講義室
12	運動機能 - 脊髄の構造と機能 脊髄の構造と機能および脊髄と骨格筋の関係を学習する。	講義	小野	301講義室
13	運動機能 - 反射・随意運動の発現と調節機序 脊髄反射や延髄における姿勢制御および随意運動の発現機構について学習する。	講義	小野	301講義室
14	脳と行動 大脳皮質の機能、記憶および脳波について学習する。	講義	小野	301講義室
15	体温調節・発熱 行動性体温調節・自律性体温調節および発熱について学習する。	講義	小野	301講義室

2017年度

基礎医学 (体液循環・調節) (Body fluid circulation)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、片岡 真司、豊野 孝						

授業の概要

循環器・呼吸器・泌尿器系の構造と機能を総合的に理解できるよう説明し、血球やリンパ器官の機能や体液調節について解説する。

学生の到達目標

- 循環器系の構造と機能を説明できる。
- 呼吸器系の構造と機能を説明できる。
- 泌尿器系の構造と機能を説明できる。
- 血液、造血器、リンパ性器官について説明できる。
- 体液調節について説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3	(3)		心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激(興奮)伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】
C	2	3	(3)		肺循環と体循環の2系統を説明できる。
C	2	3	(3)		動脈、毛細血管および静脈の構造と血管系の役割を説明できる。
C	2	3	(3)		血液循環と血管運動、血圧の調節機構を説明できる。
C	2	3	(3)		主な動脈と静脈を列挙できる。
C	2	3	(3)		リンパの循環路とリンパ節の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(7)		気道系(鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支)の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(7)		肺の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(9)		腎臓と尿路(尿管、膀胱、尿道)の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(9)		体液の量と組成および浸透圧の調節機構を説明できる。【ネフロンの働き(濾過、再吸収、分泌)を含む。】
C	2	3	(9)		水代謝と主な電解質の出納を説明できる。
C	2	3	(11)		リンパ性組織とリンパ性器官を説明できる。
C	2	3	(11)		造血器を説明できる。
C	2	3	(11)		赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能を説明できる。
C	2	3	(11)		止血と血液凝固の機序を説明できる。【線溶系を含む。】

テキスト

分冊解剖学アトラス 第6版 I、
出)文光堂

著)平田幸男 訳

参考書

標準生理学 第7版
出)医学書院

著)小澤・福田ら

2017年度

基礎医学 (体液循環・調節) (Body fluid circulation)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、片岡 真司、豊野 孝						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(学習相談)月～金曜日、随時受け付ける。原則として、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

基礎医学 (体液循環・調節) (Body fluid circulation)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、片岡 真司、豊野 孝						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	脈管学総論 脈管の基本的構造について学ぶ。	講義	片岡	401講義室
2	心臓 心臓の構造と機能について学ぶ。	講義	片岡	401講義室
3	動脈 動脈の各部位における名称、機能について学ぶ。	講義	片岡	401講義室
4	静脈 静脈の各部位における名称、機能について学ぶ。	講義	片岡	401講義室
5	リンパ リンパ管、リンパ節、扁桃などのリンパ系組織の分布と機能を学ぶ。	講義	片岡	401講義室
6	呼吸器 鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、および肺についての構造と機能を学ぶ。	講義	豊野	401講義室
7	泌尿器 腎臓、尿管、膀胱、尿道についての構造と機能を学ぶ。	講義	豊野	401講義室
8	血液 赤血球、白血球および血小板の形成過程、止血と血液凝固の機序について学ぶ。	講義	小野	401講義室
9	循環調節 心臓の刺激伝導系、心筋の特徴、心電図波形および心音について学ぶ。	講義	小野	401講義室
10	循環調節 肺循環と体循環の2系統について学ぶ。	講義	小野	401講義室
11	循環調節 血液循環と血管運動の調節機構について学ぶ。	講義	小野	401講義室
12	呼吸調節 気道系の機能、内呼吸、外呼吸、換気の仕組みについて学ぶ。	講義	小野	401講義室
13	呼吸調節 呼吸運動の機序とその調節系について学ぶ。	講義	小野	401講義室
14	体液調節 体液量と組成、浸透圧、膠質浸透圧、浮腫について学ぶ。	講義	小野	401講義室
15	体液調節 腎臓と尿路の機能、水代謝と電解質出納について学ぶ。	講義	小野	401講義室

2017年度

基礎生命科学実習 (Introductory Laboratory Course in the Life Sciences)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業の概要

生物学の講義で習った生物の様々な機能を営む「しくみ」について実習を通して、理解する。本実習では「分光高度計を用いた吸光度分析および物質定量」「アルカリホスファターゼの反応速度論」「乳酸脱水素酵素のアイソザイム」および「糖の定性反応」について実習を行う。実験実習の結果を解析することにより、生体を構成する代表的な物質の構造・働きと物質代謝の仕組み・調節機構を理解する。

学生の到達目標

- 酵素の阻害機構およびミカエリス-メンテン式を説明できる。
- 酵素のアイソザイムを説明できる。
- 糖の性質について説明できる。
- 実験の目的・原理を理解し、問題点を論理的に整理し、自ら解決方法を見出すことができる。
- 実験実習の成果を文章または図表に表すことができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	6	2			研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。
A	6	2			生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。
A	6	2			患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の進化につなげることができる。
A	6	2			検索・検出した医学・医療情報から新たな課題・仮説を設定し、解決に向けて科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加することができる。
C	1	1			アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1			糖質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1			酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。

テキスト

基礎生命科学実習 実習書
出) (オリエンテーション時に配布) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習レポート	100%

実習のレポートで評価する。遅刻は10点減点とする。レポート点はA:90点、B:80点、C:60点、D:40点、E:20点、で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。

2017年度

基礎生命科学実習 (Introductory Laboratory Course in the Life Sciences)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎、松原 琢磨						

その他

(学習相談)月～金曜日、随時受け付ける。原則として、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

基礎生命科学実習 (Introductory Laboratory Course in the Life Sciences)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	オリエンテーション (実習書の配布、指導員紹介、実習全体の説明、注意事項などについて)	講義	古株	301講義室
3,4	タンパク質の定量 Bradford法によるタンパク質の定量法を学び、生化学実験の基本的な操作・考え方を学ぶ。	実習	古株 松原	51実習室
5,6	糖の定性反応 種々の化学反応を通じて糖の持つ特徴的な性質 (還元性など) を学ぶ。	実習	古株 松原	51実習室
7,8	アルカリホスファターゼの反応速度論 マウス十二指腸のアルカリ性ホスファターゼのミカエリス定数を求めるとともに、ある種の阻害剤を加えた際のミカエリス定数と最大反応速度の変化から、その阻害様式を学ぶ。	実習	古株 松原	51実習室
9,10	乳酸脱水素酵素のアイソザイム 物理化学的性質 (荷電状態、基質親和性など) が異なり、同じ化学反応 (基質特異性) を触媒する酵素をアイソザイムというが、乳酸脱水素酵素の各臓器に存在するアイソザイムを検出し、アイソザイムの定義を学ぶ。	実習	古株 松原	51実習室

2017年度

基礎生命科学実習 (Introductory Laboratory Course in the Life Sciences)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一、辻澤 利行、東 泉、引地 尚子、矢田 直美						

授業の概要

本実習では、生物学の基本的知識と手技を学ぶ。光学顕微鏡の基本機能と光学系構成について理解したうえで、生命維持に必要な細胞の構造や機能について学習する。また、動物を解剖、肉眼観察することにより、機能を反映した各臓器の形態および位置関係を理解する。

学生の到達目標

- 光学顕微鏡により標本の拡大像を作ることができる。
- 体細胞分裂について説明できる。
- 口腔上皮細胞および真正細菌について説明できる。
- 赤血球と白血球の構造と機能について説明できる。
- 動物の消化器系、泌尿器系および生殖器系の構造と機能を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	1	2)			遺伝子（染色体）の構造とセントラルドグマを説明できる。
C	1	3)			細胞膜、核および細胞内小器官の構造と機能を説明できる。
C	1	3)			細胞周期と細胞分裂を説明できる。
C	2	3)	(1)		上皮を形態学的および機能的に分類できる。
C	2	3)	(6)		消化管（咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の基本構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(6)		肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明できる。
c	2	3)	(6)		膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。
C	2	3)	(9)		腎臓と尿路（尿管、膀胱、尿道）の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(10)		男性生殖器、女性生殖器の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(11)		赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能を説明できる。
C	3	1)			細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特長と基本的性状を説明できる。

テキスト

基礎生命科学実習 実習書
出）（オリエンテーション時に配布） 著）

参考書

出） 著）

2017年度

基礎生命科学実習 (Introductory Laboratory Course in the Life Sciences)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一、辻澤 利行、東 泉、引地 尚子、矢田 直美						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習態度	50%
レポート	50%

その他

2017年度

基礎生命科学実習 (Introductory Laboratory Course in the Life Sciences)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一、辻澤 利行、東 泉、引地 尚子、矢田 直美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	オリエンテーション（実習書の配布、指導員紹介、実習全体の説明、注意事項などについて）	講義	吉野	301講義室
3,4	顕微鏡の取り扱いと体細胞分裂 顕微鏡の基本構造と基本操作、体細胞分裂過程での染色体形成について学ぶ。	実習	吉野 辻澤 東	71実習室
5,6	細胞の観察 ヒト口腔上皮細胞を用いた試料作成法、顕微鏡観察時のスケッチ法を学ぶ。	実習	吉野 辻澤 東	71実習室
7,8	血球の観察 血液を用いた試料作成法、赤血球と白血球の構造について学ぶ。	実習	吉野 辻澤 東 引地 矢田	71実習室
9,10	マウス解剖 消化器系、泌尿器系および生殖器系の肉眼解剖学的知識を習得する。	実習	吉野 辻澤 東 引地 矢田	71実習室

2017年度

口腔基礎医学 (歯) (Oral Biology)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、人見 涼露、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業の概要

歯科医師にとって、口腔の構成器官の正常な構造と機能の知識は治療にあたって必須である。口腔基礎医学 では、口腔の構成諸器官の中で、まず歯について肉眼的・顕微鏡的にどのような構造から成り立っているのかについて講義を行い、さらに歯を構成する物質の性質についての講義を行う。また歯以外の口腔粘膜の構造や機能についての講義を行い、口腔の正常組織がどのようなものから成り立っているのかについて理解を深めるのを目的とする。

学生の到達目標

- 歯の生物学的特性を説明できる。
- 歯の形態と特徴を説明できる。
- 咬頭分化（仮説）を概説できる。
- 歯の方向の用語と歯の部位の用語を正確に用いることができる。
- 歯種別の形態と特徴を説明できる。
- 歯（含：乳歯、幼若永久歯）の硬組織の構造と機能を説明できる。
- 歯髄の構造と機能を説明できる。
- 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。
- 硬組織石灰化の基本的機序を説明できる。
- 口腔粘膜の特徴を部位ごとに説明できる。
- 舌の構造と機能を説明できる。
- 口腔内感覚受容器の構造と機能を説明できる。
- 歯痛の機序を説明できる。
- 歯牙・歯周組織の形態的な加齢変化を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	1	4			細胞の接着装置、細胞間と細胞・マトリックス間の接着分子を説明できる。
C	1	4			主な細胞外マトリックス分子の構造と機能を説明できる。
C	2	1			身体の部位を解剖学的に区別できる。
C	2	1			身体の方角用語を正確に用いることができる。
C	2	3	(4)		皮膚感覚器の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(4)		深部感覚の受容器の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(4)		嗅覚器、味覚器の構造と機能を説明できる。
C	2	4			人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。
E	2	2			口唇・口腔粘膜の特徴を部位ごとに説明できる。【口唇・口腔感覚の特徴を含む。】
E	2	2			舌の構造と機能を説明できる。
E	2	2			唾液の性状と役割を説明できる。【構成成分とその機能を含む。】
E	3	1			歯種別の形態と特徴を説明できる。
E	3	1			歯（乳歯、幼若永久歯を含む）の硬組織の構造と機能を説明できる。【構成成分とその特徴を含む。】
E	3	1			歯髄の構造と機能を説明できる。
E	3	1			歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。

2017年度

口腔基礎医学 (歯) (Oral Biology)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、人見 涼露、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

テキスト

歯の解剖学

出)金原出版

著)藤田恒太郎 原著

口腔組織・発生学

出)医歯薬出版

著)脇田稔ら

スタンダード生化学・口腔生化学

出)学建書院

著)安孫子宣光ら

参考書

基礎歯科生理学

出)医歯薬出版

著)森本俊文ら

口腔生化学

出)医歯薬出版

著)早川太郎ら

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(学習相談)月?金曜日、随時受け付ける。原則として、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

口腔基礎医学 (歯) (Oral Biology)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、人見 涼露、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	歯の方向用語、歯の部位の用語 歯の表記法、歯種、萌出順、歯列の咬合の特徴、歯の異常形態について学習する。	講義	瀬田	301講義室
2	永久歯1-前歯 上下顎前歯(中切歯、側切歯、犬歯)についてそれぞれの歯の特徴的な構造や名称を学習する。	講義	瀬田	301講義室
3	永久歯2-小臼歯 上下顎小臼歯についてそれぞれの歯の特徴的な構造や名称を学習する。	講義	瀬田	301講義室
4	永久歯3-大臼歯 上下顎大臼歯についてそれぞれの歯の特徴的な構造や名称を学ぶ。	講義	瀬田	301講義室
5	乳歯 乳歯についてそれぞれの歯の特徴的な構造や名称を大臼歯と比較しながら学習する。	講義	瀬田	301講義室
6	エナメル質の構造 顕微鏡で観察されるエナメル質の構造について学習する。	講義	瀬田	301講義室
7	象牙質・歯髄複合体1-象牙質の構造 顕微鏡で観察される象牙質の構造について学習する。	講義	瀬田	301講義室
8	象牙質・歯髄複合体2-歯髄の構造 顕微鏡で観察される歯髄の構造について学習する。	講義	瀬田	301講義室
9	歯の生理学 永久歯の構成成分・組織構造から見た生理学的機能について学習する。	講義	人見	301講義室
10	歯周組織の構造 顕微鏡で観察されるセメント質・歯根膜の構造について学習する	講義	瀬田	301講義室
11	歯周組織の構造 顕微鏡で観察される歯槽骨・歯肉の構造について学習する	講義	瀬田	301講義室
12	結合組織の生化学1-コラーゲン、エラスチン、プロテオグリカン コラーゲン、エラスチン、プロテオグリカンの構造と性質、組織分布について学ぶ。	講義	自見	301講義室
13	結合組織の生化学2-接着性タンパク質、細胞外マトリックス成分の分解 代表的な接着性タンパク質であるフィブロネクチン、ラミニンの構造と組織分布およびインテグリンについて学習する。さらに細胞外マトリックス成分の分解とその調節機構について学ぶ。	講義	自見	301講義室
14	口腔粘膜の構造 顕微鏡で観察される口腔粘膜・唾液腺の構造について学習する。	講義	瀬田	301講義室
15	舌・唾液腺・咽頭 口腔内臓器(舌・唾液腺)・咽頭の構造について学習する。	講義	瀬田	301講義室

2017年度

口腔基礎医学 (頭頸部) (Oral, Head and Neck Anatomy & Function)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、片岡 真司、中富 満城、豊野 孝、人見 涼露						

授業の概要

歯科医学を習得するために必要な口腔と関連する頭頸部の諸組織についての構造・機能、そしてそれらの相互位置的関係について学習する。さらに感覚器に属する器官の構造と機能についても学習する。

学生の到達目標

- 頭頸部を解剖学的に区分できる。
- 頭蓋骨の構成と構造を説明できる。
- 咀嚼筋・表情筋の構成と構造を説明できる。
- 頭頸部の脈管系を説明できる。
- 頭頸部の神経系を説明できる。
- 三叉神経と顔面神経の走行と分布及び線維構成を説明できる。
- 顎関節の構造と機能を説明できる。
- 視覚器、聴・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。
- 味覚器、嗅覚器、皮膚感覚器の構造と機能を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3	(4)		皮膚感覚器の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(4)		深部感覚の受容器の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(4)		視覚器、聴覚・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(4)		嗅覚器、味覚器の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(5)		脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。
E	2	1			頭蓋骨の構成と構造を説明できる。
E	2	1			咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能を説明できる。
E	2	1			頭頸部の脈管系を説明できる。
E	2	1			三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。
E	2	1			顎関節の構造と機能を説明できる。
E	2	1			下顎の随意運動の基本を説明できる。
E	2	1			下顎反射の機序を説明できる。
E	2	2			口唇・口腔粘膜の特徴を部位ごとに説明できる。
E	2	2			舌の構造と機能を説明できる。
E	2	2			歯列と咬合について説明できる。
E	2	2			咀嚼の意義と制御機構を説明できる。

2017年度

口腔基礎医学 (頭頸部) (Oral, Head and Neck Anatomy & Function)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、片岡 真司、中富 満城、豊野 孝、人見 涼露						

テキスト

出) 著)

参考書

- 標準組織学 各論
出)医学書院 著)藤田恒夫、藤田尚男
- 口腔解剖学
出)医歯薬出版 著)脇田稔ら
- 分冊解剖学アトラス 第6版 I 運動器
出)文光堂 著)平田幸男 訳
- 人体解剖学
出)南江堂 著)藤田
- 解剖学講義
出)南山堂 著)伊藤ら
- 口腔解剖学
出)医歯薬出版 著)脇田稔ら
- 基礎歯科生理学
出)医歯薬出版 著)森本俊文ら

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

選択型共通試験の合格と定期試験の合格をもって単位認定とする。

その他

(学習相談)月?金曜日、随時受け付ける。原則として、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

口腔基礎医学 (頭頸部) (Oral, Head and Neck Anatomy & Function)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、片岡 真司、中富 満城、豊野 孝、人見 涼露						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	頭頸部の骨 口腔周囲を構成する骨の連結と機能について学ぶ。	講義	豊野	401講義室
2	頭頸部の神経 頭頸部に分布する脳神経や脊髄神経の走行と機能について学ぶ。	講義	中富	401講義室
3	頭頸部の筋 咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能について学ぶ。	講義	片岡	401講義室
4	頭頸部の脈管 頭頸部の脈管系を学ぶ。	講義	片岡	401講義室
5	顎関節 顎関節の構造と機能について学ぶ。	講義	片岡	401講義室
6	頭頸部解剖学総論 口腔の範囲、構成する骨、筋、内臓並びに口腔周囲器官との関係を学ぶ。	講義	瀬田	401講義室
7	感覚器官 1 視覚器、聴・平衡感覚器の構造について学ぶ。	講義	瀬田	401講義室
8	感覚器官 2 味覚器、嗅覚器、皮膚感覚の構造について学ぶ。	講義	瀬田	401講義室
9	感覚総論 感覚受容器の性質および感覚情報処理機構について学ぶ。	講義	人見	401講義室
10	口腔感覚 口腔顔面領域における感覚情報処理機構について学ぶ。	講義	人見	401講義室
11	口腔感覚 (痛覚) 痛覚情報処理機構について学ぶ。	講義	人見	401講義室
12	視覚 視覚受容器の性質と情報処理機構について学ぶ。	講義	人見	401講義室
13	聴覚・平衡感覚 聴覚・平衡感覚基の性質と情報処理機構について学ぶ。	講義	人見	401講義室
14	味覚・嗅覚 味覚や嗅覚の情報処理機構について学ぶ。	講義	人見	401講義室
15	顎運動・顎反射 顎運動および顎反射について学ぶ。	講義	人見	401講義室

2017年度

口腔基礎医学 (摂食・内分泌) (Feeding / Endocrine)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、松原 琢磨、片岡 真司、人見 涼露、瀬田 祐司、古株 彰一郎						

授業の概要

ヒトは生きるために摂食を行い、消化吸収することで生命を維持している。また、血行性のホルモンの働きにより生体恒常性が保たれている。これら関連臓器の構造と機能について解説する。

学生の到達目標

- 唾液の成分と分泌機構について説明できる。
- 消化器系の構造と機能について説明できる。
- 摂食・嚥下について説明できる。
- 嘔吐・発生について説明できる。
- 内分泌系について説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3	(6)		消化管(咽頭、食道、胃、小腸、大腸)の基本構造と機能を説明できる。【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】
C	2	3	(6)		肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明できる。
C	2	3	(6)		膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。
C	2	3	(8)		各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。【ホルモンの特徴と機能、内分泌系と神経系との機能相関を含む。】
C	2	3	(9)		体液の量と組成および浸透圧の調節機構を説明できる。【ネフロンの働き(濾過、再吸収、分泌)を含む。】
C	2	3	(9)		水代謝と主な電解質の出納を説明できる。【酸-塩基平衡を含む。】
E	2	1			嚥下の機序を説明できる。
E	2	2			唾液の性状と役割を説明できる。【構成成分とその機能を含む。】
E	2	2			唾液腺の構造と機能を説明できる。【分泌調節を含む。】
E	2	2			咀嚼の意義と制御機構を説明できる。
E	2	2			構音機構としての口腔の形態と機能を説明できる。

テキスト

スタンダード生化学・口腔生化学
出)学建書院

著)安孫子宣光ら

参考書

口腔生化学
出)医歯薬出版

著)早川太郎ら

基礎歯科生理学 第6版
出)医歯薬出版

著)森本俊文ら

分冊解剖学アトラス 第6版 (内臓)
出)文光堂

著)平田幸男 訳

標準組織学総論・各論
出)医学書院

著)藤田恒夫ら

2017年度

口腔基礎医学 (摂食・内分泌) (Feeding / Endocrine)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、松原 琢磨、片岡 真司、人見 涼露、瀬田 祐司、古株 彰一郎						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(学習相談)月～金曜日、随時受け付ける。原則として、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

口腔基礎医学 (摂食・内分泌) (Feeding / Endocrine)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、松原 琢磨、片岡 真司、人見 涼露、瀬田 祐司、古株 彰一郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	唾液の生化学 唾液に含まれる有機・無機成分の種類とその役割について学ぶ。	講義	松原	401講義室
2	唾液の生理学 唾液分泌の調節機構および唾液の性状と役割について学ぶ。	講義	小野	401講義室
3	消化器 口腔から大腸までの消化器系の基本構造と機能について学ぶ。	講義	片岡	401講義室
4	消化器 消化器以外の肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能について学ぶ。	講義	片岡	401講義室
5	摂食・嚥下 摂食嚥下の関連器官の構造と嚥下の機序について学ぶ。	講義	人見	401講義室
6	摂食・嚥下 摂食嚥下機能と嘔吐、発声の機序について学ぶ。	講義	人見	401講義室
7	消化器組織 消化器および肝臓、膵臓の微細構造と機能について学ぶ。	講義	片岡	401講義室
8	消化吸収 消化管全般にわたる機能について学ぶ。	講義	小野	401講義室
9	消化吸収 小腸と大腸での消化吸収および排便について学ぶ。	講義	小野	401講義室
10	内分泌器官 下垂体、甲状腺、副甲状腺の微細構造と機能について学ぶ。	講義	瀬田	401講義室
11	内分泌器官 副腎の微細構造と機能、および内分泌器官としての消化管、腎臓について学ぶ。	講義	瀬田	401講義室
12	内分泌機能 各内分泌器官からのホルモン分泌制御について学ぶ。	講義	小野	401講義室
13	内分泌機能 ホルモンの生理機能および分泌異常の病態について学ぶ。	講義	小野	401講義室
14	血清カルシウムの恒常性 副甲状腺ホルモンおよびカルシトニンの分泌機構とカルシウム濃度調節機構について学ぶ。	講義	古株	401講義室
15	血清カルシウムの恒常性 活性化ビタミンD3の分泌機序とカルシウム濃度調節機構について学ぶ。	講義	古株	401講義室

2017年度

口腔基礎医学（発生・再生・病態医学）

(Developmental, Regenerative and Pathological Biology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中富 満城						
担当教員	中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業の概要

口腔領域に生じる疾患を理解する為にはその発生学的由来についての正確な知識が不可欠である。本講義では頭蓋顎顔面の諸器官や歯の発生機構について学ぶ。また発生とは出生後も生涯続く現象であり、本講義ではその過程で起こる加齢変化や病態変化についても学ぶ。更に再生医学に関する最新の知見についても紹介する。

学生の到達目標

- 頭蓋顎顔面領域の諸器官や歯の正常な発生過程および先天異常の発症機構について説明できる。
- 頭頸部諸臓器の経年的変化について説明できる。
- 遺伝子の変異による疾患について説明できる。
- がん原遺伝子、がん遺伝子、がん抑制遺伝子について説明できる。
- 加齢、老化と遺伝子変異について説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
B	3	2			主な口腔疾患（う蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。
C	1	3			細胞周期と細胞分裂を説明できる。
C	1	3			細胞死（壊死とアポトーシス）の基本的機序を説明できる。
C	2	2			個体発生と器官発生を概説できる。
C	2	4			人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。
C	4	5			腫瘍の定義を説明できる。
C	4	5			腫瘍の病因を説明できる。
C	4	5			局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。
E	2	3			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。
E	2	3			一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。
E	2	3			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。
E	2	3			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。
E	2	3			舌と唾液腺の発生とその加齢現象を説明できる。
E	2	4	(1)		口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。
E	3	1			歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。
E	3	1			歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。
E	4	3			老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。

2017年度

口腔基礎医学 (発生・再生・病態医学)

(Developmental, Regenerative and Pathological Biology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中富 満城						
担当教員	中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

テキスト

出) 著)

参考書

口腔組織・発生学
出)医歯薬出版

著)前田ら

口腔解剖学
出)医歯薬出版

著)脇田ら

スタンダード生化学・口腔生化学
出)学建書院

著)自見英治郎ら

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

選択型共通試験の合格と定期試験の合格をもって単位認定とする。

その他

(学習相談)月～金曜日、随時受け付ける。原則として時間予約を電話かメールにて行うこと。

2017年度

口腔基礎医学 (発生・再生・病態医学)

(Developmental, Regenerative and Pathological Biology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中富 満城						
担当教員	中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	頭頸部発生概論 初期胚発生および鰓弓形成について学ぶ。	講義	中富	401講義室
2	頭蓋の発生 膜内骨化と軟骨内骨化により形成される頭蓋の発生について学ぶ。	講義	中富	401講義室
3	口腔諸器官の発生 鰓弓器官・甲状腺・舌・唾液腺の形成について学ぶ。	講義	中富	401講義室
4	顔面の発生 顎・顔面・口唇の正常発生や先天異常について学ぶ。	講義	中富	401講義室
5	歯の初期発生 上皮間葉相互作用や歯胚形成領域の決定機構について学ぶ。	講義	中富	401講義室
6	歯の発生1 蕾状期・帽状期・鐘状期の歯胚形態形成について学ぶ。	講義	中富	401講義室
7	歯の発生2 エナメル質の形成について学ぶ。	講義	中富	401講義室
8	歯の発生3 象牙質と歯髓の形成について学ぶ。	講義	中富	401講義室
9	歯の発生4 歯根・セメント質・歯周組織の形成について学ぶ。	講義	中富	401講義室
10	成長・発育・加齢 頭頸部諸臓器の経年的変化について学ぶ。	講義	片岡	401講義室
11	癌の生化学1 細胞周期の制御機構、癌遺伝子と癌抑制遺伝子について学ぶ。	講義	自見	401講義室
12	癌の生化学2 発癌の制御機構、癌遺伝子と癌抑制遺伝子について学ぶ。	講義	自見	401講義室
13	病態生化学1 老化と細胞死の分子機構および生活習慣病の成因について学ぶ。	講義	自見	401講義室
14	病態生化学2 血液生化学検査の原理と実際について学ぶ。	講義	自見	401講義室
15	再生医学 再生医療の実際について学ぶ。	講義	自見	401講義室

2017年度

解剖学実習 (Laboratory Course in the Anatomy)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕児玉 淳						

授業の概要

解剖学実習はグループ学習である。1 献体を5～6人で協力して、人体の表層から最深部に向かって順に全身を解剖する。解剖された臓器の形態ならびに位置関係を詳細に観察するとともに、血管、神経の経路を理解する。また、晒骨格標本による骨学実習ならびに脳標本による脳実習をする。系統解剖実習を通して人体の内部構造に個人差があることも認識する。毎回の実習の剖出目標（最低限の課題）を完全に剖出するとともに、スケッチ課題、レポート課題を提出する。

学生の到達目標

- 身体の部位を解剖学的に区別できる。
- 身体の方角用語を正確に用いることができる。
- 生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。
- 骨の基本構造と結合様式を説明できる。
- 心臓の構造と機能を説明できる。
- 肺循環と体循環の2系統を説明できる。
- 動脈、毛細血管および静脈の構造と血管系の役割を説明できる。
- 主な動脈と静脈を列挙できる。
- リンパの循環路とリンパ節の構造と機能を説明できる。
- 視覚器、聴覚・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。
- 嗅覚器、味覚器の構造と機能を説明できる。
- 脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。
- 交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。
- 脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。
- 消化管（食道、胃、小腸、大腸）の基本構造と機能を説明できる。
- 肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明できる。
- 気道系（鼻腔、副鼻腔、気管、気管支）の構造と機能を説明できる。
- 肺臓の構造と機能を説明できる。
- 各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。
- 腎臓と尿路（尿管、膀胱、尿道）の構造と機能を説明できる。
- (21)頭蓋骨の構成と構造を説明できる。
- (22)咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能を説明できる。
- (23)頭頸部の脈管系を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	1			身体の部位を解剖学的に区別できる。
C	2	1			身体の方角用語を正確に用いることができる。
C	2	3	(2)		生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。
C	2	3	(2)		骨の基本構造と結合様式を説明できる。
C	2	3	(3)		心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激（興奮）伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】
C	2	3	(3)		肺循環と体循環の2系統を説明できる。
C	2	3	(3)		動脈、毛細血管および静脈の構造と血管系の役割を説明できる。
C	2	3	(3)		主な動脈と静脈を列挙できる。
C	2	3	(3)		リンパの循環路とリンパ節の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(4)		視覚器、聴覚・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。

2017年度

解剖学実習 (Laboratory Course in the Anatomy)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕児玉 淳						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3	(4)		嗅覚器、味覚器の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(5)		脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。
C	2	3	(5)		末梢神経系の機能分類（体性神経系と自律神経系）を説明できる。
C	2	3	(5)		交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(5)		脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。【主要な自律機能（呼吸、循環、体温）の調節中枢の働きを含む。】
C	2	3	(6)		消化管（咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の基本構造と機能を説明できる。【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】
C	2	3	(6)		肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明できる。
C	2	3	(6)		膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。
C	2	3	(7)		気道系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支）の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(7)		肺の構造と機能を説明できる。【内呼吸、外呼吸および呼吸運動の機序とその調節系を含む。】
C	2	3	(9)		腎臓と尿路（尿管、膀胱、尿道）の構造と機能を説明できる。
E	2	1			頭蓋骨の構成と構造を説明できる。
E	2	1			咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能を説明できる。
E	2	1			頭頸部の脈管系を説明できる。

テキスト

解剖学実習の手引き
出)南山堂

著)寺田、藤田 著

参考書

骨学実習アトラス
出)日本医事新報社

著)高井省三

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習確認テスト（筆記テストも含む）	80%
スケッチ・レポート	20%

60点未満の者に対しては追実習を行ったうえで、再試験を行う。

その他

質問は担当教官に直接連絡（電話・メール）すること。オフィスアワーは特にもうけない。

2017年度

解剖学実習 (Laboratory Course in the Anatomy)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕児玉 淳						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	解剖実習1 人体骨格標本を用い頭蓋・椎骨・胸郭について観察するとともにスケッチを行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
3,4	解剖実習2 人体骨格標本を用い上肢・下肢について観察するとともにスケッチを行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
5,6	解剖実習3 解剖実習1,2について確認テストを行う。 遺体の体表観察を行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
7,8	解剖実習4 剥皮、皮神経、上肢の剥皮を行い僧帽筋、広背筋と皮神経の剖出と観察を行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
9,10	解剖実習5 背部（僧帽筋、浅背筋）、殿部（大殿筋など）と下肢（大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋など）と皮神経の剖出と観察を行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
11,12	解剖実習6 腹部、胸部の剥皮、と皮神経の剖出と観察を行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
13,14	解剖実習7 頸部（広頸筋など）、胸部（大胸筋など）、腹部の筋の剖出と観察を行う。 〔スケッチ〕頸部浅層	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
15,16	解剖実習8 上肢の屈筋（上腕二頭筋など）、下肢の伸筋（大腿四頭筋、縫工筋など）、腕神経叢の剖出と観察を行う。 〔スケッチ〕腕神経叢	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
17,18	解剖実習9 固有背筋（最長筋など）、上肢の伸筋（上腕三頭筋）、後頭下筋等の剖出と観察を行う。 〔スケッチ〕後頭下三角周囲	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
19,20	解剖実習10 脊髄を取り出して観察する。殿部の深層（中殿筋、梨状筋など）、大腿・下腿後面（下腿三頭筋、アキレス腱）等の剖出と観察を行う。 〔スケッチ〕殿部の深層	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
21,22	解剖実習11 胸部（肋間筋など）、腹部（腹横筋など）、および肺の剖出と観察を行う。 〔スケッチ〕肺	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
23,24	解剖実習12 心臓を取り出し心房、心室、僧帽弁、三尖弁、冠状動脈、冠状静脈動など）、および縦隔の深部の剖出と観察を行う。 〔スケッチ〕心臓	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
25,26	解剖実習13 腹部の血管・神経（腹腔動脈、上・下腸間膜動脈、迷走神経、交感神経幹など）の剖出と観察を行う。 〔スケッチ〕腹腔動脈系	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室

2017年度

解剖学実習 (Laboratory Course in the Anatomy)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕児玉 淳						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
27,28	解剖実習14 胃、空腸・回腸、結腸を取り出し、それぞれの臓器に特徴的な構造を観察する。 〔スケッチ〕胃	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
29,30	解剖実習15 解剖実習4～14について確認テストを行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
31,32	解剖実習16 肝臓、胆嚢、十二指腸、膵臓、脾臓を剖出し観察を行う。 〔スケッチ〕肝臓	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
33,34	解剖実習17 腎臓、尿管、膀胱、食道、迷走神経、胸管などを剖出し観察を行う。 〔スケッチ〕腎臓	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
35,36	解剖実習18 横隔膜、腰神経叢（大腿神経、閉鎖神経等の神経も含む）などを剖出し観察を行う。 〔スケッチ〕腰神経叢	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
37,38	解剖実習19 舌骨下筋群、頸神経ワナ、頸の深層の筋（中斜角筋、後斜角筋など）、総頸動脈、内頸静脈、迷走神経、交感神経管、上甲状腺動脈等を剖出し観察する。 〔スケッチ〕舌骨下筋群、頸神経ワナ	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
39,40	解剖実習20 鎖骨下動脈の枝の椎骨動脈、内胸動脈、肩甲上動脈など、および骨盤内臓および仙骨神経叢を剖出し観察する。 〔スケッチ〕仙骨神経叢	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
41,42	解剖実習21 頭部離断を行う。顔の浅層の剥皮を行い、表情筋とその支配神経である顔面神経を剖出し観察を行う。 〔スケッチ〕耳下腺神経叢	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
43,44	解剖実習22 食道を背側から開き、咽頭、喉頭の構造をしらべる。また、甲状腺、上皮小体、気管なども剖出し観察する。 〔スケッチ〕喉頭	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
45,46	解剖実習23 頭蓋骨を切り、脳出しを行う。頭蓋底に観察できる三叉神経節ならびに三叉神経の枝の剖出、さらには他の脳神経の確認を行う。 〔スケッチ〕内頭蓋底	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
47,48	解剖実習24 眼窩を開放し眼筋、神経、血管、神経節等を剖出し、眼球を取り出してその内部構造を観察する。 〔スケッチ〕眼窩周囲の血管、神経、筋	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
49,50	解剖実習25 外耳、中耳、内耳に存在する構造を確認し、耳小骨等を取り出して観察を行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
51,52	解剖実習26 脳実習1。脳の矢状断の標本を用いて、脳の外側の構造、内部の第3脳室、中脳水道、第4脳室周囲の構造を確認する。 〔スケッチ〕脳矢状断内側、外側	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室

2017年度

解剖学実習 (Laboratory Course in the Anatomy)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕児玉 淳						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
53,54	解剖実習27 脳実習2。脳の前頭断、水平断の標本を用いて、脳の内部の構造（内包、レンズ核、尾状角など）を観察する。 〔スケッチ〕脳水平断	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
55,56	解剖実習28 解剖実習16～27について確認テストを行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
57,58	解剖実習29 追実習1。解剖実習の学習が不十分な者に対して観察部位を指定して追加の実習を行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
59,60	解剖実習30 追実習2。解剖実習の学習が不十分な者に対して観察部位を指定して追加の実習を行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室

2017年度

生体材料学入門 (Introduction to Dental Biomaterials)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業の概要

歯学は医学の一分野であるが、工学の要素をもっている。それは、基本的に自然治癒しない歯質や歯牙の欠損部を人工物で補い、機能・審美性の回復・改善を図るためである。材料を適切に使用するためには、臨床条件に合致する材料学的特性を十分に把握しておかなければならない。生体材料学入門では、多岐にわたる歯科生体材料の素材や諸性質の概要および歯科臨床における意義を学ぶ。

学生の到達目標

高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性の概要を説明できる。
生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質の概要を説明できる。
生体材料と歯科材料の安全性の評価の概要を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
D	1				高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。【構造と物性は基本的かつ一般的なものに限る。また、歯科材料に使用される素材間の物性比較を含む。】
D	1				生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる
D	1				生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。
D	1				歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。
D	2				修復材料と修復法の種類と特徴を説明できる。
D	2				歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。
D	2				印象材の種類と特性を説明できる。
D	2				歯科用石膏の種類と特性を説明できる。
D	2				ワックスの種類と特性を説明できる。
D	2				レジン重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。【歯科用レジン・金属・セラミックスの種類、用途および特性を含む。】
D	2				接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。

テキスト

プリントを配布する。
出) 著)

著)

参考書

歯科理工学入門
出)学建書院

著)小園 凱夫編

スタンダード歯科理工学
出)学建書院

著)中島 裕他編

コア歯科理工学
出)医歯薬出版

著)小倉 英夫他編

臨床歯科理工学
出)医歯薬出版

著)宮崎 隆他編

2017年度

生体材料学入門 (Introduction to Dental Biomaterials)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	90%
レポート(小試験を含む)	10%

科目の性質上、論理的思考力ならびに応用力を身につけることが必要となるため、定期試験では断片的な知識を問うだけではなく、記述式の問題も課す。授業時間中の小テスト、積極性および自己学習課題への取り組みも評価の対象とする。

60点未満の者に対して、再試験を行う。

その他

清水：オフィスアワー 月、水～金 12:00～13:00
 永松：オフィスアワー 月・水・木 12:00～13:00、月・木・金16:30～18:00
 池田：オフィスアワー 月～金 12:00～13:00、16:30～18:00

2017年度

生体材料学入門 (Introduction to Dental Biomaterials)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	歯科材料概説 歯科臨床における材料の役割を学ぶ。歯科材料の分類と特性および開発の背景について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水 永松 池田	401講義室
2	歯科材料の諸性質 歯科材料に求められる物理的・化学的・機械的性質、生体安全性について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	401講義室
3	印象材 印象材の種類、諸性質、特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	401講義室
4	模型材 模型材の種類、諸性質、特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	401講義室
5	接着材・合着材 接着材・合着材の種類、諸性質、特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	401講義室
6	床用レジン レジンの種類、諸性質、特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	401講義室
7	コンポジットレジン 複合材料(コンポジットレジン)の種類、諸性質、特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	401講義室
8	セラミックス セラミック材料の種類、諸性質、特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	401講義室
9	金属 金属材料の種類、諸性質、特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	401講義室
10	鋳造 歯科精密鋳造の特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	401講義室
11	金属材料 金属材料の補足とまとめを行う。	講義 スライド 資料配布	清水 永松 池田	401講義室
12	無機材料 無機材料の補足とまとめを行う。	講義 スライド 資料配布	清水 永松 池田	401講義室
13	有機材料・複合材料 有機材料・複合材料の補足とまとめを行う。	講義 スライド 資料配布	清水 永松 池田	401講義室
14	先端生体材料 生体材料の先端研究について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水 永松 池田	401講義室
15	まとめ 生体材料・歯科材料の総復習を行う。	講義 スライド 資料配布	清水 永松 池田	401講義室

2017年度

生体材料学総論 (Outlines of Dental Biomaterials)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業の概要

歯学は医学の一分野であるが、工学の要素をもっている。それは、基本的に自然治癒しない歯質や歯牙の欠損部を人工物で補い、機能・審美性の回復・改善を図るためである。材料を適切に使用するためには、臨床条件に合致する材料学的特性を十分に把握しておかなければならない。生体材料学総論では、多岐にわたる歯科生体材料の基礎となる素材や、機械的、物理的、化学的ならびに生物学的性質の概要および歯科臨床における意義を学ぶ。

学生の到達目標

高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。
生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。
生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
D	1				高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。【構造と物性は基本的かつ一般的なものに限る。また、歯科材料に使用される素材間の物性比較を含む。】
D	1				生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。
D	1				生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。
D	2				歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。
D	2				レジン重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。【歯科用レジン・金属・セラミックスの種類、用途および特性を含む。】
D	2				接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

歯科理工学入門
出)学建書院 著)小園 凱夫編

スタンダード歯科理工学
出)学建書院 著)中嶌 裕他編

コア歯科理工学
出)医歯薬出版 著)小倉 英夫他編

臨床歯科理工学
出)医歯薬出版 著)宮崎 隆他編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	90%
レポート(小試験を含む)	10%

科目の性質上、論理的思考力ならびに応用力を身につけることが必要となるため、定期試験では断片的な知識を問うだけではなく、記述式の問題も課す。授業時間中の小テスト、積極性および自己学習課題への取り組みも評価の対象とする。
60点未満の者に対して、再試験を行う。

2017年度

生体材料学総論 (Outlines of Dental Biomaterials)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

その他

清水：オフィスアワー 月、水～金12：00～13：00

永松：オフィスアワー 月・水・木12：00～13：00、月・木・金16：30～18：00

池田：オフィスアワー 月～金12：00～13：00、16：30～18：00

2017年度

生体材料学総論 (Outlines of Dental Biomaterials)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	序論：歯学と歯科器材 歯科生体材料学の臨床との関連性を学ぶ。また、材料の分類および各材料の特性を学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水 永松	401講義室
2	生体材料の機械的性質 歯科生体材料の耐久性・機能性を評価する「強さ・硬さ」について、種類・計測法および材料間の大小関係を学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
3	生体材料の物理的性質・化学的性質 歯科生体材料の比重・熱的性質・光学的性質を学ぶ。また、化学的安定性を評価する溶解・溶出、変色・腐食等についても学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
4	生体材料の生物学的安全性 歯科生体材料の種々の生物学的性質、生体反応を学ぶ。また、化学的安定性と生体安全性が関連することも学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
5	金属材料：種類と特徴 歯科材料として使用される純金属・合金の種類および特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
6	金属材料：構造と状態変化 金属の結晶構造と状態変化について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
7	金属材料：塑性変形・強化法 金属の強化法・硬化法について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
8	金属材料：強化法 熱処理および加工の原理と具体的な操作方法を学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
9	無機材料：種類と特徴 歯科材料として使用される無機材料の種類と特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
10	無機材料：審美性材料 歯科材料として使用される歯科用陶材とニューセラミックスについて学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
11	有機材料：種類と特徴 歯科材料として使用される有機材料の種類と特徴について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
12	有機材料：高分子材料のレオロジー 高分子材料の粘弾性特性について基礎的内容を学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	401講義室
13	有機材料：高分子材料の合成反応 高分子の重合反応の種類とその機構について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
14	有機材料：高分子材料の合成反応 高分子の重合反応の種類とその機構について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	401講義室
15	総復習 講義内容の重要ポイントについて総復習を行う。	講義 スライド 資料配布	清水 永松 池田	401講義室

2017年度

生体材料学各論 (Particulars of Dental Biomaterials)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業の概要

歯質や歯牙の欠損は基本的に自然治癒しないので、人工物を用いて機能や審美性の回復をはかる必要がある。歯科医療では材料を使用する機会が他の医療に比べ圧倒的に多い。したがって、歯科医師は使用する材料や機器について熟知していなければならない。生体材料学各論では、歯科材料と機器に関する機械的、物理的、化学的および生物学的性質の詳細と臨床使用法について学ぶ。

学生の到達目標

- 印象材の種類と性質を説明できる。
- 歯科用石膏の種類と特性を説明できる。
- 歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。
- 修復材料と修復法の種類と特徴を説明できる。
- レジンの重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。
- 接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
D	1				高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。【構造と物性は基本的かつ一般的なものに限る。また、歯科材料に使用される素材間の物性比較を含む。】
D	1				生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。
D	1				生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。
D	1				歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。
D	2				修復材料と修復法の種類と特徴を説明できる。
D	2				歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。
D	2				印象材の種類と特性を説明できる。
D	2				歯科用石膏の種類と特性を説明できる。
D	2				ワックスの種類と特性を説明できる。
D	2				レジンの重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。【歯科用レジン・金属・セラミックスの種類、用途および特性を含む。】
D	2				接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。

テキスト

プリントを配布する。
出)

著)

参考書

歯科理工学入門
出)学建書院

著)小園 凱夫編

スタンダード歯科理工学
出)学建書院

著)中島 裕他編

コア歯科理工学
出)医歯薬出版

著)小倉 英夫他編

臨床歯科理工学
出)医歯薬出版

著)宮崎 隆他編

2017年度

生体材料学各論 (Particulars of Dental Biomaterials)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

歯科理工学教育用語集

出)医歯薬出版

著)日本歯科理工学会編

最新歯科技工士教本歯科理工学

出)医歯薬出版

著)全国歯科技工士教育協議会編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	90%
レポート(小試験を含む)	10%

科目の性質上、論理的思考力ならびに応用力を身につけることが必要となるため、定期試験では断片的な知識を問うだけでなく、記述式の問題も課す。授業時間中の小テスト、積極性および自己学習課題への取り組みも評価の対象とする。

60点未満の者に対して、再試験を行う。

その他

清水：オフィスアワー 月、水～金12:00～13:00

永松：オフィスアワー 月・水・木12:00～13:00、月・木・金16:30～18:00

池田：オフィスアワー 月～金 : 12:00～13:00、16:30～18:00

2017年度

生体材料学各論 (Particulars of Dental Biomaterials)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	印象材 ハイドロコロイド印象材および合成ゴム印象材の成分、硬化機構および特性について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
2	印象材 非弾性印象材の成分、硬化機構および特性について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
3	模型材 石膏の種類、製造法、硬化機構、取り扱い法および特性について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
4	ワックス 各種ワックスの成分、特性および用途について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
5	義歯床用レジンと常温重合レジン 義歯床用レジンと常温重合レジンの種類、製造法、硬化機構、取り扱い法および特性について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
6	修復用コンポジットレジンと歯冠用硬質レジン 修復用コンポジットレジンと歯冠用硬質レジンの概念、種類、硬化機構、取り扱い法および特性について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
7	歯科用陶材 歯科用陶材の成分、焼成法、特徴、強化法および陶材焼付鑄造冠について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
8	ニューセラミックスとCAD/CAM ニューセラミックスとCAD/CAM用材料およびCAD/CAM法の工程について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	池田	402講義室
9	貴金属合金 金合金および銀合金（金銀パラジウム合金および低融銀合金）の組成、成分元素の役割、性質および用途について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
10	非貴金属合金と歯科鑄造理論 非貴金属合金の組成、性質および用途について学ぶ。歯科鑄造についてその原理およびステップを学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
11	歯科鑄造理論 埋没材、鑄造用機材および鑄造欠陥について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
12	歯科用セメント リン酸亜鉛セメント、ポリカルボキシレートセメント、ガラスアイオノマーセメントの成分、硬化機構および特性について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	永松	402講義室
13	接着性レジンセメント 接着性レジンセメントの成分、硬化機構および取り扱い法について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
14	切削・研削・研磨とその他の歯科材料 切削・研削・研磨の理論および使用する関連器材について学ぶ。アマルガムやインプラント用材料について学ぶ。	講義 スライド 資料配布	清水	402講義室
15	総復習 生体材料学各論の総復習をする。	講義 スライド 資料配布	清水 永松 池田	402講義室

2017年度

生理学実習 (Laboratory Course in the Physiology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	38	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露、園木 一男、吉野 賢一						

授業の概要

本実習では、学生諸君が被験者になり、“ヒトの体の機能の神秘さ”を体感することによって、ヒトの体の機能についての理解を深めることを目的としている。実習は、4項目で、味覚、ヒトの唾液、咀嚼能力および心電図・血圧を行う。実習終了後、実技を中心とした実習試験を行う。

学生の到達目標

人体の生理機能について理解する。
データをまとめ、レポートを作成することができる。
実習の内容を理解し、測定・解析を行うことができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3	(3)		心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激（興奮）伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】
C	2	3	(3)		血液循環と血管運動、血圧の調節機構を説明できる。
C	2	3	(4)		嗅覚器、味覚器の構造と機能を説明できる。
E	1	3	(1)		血圧を測定し、状況を把握できる。
E	1	3	(1)		脈拍数を測定し、状況を把握できる。
E	2	2			歯列と咬合について説明できる。
E	2	2			唾液の性状と役割を説明できる。【構成成分とその機能を含む。】
E	2	2			唾液腺の構造と機能を説明できる。【分泌調節を含む。】
E	2	2			咀嚼の意義と制御機構を説明できる。

テキスト

生理学分野オリジナルの実習書を使用する。
出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習での態度およびレポート	20%
実習実技試験	80%

実習開始8時50分までに、実習室に入室していない場合には、1回につき5点を減点する。

その他

(学習相談)月～金曜日、随時受け付ける。原則として、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

生理学実習 (Laboratory Course in the Physiology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	38	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露、園木 一男、吉野 賢一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	オリエンテーション 実習全体の説明、注意事項を行う。	講義	全員	401講義室
2~17	4つのテーマをローテーションで行う。 (味覚) 味覚について学ぶ。 (ヒトの唾液) 唾液分泌機構について学ぶ。 (咀嚼) 咀嚼・嚥下について学ぶ。 (心電図および血圧) 心電図・血圧の測定法、意義を学ぶ。	実習	全員	72実習室 相互実習室 コンピュータ 演習室
18~19	実習実技試験 上記4つのテーマについての実技中心の試験を行う。	実習実技の試験	全員	72実習室 401講義室

2017年度

分子生物学実習 (Laboratory Course in the Molecular Biology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業の概要

前期の講義で習った硬組織の成分と分子生物学の基礎事項について実習を通して、理解する。本実習では「歯牙の無機質およびコラーゲンに関する実験」「ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)法を用いた遺伝子多型の検出」「プラスミドによる大腸菌の形質転換」および「プラスミドの精製と制限酵素による切断」について実習を行う。実験実習の結果を解析することにより、硬組織の無機および有機成分と分子生物学の基礎を理解する。

学生の到達目標

- 硬組織を構成する無機成分を説明できる。
- 硬組織を構成する有機成分を説明できる。
- プラスミドおよび形質転換について説明できる。
- 制限酵素について説明できる。
- 実験の目的・原理を理解し、問題点を論理的に整理し、自ら解決方法を見出すことができる。
- 実験実習の成果を文章または図表に表すことができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	6	2			研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。
A	6	2			生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。
A	6	2			患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の進化につなげることができる。
A	6	2			検索・検出した医学・医療情報から新たな課題・仮説を設定し、解決に向けて科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加することができる。
C	1	1			アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	2			遺伝子（染色体）の構造とセントラルドグマを説明できる。
C	1	2			DNA複製と修復の機序を説明できる。
C	1	2			遺伝性疾患の発生の機序を説明できる。

テキスト

分子生物学実習書（オリエンテーション時に配布）
出） 著）

参考書

ビジュアル生化学・分子生物学
出）日本医事新報社 著）安孫子宣光

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習のレポート	50%
筆記試験	50%

- ・実習中におこなった説明、プリント、実習手引書から筆記試験を実施する。
- ・遅刻は10点減点とする。
- ・レポート点はA:100点、B:80点、C:60点、D:40点、E:20点、で評価し、平均点を50点に換算する。

2017年度

分子生物学実習 (Laboratory Course in the Molecular Biology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎、松原 琢磨						

その他

(学習相談) 月～金曜日、随時受け付ける。原則として、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

分子生物学実習 (Laboratory Course in the Molecular Biology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	オリエンテーション(実習書の配布、指導員紹介、注意事項などについて) 遺伝子組換え実験の安全講習を受講し、遺伝子組換え生物等の使用に関する管理規則を学ぶ。	講義	古株	401講義室
3,4	歯牙の無機質およびコラーゲンに関する実験 ハイドロキシアパタイトの化学式はCa ₁₀ (PO ₄) ₆ (OH) ₂ であることから、歯牙に含まれるCaとPの量を測定し、重量比を求める。また、薄層クロマトグラフィーを用いてコラーゲンとエラスチンに含まれるアミノ酸を分析し、コラーゲンとエラスチンの性質とアミノ酸組成の違いを学ぶ。	実習	全員	72実習室
5,6	ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)法を用いた遺伝子多型の検出 1-DNAの調製とPCR 各自の毛髪よりDNAを調製し、アルコールに対する感受性に関与するアルデヒドデヒドロゲナーゼ2 (aldehyde dehydrogenase 2, ALDH2)の遺伝子多型をPCR法により調べ、PCRの手技を学ぶ。	実習	全員	72実習室
7,8	ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)法を用いた遺伝子多型の検出 2-PCR産物の電気泳動 前回おこなったPCR産物をアガロースゲル電気泳動をおこない、PCR産物を可視化し、各自の遺伝子型を判定し、PCRの原理を学ぶ。	実習	全員	72実習室
9,10	プラスミドによる大腸菌の形質転換 抗生物質(アンピシリン)耐性遺伝子を持つ遺伝子ベクター(pGLOベクター)にGFP遺伝子を組み込むクローニングを行う。これを大腸菌に組み込む事により抗生物質に耐性を示しGFPを発現する大腸菌に形質転換することで、遺伝子工学の基礎、生物の形質転換を学ぶ。	実習	全員	72実習室
11,12	プラスミドの精製と制限酵素による切断 作出した組み替え大腸菌からベクターを抽出し、GFP遺伝子の挿入を確認する。さらにGFPタンパクを大腸菌内で発現させる実習を行い、セントラルドグマを学ぶ。	実習	全員	72実習室
13,14	実習テスト1 実習内容(原理、手順、試薬や実験上注意する点)について問う。	テスト	全員	401講義室
15	実習テスト2 実習内容(原理、手順、試薬や実験上注意する点)について問う。	テスト	全員	401講義室

2017年度

口腔解剖学実習 (Laboratory Course in the Oral Anatomy)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	34	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕里田 隆博						

授業の概要

口腔解剖学実習は、口腔解剖学実習ならびに歯の解剖学実習の2部構成をとる。解剖棟で行う頭頸部解剖実習・頭蓋骨実習と基礎実習室、講義室で行う口腔内の生体観察実習である。歯の解剖学実習は、模型歯の計測、観察、スケッチと天然歯の鑑別を行う。また、スタディモデル実習は個々の歯の詳細な歯冠形態観察およびノギスによる計測を行う。

学生の到達目標

- 頭頸部を解剖学的に区分できる。
- 頭蓋骨の構成と構造を説明できる。
- 咀嚼筋・表情筋の構成と機能を説明できる。
- 頭頸部の脈管系を説明できる。
- 三叉神経と顔面神経の走行と分布及び線維構成を説明できる。
- 顎関節の構造と機能を説明できる。
- 舌の構造と機能を説明できる。
- 唾液腺の種類と存在部位を説明できる。
- 歯の方向用語を正確に用いることができる。
- 乳歯と永久歯を区別できる。
- 32種の歯を鑑別できる。
- 口腔・頭蓋・顎顔面領域の加齢による変化を説明できる。
- 上下顎中切歯・側切歯，上下顎犬歯，上下顎第1・第2小白歯，上下顎第1・第2大臼歯を計測、スケッチし、個々の歯の特徴を説明できる。
- 歯列弓の形態、歯の咬耗状態を鑑別できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	1			頭蓋骨の構成と構造を説明できる。
E	2	1			咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能を説明できる。
E	2	1			頭頸部の脈管系を説明できる。
E	2	1			三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。
E	2	1			顎関節の構造と機能を説明できる。
E	2	2			口唇・口腔粘膜の特徴を部位ごとに説明できる。【口唇・口腔感覚の特徴を含む。】
E	2	2			舌の構造と機能を説明できる。
E	2	2			歯列と咬合について説明できる。
E	2	2			唾液腺の構造と機能を説明できる。【分泌調節を含む。】
E	2	3			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。
E	2	3			舌と唾液腺の発生とその加齢現象を説明できる。
E	3	1			歯種別の形態と特徴を説明できる。

2017年度

口腔解剖学実習 (Laboratory Course in the Oral Anatomy)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	34	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕里田 隆博						

テキスト

歯の解剖学
出)金原出版

著)藤田恒太郎

解剖実習の手びき
出)南山堂

著)寺田春水・藤田恒夫

参考書

骨学実習アトラス
出)日本医事新報社

著)高井省三

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習確認テスト(筆記テストも含む)	80%
スケッチ・レポート	20%

60点未満の者に対しては、再試験を行う。

その他

質問は担当教官に直接連絡(電話・メール)すること。オフィスアワーは特にもうけない。

2017年度

口腔解剖学実習 (Laboratory Course in the Oral Anatomy)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	34	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕里田 隆博						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	頭頸部の解剖 1 舌、顎下腺、舌下線、鼻腔、咽頭の解剖を行いその構造を理解する。 (スケッチ課題：舌神経、顎下腺、咽頭鼻部)	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
3,4	頭頸部の解剖 2 咀嚼筋、顎動脈、下顎管を理解する。 (スケッチ課題：顎動脈)	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
5,6	頭頸部の解剖 3 顎関節、側頭下窩、翼口蓋神経節を理解する。 (スケッチ課題：側頭下窩、鼻腔側壁)	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
7,8	実習確認テスト	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
9,10	頭頸部の解剖 4 頭蓋骨実習・分離骨の観察と解説を行う。 頭蓋・分離骨実習(有歯顎骨と無歯顎骨、内外頭蓋底、分離骨の観察、標本のスケッチ)	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
11,12	頭蓋骨模型実習 各自の頭蓋骨模型を使い筋の付着部位、頭部骨の各部位の名称などを確認する。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	401講義室
13	実習確認テスト	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	解剖棟実習室
14	歯の鑑別 歯の鑑別は抜去歯牙を用いて、歯種・上下・順位・左右側の鑑別を行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	401講義室
15	スタディモデル実習1 模型歯の計測、スケッチを行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	401講義室
16	頭頸部の生体観察 口腔内、スタディモデルを用いた観察、計測を行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	401講義室
17	スタディモデル実習2 歯列弓の形態、歯の植立、咬合関係を理解する。歯列弓の計測を行う。	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	401講義室
18	実習テスト 歯の鑑別に関する確認テスト	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	71実習室

2017年度

口腔解剖学実習 (Laboratory Course in the Oral Anatomy)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	34	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司、〔非常勤講師〕里田 隆博						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
19	実習確認テスト	実習	片岡 中富 瀬田 豊野	401講義室

2017年度

組織学実習 (Laboratory Course in the Histology and Embryology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業の概要

講義で学習した組織や臓器の構造を、顕微鏡で観察する。さらに配信された顕微鏡画像を観察し、その組織構造を鉛筆・色鉛筆を用いて詳細にスケッチする。終了後は実習ノートをチェックし、採点する。

学生の到達目標

細胞・組織の顕微構造を学び、実際にそれらを観察し、以下の実習項目についてその組織構造を詳細にスケッチできる。

- 歯の硬組織（エナメル質、象牙質、セメント質）の組織構造と機能を説明できる。
- 歯髄の組織構造と機能を説明できる。
- 歯周組織の組織構造と機能を説明できる。
- 口腔粘膜の組織学的特徴を部位ごとに説明できる。
- 唾液腺の組織構造と機能を説明できる。
- 口腔内感覚受容器（味蕾、体性感覚器）の組織構造と機能を説明できる。
- 上皮・支持・筋・神経各組織の組織構造を理解できる。
- 消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器、感覚器の組織構造と機能を理解できる。
- 顎顔面頭蓋の発生と形成を説明できる。
- 舌、甲状腺、下垂体の発生を説明できる。
- 歯の発生初期の上皮・間葉間のシグナリングを説明できる。
- 歯の発生過程を説明できる。
- 歯周組織の発生と形成を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3	(1)		上皮を形態的および機能的に分類できる。
C	2	3	(1)		皮膚と粘膜の基本構造と機能を説明できる。
C	2	3	(1)		結合組織の線維要素と細胞要素を説明できる。
C	2	3	(1)		硝子軟骨、弾性軟骨および線維軟骨の特徴を説明できる。
C	2	3	(1)		内軟骨性骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。
C	2	3	(1)		筋組織の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(5)		脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。【主要な自律機能（呼吸、循環、体温）の調節中枢の働きを含む。】
C	2	3	(6)		消化管（咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の基本構造と機能を説明できる。【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】
C	2	3	(7)		気道系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支）の構造と機能を説明できる。
C	2	3	(7)		肺の構造と機能を説明できる。【内呼吸、外呼吸および呼吸運動の機序とその調節系を含む。】
C	2	3	(8)		各内分泌器の構造と機能およびホルモンを説明できる。【ホルモンの特徴と機能、内分泌系と神経系との機能相関を含む。】
C	2	3	(10)		男性生殖器、女性生殖器の構造と機能を説明できる。【ホルモンによる調節を含む。】
E	2	2			口唇・口腔粘膜の特徴を部位ごとに説明できる。【口唇・口腔感覚の特徴を含む。】
E	2	2			唾液腺の構造と機能を説明できる。【分泌調節を含む。】

2017年度

組織学実習 (Laboratory Course in the Histology and Embryology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	3			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。
E	2	3			一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。
E	2	3			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】
E	3	1			歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。【構成成分とその変化を含む。】
E	3	1			歯（乳歯、幼若永久歯を含む）の硬組織の構造と機能を説明できる。【構成成分とその特徴を含む。】
E	3	1			歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。

テキスト

口腔組織・発生学
出)医歯薬出版

著)脇田稔 他

参考書

ラングマン 人体発生学
出)MEDSi

著)安田、沢野 訳

標準組織学 総論・各論
出)医学書院

著)藤田恒夫・藤田尚男

Ten Cate口腔組織学
出)医歯薬出版

著)川崎 訳

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習試験	80%
実習ノート	20%

その他

2017年度

組織学実習 (Laboratory Course in the Histology and Embryology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	上皮組織（角化重層扁平上皮：手掌）・支持組織（腱）・筋組織（骨格筋、心筋）の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
2	上皮組織（角化重層扁平上皮：手掌）・支持組織（腱）・筋組織（骨格筋、心筋）の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
3	消化器（1） 食道、噴門部、胃、幽門部、十二指腸ならびに十二指腸腺の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
4	消化器（1） 食道、噴門部、胃、幽門部、十二指腸ならびに十二指腸腺の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
5	消化器（2） 空腸、大腸、肝臓および胆嚢、膵臓（外分泌部・ランゲルハンス島）の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
6	消化器（2） 空腸、大腸、肝臓および胆嚢、膵臓（外分泌部・ランゲルハンス島）の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
7	（1）呼吸器 気管、肺の組織像を観察しスケッチする。 （2）泌尿器 腎臓、膀胱（移行上皮）の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
8	（1）呼吸器 気管、肺の組織像を観察しスケッチする。 （2）泌尿器 腎臓、膀胱（移行上皮）の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
9	内分泌器 甲状腺、副腎、下垂体の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
10	内分泌器 甲状腺、副腎、下垂体の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
11	（1）中枢神経組織 大脳皮質、小脳、脊髄の組織像を観察しスケッチする。 （2）感覚器 眼球の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
12	（1）中枢神経組織 大脳皮質、小脳、脊髄の組織像を観察しスケッチする。 （2）感覚器 眼球の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
13	組織学実習試験	試験	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室

2017年度

組織学実習 (Laboratory Course in the Histology and Embryology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
14	組織学実習試験	試験	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
15	ヒト歯の組織(1) (1)エナメル質 研磨標本をもちいてエナメル質の組織像を観察しスケッチする。 (2)象牙質 研磨標本をもちいて象牙質の組織像を観察しスケッチする。 (3)セメント質 研磨標本をもちいて象牙質の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
16	ヒト歯の組織(1) (1)エナメル質 研磨標本をもちいてエナメル質の組織像を観察しスケッチする。 (2)象牙質 研磨標本をもちいて象牙質の組織像を観察しスケッチする。 (3)セメント質 研磨標本をもちいて象牙質の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
17	ヒト歯の組織(2) (1)歯髄 脱灰切片をもちいて歯冠部歯髄表層の組織像を観察しスケッチする。 (2)歯周組織 脱灰切片をもちいて歯周組織(歯根膜、歯槽骨)の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
18	ヒト歯の組織(2) (1)歯髄 脱灰切片をもちいて歯冠部歯髄表層の組織像を観察しスケッチする。 (2)歯周組織 脱灰切片をもちいて歯周組織(歯根膜、歯槽骨)の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
19	三大唾液腺・血管およびリンパ性組織 (1)唾液腺 耳下腺、顎下腺、舌下腺の組織像を観察しスケッチする。 (2)血管 動脈・静脈の組織像を観察しスケッチする。 (3)リンパ性組織 口蓋扁桃の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
20	三大唾液腺・血管およびリンパ性組織 (1)唾液腺 耳下腺、顎下腺、舌下腺の組織像を観察しスケッチする。 (2)血管 動脈・静脈の組織像を観察しスケッチする。 (3)リンパ性組織 口蓋扁桃の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
21	口腔粘膜 (1)下口唇 下口唇の矢状断切片をもちいて、組織像を観察しスケッチする。 (2)硬口蓋粘膜 硬口蓋粘膜の矢状断切片をもちいて、組織像を観察しスケッチする。 (4)舌乳頭と味蕾 有郭乳頭、葉状乳頭、茸状乳頭および味蕾の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室

2017年度

組織学実習 (Laboratory Course in the Histology and Embryology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
22	口腔粘膜 (1) 下口唇 下口唇の矢状断切片をもちいて、組織像を観察しスケッチする。 (2) 硬口蓋粘膜 硬口蓋粘膜の矢状断切片をもちいて、組織像を観察しスケッチする。 (4) 舌乳頭と味蕾 有郭乳頭、葉状乳頭、茸状乳頭および味蕾の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
23	生殖器 (1) 男性生殖器 精巣、ヒト胎児陰茎の組織像を観察しスケッチする。 (2) 女性生殖器 卵巣、卵管の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
24	生殖器 (1) 男性生殖器 精巣、ヒト胎児陰茎の組織像を観察しスケッチする。 (2) 女性生殖器 卵巣、卵管の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
25	ヒト胎児期の顔面ならびに歯の組織発生 (1) ヒト胎児頭部の前頭断切片の組織像を観察しスケッチする。 (2) 歯胚(蕾状期、帽状期および鐘状期)の組織像を観察しスケッチする。 (3) 硬組織形成初期の歯胚の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
26	ヒト胎児期の顔面ならびに歯の組織発生 (1) ヒト胎児頭部の前頭断切片の組織像を観察しスケッチする。 (2) 歯胚(蕾状期、帽状期および鐘状期)の組織像を観察しスケッチする。 (3) 硬組織形成初期の歯胚の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
27	骨組織の発生 (1) 膜内骨化の組織像を観察しスケッチする。 (2) 軟骨内骨化の組織像を観察しスケッチする。 (3) 硝子軟骨の組織像を観察しスケッチする。 (4) 骨組織の非脱灰切片の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
28	骨組織の発生 (1) 膜内骨化の組織像を観察しスケッチする。 (2) 軟骨内骨化の組織像を観察しスケッチする。 (3) 硝子軟骨の組織像を観察しスケッチする。 (4) 骨組織の非脱灰切片の組織像を観察しスケッチする。	実習	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
29	口腔組織・発生学実習試験	試験	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室
30	口腔組織・発生学実習試験	試験	瀬田 豊野 中富 片岡	71実習室 コンピュータ演習室

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美、張 皿						

授業の概要

病理学とは生体に起こる病的な状態（病気、疾病）の本態を追求する学問であり、全身諸臓器に共通する基本的な病的変化を一般的通則として論ずる総論と、各臓器の特殊性・反応特異性を重視して臓器別に論じる各論に分けられる。口腔病理学Iでは総論的視点から、病因、先天異常、退行性病変、循環傷害、進行性病変について講義し、それらの病理組織学的所見について理解を深めるための演習を行う。

学生の到達目標

- 細胞障害、組織障害、壊死、アポトーシス、萎縮を説明できる。
- 細胞障害、組織障害、壊死、萎縮の病理組織学的特徴を説明できる。
- 修復、再生、化生、創傷治癒、器質化を説明できる。
- 修復、再生、化生、創傷治癒、器質化の病理組織学的特徴を説明できる。
- 虚血、充血、うっ血、出血、血栓、塞栓、梗塞、浮腫、ショックを説明できる。
- 充血、うっ血、出血、血栓、塞栓、梗塞、浮腫の病理組織学的特徴を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	4	1			細胞傷害と組織傷害について説明できる。【変性を含む。】
C	4	1			壊死の多様性、原因、意義および形態的所見の特徴を説明できる。
C	4	1			アポトーシスと疾患の関連性について説明できる。
C	4	1			萎縮と仮性肥大を説明できる。
C	4	2			修復と再生について説明できる。
C	4	2			化生を説明できる。
C	4	2			創傷治癒に関与する細胞とその過程を説明できる。
C	4	2			器質化を説明できる。
C	4	3			虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。
C	4	3			出血の原因、種類および転帰を説明できる。
C	4	3			血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。
C	4	3			塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。
C	4	3			梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。
C	4	3			浮腫の原因とその転帰を説明できる。
C	4	3			ショックの成因と種類を説明できる。
E	2	4	(1)		口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美、張 皿						

テキスト

プリントを配布する。
出)

著)

参考書

標準病理学 第5版
出)医学書院

著)監修:坂本穆彦ら

組織病理アトラス 第6版
出)文光堂

著)編集:森谷卓也ら

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	75%
病理組織理解度確認テスト	25%

その他

(教員名 : オフィスアワー)
 松尾 拓 : 月~木 17:00~19:00
 矢田 直美 : 月~木 17:00~19:00
 張 皿 : 月~木 17:00~19:00

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美、張 皿						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	病理学概論（病理学の歴史、学問的枠組み、臨床医学における位置づけ等）と病因論（内因と外因、すなわち疾病の原因として内在性原因と外来性原因）について学習する。	講義	松尾	401講義室
2	先天異常および奇形（先天異常・奇形概念、定義、原因、成立機転、分類）について学習する。	講義	松尾	401講義室
3	細胞の傷害 物質代謝異常（退行性病変）（Ⅰ）： 細胞の基本構造と機能と退行性病変：細胞の基本構造と機能、細胞傷害、退行性病変、変性（1）（蛋白質変性について）について学習する。	講義	矢田	401講義室
4	細胞の傷害 物質代謝異常（退行性病変）（Ⅱ）： 変性（2）（脂肪変性、糖原変性、石灰変性、色素変性）について学習する。	講義	矢田	401講義室
5	細胞の傷害 物質代謝異常（退行性病変）（Ⅲ）： 細胞死（壊死とアポトーシス）、萎縮（生理的萎縮と病的萎縮）個体の死（死後変化、死因）について学習する。	講義	矢田	401講義室
6	循環障害（Ⅰ）： 虚血、乏血、充血、うっ血、出血、出血性素因について学習する。	講義	張	401講義室
7	循環障害（Ⅱ）： 血栓症、塞栓症、梗塞について学習する。	講義	張	401講義室
8	循環障害（Ⅲ）： 副行循環、水腫（浮腫）について学習する。	講義	張	401講義室
9	循環障害（Ⅳ）： ショック、高血圧症について学習する。	講義	張	401講義室
10	細胞の反応性増殖と修復（進行性病変）： 細胞の増殖、肥大と過形成、再生、化生、肉芽組織による修復、器質化、創傷治癒について学習する。	講義	松尾	401講義室
11	病理組織学演習（Ⅰ）： 退行性病変を示す病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
12	病理組織学演習（Ⅱ）： 退行性病変を示す病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
13	病理組織学演習（Ⅲ）： 循環傷害を示す病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
14	病理組織学演習（Ⅳ）： 進行性病変を示す病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
15	病理組織理解度確認テスト	テスト	松尾 矢田 張	コンピュータ演習室

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美、張 皿						

授業の概要

口腔病理学Iに引き続き口腔病理学IIでは、総論的視点から、炎症、感染症、免疫の病理、腫瘍、老化の病理（加齢変化）について講義し、それらの病理組織学的所見について理解を深めるための演習を行う。

学生の到達目標

炎症の定義、発症機序、炎症に関与する細胞、炎症の種類と病理組織学的特徴および経時的变化を説明できる。

主な免疫不全、自己免疫疾患、アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。

腫瘍の定義、病因、異形成、腫瘍の異型性と組織学的分化度、良性腫瘍と悪性腫瘍の異同、腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	3	2			自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。
C	3	2			アレルギーの分類を説明できる。【発症機序を含む。】
C	3	2			免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。
C	4	4			炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】
C	4	4			炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。
C	4	4			滲出性炎の種類と病理組織学的特徴および経時的变化を説明できる。
C	4	4			肉芽腫性炎の種類と病理組織学的な特徴および経時的变化を説明できる。
C	4	5			腫瘍の定義を説明できる。
C	4	5			腫瘍の病因を説明できる。
C	4	5			異形成を説明できる。
C	4	5			腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。
C	4	5			良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。
C	4	5			局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。
E	2	3			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】
E	2	3			舌と唾液腺の発生とその加齢現象を説明できる。
E	4	3			老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。
E	4	3			高齢者に多くみられる疾患を説明できる。

テキスト

プリントを配布する。

出)

著)

参考書

標準病理学 第5版

出)医学書院

著)監修：坂本穆彦ら

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡、矢田 直美、張 皿						

組織病理アトラス 第6版
出)文光堂

著)編集: 森谷卓也ら

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	75%
病理組織理解度確認テスト	25%

その他

(教員名 : オフィスアワー)
松尾 拡 : 月~木 17:00~19:00
矢田 直美 : 月~木 17:00~19:00
張 皿 : 月~木 17:00~19:00

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美、張 皿						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	炎症：炎症の原因、分類、基本的組織変化および発症機構、関与する細胞の種類と役割、急性炎症の形態学的特徴と分類、慢性炎症の形態学的特徴と分類、炎症巣の転帰（炎症の修復）について学習する。	講義	松尾	402講義室
2	感染症：感染症の成立機序と感染経路、日和見感染、細菌、真菌、ウイルスによる感染症の病態について学習する。	講義	松尾	402講義室
3	病理組織学演習(I)： 炎症・感染症の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
4	病理組織学演習(II)： 炎症・感染症の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
5	免疫の病理(I)： 免疫の概念と仕組み、免疫機構に関わる細胞と免疫グロブリン、アレルギー反応について学習する。	講義	松尾	402講義室
6	免疫の病理(II)： 移植と拒絶反応、免疫不全と自己免疫疾患の病態について学習する。	講義	松尾	402講義室
7	病理組織学演習(III)： 免疫・アレルギー疾患の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
8	腫瘍(I)： 腫瘍の定義、腫瘍の形態学的特徴と基本構造、良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴について学習する。	講義	松尾	402講義室
9	腫瘍(II)： 腫瘍の増殖・浸潤・転移および腫瘍の分類について学習する。	講義	松尾	402講義室
10	腫瘍(III)： 腫瘍発生の要因と発癌機序、癌と免疫、癌の診断・治療・予防について学習する。	講義	松尾	402講義室
11	病理組織学演習(IV)： 上皮性腫瘍の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
12	病理組織学演習(V)： 非上皮性腫瘍の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
13	病理組織学演習(VI)： 混合腫瘍、その他特殊な腫瘍の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
14	老化の病理： 老化現象、老化の形態学、加齢変化と老人病について学習する。	講義	矢田	402講義室
15	病理組織理解度確認テスト	テスト	松尾 矢田 張	コンピュータ演習室

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美、張 皿						

授業の概要

口腔病理学 は病理学における一各論と位置付けられ、口腔顎顔面領域という臓器・組織の特殊性を十分把握しながらそこに起こる病変の特徴などについて理解することを主眼とする。口腔病理学 では、歯の発育異常、齲蝕、歯の機械的・化学的損傷、歯髓の病変、根尖病変、顎・顎関節の病変、歯頸部の病変、口腔粘膜病変、非歯原性腫瘍について講義し、それらの病理組織学的所見について理解を深めるための演習を行う。

学生の到達目標

- 歯と歯周組織に生じる疾患の病因、病態、病理組織学的特徴を説明できる。
- 口腔粘膜疾患の病因、病態、病理組織学的特徴を説明できる。
- 口腔顎顔面領域の腫瘍および腫瘍様疾患の病因、病態、病理組織学的特徴を説明できる。
- 顎関節疾患の病因、病態、病理組織学的特徴を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4	(3)		主な炎症（舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、歯性上顎洞炎等）を概説できる。
E	2	4	(4)		口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。
E	2	4	(4)		水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。
E	2	4	(5)		非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4	(5)		腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4	(5)		エプーリスの特徴、症状および治療法を説明できる。
E	2	4	(5)		口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。
E	2	4	(6)		顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。
E	2	4	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す全身的な腫瘍と腫瘍類似疾患およびその症状を列挙できる。
E	3	2			歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。
E	3	2			歯の発育障害と加齢変化の病因と病態を説明できる。
E	3	2			歯髓・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。
E	3	2			歯周疾患の病因と病態を説明できる。

テキスト

プリントを配布する。
出)

著)

参考書

新口腔病理学
出)医歯薬出版

著)編集：下野正基、高田隆

口腔病理アトラス 第2版
出)文光堂

著)監修：高木實

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡、矢田 直美、張 皿						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	75%
口腔病理組織理解度確認テスト	25%

その他

(教員名 : オフィスアワー)
松尾 拡 : 月～木 17:00～19:00
矢田 直美 : 月～木 17:00～19:00
張 皿 : 月～木 17:00～19:00

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美、張 皿						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	歯の発育異常： 歯の発育異常とその分類，成因，臨床的な意義について学習する。	講義	松尾	402講義室
2	齲蝕： 齲蝕の歴史，疫学，病態，原因論，臨床像や組織像を通しての齲蝕の進行過程，齲蝕円錐について学習する。	講義	松尾	402講義室
3	歯の機械的・化学的損傷および歯髓の病変について学習する。	講義	松尾	402講義室
4	根尖部病変、顎骨の炎症：根尖性歯周炎、顎骨骨髓炎を中心に，原因，分類，臨床病理学の特徴，病理発生を学習する。	講義	松尾	402講義室
5	顎・顎関節の病変： 顎・顎関節の外傷、顎関節症、顎関節炎、腫瘍および腫瘍状病変について学習する。	講義	松尾	402講義室
6	口腔病理組織学演習(I)： 咬耗・摩耗・齲蝕、歯髓炎の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
7	口腔病理組織学演習(II)： 根尖病変、顎骨の炎症、顎・顎関節の病変について病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
8	歯頸部病変、エプーリス： 歯肉炎や辺縁性歯周炎，エプーリスの病因，臨床病理学の特徴，病理発生，外傷性咬合の意義，矯正移動の原理との関連について学習する。	講義	松尾	402講義室
9	非歯原性腫瘍(1)： 口腔顎顔面領域の非歯原性腫瘍および腫瘍様病変について学習する。	講義	松尾	402講義室
10	非歯原性腫瘍(2)： 口腔顎顔面領域の非歯原性腫瘍および腫瘍様病変について学習する。	講義	松尾	402講義室
11	口腔粘膜疾患(1)： 口腔粘膜における色素沈着、感染症について学習する。	講義	松尾	402講義室
12	口腔粘膜疾患(2)： 口腔粘膜における皮膚科的疾患、血液疾患、移植片対宿主病、外傷について学習する。	講義	松尾	402講義室
13	口腔病理組織学演習(III)： 歯頸部病変、エプーリス、非歯原性腫瘍の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
14	口腔病理組織学演習(IV)： 口腔粘膜疾患の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
15	口腔病理組織理解度確認テスト	演習	松尾 矢田 張	コンピュータ演習室

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美、張 皿						

授業の概要

口腔病理学IIIに引き続き、口腔病理学IVでは口腔顎顔面領域に起こる病変の特徴などについて理解することを目的とする。ここでは、口腔粘膜の前癌病変、口腔癌、唾液腺疾患、嚢胞性疾患および歯源性腫瘍について講義し、それらの病理組織学的所見について理解を深めるための演習を行う。

学生の到達目標

- 口腔粘膜疾患の病因、病態、病理組織学的特徴を説明できる。
- 口腔顎顔面領域の嚢胞、腫瘍および腫瘍様疾患の病因、病態、病理組織学的特徴を説明できる。
- 唾液腺疾患の病因、病態、病理組織学的特徴を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4	(5)		顎骨に発生する歯源性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4	(5)		顎骨に発生する非歯源性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4	(5)		軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4	(5)		歯源性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4	(5)		前癌病変（白板症、紅板症）の特徴、症状および治療法を説明できる。
E	2	4	(5)		前癌状態の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4	(5)		口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。
E	2	4	(5)		口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。
E	2	4	(7)		唾石症の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4	(7)		唾液腺炎の種類と特徴、症状、診断法および治療法を概説できる。
E	2	4	(7)		唾液腺腫瘍の種類と特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4	(7)		流行性耳下腺炎の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4	(7)		Sjogren 症候群の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。

テキスト

プリントを配布する。
出)

著)

参考書

新口腔病理学
出)医歯薬出版

著)編集：下野正基、高田隆

口腔病理アトラス 第2版
出)文光堂

著)監修：高木實

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡、矢田 直美、張 皿						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	75%
口腔病理組織理解度確認テスト	25%

その他

(教員名 : オフィスアワー)
松尾 拡 : 月~木 17:00~19:00
矢田 直美 : 月~木 17:00~19:00
張 皿 : 月~木 17:00~19:00

2017年度

口腔病理学 (Oral Pathology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美、張 皿						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	口腔癌およびその前癌病変、前癌状態などについて学習する。	講義	矢田	501講義室
2	唾液腺の非腫瘍性病変： 唾液腺に生ずる主な非腫瘍性病変について学習する。	講義	矢田	501講義室
3	唾液腺腫瘍： WHOの唾液腺腫瘍の分類、主な唾液腺腫瘍の病態について学習する。	講義	矢田	501講義室
4	口腔病理組織学演習(I)： 前癌病変の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
5	口腔病理組織学演習(II)： 唾液腺の腫瘍性病変について病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
6	口腔顎顔面領域の嚢胞性疾患 (I)： 嚢胞の定義，病理発生，病態，分類について学習する。	講義	張	501講義室
7	口腔顎顔面領域の嚢胞性疾患 (II)： 顎骨内および口腔や頭頸部の軟組織に発生する代表的な嚢胞性疾患について学習する。	講義	張	501講義室
8	歯源性腫瘍： WHOの分類に基づき、歯源性腫瘍の概念、特徴、主な歯源性腫瘍の病態について学習する。	講義	松尾	501講義室
9	口腔病理組織学演習(III)： 顎顔面領域に生ずる嚢胞の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
10	口腔病理組織学演習(IV)： 顎顔面領域に生ずる嚢胞の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
11	口腔病理組織学演習(V)： 顎顔面領域に生ずる嚢胞の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
12	口腔病理組織学演習(VI)： 歯源性腫瘍の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
13	口腔病理組織学演習(VII)： 歯源性腫瘍の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
14	口腔病理組織学演習(VIII)： 歯源性腫瘍の病理組織像を観察、図説し、その理解を深める。	演習	松尾	コンピュータ演習室
15	口腔病理組織理解度確認テスト	テスト	松尾 矢田 張	コンピュータ演習室

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	歯学科3年、口腔保健学科2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、有吉 渉、沖永 敏則						

授業の概要

感染症の発症メカニズムを感染と免疫の両面から教え、歯科における2大疾患である齲蝕と歯周病が細菌感染症であることを教える。「感染と免疫」の知識を深めていくなかで、将来、全身を理解したうえで歯科医療人として活動していくために、必要不可欠な知識を伝える。

学生の到達目標

微生物の形態学的特徴と生理学的性状を説明できる。
微生物の病原性、宿主の抵抗性、感染と発症、感染経路、感染の種類を説明できる。
スタンダードプリコーションの概念および感染予防対策について説明できる。
感染症に対する化学療法を中心とした治療法について説明できる。
主要な病原性細菌、病原性ウイルス、病原性真菌について説明できる。
免疫の種類、免疫機構、アレルギー、免疫疾患、ワクチンについて説明できる。
口腔環境と口腔常在微生物を説明できる。
歯のバイオフィルムの形成過程とその意義を説明できる。
齲蝕や歯周病の原因菌について説明できる。
顎・口腔領域の感染症について説明できる。
講義、国内外の教科書・論文、検索情報などの内容について、重要事項や問題点を抽出して文章または口頭でわかりやすく説明できる。
得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えをわかりやすく表現できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	3	1			細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。
C	3	1			細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。
C	3	1			清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。
C	3	1			化学療法の目的、原理、作用機序および薬剤耐性機序を説明できる。
C	3	1			新興・再興感染症について説明できる。
C	3	1			院内感染について、原因、予防法について説明できる。
C	3	2			自然免疫と獲得免疫について説明できる。
C	3	2			細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。【抗体の種類と特徴を含む。】
C	3	2			免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。
C	3	2			自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。
C	3	2			アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む】
C	3	2			免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。
C	3	2			ワクチンの意義と問題点を説明できる。
E	2	4	(3)		歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。
E	2	4	(3)		口唇・口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。
E	2	4	(3)		菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。
E	2	4	(7)		流行性耳下腺炎の特徴、症状、診断法および治療を説明できる。

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	歯学科3年、口腔保健学科2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、有吉 渉、沖永 敏則						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す感染症の種類とその症状を列挙できる。
E	3	2			歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。
E	3	2			歯周疾患の病因と病態を説明できる。
E	3	2			口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。

テキスト

口腔微生物学・免疫学 第4版
出)医歯薬出版

著)川端重忠、小松澤均、大原直也、
寺尾豊、浜田茂幸 編集

新・歯科衛生士教育マニュアル Microbiology 微生物学
出)クインテッセンス出版株式会社 著)上西秀則、井上博雅、山中武志
編

参考書

標準微生物学 改訂第12版
出)医学書院

著)中込治、神谷茂 編

標準免疫学 第3版
出)医学書院

著)谷口克監修・宮崎昌之、小安重夫
編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	歯学科3年、口腔保健学科2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、有吉 渉、沖永 敏則						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	感染症学・免疫学総論：感染症学・免疫学の学問体系、微生物の分類について理解する。	講義	西原	301講義室
2	細菌学総論：細菌の形、大きさ、染色性、共通構造と特殊構造、細菌の増殖、代謝および物質輸送について理解する。	講義	西原	301講義室
3	真菌学・ウイルス学総論：真菌及びウイルスの種類、形態、構造、増殖について理解する。	講義	有吉	301講義室
4	感染と発症：感染、汚染、伝染の定義、宿主と寄生体の相互関係、常在細菌叢、内因感染と外因感染、感染経路、院内感染、1類、2類および3類感染症について理解する。	講義	西原	301講義室
5	滅菌と消毒：滅菌と消毒の定義、スタンダードプレコーション、滅菌の条件、消毒薬の作用機序について理解する。 化学療法薬：化学療法薬の作用機序とその耐性機構について理解する。	講義	沖永	301講義室
6	細菌学各論1：グラム陽性細菌感染症について理解する。	講義	沖永	301講義室
7	細菌学各論2：グラム陰性菌感染症およびスピロヘータ感染症、マイコプラズマ感染症、クラミジア感染症、リケッチア感染症について理解する。	講義	有吉	301講義室
8	真菌学各論：真菌感染症について理解する。 ウイルス学各論1：DNAウイルス感染症について理解する。	講義	有吉	301講義室
9	ウイルス学各論2：RNAウイルス感染症や肝炎ウイルス感染症について理解する。	講義	有吉	301講義室
10	免疫学各論1：免疫担当細胞および自然免疫と獲得免疫について理解する。	講義	沖永	301講義室
11	免疫学各論2：免疫寛容、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全、ワクチン、口腔局所の感染防御について理解する。	講義	沖永	301講義室
12	口腔細菌の特徴：口腔常在細菌の分類と組成の特徴・プラークの病因論的意義について理解する。	講義	沖永	301講義室
13	齲蝕の細菌学1：齲蝕の病態、齲蝕と細菌、mutans streptococciの病原因子について理解する。	講義	有吉	301講義室
14	歯周病の細菌学1：歯周病の病態、細菌感染症としての歯周病、歯周病原性細菌の病原因子について理解する。	講義	沖永	301講義室
15	口腔感染症各論：口腔領域の感染症全般、全身感染症との関わりについて理解する。	講義	有吉	301講義室

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、有吉 渉、沖永 敏則、〔非常勤講師〕山下 喜久、〔非常勤講師〕小松澤 均						

授業の概要

感染症の発症メカニズムを感染と免疫の両面から教え、歯科における2大疾患である齲蝕と歯周病が細菌感染症であることを教える。「感染と免疫」の知識を深めていくなかで、将来、全身を理解したうえで歯科医師として活動していくために、必要不可欠な知識を伝える。特に「感染と免疫II」では、近年著しく進歩した免疫学について細胞分子レベルで解説する。

学生の到達目標

- 微生物の培養法と細菌の顕微鏡観察法について説明できる。
- 微生物実験に必要な無菌操作について説明できる。
- 薬剤耐性獲得のメカニズムについて説明できる。
- 免疫システムのメカニズムについて説明できる。
- 粘膜免疫および口腔局所の感染防御のメカニズムについて説明できる。
- 免疫記憶のメカニズムについて説明できる。
- アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全の種類、発症機序と病態を説明できる。
- 細菌学および免疫学的観点から齲蝕を説明できる。
- 細菌学および免疫学的観点から歯周病を説明できる。
- 口腔内細菌と全身疾患の関連性について説明できる。
- 講義、国内外の教科書・論文、検索情報などの内容について、重要事項や問題点を抽出して文章または口頭でわかりやすく説明できる。
- 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えをわかりやすく表現できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	3	1)			細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。
C	3	1)			細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。
C	3	1)			清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。
C	3	1)			化学療法の目的、原理、作用機序および薬剤耐性機序を説明できる。
C	3	1)			新興・再興感染症について説明できる。
C	3	1)			院内感染について、原因、予防法について説明できる。
C	3	2)			自然免疫と獲得免疫について説明できる。
C	3	2)			細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。【抗体の種類と特徴を含む。】
C	3	2)			免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。
C	3	2)			自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。
C	3	2)			アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む。】
C	3	2)			免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。
C	3	2)			ワクチンの意義と問題点を説明できる。
E	2	2)	(3)		歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。
E	2	2)	(3)		菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。
E	3	2)			歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、有吉 渉、沖永 敏則、〔非常勤講師〕山下 喜久、〔非常勤講師〕小松澤 均						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	2)			歯周疾患の病因と病態を説明できる。
E	3	2)			口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。
E	3	3)	(3)		歯周疾患の症状を説明できる。【疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】

テキスト

口腔微生物学・免疫学 第4版
出)医歯薬出版

著)川端重忠、小松澤均、大原直也、
寺尾豊、浜田茂幸 編集

参考書

標準微生物学 改訂第12版
出)医学書院

著)中込治、神谷茂 編

標準免疫学 第3版
出)医学書院

著)谷口克監修・宮崎昌之、小安重夫
編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、有吉 渉、沖永 敏則、〔非常勤講師〕山下 喜久、〔非常勤講師〕小松澤 均						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	微生物学実習：実習概要の説明を受ける。	実習	西原、有吉、沖永	402講義室
2	微生物学実習：微生物学に関わる実習手技やスタンダードプリコーションに関する基礎実習について学ぶ。	実習	西原、有吉、沖永	51実習室
3	微生物学実習：微生物学に関わる実習手技やスタンダードプリコーションに関する基礎実習について学ぶ。	実習	西原、有吉、沖永	51実習室
4	特別講義：細菌遺伝学を踏まえた細菌感染症について理解する。	講義	小松澤	402講義室
5	特別講義：細菌遺伝学を踏まえた細菌感染症について理解する。	講義	小松澤	402講義室
6	免疫学各論3：自然免疫における認識と抗原の処理・提示のメカニズムについて理解する。	講義	山下	402講義室
7	免疫学各論4：体液性免疫のメカニズムについて理解する。	講義	沖永	402講義室
8	免疫学各論5：細胞性免疫のメカニズムについて理解する。	講義	沖永	402講義室
9	免疫学各論6：粘膜免疫、唾液をはじめとする口腔局所感染防御について理解する。	講義	有吉	402講義室
10	免疫学各論7：免疫寛容、免疫疾患のメカニズム、免疫記憶、ワクチン、免疫療法について理解する。	講義	有吉	402講義室
11	齲蝕の細菌学2：mutans streptococciのビルレンス因子、齲蝕に関わる宿主因子について理解する。	講義	有吉	402講義室
12	歯周病の細菌学2：歯周病原性細菌と宿主応答について理解する。	講義	沖永	402講義室
13	特別講義：感染症学研究の最前線について学ぶ。	講義	山下	402講義室
14	特別講義：感染症学研究の最前線について学ぶ。	講義	山下	402講義室
15	歯周医学：口腔細菌と全身疾患との関連について理解する。	講義	西原	402講義室

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、安細 敏弘、東 泉、福原 正代、有吉 渉、沖永 敏則 コースディレクター：西原達次 ファシリテーター：安細敏弘 東泉 福原正代 有吉渉 沖永敏則 チューター：教員数名						

授業の概要

感染症の発症メカニズムを感染と免疫の両面から教える。この授業では、チュートリアル学習を教育手法として用いて、「感染と免疫」の知識を深めることを目指す。「感染と免疫III」と「感染と免疫IV」は、学生自身が自己学習し、感染症の知識を深めることを目的としたチュートリアル教育を行う。

学生の到達目標

- 歯周病の原因、歯周組織破壊の機序、口腔の免疫について説明できる。
- 歯周病と全身疾患の関連について説明できる。
- 口腔・咽頭周囲の微生物や誤嚥性肺炎などの感染症を理解するとともに、口腔ケアの意義について説明できる。
- 針刺し事故に伴う感染のリスクについて説明できる。
- アレルギーの基本的な知識を確認するとともに、歯科で問題となるラテックスアレルギー、アナフィラキシーへの対処について説明できる。
- 教科書、論文、検索情報などの重要事項を統合し、文章または口頭でわかりやすくプレゼンテーションできる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	3	1			細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。
C	3	2			アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む。】
E	2	4	(3)		歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。
E	2	4	(3)		菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。
E	2	4	(3)		歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。
E	3	2			歯周疾患の病因と病態を説明できる。
E	4	3			高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
F	4				針刺し事故に対する対応ができる。

テキスト

口腔微生物学・免疫学 第4版
出)医歯薬出版

著)川端重忠、小松澤均、大原直也、
寺尾豊、浜田茂幸 編集

参考書

標準微生物学 改訂第12版
出)医学書院

著)中込治、神谷茂 編

標準免疫学 第3版
出)医学書院

著)谷口克監修・宮崎昌之、小安重夫
編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
小論文	90%
チューターによる評価(実習態度・プレゼンテーション能力)及びレポート	10%

・小論文の採点は、ファシリテーターおよびチューターの意見を踏まえ、コースディレクターの総括のもと最終判定を下す。

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、安細 敏弘、東 泉、福原 正代、有吉 渉、沖永 敏則 コースディレクター：西原達次 ファシリテーター：安細敏弘 東泉 福原正代 有吉渉 沖永敏則 チューター：教員数名						

その他

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、安細 敏弘、東 泉、福原 正代、有吉 渉、沖永 敏則 コースディレクター：西原達次 ファシリテーター：安細敏弘 東泉 福原正代 有吉渉 沖永敏則 チューター：教員数名						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	チュートリアル説明会：チュートリアルの実施方法について理解する。	実習	西原 ファシリテ ーター	402講義室
2	課題1：チュートリアル学習1：シナリオ1から問題点の抽出を行い、自己学習課題を決定する。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
3	課題1：チュートリアル学習2：自己学習課題に沿って、レポートをまとめ、発表準備を行う。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
4	課題1：チュートリアル学習3：シナリオ1に関するプレゼンを行う。シナリオ2から問題点の抽出を行い、自己学習課題を決定する。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
5	課題1：チュートリアル学習4：自己学習課題に沿って、レポートをまとめ、発表準備を行う。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
6	課題1：チュートリアル学習5：シナリオ2に関するプレゼンを行う。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
7	課題1：チュートリアル学習6：シナリオ1および2に関し、自己学習課題でカバーできなかった項目について学習し、レポートをまとめる。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
8	課題2：チュートリアル学習1：シナリオ1から問題点の抽出を行い、自己学習課題を決定する。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
9	課題2：チュートリアル学習2：自己学習課題に沿って、レポートをまとめ、発表準備を行う。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
10	課題2：チュートリアル学習3：シナリオ1に関するプレゼンを行う。シナリオ2から問題点の抽出を行い、自己学習課題を決定する。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
11	課題2：チュートリアル学習4：自己学習課題に沿って、レポートをまとめ、発表準備を行う。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
12	課題2：チュートリアル学習5：シナリオ2に関するプレゼンを行う。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
13	課題2：チュートリアル学習6：シナリオ1および2に関し、自己学習課題でカバーできなかった項目について学習し、レポートをまとめる。	実習	チューター	チュートリアル 演習室
14	チュートリアル学習総括1：課題1及び課題2における学習課題について解説を受け、ディスカッションを行う。	実習	西原 ファシリテ ーター	チュートリアル 演習室 402講義室
15	チュートリアル学習総括2：課題1及び課題2における学習課題について解説を受け、ディスカッションを行う。	実習	西原 ファシリテ ーター	チュートリアル 演習室 402講義室

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、安細 敏弘、東 泉、福原 正代、有吉 渉、沖永 敏則 コースディレクター：西原達次 ファシリテーター：安細敏弘 東泉 福原正代 有吉渉 沖永敏則 チューター：教員数名						

授業の概要

感染症の発症メカニズムを感染と免疫の両面から教える。この授業では、チュートリアル学習を教育手法として用いて、「感染と免疫」の知識を深めることを目指す。「感染と免疫III」と「感染と免疫IV」は、学生自身が自己学習し、感染症の知識を深めることを目的としたチュートリアル教育を行う。

学生の到達目標

- 歯周病の原因、歯周組織破壊の機序、口腔の免疫について説明できる。
- 歯周病と全身疾患の関連について説明できる。
- 口腔・咽頭周囲の微生物や誤嚥性肺炎などの感染症を理解するとともに、口腔ケアの意義について説明できる。
- 針刺し事故に伴う感染のリスクについて説明できる。
- アレルギーの基本的な知識を確認するとともに、歯科で問題となるラテックスアレルギー、アナフィラキシーへの対処について説明できる。
- 教科書、論文、検索情報などの重要事項を統合し、文章または口頭でわかりやすくプレゼンテーションできる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	3	1			細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。
C	3	2			アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む。】
E	2	4	(3)		歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。
E	2	4	(3)		菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。
E	2	4	(3)		歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。
E	3	2			歯周疾患の病因と病態を説明できる。
E	4	3			高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
F	4				針刺し事故に対する対応ができる。

テキスト

口腔微生物学・免疫学 第4版
出)医歯薬出版

著)川端重忠、小松澤均、大原直也、
寺尾豊、浜田茂幸 編集

参考書

標準微生物学 改訂第12版
出)医学書院

著)中込治、神谷茂 編

標準免疫学 第3版
出)医学書院

著)谷口克監修・宮崎昌之、小安重夫
編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
小論文	90%
チューターによる評価(実習態度・プレゼンテーション能力)及びレポート	10%

・小論文の採点は、ファシリテーターおよびチューターの意見を踏まえ、コースディレクターの総括のもと最終判定を下す。

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、安細 敏弘、東 泉、福原 正代、有吉 渉、沖永 敏則 コースディレクター：西原達次 ファシリテーター：安細敏弘 東泉 福原正代 有吉渉 沖永敏則 チューター：教員数名						

その他

2017年度

感染と免疫 (Infection and Immunity)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、安細 敏弘、東 泉、福原 正代、有吉 渉、沖永 敏則 コースディレクター：西原達次 ファシリテーター：安細敏弘 東泉 福原正代 有吉渉 沖永敏則 チューター：教員数名						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	課題3：チュートリアル学習1：シナリオ1から問題点の抽出を行い、自己学習課題を決定する。	実習	チューター	チュートリアル演習室
2	課題3：チュートリアル学習2：自己学習課題に沿って、レポートをまとめ、発表準備を行う。	実習	チューター	チュートリアル演習室
3	課題3：チュートリアル学習3：シナリオ1に関するプレゼンを行う。シナリオ2から問題点の抽出を行い、自己学習課題を決定する。	実習	チューター	チュートリアル演習室
4	課題3：チュートリアル学習4：自己学習課題に沿って、レポートをまとめ、発表準備を行う。	実習	チューター	チュートリアル演習室
5	課題3：チュートリアル学習5：シナリオ2に関するプレゼンを行う。	実習	チューター	チュートリアル演習室
6	課題3：チュートリアル学習6：シナリオ1および2に関し、自己学習課題でカバーできなかった項目について学習し、レポートをまとめる。	実習	チューター	チュートリアル演習室
7	課題4：チュートリアル学習1：シナリオ1から問題点の抽出を行い、自己学習課題を決定する。	実習	チューター	チュートリアル演習室
8	課題4：チュートリアル学習2：自己学習課題に沿って、レポートをまとめ、発表準備を行う。	実習	チューター	チュートリアル演習室
9	課題4：チュートリアル学習3：シナリオ1に関するプレゼンを行う。シナリオ2から問題点の抽出を行い、自己学習課題を決定する。	実習	チューター	チュートリアル演習室
10	課題4：チュートリアル学習4：自己学習課題に沿って、レポートをまとめ、発表準備を行う。	実習	チューター	チュートリアル演習室
11	課題4：チュートリアル学習5：シナリオ2に関するプレゼンを行う。	実習	チューター	チュートリアル演習室
12	課題4：チュートリアル学習6：シナリオ1および2に関し、自己学習課題でカバーできなかった項目について学習し、レポートをまとめる。	実習	チューター	チュートリアル演習室
13	チュートリアル学習総括1：課題3および課題4における学習課題について解説を受け、ディスカッションを行う。	実習	西原 ファシリテーター	チュートリアル演習室 402講義室
14	チュートリアル学習総括2：課題3および課題4における学習課題について解説を受け、ディスカッションを行う。	実習	西原 ファシリテーター	チュートリアル演習室 402講義室
15	チュートリアル課題レポート作成：提示された課題テーマに関する小論文形式のレポートを作成する。	実習	西原 ファシリテーター	401講義室 402講義室

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業の概要

薬理学は薬物と生体がどのように作用しあうかを研究する学問で、歯科で使用される薬物を対象とするのが歯科薬理学である。薬理学は基礎医学であるが、臨床医学とも密接な関係を持つ。

高齢社会において、歯科治療を受ける患者の多くは疾患を有し、多くの薬を使用している。この状況を考慮して、将来歯科医師として、医薬品を患者に有効かつ安全に投与するために必要な基本事項及び末梢神経系作用薬の講義を行う。临床上の具体例や新薬などについて、また薬害を防止するための様々な制度と薬害訴訟問題についても盛り込む。

学生の到達目標

- 医薬品の分類を説明できる。
- 毒薬、劇薬および麻薬等の表示と保管を説明できる。
- 日本薬局方を説明できる。
- 薬物療法（原因、対症療法）を説明できる。
- 薬理作用の基本形式と分類を説明できる。
- 薬物の作用機序を説明できる。
- 薬理作用を規定する要因（用量と反応、感受性）を説明できる。
- 小児、妊婦および高齢者への薬物適用上の注意を説明できる。
- 薬物の連用の影響（薬物耐性、蓄積および薬物依存）を説明できる。
- 薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
- 薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。
- 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。
- 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。
- 末梢神経系作用薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 平滑筋作用薬の分類とその作用機序が説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	1)			医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例（経緯を含む）、やっつけられないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
C	2	3)	(5)		神経伝達物質の種類と機能を説明できる。
C	5	1)			医薬品の分類を説明できる。
C	5	1)			毒薬、劇薬および麻薬等の表示と保管を説明できる。
C	5	1)			日本薬局方を説明できる。
C	5	2)			薬物療法（原因療法、対症療法）を説明できる。【歯科臨床において適用される薬物の特徴を含む。】
C	5	2)			薬理作用の基本形式と分類を説明できる。
C	5	2)			薬物の作用機序を説明できる。
C	5	2)			薬理作用を規定する要因（用量と反応、感受性）を説明できる。
C	5	2)			薬物の連用の影響（薬物耐性、蓄積および薬物依存）を説明できる。
C	5	2)			薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。
C	5	3)			薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	5	3)			薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)を説明できる。
C	5	4)			薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
E	1	3)	(4)		全身麻酔の目的と種類ならびに特徴を説明できる。【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用および使用機器・器具を含む。】

テキスト

現代歯科薬理学 第5版
出)医歯薬出版

著)加藤・篠田 監修

参考書

グッドマン・ギルマン薬理書 第12版
出)廣川書店

著)高折修二他 監訳

NEW 薬理学 改訂第6版
出)南江堂

著)加藤隆一 他編

歯科薬理学 第5版
出)医歯薬出版

著)石田甫 他編

病態生理に基づく臨床薬理学
出)MEDSi

著)清野裕 監修

治療薬マニュアル2017
出)医学書院)

著)高久史磨 他監修

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	100%

確認テストで60点未満の者に対して行う再試験は1回のみとする。

その他

(学習相談)原則として、時間予約を電話またはメールにて行うこと。

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	薬理学概論 薬理学講義の導入として薬理学の概念と分類、薬理作用の基本形式、基本的な薬物療法の種類と併用、および薬物の用量と作用の関係について学習する。	講義	竹内	402講義室
2	薬理作用と作用機序 薬物の作用点として重要な膜タンパク質（受容体、イオンチャネル、トランスポーター）の分類と構造学的特徴、細胞における機能と特徴を学習する。	講義	竹内	402講義室
3	薬理作用と作用機序 薬物の作用点として重要な標的分子のうち、酵素及びその他の細胞構成分子（脂質膜、核酸等）の細胞における機能と薬物作用点としての特徴を学習する。	講義	竹内	402講義室
4	薬理作用を規定する要因 薬理作用を規定する要因のうち生体側の因子として年齢（小児と高齢者）、遺伝的要因、投与時刻等を中心に学習する。また薬物の連用による影響（薬物耐性、薬物依存）や併用による影響と薬物間や薬物・食物間の相互作用について学習する。	講義	竹内	402講義室
5	有害作用・副作用 薬物の一般的な副作用（薬物アレルギー、各臓器の障害や催奇形性）と口腔及び顎顔面領域に現れる副作用・有害作用と薬物の関係を学習する。	講義	竹内	402講義室
6	薬物適用と薬物動態 薬の生体内運命（吸収、分布、代謝、排泄）のうち、吸収に関する基本的知識（初回通過効果、バイオアベイラビリティ）を学習する。	講義	東	402講義室
7	薬物適用と薬物動態 薬の生体内運命のうち、分布および代謝に関する基本的知識（分布容積、薬物代謝酵素）について学習する。	講義	東	402講義室
8	薬物適用と薬物動態 薬物の消失過程である排泄の基本的知識（生物学的半減期、クリアランス）について、また病態や年齢による薬物動態の変化について学習する。	講義	東	402講義室
9	医薬品と関連法規 医薬品の概論と、関連する法律（医薬品医療機器等法など）・日本薬局方について学習する。	講義	大住	402講義室
10	医薬品の開発、医薬品情報 新規医薬品開発のプロセス、ジェネリック医薬品、医薬品情報の収集方法について学習する。	講義	大住	402講義室
11	自律神経系作用薬 自律神経系作用薬の概論と、副交感神経作動薬について学習する。	講義	大住	402講義室
12	自律神経系作用薬 副交感神経遮断薬、交感神経作動薬について学習する。	講義	大住	402講義室
13	自律神経系作用薬 交感神経作動薬、交感神経遮断薬について学習する。	講義	大住	402講義室
14	末梢性筋弛緩薬・平滑筋作用薬 末梢性筋弛緩薬、平滑筋作用薬について学習する。	講義	大住	402講義室
15	薬理学・歯科薬理学 のまとめと確認テスト	確認テスト	竹内 大住 東	401講義室 402講義室

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業の概要

歯科で常用される薬物や歯科専用薬剤について講義する。また医科で使用される薬物の各論、特に高齢者が使用することが多い薬物との薬物相互作用などに重点をおいて講義を行い、将来歯科医師として、医薬品を患者に有効にかつ安全に投与できる能力を育成する。また、薬害訴訟に発展した事例にも触れながら、新規医薬品に適切に対応できる基礎能力を養う。

学生の到達目標

- 歯科治療時に留意すべき使用薬物を説明できる。
- 中枢神経系作用薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 全身疾患を有する患者への薬物適用上の注意を説明できる。
- 救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。
- 血液系作用薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 消化器系作用薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 重要な全身疾患を説明できる。
- 局所麻酔薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 歯科専用薬剤の分類とその作用機序が説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3)	(5)		血液脳関門を説明できる。
C	2	3)	(5)		神経伝達物質の種類と機能を説明できる。
C	2	3)	(11)		止血と血液凝固の機序を説明できる。【線溶系を含む。】
C	3	1)			清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。
C	5	2)			薬物の作用機序を説明できる。
C	5	2)			薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。
C	5	4)			薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
E	1	1)			口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	1	1)			処方と処方箋の書き方を説明できる。【インフォームドコンセントと医療面接についてはA-4 とA-7-2)を参照】
E	1	3)	(1)		歯科治療時に注意を要する全身疾患(小児も含む)を説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	1	3)	(1)		患者の服用薬物と歯科治療の関連について説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	1	3)	(3)		局所麻酔薬を分類し、その作用機序を説明できる。
E	1	3)	(3)		局所麻酔作用に影響を及ぼす因子を説明できる。
E	1	3)	(3)		血管収縮薬の使用目的と種類、特徴および臨床使用上の注意を説明できる。
E	1	3)	(4)		全身麻酔の目的と種類ならびに特徴を説明できる。【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用および使用機器・器具を含む。】
E	3	3)	(2)		歯髄・根尖歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。【検査法を含む。疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	3)	(3)		歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。【検査法、メンテナンス法を含む。】
E	3	3)	(4)		象牙質知覚過敏症を適切に処置できる。

テキスト

現代歯科薬理学 第5版
出)医歯薬出版

著)加藤・篠田 監修

参考書

グッドマン・ギルマン薬理学 第12版
出)廣川書店

著)高折修二 他監訳

NEW 薬理学 改訂第6版
出)南江堂

著)加藤隆一 他編

歯科薬理学 第5版
出)医歯薬出版

著)石田甫 他編

病態生理に基づく臨床薬理学
出)MEDSi

著)清野裕 監修

治療薬マニュアル 2017
出)医学書院

著)高久史磨 他監修

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

定期試験で60点未満の者に対して行う再試験は1回のみとする。

その他

(学習相談)原則として、時間予約を電話またはメールにて行うこと。

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	中枢神経系作用薬 中枢神経作用薬のうち、全身麻酔薬、鎮静薬について学習する。	講義	東	501講義室
2	中枢神経系作用薬 麻薬性鎮痛薬，精神疾患に用いられる薬について学習する。	講義	東	501講義室
3	中枢神経系作用薬 神経疾患に用いられる薬について学習する。	講義	東	501講義室
4	中枢神経系作用薬 神経疾患に用いられる薬について学習する。	講義	東	501講義室
5	局所麻酔薬 局所麻酔薬の作用について学習する。	講義	東	501講義室
6	血液系作用薬 血液凝固系と線溶系の概論、血液凝固阻止薬（抗凝固薬、抗血栓薬、血栓溶解薬）について詳細に学習する。	講義	大住	501講義室
7	血液系作用薬 血液凝固阻止薬、止血薬について学習する。	講義	大住	501講義室
8	血液系作用薬 貧血治療薬、抗高脂血症薬、痛風・高尿酸血症治療薬について学習する。	講義	大住	501講義室
9	消化器系作用薬 消化性潰瘍治療薬、消化管運動調整薬、制吐薬について学習する。	講義	東	501講義室
10	糖尿病治療薬 糖尿病治療薬を中心とする代謝系疾患治療薬の種類と作用機序、副作用について学習する。	講義	竹内	501講義室
11	ホルモン剤 ホルモンの薬物としての臨床応用について学習する。	講義	竹内	501講義室
12	骨作用薬 骨代謝を調節するホルモンの概要と組織に作用する薬物の種類及び作用機序と骨粗鬆症などへの臨床応用について学習する。	講義	竹内	501講義室
13	ビタミン剤 臨床応用されるビタミンについて生理機能を学習する。	講義	竹内	501講義室
14	消毒薬 消毒薬の種類と作用機序と臨床応用について学習する。	講義	竹内	501講義室
15	歯科専用薬剤 歯内療法、歯周疾患治療薬の種類と作用機序及び臨床応用について学習する。	講義	竹内	501講義室

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉、園木 一男						

授業の概要

歯科で繁用される薬物や歯科専用薬剤について講義する。医科で使用される薬物の各論、特に高齢者が使用することが多い薬物との薬物相互作用などに重点をおいて講義を行い、将来歯科医師として、医薬品を患者に有効かつ安全に投与できる能力を育成する。また、薬害訴訟に発展した事例にも触れながら、新規医薬品に適切に対応できる基礎能力を養う。

学生の到達目標

- 歯科治療時に留意すべき使用薬物を説明できる。
- 小児、妊婦および高齢者への薬物適用上の注意を説明できる。
- 全身疾患を有する患者への薬物適用上の注意を説明できる。
- 循環器系作用薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 抗炎症薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。
- 呼吸器系作用薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 化学療法薬・消毒薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 口腔癌の特徴、治療法を説明できる。
- 免疫系作用薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 重要な全身疾患を説明できる。
- 処方と処方箋の書き方を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	5	2)			薬理作用の基本形式と分類を説明できる。
C	5	2)			薬物の作用機序を説明できる。
C	5	2)			薬理作用を規定する要因(用量と反応、感受性)を説明できる。
C	5	2)			薬物の連用の影響(薬物耐性、蓄積および薬物依存)を説明できる。
C	5	2)			薬物の併用(協力作用、拮抗作用、相互作用)を説明できる。
C	5	3)			薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。
C	5	3)			薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)を説明できる。
C	5	4)			薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
E	1	1)			処方と処方箋の書き方を説明できる。【インフォームドコンセントと医療面接についてはA-4とA-7-2)を参照】
E	4	3)			高齢者に多くみられる疾患を説明できる。

テキスト

現代歯科薬理学 第5版
出)医歯薬出版

著)加藤・篠田 監修

参考書

グッドマン・ギルマン薬理学 第12版
出)廣川書店

著)高折修二 他監訳

NEW 薬理学 改訂第6版
出)南江堂

著)加藤隆一 他編

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉、園木 一男						

歯科薬理学 第5版

出)医歯薬出版

著)石田甫 他編

病態生理に基づく臨床薬理学

出)MEDSi

著)清野裕 監修

治療薬マニュアル 2017

出)医学書院

著)高久史磨 他監修

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

定期試験で60点未満の者に対して行う再試験は1回のみとする。

その他

(学習相談)原則として、時間予約を電話またはメールにて行うこと。

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉、園木 一男						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	処方および処方箋 処方箋とは何かを学習する。	講義・資料配布	東	501講義室
2	循環器系作用薬 心不全治療薬、遮断薬について学習する。	講義・資料配布	大住	501講義室
3	循環器系作用薬 カルシウム拮抗薬、狭心症治療薬について学習する。	講義・資料配布	大住	501講義室
4	循環器系作用薬 狭心症治療薬、不整脈治療薬について学習する。	講義・資料配布	大住	501講義室
5	循環器系作用薬 高血圧症治療薬（利尿薬を含む）について学習する。	講義・資料配布	大住	501講義室
6	重要な全身疾患 循環器系・血液系疾患について、その症状・原因・治療方法を知り、歯科治療時の注意事項や緊急時の対処方法を学習する。	講義・スライド・資料配布	園木	501講義室
7	抗炎症薬 抗炎症薬の概論と、ステロイド性抗炎症薬について学習する。	講義・資料配布	大住	501講義室
8	抗炎症薬 非ステロイド性抗炎症薬について、特に酸性抗炎症薬について詳細に学習する。	講義・資料配布	大住	501講義室
9	抗感染症薬 抗感染症薬の概論と、抗生物質（-ラクタム系）について学習する。	講義・資料配布	大住	501講義室
10	抗感染症薬 抗生物質（-ラクタム系以外）・ニューキノロン薬・サルファ剤について学習する。	講義・資料配布	大住	501講義室
11	抗感染症薬 抗結核薬・抗ウイルス薬・抗真菌薬について学習する。	講義・資料配布	大住	501講義室
12	抗腫瘍薬 抗悪性腫瘍薬の種類と作用機序及び臨床応用について学習する。関連する薬害訴訟の事例から新薬利用時のリスク等を学習する。	講義・スライド・資料配布	竹内	501講義室
13	免疫作用薬 抗アレルギー薬の種類と作用機序について学習する。	講義・スライド・資料配布	竹内	501講義室
14	呼吸器系作用薬 気管支拡張薬、鎮咳薬、去痰薬について学習する。	講義・資料配布	東	501講義室
15	薬理作用と作用機序 2 薬理学各論で学習した薬物の作用点として重要な標的分子の分類と構造学的特徴、細胞における機能と特徴を学習する。	講義・スライド・資料配布	竹内	501講義室

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	38	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉、引地 尚子、〔非常勤講師〕佐加良 英治、〔非常勤講師〕柳田 俊彦						

授業の概要

講義で学ぶ重要な薬物の薬理作用や有害作用について実験動物を用いて学ぶ。また、高齢者が使用することが多い薬物や二重盲検法、処方箋に関して少人数教育を行い、理解を深める。医科で使用される薬物の各論、特に高齢者が使用することが多い薬物や薬物相互作用に重点をおいてロールプレイ形式の演習を行い、将来歯科医師として、医薬品を患者に有効かつ安全に投与できる能力を育成する。

学生の到達目標

- 歯科治療時に留意すべき使用薬物を説明できる。
- 小児、妊婦および高齢者への薬物適用上の注意を説明できる。
- 全身疾患を有する患者への薬物適用上の注意を説明できる。
- 救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。
- 処方と処方箋の書き方を説明できる。
- 中枢神経系作用薬の分類とその作用機序が説明できる。
- 重要な全身疾患を説明できる。
- 局所麻酔薬の分類とその作用機序が説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	1)			実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。
A	5	1)			医療上の事故等を防止するには、個人の注意力はもとより組織的なリスク管理が重要であることを説明できる。
A	5	1)			医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例（経緯を含む）、やってはいけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
C	5	1)			毒薬、劇薬および麻薬等の表示と保管を説明できる。
C	5	2)			薬物の作用機序を説明できる。
C	5	2)			薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。
C	5	4)			薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
E	1	1)			処方と処方箋の書き方を説明できる。
E	1	3)	(1)		患者の服用薬物と歯科治療の関連について説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	1	3)	(1)		小児、妊婦、授乳婦および高齢者の歯科治療時の注意点を説明できる。
E	1	3)	(3)		局所麻酔薬を分類し、その作用機序を説明できる。
E	1	3)	(3)		血管収縮薬の使用目的と種類、特徴および臨床使用上の注意を説明できる。
E	1	3)	(4)		全身麻酔の目的と種類ならびに特徴を説明できる。【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用および使用機器・器具を含む。】

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	38	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉、引地 尚子、〔非常勤講師〕佐加良 英治、〔非常勤講師〕柳田 俊彦						

テキスト

現代歯科薬理学 第5版
出)医歯薬出版 著)加藤・篠田 監修

薬理学実習書 平成29年度版
出)口腔応用薬理学分野 著)

参考書

グッドマン・ギルマン薬理書 第12版
出)廣川書店 著)高折修二 他監訳

NEW 薬理学 改訂第6版
出)南江堂 著)加藤隆一 他編

歯科薬理学 第5版
出)医歯薬出版 著))石田甫 他編

病態生理に基づく臨床薬理学
出)MEDSi 著)清野裕 監修

治療薬マニュアル 2017
出)医学書院 著)高久史磨 他監修

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習レポート	40%
確認テスト	60%

実習レポート：40%、確認テスト：60%の割合で評価する。単位認定の要件は100点満点中60点以上、かつ、全ての実習への出席と期限までのレポート提出及び、提出したレポートで指摘を受けた部分を全て修正して受理されることとする。

その他

本館 11階 口腔応用薬理学
原則として、時間予約を電話またはメールにて行うこと。
竹内 弘：月 - 金 16:30 - 18:00 / 内線 8121 /
大住伴子：月 - 金 16:30 - 18:00 / 内線 8122 /
東 泉：火 - 金 16:30 - 18:00 / 内線 8123 /

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	38	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉、引地 尚子、〔非常勤講師〕佐加良 英治、〔非常勤講師〕柳田 俊彦						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	実験動物学 動物実験に関する基本的事項（法律、指針、実験動物の取り扱いなど）について学ぶ。	実習（講義） 資料配布	佐加良	501講義室
2	実習全般の説明 実習のスケジュールおよび実習を行う上での注意点の説明を行う。	実習（講義） 資料配布	竹内 東	501講義室
3	全身麻酔薬のマウスに対する作用 全身麻酔薬の作用経過について、マウスを用いて観察し比較する。また、治療係数を算出しその意味について学ぶ。	実習	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
4	鎮痛薬のマウスに対する作用 2種類の鎮痛薬の作用経過について、マウスを用いて観察し比較する。また、医薬品に関する法律についても学ぶ。	実習	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
5	局所麻酔薬の各種作用 局所麻酔薬単独と、毛細血管収縮薬添加局所麻酔薬の作用経過の違いについて、モルモットを用いて観察し比較する。さらに、局所麻酔薬の有害作用についてマウスを用いて学ぶ。	実習	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
6	局所麻酔薬の各種作用 局所麻酔薬単独と、毛細血管収縮薬添加局所麻酔薬の作用経過の違いについて、モルモットを用いて観察し比較する。さらに、局所麻酔薬の有害作用についてマウスを用いて学ぶ。	実習	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
7	各種薬物の摘出腸管に対する作用 2種類の鎮痛薬の作用経過について、マウスを用いて観察し比較する。また、医薬品に関する法律についても学ぶ。	実習	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
8	各種薬物の摘出腸管に対する作用 2種類の鎮痛薬の作用経過について、マウスを用いて観察し比較する。また、医薬品に関する法律についても学ぶ。	実習	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
9	二重盲検法 カフェインの薬効について、二重盲検法による効果判定を実施／体験する。	実習	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
10	二重盲検法 カフェインの薬効について、二重盲検法による効果判定を実施／体験する。	実習	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
11	循環器系作用薬 実例をもとに、全身疾患（循環器系疾患）を有する患者の使用薬物を知り、歯科治療における問題点を学ぶ。	実習 （グループ学習）	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
12	循環器系作用薬 実例をもとに、全身疾患（循環器系疾患）を有する患者の使用薬物を知り、歯科治療における問題点を学ぶ。	実習 （グループ学習）	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
13	処方と処方箋 処方箋とは何かを学習する。歯科医師として必要な処方箋の書き方を学び、処方箋を書く。	実習	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室

2017年度

薬理学・歯科薬理学 (Pharmacology・Dental Pharmacology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	38	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉、引地 尚子、〔非常勤講師〕佐加良 英治、〔非常勤講師〕柳田 俊彦						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
14	処方と処方箋 処方箋とは何かを学習する。歯科医師として必要な処方箋の書き方を学び、処方箋を書く。	実習	竹内 大住 東 引地	501講義室 51実習室
15	予備	実習	竹内 大住 東	501講義室 51実習室
16	予備	実習	竹内 大住 東	501講義室 51実習室
17	薬物治療ロールプレイ ロールプレイ形式の演習（互いに患者・家族役に扮して治療薬に対して質問したり、歯科医師役になって薬物治療方針を説明するなど）を通じて治療薬に関する知識を深める。	実習	竹内 大住 東 柳田	501講義室 51実習室
18	薬物治療ロールプレイ ロールプレイ形式の演習（互いに患者・家族役に扮して治療薬に対して質問したり、歯科医師役になって薬物治療方針を説明するなど）を通じて治療薬に関する知識を深める。	実習	竹内 大住 東 柳田	501講義室 51実習室
19	薬理学Ⅱと実習のまとめ 確認テスト	確認テスト	竹内 大住 東	401講義室 402講義室

2017年度

臨床歯科医学概論 (Orientation Clinical Dental Medicine)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長						
担当教員	歯学科長、國領 真也、椎葉 俊司、臼井 通彦、郡司掛 香織、鷲尾 絢子、河野 稔広、正木 千尋、森川 和政						

授業の概要

臨床歯科医学概論では、既に修了している一般基礎医学が、今後臨床の現場にどのように生かされていくのかを、実際の日常臨床事例を挙げて理解していく。そのため具体的に、診断や治療においてなぜ必要なかを説明し理解する。これらから、一般基礎医学の重要性を再認識し今後習得する一般基礎医学や臨床実習に対するさらなるモチベーションの向上がねらいである。

学生の到達目標

口腔外科の臨床と一般基礎医学の関係について理解できる。
歯科麻酔科の臨床と一般基礎医学の関係について理解できる。
保存治療科の臨床と一般基礎医学の関係について理解できる。
歯周病科の臨床と一般基礎医学の関係について理解できる。
補綴（インプラントを含む）系の臨床と一般基礎医学の関係について理解できる。
小児歯科の臨床と一般基礎医学の関係について理解できる。
矯正歯科の臨床と一般基礎医学の関係について理解できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

プリントを配布する。
出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

病院棟9階顎顔面外科研究室にて國領が質問事項を受け付ける。
分からないこと、疑問に思うことは質問しに来ること。
尚、國領を除く担当教員への質問も、國領に連絡すること。

2017年度

臨床歯科医学概論 (Orientation Clinical Dental Medicine)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長						
担当教員	歯学科長、國領 真也、椎葉 俊司、臼井 通彦、郡司掛 香織、鷺尾 絢子、河野 稔広、正木 千尋、森川 和政						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	口腔外科と解剖学の重要性 口腔外科系疾患の診査・診断・治療において一般基礎医学がどこに生かされるかを理解する。	講義	國領	401講義室
2	生理学・薬理学と歯科麻酔学 麻酔科系疾患の診査・診断・治療および全身麻酔において一般基礎医学がどこに生かされるかを理解する。	講義	椎葉	401講義室
3	歯髄・根尖性歯周組織疾患と一般基礎医学 歯髄疾患などの診査・診断・治療において一般基礎医学がどこに生かされるかを理解する。	講義	鷺尾	401講義室
4	歯周病による歯周組織破壊と再生 歯周病の発症やその治療において一般基礎医学がどのように関るかを理解する。	講義	臼井	401講義室
5	義歯作成における基礎医学の重要性について 義歯の設計などの補綴に関わる診査・診断・治療において一般基礎医学がどこに生かされるかを理解する。	講義	河野	401講義室
6	インプラント治療における基礎医学の重要性について インプラント治療における診査・診断・治療において一般基礎医学がどこに生かされるかを理解する。	講義	正木	401講義室
7	小児歯科と一般基礎医学 小児歯科疾患における診査・診断・治療において一般基礎医学がどこに生かされるかを理解する。	講義	森川	401講義室
8	矯正歯科と一般基礎医学 矯正治療における診査・診断・治療において一般基礎医学がどこに生かされるかを理解する。	講義	郡司掛	401講義室

2017年度

成長発育総論 (Growth and development)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、川元 龍夫、志賀 百年、藤田 優子、佐伯 桂、森田 淳平、森川 和政						

授業の概要

顎口腔機能矯正学・口腔機能発達学両分野の講義を通じて、1)小児の身体的発育と精神的、あるいは生理的特徴など、2)乳歯列から永久歯列完成までの歯列咬合、および顎顔面の発育に伴う形態と機能の変化などから咬合育成の重要性と意義を理解する。本臨床講義では具体的に小児の身体的発育と精神的特徴、あるいは心と行動の発達と社会生活との関係などを実際の子供達の歯科医療にどのように取り入れて行くのか、また、日常の食生活から子供達の健全な口腔機能の発達を促進し咬合育成を計り、顎口腔機能の健全な育成を計って行く具体的な事例を講義する。

学生の到達目標

小児の身体発育、精神発育の特徴と評価法を説明できる。
顎顔面頭蓋部の成長発育を理解し説明できる。
歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。
歯の発育障害と加齢変化の病因と病態を説明できる。
歯の硬組織の疾患の原因と病態を説明できる。
顎顔面頭蓋部の形成異常を列挙しその原因を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	2			個体発生と器官発生を概説できる。
C	2	4			人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。
E	2	3			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。
E	2	3			一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。
E	2	3			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。
E	2	3			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常(不正咬合)を説明できる。
E	2	4	(1)		口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。
E	3	1			歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。
E	4	2			小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる。

テキスト

小児歯科学
出)医歯薬出版 著)

小児歯科学基礎・臨床実習
出)医歯薬出版 著)

歯科矯正学 第5版
出)医歯薬出版 著)

参考書

Handbook of Facial Growth
出)W.B.Saunders Company 著)Donald H. Enlow

2017年度

成長発育総論 (Growth and development)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、川元 龍夫、志賀 百年、藤田 優子、佐伯 桂、森田 淳平、森川 和政						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(学習相談) 相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

担当教員：(代表) 牧 憲司：内線1901 (k-maki@kyu-dent.ac.jp)

川元龍夫：内線2041 (r15kawamoto@fa.kyu-dent.ac.jp)

2017年度

成長発育総論 (Growth and development)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、川元 龍夫、志賀 百年、藤田 優子、佐伯 桂、森田 淳平、森川 和政						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	小児歯科学の概論	講義	牧	401講義室
2	矯正歯科学の概論	講義	川元	401講義室
3	成長発育（全身成長、絶対成長と相対成長）成長発育（平均身長と個成長）	講義	志賀	401講義室
4	頭蓋発生，顔面頭蓋骨成長様式および下顎骨の成長	講義	森田	401講義室
5	口・歯の発生、歯の発育，歯の発育障害、歯の萌出	講義	佐伯	401講義室
6	歯列の成長発育 歯の交換	講義	藤田	401講義室
7	運動の発達、言語の発達、情動の発達口腔機能の発達、口腔機能の発達、摂食機能の発達	講義	森川	401講義室
8	頭蓋顔面の形成異常	講義	川元	401講義室

2017年度

口腔顎顔面画像解剖学概論 (Imaging Anatomy in Oral and Maxillofacial regions)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、中富 満城、細川 隆司、國領 真也、諸富 孝彦、正木 千尋						

授業の概要

2年次生で学習した口腔・顎・顔面領域の解剖学の知識を3年生以降の臨床に応用していく架け橋の一つとして同領域の画像解剖学について総論的に教授する。論理的に正しい診断を行うためには正常解剖像をそれぞれの検査ごとに正確に理解しておく必要がある。そこで、歯科臨床で応用されることの多い口内法エックス線写真、パノラマエックス線写真、歯科用コーンビーム（CB）CTを含むCT画像及びMR画像上の正常構造物について人体解剖学を復習しながら学んで貰う。同時に、歯科保存治療、歯科用インプラント、口腔外科的処置における画像解剖像の必要性を理解して貰う。

学生の到達目標

- 口内法エックス線写真上での正常解剖像を理解できる。
- パノラマエックス線写真上での正常解剖像を理解できる。
- 歯科用CBCTを含むCT画像上での正常解剖像を理解できる。
- MR画像上での正常解剖像を理解できる。
- 超音波画像及び核医学画像上での正常解剖像を理解できる。
- 画像上の正常解剖像を学ぶことで口腔・顎・顔面領域の人体解剖を理解できる。
- 歯科領域における画像の臨床応用を理解できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の種類および適応を説明できる。
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。
E	1	2)			造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法（CT）、磁気共鳴撮像法（MRI）および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。
E	2	1)			頭蓋骨の構成と構造を説明できる。
E	2	1)			咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能を説明できる。
E	2	1)			頭頸部の脈管系を説明できる。
E	2	1)			三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。
E	2	1)			顎関節の構造と機能を説明できる。

テキスト

第5版 歯科放射線学
出)医歯薬出版

著)岡野知宏

国家試験問題集(実践、Answer等)
出)

著)

参考書

頭頸部のCT・MRI 第2版(2012)

出)MEDSi

著)多田信平

Q&Aで学ぶ歯科放射線学：SBOs講義(2011)

出)学建書院

著)金田隆

一歩先のパノラマ診断力(2012)

出)砂書房

著)金田隆

頭頸部の臨床画像診断学(2012)

出)南江堂

著)尾尻博也

2017年度

口腔顎顔面画像解剖学概論 (Imaging Anatomy in Oral and Maxillofacial regions)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、中富 満城、細川 隆司、國領 真也、諸富 孝彦、正木 千尋						

顎・口腔のCT・MRI (2016)
出)MEDSi

著)酒井 修、金田隆

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて常に相談を受け付ける。分からないことはそのままにせず納得のいく迄質問しに来ること。

2017年度

口腔顎顔面画像解剖学概論 (Imaging Anatomy in Oral and Maxillofacial regions)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、中富 満城、細川 隆司、國領 真也、諸富 孝彦、正木 千尋						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	口内法エックス線写真上での正常解剖像：歯科独特の口内法エックス線撮影についてその方法及び正常解剖像を理解する。	講義	森本	401講義室
2	パノラマエックス線写真上での正常解剖像：パノラマエックス線撮影についてその方法及び正常解剖像を理解する。	講義	森本	401講義室
3	CT画像での正常解剖像：CT画像（歯科用CBCTを含む）についてその方法及び正常解剖像を理解する。	講義	鬼頭	401講義室
4	MR画像での正常解剖像：MR画像についてその方法及び正常解剖像を理解する。	講義	田中	401講義室
5	口腔・顎・顔面領域の正常解剖像：それぞれの画像に併せて口腔・顎・顔面領域の正常解剖像を再度理解する。	講義	中富	401講義室
6	口腔・顎・顔面領域の各種画像の臨床応用：歯科用インプラントを含む歯科領域の術前検査としての画像の有効性を理解する。	講義	細川、正木	401講義室
7	口腔・顎・顔面領域の各種画像の臨床応用：口腔外科及び口腔内科に関連する疾患のための術前検査としての画像の有効性を理解する。	講義	國領	401講義室
8	口腔・顎・顔面領域の各種画像の臨床応用：歯科保存学に関連する疾患のための術前検査としての画像の有効性を理解する。	講義	諸富	401講義室

2017年度

歯の治療学 (Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						

授業の概要

歯の治療学では歯科医学・医療のコアである保存修復治療学、歯内治療学、歯の審美・機能回復学（歯冠修復・補綴学概論）について教授する。「歯の治療学I」では各治療の基本手技、使用器具や材料特性の基本理論について教授する。先に実習で体験し、その内容について講義で学習するという、実習・講義が連動した体験先行型カリキュラムに沿って授業は進行する。

学生は該当箇所の予習をし、実際の診療を想定したシナリオ・ベース実習を行い、その後、予習・実習を通して得た内容について講義で復習することで、歯の治療について統合した知識を修得する。

学生の到達目標

- 保存修復治療の意義と各種修復治療法を説明できる。
- 歯内治療の意義と各種歯内治療法を説明できる。
- 外科的歯内治療法を説明できる。
- 歯の審美・機能回復法（歯冠補綴概論）を説明できる。
- 保存修復治療、歯内治療、歯冠補綴治療を一連の「歯の治療」として理解し説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
D	1				生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。
D	1				歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。
D	2				修復材料と修復法の種類と特徴を説明できる。
D	2				歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。
D	2				印象材の種類と特性を説明できる。
D	2				歯科用石膏の種類と特性を説明できる。
D	2				ワックスの種類と特性を説明できる。
D	2				レジン重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。【歯科用レジン・金属・セラミックスの種類、用途および特性を含む。】
D	2				接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。
E	1	1)			研究用模型を作製するための印象を適切に採得できる。
E	3	3)	(1)		MI(Minimal Intervention)に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明できる。
E	3	3)	(1)		生活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。
E	3	3)	(1)		修復材料と修復法の適応を説明できる。
E	3	3)	(1)		歯髄保護の種類と方法を述べ、その重要性を説明できる。
E	3	3)	(1)		窩洞形成の意義と方法を説明できる。
E	3	3)	(1)		仮封の意義、種類および特徴を説明できる。
E	3	3)	(1)		修復後の管理の目的と方法を説明できる。
E	3	3)	(1)		歯髄保護の術式を適切に実施できる。
E	3	3)	(2)		根管充填の目的、時期および方法を説明できる。

2017年度

歯の治療学 (Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	3)	(2)		歯髄・根尖歯周組織疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。
E	3	3)	(2)		歯内外科手術の種類と適応症を説明できる。
E	3	3)	(2)		失活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジの意義と具備条件を説明できる。
E	3	4)	(1)		クラウンおよびブリッジの種類、特徴および製作法を説明できる。【ボンティックの選択を含む。】
E	3	4)	(1)		支台築造の意義、種類および特徴を説明できる。
E	3	4)	(1)		支台歯形成の意義と方法を説明できる。
E	3	4)	(1)		暫間補綴装置の意義とその製作法を説明できる。
E	3	4)	(1)		研究用模型と作業用模型の製作方法を説明できる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジ製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジの維持管理の目的と方法を説明できる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジの設計を適切にできる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジの製作過程における基本的手技ができる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジ装着後における定期健診の重要性を説明し、指導できる。
F	7	1)			形成部位に応じて適切な腐除去用のバーの選択ができる。
F	7	1)			適切なハンドピース操作ができる。
F	7	1)			コンポジットレジン充填のための適切なレジン窩洞形成ができる。
F	7	1)			コンポジットレジン充填・研磨が適切にできる。
F	7	1)			歯髄保護に配慮できる。
F	7	1)			局所麻酔により無痛的な操作ができる。
F	7	2)			歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の診察、検査、診断が正しくできる。
F	7	2)			適切なアクセスキャビティレパレーションができる。
F	7	2)			ラバーダム防湿ができる。
F	7	2)			電氣的根管長測定が正しくできる。
F	7	2)			根管拡大、根管洗浄が適切にできる。
F	7	2)			根管貼薬が正しくできる。
F	7	2)			根管充填が適切にできる。

テキスト

保存修復学 第6版
出)医歯薬出版

著)千田彰 他編

参考書

[新版]現代の臨床補綴
出)クインテッセンス出版

著)中村公雄 他編

2017年度

歯の治療学 (Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						

歯内治療学 第4版

出)医歯薬出版

著)中村洋 他編

マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト

出)医歯薬出版

著)北村知昭 編

エンドドンティックス 改訂第4版

出)永末書店

著)須田英明 他編

非歯原性疼痛へのアプローチ “原因のわからない” 痛みを悩む患者さんが来院したら

出)医歯薬出版

著)北村知昭 他編

クラウンブリッジ補綴学 第4版

出)医歯薬出版

著)石橋寛二 他編

保存修復学 2 1 第5版

出)永末書店

著)田上順次 他編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	90%
実習試験	10%

- ・歯の治療学実習用実習書の予習課題：当該実習までに完了していない場合、「歯の治療学I」の定期試験の評価から、1課題につき5点減点する。
- ・歯の治療学実習の小テスト：合格した場合、「歯の治療学I」の定期試験の評価に対し、各小テストにつき2点加点する。
- ・歯の治療学実習での遅刻は1回につき「歯の治療学I」定期試験の評価から、5点減点する。

その他

(学習相談) 相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

・代表：北村知昭

2017年度

歯の治療学 (Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	修復治療(1) 保存修復治療概論と窩洞形成 一般歯科医療の基本である保存修復治療の全体像と各種修復法の違い、および窩洞形成方法と形態、切削機器を学習する。	講義 スライド 資料配布	諸富	402講義室
2	修復治療(2) コンポジットレジン修復 コンポジットレジン修復法について、コンポジットレジンの種類、性質、歯面処理法、使用方法、適応症等を学習する。	講義 スライド 資料配布	北村	402講義室
3	修復治療(3) セメント修復 保存修復治療用セメントについて、セメントの種類、性質、歯面との接着、使用方法、適応症等を学習する。	講義 スライド 資料配布	鷲尾	402講義室
4	修復治療(4) その他の成形修復と補修復 コンポジットレジンおよびセメント以外の成形修復材料を学習する。また、修復・補綴後に破損・脱離した際の補修復法を学習する。	講義 スライド 資料配布	宮下	402講義室
5	修復治療(5) メタルインレー修復 インレー修復について、成形修復との違い、各種使用材料の性質、窩洞形成、技工操作、適応症等を学習する。	講義 スライド 資料配布	吉居	402講義室
6	修復治療(6) セラミックスを用いた修復 -インレー修復とベニア修復- セラミックス修復法について、セラミック・インレー、ラミネートベニア等における窩洞形成、技工操作、接着法、適応症等を学習する。	講義 スライド 資料配布	吉居	402講義室
7	歯内治療(1) 歯内治療概論とマイクロエンドドンティックス 歯髄・根尖歯周組織の治療法である歯内治療の全体像、および顕微鏡を用いたマイクロエンドドンティックスを学習する。	講義 スライド 資料配布	北村	402講義室
8	歯内治療(2) 歯髄保存・保護法 歯髄を保存する意義、その治療法、治療に用いられる材料、適応症等を学習する。	講義 スライド 資料配布	諸富	402講義室
9	歯内治療(3) 抜髄法・感染根管処置法 歯髄除去(抜髄)、および根尖性歯周炎に対する治療(感染根管処置)について、治療法の違い、治療ステップ、使用材料・薬剤等を学習する。	講義 スライド 資料配布	諸富	402講義室
10	歯内治療(4) 根管充填法 抜髄法、感染根管処置による症状消退後、根管を緊密に封鎖する根管充填法について、手順、各種根管充填法、使用材料を学習する。	講義 スライド 資料配布	吉居	402講義室
11	歯内治療(5) 封鎖と支台築造 歯冠補綴を行う上で重要な支台築造と根管封鎖との関連、支台築造に用いる材料が予後に与える影響について学習する。	講義 スライド 資料配布	諸富	402講義室
12	歯内治療(6) 外科的歯内治療 急性症状や通常の歯内治療で改善しない病態に対する外科的歯内治療法を学習する。また、歯科用顕微鏡を用いたマイクロエンドドンティック・サージェリーを学習する。	講義 スライド 資料配布	北村	402講義室
13	機能回復(1) 歯冠修復・補綴概論(アンレーから歯冠補綴まで) 歯冠崩壊症例に対し、歯の機能を回復する目的で実施する歯冠補綴の全体像を学習する。	講義 スライド 資料配布	吉居	402講義室
14	機能回復(2) 臨床技工学概論 臨床において歯科医師が保存修復・歯冠補綴治療を実施する上で知っておくべき歯科技工学の全体像について学習する。	講義 スライド 資料配布	宮下	402講義室
15	機能回復(3) 支台築造と支台歯形成概論 歯内治療後の支台築造・歯冠補綴の際に、適切に歯冠補綴物を維持するための支台歯形成法の全体像について学習する。	講義 スライド 資料配布	吉居	402講義室

2017年度

歯の治療学 (Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子、〔非常勤講師〕寺下 正道、〔非常勤講師〕田畑 泰彦、〔非常勤講師〕金崎 伸幸						

授業の概要

歯の治療学では歯科医学・医療のコアである保存修復治療学、歯内治療学、歯の審美・機能回復学（歯冠修復・補綴学概論）について教授する。「歯の治療学II」では各治療共通の接着、審美、診査・診断、基礎・応用医学（再生医療）との関連、診断推論について教授する。先に実習で体験し、その内容について講義で学習するという、実習・講義が連動した体験先行型カリキュラムに沿って授業は進行する。

学生は該当箇所の予習をし、実際の診療を想定したシナリオ・ベース実習を行い、その後、予習・実習を通して得た内容について講義で復習することで、歯の治療について統合した知識を修得する。

学生の到達目標

歯の治療における接着と審美治療を説明できる。

歯の治療に伴う合併症と偶発症、外傷歯治療、および高齢者治療時の注意点を説明できる。

歯・歯髄・根尖歯周組織の特徴、疾患の発症と疼痛、診査・診断法、および管理法を説明できる。

歯の治療における診断推論をできる。

基礎・先端医学研究と歯科医療との接点を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	2)			医療事故と医療過誤の違いを説明できる。
A	5	2)			医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）の事例の原因を分析し、防止対策を説明できる。
A	6	1)			歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。
A	6	1)			医療の改善のために不断の評価・検証と倫理的および患者の利益と安全に配慮した科学研究が必要であることの重要性を説明できる。
A	6	2)			研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的としてに行われるべきことを説明できる。
A	6	2)			生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。
A	6	2)			患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の進化につなげることができる。
B	3	2)			う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明できる。【予防填塞とプラークコントロールを含む。】
B	3	2)			ライフステージにおける予防を説明できる。
B	3	2)			口腔ケアの意義と効果を説明できる。
D	1				生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。
D	1				歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。
D	2				レジン重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。【歯科用レジン・金属・セラミックスの種類、用途および特性を含む。】
D	2				接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。
E	1	1)			診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。
E	1	1)			診察、検査、診断および治療に必要な器材を説明できる。【患者監視装置(モニター)を含む。】
E	1	1)			患者の訴えの中から主訴を的確に捉えることができる。
E	1	1)			的確な病歴聴取（現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等）を行い、必要な部分を抽出できる。

2017年度

歯の治療学 (Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子、〔非常勤講師〕寺下 正道、〔非常勤講師〕田畑 泰彦、〔非常勤講師〕金崎 伸幸						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	1)			病歴聴取、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。
E	1	1)			基本的診察を行った後、次に必要となる検査を想定できる。
E	1	1)			基本的診察および検査結果よりの確な診断と治療方針を立案し説明できる。
E	1	1)			診療室における患者の心理と行動を理解し配慮できる。
E	1	1)			各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の種類および適応を説明できる。
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。
E	1	6)	(1)		フッ化物の歯面塗布を実施できる。
E	1	6)	(1)		予防填塞を実施できる。
E	3	1)			歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。【構成成分とその変化を含む。】
E	3	1)			歯種別の形態と特徴を説明できる。
E	3	1)			歯（乳歯、幼若永久歯を含む）の硬組織の構造と機能を説明できる。【構成成分とその特徴を含む。】
E	3	1)			歯髓の構造と機能を説明できる。
E	3	2)			歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。
E	3	2)			歯の発育障害と加齢変化の病因と病態を説明できる。
E	3	2)			歯髓・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。
E	3	2)			口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。
E	3	2)			歯痛の機序を説明できる。
E	3	3)	(1)		う蝕の症状と診断を説明できる。【検査法を含む】
E	3	3)	(1)		う蝕の予防と治療の方法を説明できる。【う蝕の予防については、B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理の項を参照】
E	3	3)	(1)		tooth wear(酸蝕症、咬耗、摩耗等)の原因、症状、診断および処置を説明できる。
E	3	3)	(1)		MI(Minimal Intervention)に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明できる。
E	3	3)	(1)		生活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。
E	3	3)	(1)		う蝕およびその他の硬組織疾患に対する歯冠修復の臨床的意義を説明できる。
E	3	3)	(1)		修復後の管理の目的と方法を説明できる。
E	3	3)	(1)		う蝕およびその他の硬組織疾患の診察、検査および診断ができる。
E	3	3)	(2)		歯髓・根尖歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。【検査法を含む。疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】
E	3	3)	(2)		歯髓・根尖歯周組織疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。
E	3	3)	(2)		歯髓・根尖歯周組織疾患の治療時における合併症（偶発症）について、種類、処置および予防を説明できる。
E	3	3)	(2)		歯髓・根尖歯周組織疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。

2017年度

歯の治療学 (Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子、〔非常勤講師〕寺下 正道、〔非常勤講師〕田畑 泰彦、〔非常勤講師〕金崎 伸幸						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	3)	(2)		失活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。
E	3	3)	(2)		歯根吸収の原因、症状、診断および処置を説明できる。
E	3	3)	(4)		象牙質知覚過敏症の病因、病態、診断および治療法を説明できる。
E	3	3)	(4)		象牙質知覚過敏症を適切に処置できる。
E	3	4)	(1)		クラウンおよびブリッジの種類、特徴および製作法を説明できる。【ボンティックの選択を含む。】
E	4	3)			老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
E	4	3)			老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。
E	4	3)			高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
E	4	3)			高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
E	4	5)			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。
F	1				適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正しい態度で患者に接することができる。
F	1				患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。
F	1				患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
F	1				診療録に得られた情報をPOMR（問題志向型診療記録）形式で記載できる。
F	1				患者に診断結果と治療方針を説明できる。
F	3				口内法エックス線撮影（デンタル撮影法）を実施できる。
F	4				医療安全対策を実践できる。
F	4				標準予防策を実践できる。
F	4				清潔に配慮した操作ができる。
F	4				針刺し事故に対する対応ができる。

テキスト

保存修復学 第6版
出)医歯薬出版

著)千田彰 他編

歯内治療学 第4版
出)医歯薬出版

著)中村洋 他編

エンドドンティックス 改訂第4版
出)永末書店

著)須田英明 他編

クラウンブリッジ補綴学 第4版
出)医歯薬出版

著)石橋寛二 他編

保存修復学 2 1 第5版
出)永末書店

著)田上順次 他編

参考書

[新版]現代の臨床補綴

出)クインテッセンス出版

著)中村公雄 他編

マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト

出)医歯薬出版

著)北村知昭 編

非歯原性疼痛へのアプローチ “原因のわからない” 痛みを悩む患者さんが来院したら

出)医歯薬出版

著)北村知昭 他編

2017年度

歯の治療学 (Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子、〔非常勤講師〕寺下 正道、〔非常勤講師〕田畑 泰彦、〔非常勤講師〕金崎 伸幸						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

・歯の治療学実習における歯式、バキュームワーク、フォーハンドシステム、浸潤麻酔、口腔外科処置：「歯の治療学II」における試験範囲とする。
・総合(1)，総合講義(2)，基礎歯学(3)の欠席者は「歯の治療学II」定期試験の評価から、それぞれ5点減点する。

その他

(学習相談) 相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

・代表：北村知昭

2017年度

歯の治療学 (Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷺尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子、〔非常勤講師〕寺下 正道、〔非常勤講師〕田畑 泰彦、〔非常勤講師〕金崎 伸幸						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	「歯の治療学」総論 歯の治療学(I)(II)で学習する内容を俯瞰し、これから受講する各講義・実習の基盤を学習する。	講義 スライド 資料配布	北村	402講義室
2	総合(1) 歯科医療における接着 / セラミックバイオマテリアル 歯の治療学(I)で学んだ接着、セラミックスの知識を元に、歯科医療全般にわたる接着技術およびセラミックバイオマテリアルを学習する。	講義 スライド 資料配布	寺下 鷺尾	402講義室
3	総合(2) 審美治療学概論 歯の治療学(I)で学んだ審美修復の知識を元に、歯科医療全般にわたる審美治療学を学習する。	講義 スライド 資料配布	金崎	402講義室
4	総合(3) 歯の治療における合併症・偶発症 / 高齢者における歯の治療 歯の治療学(I)で学んだ知識を元に、歯の治療時に注意すべき合併症・偶発症、および高齢者における歯の治療の注意点を学習する。	講義 スライド 資料配布	北村	402講義室
5	総合(4) 外傷歯の治療と非歯原性疼痛 (概論) 歯の治療学(I)で学んだ保存修復・歯内治療の知識を元に、外傷歯の治療法、および鑑別診断に必要な非歯原性疼痛を学習する。	講義 スライド 資料配布	北村	402講義室
6	診査・診断(1) 硬組織疾患・歯髄疾患・根尖歯周組織疾患 歯の治療学(I)で学んだ治療法を選択する上で重要な、硬組織疾患・歯髄疾患・根尖歯周組織疾患の診断を学習する。	講義 スライド 資料配布	鷺尾	402講義室
7	診査・診断(2) 硬組織の診査・診断 歯の治療学(I)で学んだ治療法を選択する上で重要な、硬組織疾患(う蝕等)の診査・診断法を学習する。	講義 スライド 資料配布	鷺尾	402講義室
8	診査・診断(3) 歯髄・根尖歯周組織の診査・診断 歯の治療学(I)で学んだ治療法を選択する上で重要な、歯髄疾患・根尖歯周組織疾患の診査・診断法を学習する。	講義 スライド 資料配布	鷺尾	402講義室
9	診査・診断(4) 歯の特徴 歯の治療を実施する上で、臨床的に重要な歯の構造等の特徴を学習する。	講義 スライド 資料配布	諸富	402講義室
10	基礎歯学(1) 歯・歯髄・根尖歯周組織の正常像と創傷治癒 歯の治療学に関連する歯・歯髄・根尖歯周組織の正常像と創傷治癒について学習し、基礎歯学で学んだ知識を統合する。	講義 スライド 資料配布	鷺尾	402講義室
11	基礎歯学(2) 疾患発症への微生物の関与と予防・メンテナンス 歯の治療学で学んだ疾患発症と微生物の関係について、および疾患の予防法、検査法、およびメンテナンス法を学習する。	講義 スライド 資料配布	宮下	402講義室
12	基礎歯学(3) 再生医療と組織工学? 歯科医療との接点- 再生医療の全体像および最先端研究について学習し、歯科医療・医学研究との接点について知る。	講義 スライド 資料配布	田畑	402講義室
13	臨床推論(1) 歯の治療学(I)(II)で学習した知識を統合し、実際の臨床で応用するための臨床推論法を全員参加型(発言, 周囲との議論)で学習する。	講義 スライド 資料配布	諸富 吉居	コンピュータ演習室
14	臨床推論(2) 歯の治療学(I)(II)で学習した知識を統合し、実際の臨床で応用するための臨床推論法を全員参加型(発言, 周囲との議論)で学習する。	講義 スライド 資料配布	鷺尾 宮下	コンピュータ演習室
15	「歯の治療学」まとめ 歯の治療学(I)(II)で学習した内容をまとめとして俯瞰し、これまでに受講した知識を統合する。	講義 スライド 資料配布	北村	402講義室

2017年度

歯の治療学実習 (Preclinical Simulation Training of Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	3.5
授業方法	実習	時間数	110	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子、富永 和宏、笹栗 正明、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、藤井 誠子、河野 通直、吉岡 泉、國領 真也、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平、安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子、細川 隆司、正木 千尋、近藤 祐介、柄 慎太郎、渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代						

授業の概要

「歯の治療学実習」では歯の治療学I・II、口腔外科学、歯科麻酔学、口腔機能再建治療学（クラウン・ブリッジ）、臨床実習運営室、予防歯科学と連動し、実際の診療を想定したシナリオ・ベース実習を行うことで、学生は歯の治療について統合した知識・技術を修得する。

学生の到達目標

- 診療機器・器材の正しい取扱い、および適切な診療姿勢ができる。
- 急性症状に対する切開・排膿処置ができる。
- う蝕病巣除去、歯髄保護処置および修復処置ができる。
- 抜髄、感染根管処置および根管充填ができる。
- 支台築造、支台歯形成、プロビジョナルレストレーションができる。
- 歯の治療における適切な感染防御処置ができる。
- 審美修復処置ができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
F	4				医療安全対策を実践できる。
F	4				標準予防策を実践できる。
F	4				院内感染に対する対応ができる。
F	4				清潔に配慮した操作ができる。
F	4				針刺し事故に対する対応ができる。
F	7	1)			形成部位に応じて適切なう蝕除去用のバーの選択ができる。
F	7	1)			適切なハンドピース操作ができる。
F	7	1)			コンポジットレジン充填のための適切なレジン窩洞形成ができる。
F	7	1)			コンポジットレジン充填・研磨が適切にできる。
F	7	1)			歯髄保護に配慮できる。
F	7	1)			局所麻酔により無痛的な操作ができる。
F	7	2)			歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の診察、検査、診断が正しくできる。
F	7	2)			適切なアクセスキャビティプレパレーションができる。
F	7	2)			ラバーダム防湿ができる。
F	7	2)			電氣的根管長測定が正しくできる。
F	7	2)			根管拡大、根管洗浄が適切にできる。
F	7	2)			根管貼薬が正しくできる。

2017年度

歯の治療学実習 (Preclinical Simulation Training of Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	3.5
授業方法	実習	時間数	110	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷺尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子、富永 和宏、笹栗 正明、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、藤井 誠子、河野 通直、吉岡 泉、國領 真也、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平、安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子、細川 隆司、正木 千尋、近藤 祐介、柄 慎太郎、渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
F	7	2)			根管充填が適切にできる。
F	8	1)			支台歯の状態に応じて適切な支台築造法を選択し、支台歯築造を実施できる。
F	8	1)			形成部位に応じて適切な支台歯形成用のバーの選択ができる。
F	8	1)			適切なハンドピース操作ができる。
F	8	1)			装着予定の歯冠補綴装置に応じて適切な支台歯形成ができる。
F	8	1)			歯髄保護に配慮できる。
F	8	1)			局所麻酔により無痛的な操作ができる。
F	8	1)			印象採得を適切に行うことができる。
F	8	1)			テンポラリークラウン(ブリッジ)を作製し、支台歯に適切に仮着できる。

テキスト

シナリオベース実習書

出) 口腔保存治療学分野、口腔再建リ 著)
ハビリテーション学分野、顎顔面
外科学分野 作製・販売

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験(歯の治療学)	90%
実習試験	10%

- ・実習試験：模型等を用いた実習試験で、総点の60%以上を合格とする(ただし禁忌項目がある)。合格者は下記に示す割合で「歯の治療学I」に評価を加算する。
- ・歯の治療学実習用実習書の予習課題：当該実習までに完了していない場合、「歯の治療学I」定期試験の評価から、1課題につき5点減点する。
- ・歯の治療学実習における歯式、パキュームワーク、フォーハンドシステム、浸潤麻酔、口腔外科処置：「歯の治療学II」における試験範囲とする。
- ・歯の治療学実習の小テスト：合格した場合、「歯の治療学I」定期試験の評価に対し、各小テストにつき2点加点する。
- ・歯の治療学実習での遅刻は1回につき「歯の治療学I」定期試験の評価から、5点減点する。

その他

(学習相談) 相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

・代表：北村知昭

2017年度

歯の治療学実習 (Preclinical Simulation Training of Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	3.5
授業方法	実習	時間数	110	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子、富永 和宏、笹栗 正明、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、藤井 誠子、河野 通直、吉岡 泉、國領 真也、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平、安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子、細川 隆司、正木 千尋、近藤 祐介、柄 慎太郎、渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	< Training 1 > / 購入器材配付 / 実習室オリエンテーション 本実習で使用する器材の準備状況の確認と使用方法、実習で使用する機器の操作方法を学習する。	少人数個別指導	口腔保存治療学分野教員	シミュレーション実習室
3-6	< Training 1 > 口腔内診査 / バキュームワーク / フォーハンドシステム / 診療姿勢 / シナリオベース実習説明 患者来院時に実施する口腔内診査法を学習する。次に、診療補助で行うバキュームワークとフォーハンドシステムによる歯科医師・アシスタント連携、診療時の歯科医師の姿勢を学習する。また、本実習で用いる患者シナリオを学習する。	少人数個別指導	地域健康開発歯学分野教員 口腔保存治療学分野教員	シミュレーション実習室 相互実習室
7,8	< Training 1 > 切開・排膿（口腔外科演習：講義含む） / 小テスト 患者来院時に緊急に対応する必要のある急性症状によって生じた腫脹に対する切開・排膿の術式、その後の治療（歯内治療等）との関連を学習する。	少人数個別指導	顎顔面外科学分野教員 口腔内科学分野教員 口腔保存治療学分野教員	シミュレーション実習室
9,10	< Training 2 > 検知液を用いたう蝕除去、覆髄、グラスアイオノマーセメント仮封 / 臼歯1級コンポジットレジン修復 う蝕による感染歯質の除去法、覆髄法、およびセメントによる仮封法を学習すると共に、臼歯部咬合面う蝕に対するコンポジットレジン修復を学習する。本実習中に、当該実習に関連する小テストを実施する。	少人数個別指導 小テスト	口腔保存治療学分野教員	シミュレーション実習室 技工室 石膏室
11-18	< Training 3 > インレー修復 診療室ワーク / 技工室ワーク 臼歯部隣接面う蝕に対するインレー修復法における診療室でのステップ（窩洞形成、印象採得）、技工室でのステップ（模型作製、咬合器付着、蠟型採得、鋳造等）、完成後の診療室でのステップ（試適、セット）を学習する。	少人数個別指導	口腔保存治療学分野教員	シミュレーション実習室
19-24	< Training 4 > 小テスト / 浸潤麻酔 / 防湿（ラバーダム） / 抜髄・根管充填・仮封 / 感染根管処置・根管充填・仮封 浸潤麻酔、ラバーダム防湿法、および抜髄法・感染根管処置の各ステップ（アクセス・オープニング、根管探索・形成、根管洗浄、根管貼薬、根管充填等）を学習する。本実習中に、当該実習に関連する小テストを実施する。	少人数個別指導 小テスト	歯科侵襲制御学分野教員 口腔保存治療学分野教員	シミュレーション実習室
25	< Training 5 > コンポジットレジン修復 / 小テスト 前歯う蝕に対して形成した窩洞へのコンポジットレジン修復を学習する。本実習中に、当該実習に関連する小テストを実施する。	少人数個別指導 小テスト	口腔保存治療学分野教員	シミュレーション実習室
26-29	< Training 6 > 窩洞形成（1?5級） / セメント練和 / コンポジットレジン修復 窩洞形成とコンポジットレジン充?技術の定着を目的に、各窩洞形成を再度行い、窩洞の特徴を学習する。また、各種歯科用セメントの操作方法を学習する。	少人数個別指導	口腔保存治療学分野教員	シミュレーション実習室
30-37	< Training 7 > 抜去歯エックス線撮影、天然歯植立 / 小臼歯（透明根管模型・抜去歯）の歯内治療 / 切歯・大臼歯（抜去歯）の歯内治療 / 根管充填歯のエックス線撮影・評価 根管治療技術の定着を目的に、各歯種のアクセス・オープニング、根管形成、根管洗浄、根管充填とその評価を再度行い、手技を学習する。本実習中に、当該実習に関連する小テストを実施する。	少人数個別指導 小テスト	口腔保存治療学分野教員	シミュレーション実習室 技工室
38	< Training 12 > 実習試験 保存修復治療、歯内治療等に関する技術修得状況を評価する。	少人数個別指導	口腔保存治療学分野教員	シミュレーション実習室 技工室

2017年度

歯の治療学実習 (Preclinical Simulation Training of Tooth Therapeutics)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	3.5
授業方法	実習	時間数	110	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子、富永 和宏、笹栗 正明、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、藤井 誠子、河野 通直、吉岡 泉、國領 真也、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平、安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子、細川 隆司、正木 千尋、近藤 祐介、柄 慎太郎、渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
39-43	< Training 8 > 小テスト / 前歯コンポジットレジン修復 / 根面グラスアイオノマー修復 / 防湿 (ラバーダム) / 前歯感染根管処置 保存修復治療、歯内治療に関する技術定着を目的に、コンポジットレジン修復、グラスアイオノマーセメント修復、感染根管処置を学習する。	少人数個別指導 小テスト	口腔保存 治療学分 野教員	シミュレー ション実習室
44-49	< Training 9 > 相互実習による歯肉圧排 / 小テスト / 支台築造 (ファイバーポスト) / 支台歯形成・プロビジョナルレストレーション 相互実習において、各種治療時に重要な歯肉圧排法を学習する。また、ファイバーポスト / レジンによる支台築造、支台歯形成、即時重合レジンによるプロビジョナル・レストレーションを学習する。本実習中に、当該実習に関連する小テストを実施する。	少人数個別指導 小テスト	口腔再建 リハビリ テーショ ン学分野 口腔保存 治療学分 野教員	シミュレー ション実習室 相互実習室
50	< Training 10 > レジンベニア修復 / WBT (抜去歯) 審美治療であるレジンベニア修復の窩洞形成とレジン築盛法、失活歯の漂白法である Walking Bleach Technique を学習する。	少人数個別指導	口腔保存 治療学分 野教員	シミュレー ション実習室
51	< Training 11 > う蝕活動性試験 唾液検査法、う蝕活動性試験を相互実習で行い、口腔内の環境とう蝕罹患との関係を学習する。	少人数個別指導	口腔保存 治療学分 野教員	シミュレー ション実習室
52-53	< Training 12 > 実習試験 保存修復治療、歯内治療等に関する技術修得状況を評価する。	少人数個別指導	口腔保存 治療学分 野教員	シミュレー ション実習室 技工室
54-55	< Training 13 > 実習試験フィードバック / 実習器具回収 実習試験結果をフィードバックする。本実習で用いた実習器具を回収する。回収に際し、破損・喪失、その他、貸与時の状態を回復できない場合は、原則として貸与学生に弁償してもらう。	少人数個別指導	口腔保存 治療学分 野教員	シミュレー ション実習室 技工室

2017年度

歯周病学（講義） (Periodontology)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉						

授業の概要

歯周病の発症・進行には数多くの因子が関与するため、その治療は多岐にわたり複雑である。歯周病によって破壊される歯周組織、特に歯根膜は咀嚼時に重要な働きをするため、歯周病学は他の臨床分野とも密接に関連する。本授業ではまず正常歯周組織の特徴、歯周病による組織破壊を解説し、歯周治療の流れに沿った順序で様々な治療法を説明する。

学生の到達目標

- 歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。
- 口腔細菌、歯垢、歯石を説明できる。
- 歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。
- 歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。
- 歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。
- 歯周疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。
- 歯周治療後の適切なメンテナンスができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	1)			口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	3	1)			歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。
E	3	2)			歯周疾患の病因と病態を説明できる。
E	3	2)			口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。
E	3	3)	(3)		歯周疾患の症状を説明できる。【疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】
E	3	3)	(3)		歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。【検査法、メンテナンス法を含む。】
E	3	3)	(3)		歯周治療の術式と適応症を説明できる。
E	3	3)	(3)		歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。
E	3	3)	(3)		歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。
E	3	3)	(3)		歯周疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。
E	3	3)	(3)		歯周治療後の適切なメンテナンスができる。【歯周疾患の予防については、B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理の項を参照】

テキスト

ザ・ペリオドントロジー 第2版
出)永末書店

著)和泉雄一

参考書

出)

著)

2017年度

歯周病学（講義） (Periodontology)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、白井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	70%
授業中に実施する3回の確認試験（各10点満点）	30%

歯周病学（実習）の実習試験で60点以上，
定期試験（70点満点）と授業中に実施する3回の確認試験（各10点満点）を
合算した100点満点中60点以上，
および の条件を満たすものを合格とする。
あるいは の条件を満たさないものは（筆記による）再試験を受けて60点以上であれば合格とする。

その他

授業時間外に授業内容に関する質問をしたい場合は、各授業担当者まで連絡すること。
授業時間外に授業全般に関する質問をしたい場合は、中島啓介まで連絡すること。

2017年度

歯周病学（講義） (Periodontology)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	歯周組織の正常構造と歯周病による破壊 歯を支持する歯周組織の基本的構造を確認すると同時に、歯周病による組織破壊について学習する。	講義	中島	402講義室
2	歯周病の原因 歯周病の主要な原因である細菌性バイオフィルムとその形成に影響を与える様々な因子について学習する。	講義	中島	402講義室
3	歯周治療の流れと診査・診断 歯周疾患の診断のために必要な検査と診断、それに基づく治療の流れについて学習する。	講義	守下	402講義室
4	歯周基本治療1（プラークコントロール） 歯周基本治療の最も重要なプラークコントロールについて、その効果と評価方法について学習する。	講義	守下	402講義室
5	歯周基本治療2（スケーリング、ルートプレーニング） プラーク増加因子の代表である歯石を除去するスケーリング・ルートプレーニングの意義、目的、方法について学習する。	講義	中村	402講義室
6	歯周基本治療3（咬合調整、暫間固定、習癖への対応） 歯周組織が負担する咬合力をコントロールするため、咬合調整および暫間固定について学習する。歯周病の病態に影響を与えるブラキシズム、口呼吸などの習癖の原因と治療法について学習する。	講義	花谷	402講義室
7	再評価（歯周基本治療の限界と歯周外科の適応） 歯周病の原因除去を目的とする歯周基本治療の限界を知ることで、歯周外科手術の必要性を学習する。	講義	中村	402講義室
8	歯周治療における薬物療法 歯周治療において行う薬物療法の特徴および局所薬物配送システムについて学習する。	講義	守下	402講義室
9	根分岐部病変と歯内・歯周病変 歯周治療後の治癒が不良となりやすい根分岐部病変および歯内・歯周病変について、診断・治療法を学習する。	講義	臼井	402講義室
10	歯周外科総論 歯周外科治療の目的と基本事項（切開、縫合、創傷治癒など）について学習する。	講義	花谷	402講義室
11	歯周外科各論1（歯周ポケットの除去） 歯周ポケットを除去する様々な歯周外科手術について学習する。	講義	花谷	402講義室
12	歯周外科各論2（歯周形成手術） 歯周形成手術の目的、種類および適応症について学習する。	講義	臼井	402講義室
13	歯周外科各論3（骨欠損に対する処置、再生療法） 歯槽骨欠損への対応や再生療法の理論、材料、術式について学習する。	講義	臼井	402講義室
14	偶発症（上行性歯髄炎、象牙質知覚過敏症、歯周膿瘍）、咬合機能回復治療とメインテナンス・SPT 膿瘍の鑑別診断・治療法およびメインテナンス・SPTの目的・方法について学習する。	講義	中村	402講義室
15	ペリオドンタルメディシンと特殊な歯周疾患 ペリオドンタルメディシン（歯周病と全身疾患の関連）と特殊な歯周疾患について学習する。	講義	中島	402講義室

2017年度

歯周病学（実習）（Preclinical Simulation Training of Periodontology）

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉						

授業の概要

歯周病の発症・進行には数多くの因子が関与するため、その治療は多岐にわたり複雑である。他の臨床分野と異なり、歯周病の治療に欠かせないのは患者による日常の口腔清掃である。本実習では、歯周病の原因となるプラーク・歯石を取り除く方法、深い歯周ポケットに対する歯周外科手術に加えて、効果的な動機づけに必須となる患者とのコミュニケーション方法を習得させる。

学生の到達目標

- 歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。
- 口腔細菌、歯垢、歯石を説明できる。
- 歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。
- 歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。
- 歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。
- 歯周疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。
- 初診患者の医療面接（慢性症状）ができる。
- 歯周病の病状説明ができる。
- ブラッシング指導ができる。
- スケーリング・ルートプレーニングができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	1)			患者の訴えの中から主訴を的確に捉えることができる。
E	1	1)			的確な病歴聴取（現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等）を行い、必要な部分を抽出できる。
E	1	1)			基本的診察を行った後、次に必要となる検査を想定できる。
E	1	1)			基本的診察および検査結果よりの確な診断と治療方針を立案し説明できる。
E	1	1)			診療室における患者の心理と行動を理解し配慮できる。
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。
E	1	6)	(1)		歯周疾患の予防処置を実施できる。【E-3-3)-(3)歯周疾患の診断と治療の項を参照】
E	1	6)	(2)		適切な口腔清掃法を指導できる。
E	3	3)	(3)		歯周治療の術式と適応症を説明できる。
E	3	3)	(3)		歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。

テキスト

ザ・ペリオドントロジー 第2版
出)永末書店

平成29年度 歯周病学実習書
出)(配布予定)

著)和泉雄一

著)

参考書

出)

著)

2017年度

歯周病学（実習） (Preclinical Simulation Training of Periodontology)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉						

成績評価方法・基準

評価項目	割合	
実習試験	100%	1回から26回までの実習全てに出席し、実習試験（100点満点）で60点以上を合格とする。欠席は一切認めないが、担当教員がやむを得ない理由と判断した場合には実習補講に参加して未完了の実習内容を行うことができる。なお、補講時間内ですべての実習内容が完了しない場合には実習試験は受験できない。

その他

- ・実習時間外に実習内容に関する質問をしたい場合は、各実習担当者まで連絡すること。
- ・実習時間外に実習全般に関する質問をしたい場合は、中島啓介まで連絡すること。

2017年度

歯周病学（実習） (Preclinical Simulation Training of Periodontology)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	エックス線写真読影（歯槽骨吸収像の観察） エックス線写真から歯槽骨を非侵襲的に評価する方法を学習する。	実習	中島	シミュレーション実習室
3,4	医療面接1（OSCE形式，医療面接） 歯周疾患の診断に必要な情報を得るため、初診患者に対する医療面接を体験する。	実習	中島	相互実習室
5,6	歯周組織検査1（模型実習） 模型上でプロービングや動揺度検査を行い、歯周疾患の検査に必要な手技を習得する。	実習	守下	シミュレーション実習室
7,8	ブラークコントロール1（各種ブラッシング法の習得） 模型上でブラッシング法や歯間清掃用具の使用法を練習し、ブラークコントロールの基本となるブラッシング指導に必要な知識を習得する。	実習	守下	シミュレーション実習室
9,10	スケーリング・ルートプレーニング1（模型実習） ヒト抜去歯および模型上の人工歯を使ってスケーリング・ルートプレーニングを習得する。	実習	中村	シミュレーション実習室
11,12	咬合調整・暫間固定 歯周組織が負担する咬合力をコントロールするための咬合調整法および暫間固定（レジソ連結固定法）を習得する。	実習	花谷	シミュレーション実習室
13,14	ブラークコントロール2（相互実習によるブラッシング指導） 学生相互の実習を通じて、様々なブラッシング方法、口腔清掃指導法を体験する。	実習	中村	相互実習室
15,16	スケーリング・ルートプレーニング2（相互実習） 学生相互の実習を通じて、スケーリング・ルートプレーニングの手法を習得する。	実習	守下	相互実習室
17,18	医療面接2（OSCE形式，病状説明） 歯周病検査の結果から患者へ病状説明を行う際に必要な基本的態度および知識を習得する。	実習	臼井	相互実習室
19,20	歯周組織検査2（相互実習） 学生相互の実習を通じて、模型実習では経験できない歯周組織検査の実際を体験する。	実習	花谷	相互実習室
21,22	歯周外科手術1（歯肉切除術） 歯肉切除術に用いる器具とその取り扱い方、術式を習得し、模型にて実践する。	実習	花谷	シミュレーション実習室
23,24	歯周外科手術2（フラップ手術） フラップ手術に用いる器具とその取り扱い方、術式を習得し、模型にて実践する。	実習	臼井	シミュレーション実習室
25,26	歯周外科手術3（GTR法） GTR法に用いる器具とその取り扱い方、術式を習得し、模型にて実践する。	実習	臼井	シミュレーション実習室
27,28	実習補講 やむを得ない理由で欠席した学生については、未完了の実習内容を完了する。	実習	全員	シミュレーション実習室 相互実習室
29,30	実習試験（OSCE形式） 歯周病学実習で身につけた技量を客観的に評価する。	実習	全員	シミュレーション実習室 相互実習室

2017年度

部分欠損補綴治療学（講義）（Removable Partial Denture Prosthodontics）

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博、八木 まゆみ、榎原 絵理、河野 稔広						

授業の概要

歯の部分欠損に伴う顎口腔系の形態的、機能的変化について理解する。さらに、部分欠損を有する患者に対する可撤性補綴装置（部分床義歯）による機能回復の意義を理解し、それに必要な診査、診断、治療計画の立案、製作方法を含めた治療方法、装着および装着後の管理および対処法について学習する。

学生の到達目標

- 部分欠損に対する補綴の意義について説明できる。
- 部分欠損に対する補綴方法の種類と特徴および利点・欠点を説明できる。
- 部分床義歯の種類と特徴を説明できる。
- 部分床義歯の基本構造（維持機構、把持機構、支持機構）について説明できる。
- 部分欠損患者に対して部分床義歯の設計を適切にできる。
- 部分欠損患者に対して治療計画を立案できる。
- 部分床義歯の製作方法、製作に必要な材料とその特性を説明できる。
- 部分床義歯の製作過程における臨床手技について説明できる。
- 部分床義歯装着時の患者指導および装着後の変化やトラブルおよびその対処方法を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	4)	(2)		歯の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の種類、目的および意義を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の構成要素を説明できる。
E	3	4)	(2)		印象採得の種類と方法を説明できる。
E	3	4)	(2)		咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。
E	3	4)	(2)		下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき、各基本的操作を適切に行うことができる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の製作過程を説明でき、基本的手技ができる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の設計原理を理解し、口腔内診察、検査、診断模型およびエックス線写真等により適切に設計を行うことができる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の調整、術後管理、リラインおよび修理を説明でき、適切に行うことができる。

2017年度

部分欠損補綴治療学（講義） (Removable Partial Denture Prosthodontics)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博、八木 まゆみ、槇原 絵理、河野 稔広						

テキスト

スタンダード部分床義歯補綴学
出)学建書院 著)

参考書

パーシャルデンチャーテクニック
出)医歯薬出版 著)

有床義歯技工学
出)医歯薬出版 著)

患者に喜ばれるパーシャルデンチャー
出)デンタルダイヤモンド 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(スチューデントアワー) 火曜日：授業終了後

2017年度

部分欠損補綴治療学（講義） (Removable Partial Denture Prosthodontics)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博、八木 まゆみ、榎原 絵理、河野 稔広						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	1) 歯の部分欠損による障害と機能回復の必要性および、補綴的機能回復法全般について学習し、個々の違いについて学習する。 2) 部分床義歯の製作方法の概要を理解し、概形印象採得について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
3,4	3) 歯の欠損に由来する顎口腔系の変化について学習し、可撤性補綴装置の基本設計と他の補綴装置との構造設計の違いについて学習する。 4) 研究用模型の製作方法とその意義、サベイング、予備設計について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
5,6	5) 歯の欠損様式、義歯の分類、咬合支持による分類などを学習する。 6) 精密印象採得法および個人トレーの製作方法について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
7,8	7) 部分床義歯の構成要素について学習する。 8) 前処置（レストシートおよびガイドプレーンの形成）の必要性と形成方法および精密印象採得法について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
9,10	9) 支台装置の種類と機能、特にクラスプについて学習する。 10) サベイングの目的と方法、クラスプデンチャーの設計原則について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
11,12	11) クラスプの構造、機能、種類について詳しく学習する。 12) 部分床義歯の咬合採得法、およびそれに必要な技工について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
13,14	13) 連結子の意義、目的、種類、義歯床の構造的特徴について学習する。 14) フレームワークの製作手順と必要な技工操作について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
15,16	15) 人工歯、排列、咬合について学習する。 16) 部分床義歯の設計について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
17,18	17) 部分床義歯の計画立案を行うために、情報収集すべき事項について学習する。部分床義歯の製作過程の流れについて学習する。 18) 部分欠損に対する補綴装置の設計について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
19,20	19) 蝸義歯試適の意義、チェックポイントとその修正方法について学習する。 20) 線鈎の屈曲方法について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
21,22	21) 義歯の完成方法（フラスコ埋没、レジン重合）とその特徴について学習する。 22) 完成義歯の装着方法、調整方法、患者指導について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
23,24	23) 装着後のトラブルについて学習する。 24) 義歯装着後の口腔変化とその対応方法（調整方法、修理、リライン）について学習する。	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室
25,26	25) 患者に喜ばれる部分床義歯 ; 症例を通して部分床義歯による欠損補綴治療の要諦を学習する。 26) 患者に喜ばれる部分床義歯	教科書 スライドを用いた講義	八木	402講義室
27,28	27) 患者に喜ばれる部分床義歯 28) 患者に喜ばれる部分床義歯	教科書 スライドを用いた講義	河野 榎原	402講義室
29,30	29) 30) 本講義のまとめ（過去問と国試で学習する）	教科書 スライドを用いた講義	有田	402講義室

2017年度

部分欠損補綴治療学（実習）（Preclinical Simulation Training of Removable Partial Denture Prosthodontics）

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博、八木 まゆみ、槇原 絵理、河野 稔広						

授業の概要

可撤性補綴装置（部分床義歯）の構造設計および製作ステップを学習する。

学生の到達目標

- 部分床義歯の構造を説明できる。
- 部分床義歯の製作過程を説明できる。
- 部分床義歯の設計原理を理解し、適切に設計を行うことができる。
- 欠損補綴の治療方針の説明ができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の製作過程を説明でき、基本的手技ができる。

テキスト

出) 著)

参考書

パーシャルデンチャーテクニック
出)医歯薬出版 著)

有床義歯技工学
出)医歯薬出版 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
すべての実習に出席し、それぞれの過程を完了し、課せられた製作物を提出することをもって合格とする。	100%

その他

(スチューデントアワー)火曜日：授業終了後

2017年度

部分欠損補綴治療学（実習）（Preclinical Simulation Training of Removable Partial Denture Prosthodontics）

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博、八木 まゆみ、楨原 絵理、河野 稔広						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	研究用模型の製作 可撤性部分床義歯の製作の第1ステップである概形印象採得法(アルジネート印象法)について習得し、研究用模型の意義と目的を理解する。	実習	全員	技工室 石膏室 シミュレーション実習室
2	予備設計 模型に最終義歯の予備設計を描記することで、部分床義歯の構造設計の概要を理解する。	実習	全員	技工室 石膏室 シミュレーション実習室
3	個人トレーの製作 個人トレーの意義と目的を理解し、その製作方法を習得する。	実習	全員	技工室 石膏室 シミュレーション実習室
4	レストシートの形成、精密印象採得、作業模型製作 部分床義歯製作前処置と精密印象採得法を習得する。	実習	全員	技工室 石膏室 シミュレーション実習室
5	サベイング、金属床外形線描記 サベイングの意義と目的、フレームワークの外形線との関係を理解する。	実習	全員	技工室 石膏室 シミュレーション実習室
6	咬合床の製作、咬合採得 部分床義歯の咬合採得法について理解する。	実習	全員	技工室
7	複印象のための前処置 メタルフレームの製作ステップを理解し、複模型製作のための模型処理を理解する。	実習	全員	技工室
8	複模型の製作 複印象、複模型の製作について理解する。	実習	全員	技工室
9	金属床外形線描記 複模型にメタルフレームの外形線を転写し、前処置の意義について理解を深める。	実習	全員	技工室
10	金属床蠟型形成 メタルフレームのワックスアップを行うことで、それぞれの構成要素の形態を理解する。	実習	全員	技工室
11	線鉤の屈曲 ワイヤークラスプの屈曲法を習得する。	実習	全員	技工室
12	線鉤の屈曲 ワイヤークラスプの屈曲法を習得する。	実習	全員	技工室
13	レジン口蓋床の製作 自分自身の上顎模型を用いて、口蓋床を、即時重合型アクリルレジンを用いて製作する。アクリルレジンの使用方法を習得する。	実習	全員	技工室
14	レジン口蓋床の製作 自分自身の上顎模型を用いて、口蓋床を、即時重合型アクリルレジンを用いて製作する。アクリルレジンの使用方法を習得する。	実習	全員	技工室
15	製作物の仕上げと提出	実習	全員	技工室

2017年度

口腔機能再建治療学（講義）（Fixed Prosthodontics）

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎、清水 博史、〔非常勤講師〕市川 哲雄						

授業の概要

口腔機能再建治療学は、生体材料を用いて歯冠歯質の欠損および歯の欠如、咬合の異常などに起因する顎口腔系機能の低下、形態変化および審美障害などの回復、改善ならびに咬合の保全を計ることを通じて患者の健康を回復することをその目的とする。コアカリキュラム・OSCE課題に準じた到達目標を含め、生体材料の取り扱いに配慮しながら、歯質欠損、歯牙欠損に関する歯冠修復、冠橋義歯による修復治療について、講義と実習を行う。

学生の到達目標

一般目標

- ・ 咬合学の基本的知識とその臨床応用に必要な手技を習得する。
- ・ 成形を行って使用する歯科材料の種類と特性を理解し、これらの歯科材料の基本的成形方法を習得する。
- ・ 歯列の一部欠損に起因した顎口腔の機能低下に対し、生体材料を用いて口腔の機能回復を図る治療について、診断、治療、治療評価、術後管理などについてコアカリキュラムの内容を網羅しつつCBTおよびOSCEの基本的な知識と技能を身に付ける。

到達目標

- 1) クラウンブリッジの意義と具備条件を説明できる。
- 2) クラウンおよびブリッジの種類、特徴および製作法を説明できる。(ポンティックの選択を含む)
- 3) 支台築造の意義、種類および特徴を説明できる。
- 4) 支台歯形成の意義と方法を説明できる。
- 5) 暫間補綴装置の意義とその製作法を説明できる。
- 6) クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。
- 7) 研究用模型と作業用模型の製作方法を説明できる。
- 8) 平均値咬合器および調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。(使用方法を含む)
- 9) クラウンブリッジ製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。
- 10) クラウンブリッジの維持管理の目的と方法を説明できる。
- 11) フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明し、調節性咬合器の基本的操作ができる。
- 12) 歯の欠損に伴う歯・口腔・顎顔面領域の変化に対して必要な診察、検査ならびに診断ができる。
- 13) クラウンブリッジの設計を適切にできる。
- 14) クラウンブリッジの製作過程における基本的手技ができる。
- 15) クラウンブリッジ装着後における定期健診の重要性を説明し、指導できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジの意義と具備条件を説明できる。
E	3	4)	(1)		クラウンおよびブリッジの種類、特徴および製作法を説明できる。【ポンティックの選択を含む。】
E	3	4)	(1)		支台築造の意義、種類および特徴を説明できる。
E	3	4)	(1)		支台歯形成の意義と方法を説明できる。
E	3	4)	(1)		暫間補綴装置の意義とその製作法を説明できる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。
E	3	4)	(1)		研究用模型と作業用模型の製作方法を説明できる。
E	3	4)	(1)		平均値咬合器および調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。【使用方法を含む。】
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジ製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジの維持管理の目的と方法を説明できる。

2017年度

口腔機能再建治療学（講義） (Fixed Prosthodontics)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎、清水 博史、〔非常勤講師〕市川 哲雄						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	4)	(1)		フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明し、調節性咬合器の基本的操作ができる。
E	3	4)	(1)		歯の欠損に伴う歯・口腔・顎顔面領域の変化に対して必要な診察、検査ならびに診断ができる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジの設計を適切にできる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジの製作過程における基本的手技ができる。
E	3	4)	(1)		クラウンブリッジ装着後における定期健診の重要性を説明し、指導できる。
F	8	1)			歯髄保護に配慮できる。

テキスト

クラウンブリッジ補綴学
出)医歯薬出版 著)

クラウンブリッジテクニック
出)医歯薬出版 著)

参考書

咬合学事典
出)クインテッセンス出版 著)保母須弥也 ほか

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	20%
定期試験	80%

その他

(オフィスアワー) 16:30-17:00

2017年度

口腔機能再建治療学（講義） (Fixed Prosthodontics)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎、清水 博史、〔非常勤講師〕市川 哲雄						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	クラウンブリッジ補綴学の意義，目的，臨床的価値 補綴治療におけるクラウンブリッジ補綴治療の利点・欠点および果たす役割について学習する。	講義	細川	402講義室
2	クラウンブリッジの種類と要件 ポンティックの種類を含むクラウンブリッジの種類とその適応について学習する。	講義	小城	402講義室
3	ブリッジの設計（抵抗性判定法，転覆線）支台装置（選択基準） 学習したブリッジの設計について臨床例を参考に理解を深める。	講義	正木	402講義室
4	診査，診断，前処置 クラウンブリッジによる治療を行う際の診査，診断および支台歯に対する様々な前処置について学習する。	講義	近藤	402講義室
5	支台歯形成，支台築造 クラウンブリッジによる補綴治療において基本となる支台歯形成と支台築造の手順について実習と知識を関連づけて学習する。	講義	正木	402講義室
6	プロビジョナルレストレーション，仮着 プロビジョナルレストレーションの役割について学習し，臨床例を参考に理解を深める。	講義	近藤	402講義室
7	トレー，歯肉圧排，印象採得，咬合採得，シェードテイキング 支台歯形成後に行う印象採得，咬合採得およびシェードテイキングの意義と方法について学習する。	講義	正木	402講義室
8	作業用模型，咬合器装着，蠟形成法，蠟型採得 作業用模型の作製から蠟型採得までの一連の行程について学習する。	講義	小城	402講義室
9	埋没前準備，埋没，鑄造，研磨 蠟型採得後，埋没鑄造から研磨まで，装着に至るまでの行程について学習する。	講義	小城	402講義室
10	接着ブリッジの意義・作製法 接着ブリッジの意義と作製方法について通常型のブリッジとの比較を通じて学習する。	講義	清水	402講義室
11	試適，装着，維持管理，定期検診 チェアサイドにおける臨床操作である試適，装着さらに修復についての方法について学習する。	講義	正木	402講義室
12	高齢社会における補綴治療（仮） 高齢者に対する補綴治療について学習する。	講義	市川	402講義室
13	オールセラミッククラウン，CAD/CAM修復 オールセラミッククラウンなどのメタルフリー修復を中心に最新の補綴治療について学習する。	講義	柄	402講義室
14	下顎位と下顎運動 補綴治療において重要な下顎位と下顎運動の基本について学習する。	講義	細川	402講義室
15	クラウンブリッジ補綴学総括 クラウンブリッジ講義の総括として補綴治療の一連の流れについて総復習する。	講義	細川	402講義室

2017年度

口腔機能再建治療学（実習）（Preclinical Simulation Training of Fixed Prosthodontics）

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2.5
授業方法	実習	時間数	78	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘、笹栗 正明、土生 学、國領 真也、岩永 賢二郎、吉賀 大午、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平						

授業の概要

口腔機能再建治療学は、生体材料を用いて歯冠歯質の欠損および歯の欠如、咬合の異常などに起因する顎口腔系機能の低下、形態変化および審美障害などの回復、改善ならびに咬合の保全を計ることを通じて患者の健康を回復することをその目的とする。コアカリキュラム・OSCE課題に準じた到達目標を含め、生体材料の取り扱いに配慮しながら、歯質欠損、歯牙欠損に関する歯冠修復、冠橋義歯による修復治療について、講義と実習を行う。

学生の到達目標

一般目標

- ・咬合学の基本的知識とその臨床応用に必要な手技を習得する。
- ・成形を行って使用する歯科材料の種類と特性を理解し、これらの歯科材料の基本的成形方法を習得する。
- ・歯列の一部欠損に起因した顎口腔の機能低下に対し、生体材料を用いて口腔の機能回復を図る治療について、診断、治療、治療評価、術後管理などについてコアカリキュラムの内容を網羅しつつCBTおよびOSCEの基本的な知識と技能を身に付ける。

到達目標

OSCE

・支台歯形成

- 1) 患者にこれから行うことを伝えることができる。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) 形成する歯を正しく選択できる。
- 4) ハンドピースに操作が適切にできる。
- 5) 歯髄保護に配慮する。
- 6) 咬合面の形成ができる。
- 7) 清潔や痛み、安全性に配慮した操作ができる。

・テンポラリークラウンの作製

- 1) 患者にこれから行うことを伝えることができる。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) 適切な既製樹脂冠を選択できる。
- 4) 即時重合レジンの操作が適切にできる。
- 5) 辺縁のバリを適切に削除することができる。
- 6) 清潔や痛み、安全性に配慮した操作ができる。

・欠損補綴の治療方針の説明

- 1) 説明の開始にあたって、環境を整えることができる。
- 2) 様々な媒体を用いて説明できる。
- 3) 患者の理解度を確認しながら説明できる。
- 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方ができる。
- 5) 説明の終わりに、患者の疑問点を確認できる。
- 6) 補綴歯科治療の必要性を説明できる。
- 7) 補綴装置の構造の概略を説明できる。
- 8) 治療法について、長所、短所を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
D	2				修復材料と修復法の種類と特徴を説明できる。
D	2				歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。
D	2				印象材の種類と特性を説明できる。
D	2				歯科用石膏の種類と特性を説明できる。
E	3	4)	(1)		フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明し、調節性咬合器の基本的操作ができる。

2017年度

口腔機能再建治療学（実習）（Preclinical Simulation Training of Fixed Prosthodontics）

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2.5
授業方法	実習	時間数	78	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘、笹栗 正明、土生 学、國領 真也、岩永 賢二郎、吉賀 大午、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	4)	(1)		歯の欠損に伴う歯・口腔・顎顔面領域の変化に対して必要な診察、検査ならびに診断ができる。
F	6				清潔操作を実施できる。
F	6				抜歯（小手術を含む）の器材の準備ができる。
F	6				外来手術のための手洗いと滅菌手袋の装着ができる。
F	6				術野の消毒を実践できる。
F	6				局所麻酔を安全に実施できる。
F	6				単純抜歯を実施できる。
F	6				基本的な縫合操作、抜糸を実施できる。
F	8	1)			支台歯の状態に応じて適切な支台築造法を選択し、支台歯築造を実施できる。
F	8	1)			形成部位に応じて適切な支台歯形成用のバーの選択ができる。
F	8	1)			適切なハンドピース操作ができる。
F	8	1)			装着予定の歯冠補綴装置に応じて適切な支台歯形成ができる。
F	8	1)			歯髄保護に配慮できる。
F	8	1)			印象採得を適切に行うことができる。
F	8	1)			テンポラリークラウン（ブリッジ）を作製し、支台歯に適切に仮着できる。

テキスト

クラウンブリッジ補綴学
出)医歯薬出版 著)

クラウンブリッジテクニック
出)医歯薬出版 著)

参考書

歯科理工学入門
出)学建書院 著)小園凱夫 編

要説歯科材料学
出)医歯薬出版 著)平澤忠 監訳

現代歯科理工学
出)医歯薬出版 著)平澤忠 他編

咬合学事典
出)クインテッセンス出版 著)保母須弥也 ほか

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習試験（筆記・実技）	100%

2017年度

口腔機能再建治療学（実習）（Preclinical Simulation Training of Fixed Prosthodontics）

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2.5
授業方法	実習	時間数	78	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘、笹栗 正明、土生 学、國領 真也、岩永 賢二郎、吉賀 大午、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平						

その他

（オフィスアワー）16:30-17:00

2017年度

口腔機能再建治療学（実習）（Preclinical Simulation Training of Fixed Prosthodontics）

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2.5
授業方法	実習	時間数	78	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘、笹栗 正明、土生 学、國領 真也、岩永 賢二郎、吉賀 大午、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1-2	生活歯の支台歯形成（上顎右側中切歯の前装冠形成1）： レジン前装冠の形成について、シミュレーション実習模型を用い生活歯を想定して形成を行う。	講義 実習	全員	シミュレーション実習室
3-4	上顎左側第1大臼歯の抜歯： 上顎左側第1大臼歯の抜歯を例に、抜歯に必要な器具および手順について学習する。	講義 実習	笹栗/土生 /國領/岩永 /吉賀/三次 /高橋/河野 /藤井/坂口 /大澤/田中	シミュレーション実習室
5-6	生活歯の支台歯形成（上顎右側中切歯の前装冠形成2 / プロビジョナルレストレーション）： 上顎中切歯の支台歯形成後に作製するプロビジョナルレストレーションの役割とともに実際の作製方法について学習する。	講義 実習	全員	シミュレーション実習室
7-8	生活歯の支台歯形成（ブリッジ・上顎左側第2小臼歯・第2大臼歯の形成1）： 上顎左側第一大臼歯抜歯後の補綴治療としてブリッジを想定し、支台歯形成の方法について学習する。	講義 実習	全員	シミュレーション実習室
9-10	既製トレーを使った寒天 - アルジネート連合印象、石膏注入、硬石膏模型作製まで： ブリッジの支台歯形成後、寒天アルジネートによる連合印象から作業用模型の作製までの一連の流れについて実習を行う。	講義 実習	全員	シミュレーション実習室 石膏室
11-12	失活歯（下顎左側第2小臼歯根充後）に対する支台築造： 失活歯に対する支台築造について保存修復実習で根管充填を行った下顎第2小臼歯を使用して実習する。	講義 実習	全員	シミュレーション実習室
13	失活歯の支台築造：築造体のワックスアップ： 失活歯の支台築造形成後、作製した作業模型上で築造体のワックスアップまでを行うことで失活歯の歯冠回復の流れを理解する。	講義 実習	全員	技工室 石膏室
14-15	治療計画立案： 歯質欠損・歯牙欠損症例の治療計画についてテュートリアル形式にて学習する。	講義 実習	全員	テュートリアル演習室
16-27	歯科用石膏の練和条件の違いによる硬化時間および硬化膨張への影響 歯科用印象材のひずみの測定と適合性試験 スタディモデル作製、フェイスボウトランスファー、咬合器装着 チェックバイト、顎路計測、切歯指導板の作製 印象材と石膏の物性について学習する。またスタディモデル作製から咬合器付着、咬合器の操作を学習する。	実習（4班に分かれて各週1テーマずつ実習を行う）	全員	シミュレーション実習室 石膏室 鑄造室
28-39	鑄造用埋没材の諸性質におよぼす諸因子の影響 鑄造体の精度と適合性 実習実技試験（OSCE形式）（支台歯形成、テンポラリークラウン） 実習実技試験（ブリッジ形成） ワックスアップ後の鑄造操作の手順と材料の性質について学習する。またOSCE形式の実習によりこれまでの実習内容の習熟度を確認する。	実習（4班に分かれて各週1テーマずつ実習を行う）	全員	相互実習室 技工室 石膏室 鑄造室 シミュレーション実習室

2017年度

栄養と食生活 (Nutrition and Dietary Habits)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	辻澤 利行						
担当教員	辻澤 利行、柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、〔非常勤講師〕村松 宰						

授業の概要

バランスのとれた食生活（栄養摂取）は、生命の維持および健康な身体を維持するのに必要である。偏った栄養摂取は生活習慣病をはじめとする種々の疾患を引き起こす。本講義では、ライフステージに応じた食育推進や臨床栄養を理解する上で必要な栄養学に関する基本的事項および国民栄養の現状とその問題点について講義する。また、歯科臨床で重要な口腔疾患の予防や要介護高齢者の歯科的問題点と栄養摂取方法について講義する。

学生の到達目標

- 口腔と全身の健康の関連を説明できる。
- 疾病の概念、種類および予防を概説できる。
- 地域における保健・医療・保健・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。
- 主な口腔疾患の予防（生活習慣病の改善指導を含む）を説明できる。
- タンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。
- 糖質の構造、機能および代謝を説明できる。
- 脂質の構造、機能および代謝を説明できる。
- 生体内におけるエネルギー利用を説明できる。
- 適切な食事指導（栄養指導）を実施できる。
- 生活習慣に関して適切に指導できる。
- ライフステージに応じた食育について説明できる。
- 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常について説明できる。
- 高齢者の歯科治療について説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
B	1				口腔と全身の健康との関連を説明できる。
B	1				疾病の概念、種類および予防を概説できる。
B	2	2)			地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。
B	3	2)			主な口腔疾患（う蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。【生活習慣病の改善指導を含む。】
B	3	2)			口腔ケアの意義と効果を説明できる。
C	1	1)			アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1)			糖質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1)			脂質の構造、機能および代謝を説明できる。
C	1	1)			生体内におけるエネルギー利用を説明できる。
E	1	6)	(2)		適切な食事指導（栄養指導）を実施できる。
E	1	6)	(2)		生活習慣に関して適切に指導できる。
E	1	6)	(2)		ライフステージに応じた食育について説明できる。
E	2	1)			嚥下の機序を説明できる。

2017年度

栄養と食生活 (Nutrition and Dietary Habits)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	辻澤 利行						
担当教員	辻澤 利行、柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、〔非常勤講師〕村松 宰						

テキスト

講義は、配布プリントを中心に行う。
出)

著)

参考書

日本人の食事摂取基準 2015年版
出)第一出版

著)厚生労働省策定

国民健康・栄養調査報告
出)

著)厚生労働省

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

2017年度

栄養と食生活 (Nutrition and Dietary Habits)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	辻澤 利行						
担当教員	辻澤 利行、柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、〔非常勤講師〕村松 宰						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	国民栄養の現状 1 国民健康・栄養調査の結果を中心に国民栄養の現状について学習する。	講義	辻澤	402講義室
2	国民栄養の現状 2 国民健康・栄養調査の結果を中心に（食）生活習慣の現状について学習する。 食事摂取基準 1 栄養管理をする上で必要なエネルギーや各種栄養素の基準値について説明する。推定エネルギー必要量（基礎代謝量・身体活動レベルを含む）、推定平均必要量、推奨量、目安量、耐容上限量、目標量について学習する。	講義	辻澤	402講義室
3	食事摂取基準 2 栄養管理の基本的な考え方を学習する。 摂取エネルギーの決め方とタンパク質、脂質、炭水化物、カルシウムやナトリウムなど主な栄養素の食事摂取基準について学習する。	講義	辻澤	402講義室
4	栄養素の種類と代謝 1 炭水化物（糖質・食物繊維）およびタンパク質の種類と代謝、主な供給源と1日に必要な摂取量の目安について学習する。	講義	辻澤	402講義室
5	栄養素の種類と代謝 2 脂質の種類と代謝、主な供給源と1日に必要な摂取量の目安について学習する。ビタミンの欠乏症と過剰症について学習する。	講義	辻澤	402講義室
6	栄養素の種類と代謝 3 ビタミン（脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン）およびミネラル（主要ミネラルと微量ミネラル）の種類と代謝、主な供給源と1日に必要な摂取量の目安について学習する。	講義	辻澤	402講義室
7	食品と栄養のバランス 三分類、六分類、食事バランスガイドについて学習する。 食品の機能性 食品のもつ1次機能、2次機能および3次機能について学習する。	講義	辻澤	402講義室
8	歯科からの食育推進について 食育基本法、第2次食育推進基本計画、食育推進宣言、健康づくりのための食育推進共同宣言について学習する。	講義	辻澤	402講義室
9	ライフステージに応じた食育について ライフステージに応じた食育支援と歯科臨床栄養学に結びつけるために必要と思われる栄養学的な注意点について学習する。	講義	辻澤	402講義室
10	低栄養の代謝 飢餓および侵襲時における代謝反応について学習する。	講義	辻澤	402講義室
11	微量元素の機能と作用 ビタミン・ミネラルといった微量元素の役割と生体内での栄養素の役割について学習し、サプリメント等の問題についても理解を深める。	講義	村松	402講義室
12	加齢に伴う摂食機能の変化、栄養アセスメント 身体の加齢変化により生じる摂食機能の変化について理解し、栄養状態のアセスメントについて学習する。	講義	藤井	402講義室
13	摂食・嚥下機能とその障害 摂食・嚥下機能とそれにより生じる障害について理解し、そのリハビリ法について学習する。	講義	藤井	402講義室
14	栄養法と食形態 栄養法の種類・適応・注意点や機能訓練で用いる嚥下食から、日常的な経口摂取で用いる介護食などの食形態について学習する。	講義	多田	402講義室

2017年度

栄養と食生活 (Nutrition and Dietary Habits)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	辻澤 利行						
担当教員	辻澤 利行、柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、〔非常勤講師〕村松 宰						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
15	口腔機能と栄養学（口腔機能、食生活） 食生活と口腔の関係について総合的に学習する。東洋医学を含めた口から食べられるような環境作りについても理解する。	講義	柿木	402講義室

2017年度

ヘルスプロモーション臨地実習 (Health Promotion Practice)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子						

授業の概要

ヘルスプロモーション学を基礎として地域住民がかかえている困りごとや健康問題を解決するための実習を行う。健康教育、健康相談などの基本的な公衆衛生活動を体験することでヘルスプロモーションの実際に必要となる専門的知識・スキルを習得する。

学生の到達目標

- ヘルスプロモーションの意義を説明できる。
- 実践活動の場での課題発見、問題解決の手法を説明できる。
- 歯科保健活動を通じて歯科・口腔に関する専門的知識およびスキルの向上を図ることができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	7	1)			コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
E	1	6)	(2)		口腔の健康度やリスクを評価し、対象者に説明できる。
E	1	6)	(2)		セルフケアを行えるように適切な動機づけができる。
E	1	6)	(2)		適切な口腔清掃法を指導できる。
E	1	6)	(2)		適切な食事指導（栄養指導）を実施できる。
E	1	6)	(2)		生活習慣に関して適切に指導できる。

テキスト

実習ワークシート
出)配布予定

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習への取り組み・プレゼンの内容	50%
レポート	50%

その他

2017年度

ヘルスプロモーション臨地実習 (Health Promotion Practice)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	臨地実習の目的・心得・すすめ方 臨地実習を行うに当たっての心構えや留意点ならびに実習のすすめ方について講義を行う。	講義 スライド	安細	51実習室
2	事前学習 班ごとに課題設定、資料収集、プレゼン用スライドの準備を行う。	実習(班単位)	全員	51実習室
3	グループ討議・発表() プレゼンの予行とブラッシュアップを行うとともに実際の現場を想定した質疑応答のシミュレーションを行う。	実習(班単位)	全員	51実習室
4	グループ討議・発表() プレゼンの予行とブラッシュアップを行うとともに実際の現場を想定した質疑応答のシミュレーションを行う。	実習(班単位)	全員	51実習室
5	シニアカレッジ研修生への講話と歯科保健活動 班ごとに講話(各班10分程度)を行う。	実習(班単位)	全員	51実習室、相互実習室
6	事後学習() 実習の振り返りを行い、レポートにまとめ提出する。	実習	全員	51実習室、相互実習室
7	シニアカレッジ研修生への歯科保健活動 歯科ユニットごとに口腔保健指導を行う。	実習	全員	51実習室、相互実習室
8	事後学習() 実習の振り返りを行い、レポートにまとめ提出する。	実習(班単位)	全員	51実習室、相互実習室

2017年度

小児歯科学 (Pediatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、森川 和政、佐伯 桂、〔非常勤講師〕藤原 卓、〔非常勤講師〕朝田 芳信						

授業の概要

本科目では、胎児期から成人にいたるまでの小児の顎口腔領域の健康を維持・増進させるために、疾患の発症を予防し治療を行なうことを目的とする。そのためには小児の特異性を考慮し、健全な顎口腔機能育成のため包括的治療のできる理論と技能・技術を修得した歯科医師を養成することを目標とする。

学生の到達目標

- 乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴、う蝕予防を説明できる。
- 小児の代表的な疾患を説明できる。
- 主な口腔疾患（う蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。
- 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域に症状をきたす主な先天異常を説明できる。
- 主な口腔疾患（う蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。
- 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域に症状をきたす主な先天異常を説明できる。
- 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。
- 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。
- 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする粘膜疾患を概説できる。
- 歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。
- 急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。
- 口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
B	3	2)			主な口腔疾患（う蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。【生活習慣病の改善指導を含む。】
E	2	3)			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。
E	2	4)	(1)		口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。
E	2	4)	(7)		流行性耳下腺炎の特徴、症状、診断法および治療を説明できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す感染症の種類とその症状を列挙できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す系統的骨疾患の症状、診断および治療法を列挙できる。
E	2	4)	(9)		ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染症の検査法とその口腔症状と検査法を説明できる。
E	3	1)			歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。【構成成分とその変化を含む。】
E	3	1)			歯種別の形態と特徴を説明できる。
E	3	1)			歯（乳歯、幼若永久歯を含む）の硬組織の構造と機能を説明できる。【構成成分とその特徴を含む。】
E	3	2)			歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。
E	3	2)			口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。
E	3	3)	(3)		歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。【検査法、メンテナンス法を含む。】
E	3	3)	(3)		歯周治療の術式と適応症を説明できる。
E	4	2)			乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴、う蝕予防を説明できる。

2017年度

小児歯科学 (Pediatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、森川 和政、佐伯 桂、〔非常勤講師〕藤原 卓、〔非常勤講師〕朝田 芳信						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	4	2)			小児の虐待の徴候と対応について説明できる。
E	4	6)			小児の代表的な疾患を説明できる。

テキスト

小児歯科学
出)医歯薬出版

著)

小児歯科学基礎・臨床実習
出)医歯薬出版

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(学習相談)相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

小児歯科学 (Pediatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、森川 和政、佐伯 桂、〔非常勤講師〕藤原 卓、〔非常勤講師〕朝田 芳信						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	乳歯および幼若永久歯の特徴 乳歯及び幼若永久歯の形態的・組織学的特長について学習する。	講義 資料プリント	牧	501講義室
2	小児のう蝕(1) う蝕の要因についてブラーク、歯質、食事との関係について学習する。	講義 資料プリント	藤原	501講義室
3	小児のう蝕(2) 小児期のう蝕の特徴についてステージごとに学習する。	講義 資料プリント	西田	501講義室
4	小児のう蝕予防 フッ化物、シーラントの応用、ブラークコントロール、食事指導を学習する。	講義 資料プリント	西田	501講義室
5	小児虐待 小児虐待の対応と兆候について学習する。	講義 資料プリント	牧	501講義室
6	小児の全身疾患と歯科治療(1) 遺伝性疾患や染色体異常疾患の歯科的所見について学習する。	講義 資料プリント	朝田	501講義室
7	小児の全身疾患と歯科治療(2) 内分泌疾患やビタミン欠乏症、血液・造血疾患等の全身疾患とその対応について学習する。	講義 資料プリント	佐伯	501講義室
8	小児の全身疾患と歯科治療(3) 小児期の感染症について学習する。	講義 資料プリント	牧	501講義室

2017年度

小児歯科学 (講義) (Pediatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂、〔非常勤講師〕香西 克之、〔非常勤講師〕尾崎 正雄、〔非常勤講師〕山崎 要一						

授業の概要

本科目では、胎児期から成人までの、小児の顎口腔領域の健康を維持・増進させるために、疾患の発症を予防し治療を行なうことを目的とする。そのために成長過程にある小児の特異性を考慮し、健全な顎口腔機能育成のため包括的治療のできる理論と技能・技術を修得した歯科医師を養成することを目標とする。

学生の到達目標

- 小児患者の対応について説明できる。
- 歯科治療と全身疾患との関連を理解し説明できる。
- 診察、検査、診断および治療に必要な器材を説明できる。
- 抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。
- 小手術の偶発症と適応症を説明できる。
- 炎症の診断に必要な検査方法を説明できる。
- 一般的な消炎療法の意義と特徴を説明できる。
- 主な炎症（舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎等）を概説できる。
- 歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。
- 口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状、診断法および治療法を概説できる。
- 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意事項を説明できる。
- 乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の診察、検査と診断を説明できる。
- 乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の処置法の種類と適応症、予後および手順と留意点を説明できる。
- 小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査と診断および処置法と予後を説明できる。
- 咬合誘導の概念を説明できる。
- 保隙処置の目的と種類、適応症および留意点を説明できる。
- 障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
- 障害者の行動調整（行動管理）と歯科治療を説明できる。
- 障害者における口腔ケア処置について説明できる。
- 障害者に対して基本的な対応ができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	3				患者との信頼関係を築くことができる。
A	3				個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
A	3				患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
A	3				患者に最も適した医療を説明できる。
E	1	6)	(2)		口腔の健康度やリスクを評価し、対象者に説明できる。
E	1	6)	(2)		セルフケアを行えるように適切な動機づけができる。
E	1	6)	(2)		適切な口腔清掃法を指導できる。
E	1	6)	(2)		適切な食事指導（栄養指導）を実施できる。
E	1	6)	(2)		生活習慣に関して適切に指導できる。
E	1	6)	(2)		ライフステージに応じた食育について説明できる。
E	2	4)	(3)		歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。
E	2	4)	(3)		急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。

2017年度

小児歯科学 (講義) (Pediatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂、〔非常勤講師〕香西 克之、〔非常勤講師〕尾崎 正雄、〔非常勤講師〕山崎 要一						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4)	(3)		炎症の診断に必要な検査法を説明できる。
E	2	4)	(3)		口唇・口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。
E	2	4)	(3)		菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。
E	2	4)	(3)		一般的な消炎療法の意義と特徴を説明できる。
E	2	4)	(3)		主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、歯性上顎洞炎等)を概説できる。
E	2	4)	(4)		口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。
E	2	4)	(4)		水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。
E	2	4)	(5)		顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		口唇・口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(5)		歯原性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		口唇・口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法(組織診、画像診断)および治療法を説明できる。
E	2	4)	(5)		腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。
E	4	2)			小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる。
E	4	2)			乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴、う蝕予防を説明できる。
E	4	2)			乳歯と幼若永久歯のう蝕の診察、検査と診断を説明できる。
E	4	2)			乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意事項を説明できる。【小児のラバーダム防湿法を含む。】
E	4	2)			乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の診察、検査と診断を説明できる。
E	4	2)			乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の処置法の種類と適応症、予後および手順と留意点を説明できる。
E	4	2)			小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査と診断および処置法と予後を説明できる。
E	4	2)			咬合誘導の概念を説明できる。
E	4	2)			保隙処置の目的と種類、適応症および留意点を説明できる。

テキスト

新小児歯科学改訂版
出)クインテッセンス

著)

子供の歯に強くなる本
出)クインテッセンス

著)

参考書

混合歯列期の矯正歯科治療
出)医歯薬出版

著)

2017年度

小児歯科学 (講義) (Pediatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂、〔非常勤講師〕香西 克之、〔非常勤講師〕尾崎 正雄、〔非常勤講師〕山崎 要一						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	90%
小テスト	10%

その他

(学習相談) 相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

小児歯科学 (講義) (Pediatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂、〔非常勤講師〕香西 克之、〔非常勤講師〕尾崎 正雄、〔非常勤講師〕山崎 要一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	小児患者の取り扱い 小児の示す態度や行動を理解し、一般的対応法や行動変容法についての対応を学習する。	講義 資料プリント	西田	501講義室
2	小児歯科における診査と診断、治療計画 小児歯科における診査と診断、治療計画について学習する。	講義 資料プリント	西田	501講義室
3	患児・保護者教育、定期検診 小児歯科診療における患児・保護者教育、定期検診について学習する。	講義 資料プリント	西田	501講義室
4	乳歯の歯内療法 乳歯歯内療法の適応症と術式について学習する。	講義 資料プリント	佐伯	501講義室
5	幼若永久歯の歯内療法 幼若永久歯の歯髄処置と歯内療法後の歯根形成と根尖閉鎖の術式について学習する。	講義 資料プリント	牧	501講義室
6	乳歯および幼若永久歯への歯冠修復 乳歯および幼若永久歯への歯冠修復の目的、注意点、種類、問題点、特徴について学習する。	講義 資料プリント	西田	501講義室
7	小児の口腔外科的処置(1) 小児期の口腔外科処置の概論と症例呈示を踏まえて概論を学習する。	講義 資料プリント	尾崎	501講義室
8	小児の口腔外科的処置(2) 小児の局所麻酔法、乳歯抜歯、顎および口腔軟組織疾患をの異常と疾患処置、小児の薬物療法を学習する。	講義 資料プリント	藤田	501講義室
9	乳歯の外傷 乳歯の外傷の診察、検査と診断および処置法と予後について学習する。	講義 資料プリント	香西	501講義室
10	幼若永久歯の外傷 幼若永久歯の外傷の診察、検査と診断および処置法と予後について学習する。	講義 資料プリント	牧	501講義室
11	咬合誘導(1) 保険処置の目的と種類、適応症および留意点を学習する。	講義 資料プリント	藤田	501講義室
12	咬合誘導(2) 能動的咬合誘導(スペースリゲーター、歯列弓拡大装置、口腔習癖防止装置)について学習する。	講義 資料プリント	山崎	501講義室
13	摂食・咀嚼・嚥下の発達 心身賞を説明できる、摂食障害を説明できる、児童虐待を説明できることを目的として学習する。	講義 資料プリント	牧	501講義室
14	青少年期の歯科 思春期の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療場の留意点を学習する。	講義 資料プリント	佐伯	501講義室
15	心身障害者(児)の歯科診療 歯科診療時における心身障害児の適応行動を得るために、心身障害児の定義や種類、またその特徴を理解し、適切な対応を習得する。	講義 資料プリント	森川	501講義室

2017年度

小児歯科学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Pediatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	32	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂、〔非常勤講師〕野村 信人、〔非常勤講師〕古谷 充朗						

授業の概要

乳歯の歯冠修復である既製乳歯冠の支台歯形成と乳歯冠の作製、装着を行う。
乳歯の歯内療法を修得する。
保険装置であるクラウンループ、小児義歯の作製を行う。
咬合誘導装置について保護者への説明ができる。
小児期の予防処置である予防填塞、フッ化物塗布、保護者へのブラッシング指導を行う。

学生の到達目標

ラバーダム防湿を行うことができる。
基本的なう蝕の予防処置（予防填塞、フッ化物塗布）を行うことができる。
乳歯の生活歯髄切断を行うことができる。
乳歯の既製金属冠修復を行うことができる。
基本的な保険装置（クラウンループ、小児義歯）を作製することができる。
保護者へのブラッシング指導を行うことができる。
保護者に咬合誘導装置の説明を行うことができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	6)	(1)		フッ化物の歯面塗布を実施できる。
E	1	6)	(1)		予防填塞を実施できる。
E	4	2)			乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴、う蝕予防を説明できる。
E	4	2)			乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意事項を説明できる。【小児のラバーダム防湿法を含む。】
E	4	2)			乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の診察、検査と診断を説明できる。
E	4	2)			乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の処置法の種類と適応症、予後および手順と留意点を説明できる。
E	4	2)			咬合誘導の概念を説明できる。

テキスト

小児歯科学
出)医歯薬出版

小児歯科学基礎・臨床実習
出)医歯薬出版

参考書

出) 著)

著)

著)

2017年度

小児歯科学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Pediatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	32	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂、〔非常勤講師〕野村 信人、〔非常勤講師〕古谷 充朗						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習製作物	100%

その他

(学習相談) 相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

小児歯科学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Pediatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	32	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂、〔非常勤講師〕野村 信人、〔非常勤講師〕古谷 充朗						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	ラバーダム防湿 小窩裂溝填塞法(シーラント) 小児歯科領域の予防処置の小窩裂溝填塞法(シーラント)について術式を学習する。 またシーラントにおける防湿の重要性、術式もあわせて学習する。	模型実習	全員	シミュレーション実習室
3,4	乳歯の生活歯髄切断法 小児期の歯内療法である生活歯髄切断に関して、適応症、術式を学習する。	模型実習	全員	シミュレーション実習室
5,6	支台歯形成・乳歯冠装着 小児歯科領域で頻用されている乳歯冠について支台歯形成・乳歯冠作成、装着について学習する。	模型実習	全員	シミュレーション実習室
7,8	クラウンループ作製 保険装置であるクラウンループについて適応症、作成手順等を学習する。	模型実習	全員	シミュレーション実習室・ 技工室・石膏室
9,10	クラウンループ作製 保険装置であるクラウンループについて適応症、作成手順等を学習する。	模型実習	全員	シミュレーション実習室・ 技工室・石膏室
11,12	小児義歯作製 保険装置である小児義歯について適応症、作成手順等を学習する。	模型実習	全員	技工室・石膏室
13,14	保護者への咬合誘導装置の説明・保護者へのブラッシング指導 咬合誘導装置について保護者への説明を十分できるように相互実習で学習する。 保護者へのブラッシング指導を十分できるように相互実習で学習する。	模型実習	全員	相互実習室
15,16	フッ化物塗布 器具返却・製作物提出	模型実習	全員	シミュレーション実習室

2017年度

歯科矯正学 (Orthodontics)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平、〔非常勤講師〕黒田 敬之						

授業の概要

歯科矯正治療は歯の位置異常や顎顔面骨の異常，あるいは顎口腔機能の異常を改善して、歯列咬合の健全な育成を促すのみならず，患者の健康およびquality of life(QOL)の向上に資することを目的とする。歯科矯正学IIは、講義を中心とした歯科矯正学に関する総論とし、矯正歯科治療の意義と目的を理解するとともに、成長発育や正常咬合、不正咬合の原因やその予防、歯科矯正治療に伴う生体反応に関する理解を深める。

学生の到達目標

- 歯科矯正学の定義を理解する。
- 歯科矯正治療の目的と意義を説明できる。
- 成長発育の評価、骨の成長様式を理解し説明できる。
- 顎顔面頭蓋部および歯列咬合の成長発育を理解し説明できる。
- 正常咬合の概念と客観的な評価法を理解する。
- 不正咬合の客観的な表現法と分類を理解する。
- 不正咬合の原因となる事項を列挙し、それぞれの内容を理解する。
- 矯正力に対する歯、歯周組織の反応を理解する。
- 矯正力に対する顎骨の反応を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3)	(1)		内軟骨性骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。
C	2	4)	(1)		人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。
E	2	2)			歯列と咬合について説明できる。
E	2	3)			一次口蓋と二次口蓋の発生を概説できる。
E	2	3)			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。
E	2	3)			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。
E	3	1)			歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。【構成成分とその変化を含む。】
E	4	1)			矯正治療の目的と意義を説明できる。
E	4	1)			正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。
E	4	1)			不正咬合によって生じる障害を列挙できる。
E	4	1)			不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。
E	4	1)			矯正治療によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。

テキスト

歯科矯正学 第5版
出)医歯薬出版

著)相馬邦道他 編集

参考書

Contemporary Orthodontics Fifth Edition
出)Elsevier

著)William R.Proffit 他

顔面成長発育の基礎

出)クインテッセンス出版

著)[監訳] 黒田敬之

2017年度

歯科矯正学 (Orthodontics)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平、〔非常勤講師〕黒田 敬之						

Handbook of Facial Growth
出)W.B.Saunders Company

著)Donald H.Enlow

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(学習相談) 相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

歯科矯正学 (Orthodontics)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平、〔非常勤講師〕黒田 敬之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	歯科矯正学の歩みと定義 歯科矯正治療の意義と目的	講義	川元	501講義室
2	成長発育概論	講義	川元	501講義室
3	頭蓋ならびに顎顔面の発生および成長発育	講義	川元 志賀	501講義室
4	歯科矯正学の歴史	講義	黒田	501講義室
5	歯列と咬合の成長発育、咬合概論	講義	川元 瀧口	501講義室
6	不正咬合の分類	講義	川元 郡司掛	501講義室
7	不正咬合の原因	講義	川元 黒石	501講義室
8	歯科矯正治療に伴う生体反応	講義	川元 森田	501講義室

2017年度

歯科矯正学 (講義) (Orthodontics)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平、〔非常勤講師〕森山 啓司						

授業の概要

歯科矯正学 においては、講義と実習を統合して行う。講義では、矯正歯科治療における形態的、機能的検査の具体的な方法、分析法や治療計画の立案を通じて、診断の特徴と目的の理解を深める。また各歯列期でどのような不正咬合を治療するかを理解し、適切な治療を行うための基本知識を習得する。さらに口唇口蓋裂を含む先天異常症例や顎変形症の外科的矯正治療などの包括治療に対する理解を深める。

学生の到達目標

- 矯正臨床における診断の特徴と目的を理解する。
- 医療面接と診療に対する具体的な方法を理解する。
- 矯正臨床における検査の意義を理解する。
- 形態的、機能的検査の具体的な方法と分析法を理解する。
- 矯正歯科治療における抜歯の意義と目的を理解する。
- 治療計画設定に必要な事項を理解する。
- 各歯列期でどのような不正咬合を治療するかを理解する。
- 矯正力の種類と大きさの分類について理解する。
- 固定の定義と意義について理解する。
- 矯正臨床の材料として具備すべき基本的な条件を理解する。
- 矯正装置の基本的条件および分類を理解する。
- 混合歯列期の矯正歯科治療の実際を理解する。
- 永久歯列期の矯正歯科治療の実際を理解する。
- 口唇口蓋裂を含めた先天異常疾患の矯正歯科治療を理解する。
- 顎変形症の外科的矯正治療を理解する。
- 保定の概念と種類を理解する。
- 歯科矯正治療に伴う偶発症の原因を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4)	(1)		口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。
E	2	4)	(1)		口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。
E	2	4)	(1)		顎変形症を概説できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。
E	2	4)	(10)		咬合異常と咀嚼障害の原因と診察、検査、診断および治療方針を説明できる。
E	4	1)			矯正治療の目的と意義を説明できる。
E	4	1)			正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。
E	4	1)			不正咬合によって生じる障害を列挙できる。
E	4	1)			不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。
E	4	1)			矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。
E	4	1)			矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。
E	4	1)			矯正治療に必要な力学を説明できる。
E	4	1)			矯正治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。

2017年度

歯科矯正学 (講義) (Orthodontics)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平、〔非常勤講師〕森山 啓司						

テキスト

講義内容をまとめたテキストを作成配布する。

出) 著)

歯科矯正学 第5版

出) 医歯薬出版 著) 相馬邦道他 編集

参考書

Contemporary Orthodontics Fifth Edition

出) Elsevier 著) William R. Proffit 他

アトラス顎顔面矯正-顎変形症と口唇口蓋裂の矯正治療-

出) 医歯薬出版 著) 黒田敬之 監修

Atlas of Orthodontic Treatment for Patients with Birth Defects

出) Needham Press 著) T. Kuroda 他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

(定期試験受験資格 = 実習試験合格) 歯科矯正学 の定期試験では講義(各論)と基礎実習、および総合診断学実習に関する出題とし、CBTに類似した選択式と一部記述式とする。

その他

(学習相談) 相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

歯科矯正学 (講義) (Orthodontics)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平、〔非常勤講師〕森山 啓司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	診断の基本 医療面接と診察	講義	川元	501講義室
2	診断学(検査)	講義	川元 瀧口	501講義室
3	治療方針の立案	講義	川元 志賀	501講義室
4	歯科矯正治療における抜歯、歯の移植	講義	川元	501講義室
5	矯正力 矯正歯科治療における固定、矯正用アンカースクリュー	講義	川元 森田	501講義室
6	矯正用材料の特性 矯正装置(1)	講義	川元 郡司掛	501講義室
7	矯正装置(2)	講義	川元 黒石	501講義室
8	乳歯列期、混合歯列期の矯正治療	講義	川元 瀧口	501講義室
9	永久歯列期の矯正治療(1)	講義	川元 郡司掛	501講義室
10	永久歯列期の矯正治療(2)	講義	川元 黒石	501講義室
11	先天異常患者の矯正治療	講義	森山	501講義室
12	口唇口蓋裂患者の矯正治療	講義	川元 森田	501講義室
13	顎変形症の外科的矯正治療	講義	川元	501講義室
14	保定、歯科矯正治療に伴う偶発症	講義	川元 志賀	501講義室
15	他科との協同による矯正治療	講義	川元	501講義室

2017年度

歯科矯正学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Orthodontics)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業の概要

本実習では、矯正歯科治療の中で、患者からのインフォームドコンセントを獲得するための知識と技能を習得する。不正咬合の診断方法、治療の方針方法の立案の流れについては総合診断学実習を通じて、矯正治療に利用される基本的装置の作用機序、使用方法などは模型実習で理解を深める。また、矯正力と歯の移動との関係（生体力学）はタイポドント実習で理解を高める。このような基本的知識と技能を応用して、矯正治療の目的、意義、不正咬合の障害、原因、不正の成り立ち、治療方針、方法などを説明し、患者からインフォームドコンセントを獲得する技能を相互実習（医療面接）で習得する。

学生の到達目標

- 矯正治療の目的と意義を理解し説明できる。
- 不正咬合の特徴と成り立ちを理解する。
- 不正咬合の障害と原因を理解する。
- 顎顔面の形態的特徴と顎口腔機能との関係を理解する。
- 正常咬合と不正咬合の概念を理解する。
- 不正咬合の分類と原因を理解する。
- 不正咬合の予防を認識する。
- 診断資料の意味と意義を理解する。
- 診断資料を分析診断し、不正咬合の成り立ちを説明できる。
- 歯の移動のメカニズム、生体力学を理解し、矯正装置の作用機序と使用法を説明できる。
- 患者とのコミュニケーションによって不正咬合の障害、治療の目的、方法（装置の使用法）等を説明できる。
- 不正咬合の治療の実際を理解する。
- 治療後の安定の要因と保定を理解する。
- 他科との連携による包括診療の意義を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4)	(10)		咬合異常と咀嚼障害の原因と診察、検査、診断および治療方針を説明できる。
E	4	1)			矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。
F	10	1)			成長期の患者の顎顔面形態と口唇・口腔内所見の特徴を説明できる。
F	10	1)			顎顔面形態の特徴を視診にて把握することができる。
F	10	1)			口唇・口腔内の視診を行うことができる。
F	10	1)			顎顔面形態と口唇・口腔内の所見を適切に記録することができる。
F	10	1)			成長期の患者や保護者に配慮した診察を行うことができる。
F	10	2)			矯正治療の必要性を説明できる。
F	10	2)			矯正装置について説明できる。
F	10	2)			様々な媒体を用いて説明できる。
F	10	2)			患者や保護者の理解度を確認しながら説明できる。
F	10	2)			分かりやすい言葉使いと聞き取りやすい話し方ができる。

2017年度

歯科矯正学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Orthodontics)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

テキスト

基礎実習と総合診断実習について別個にテキストと手引書を作成配布する。
出) 著)

歯科矯正学 第5版
出)医歯薬出版

著)相馬邦道他 編集

参考書

Contemporary Orthodontics Fifth Edition

出)Elsevier

著)William R.Proffit 他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
作品(装置)の作成技能	50%
確認テスト	50%

提出された作品(装置)から作成技能を評価する。

製作物が臨床的に使用可能であれば合格とし、実習試験の合格を、講義の受験資格とする。

その他

2017年度

歯科矯正学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Orthodontics)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	実習オリエンテーション、器具チェック 歯科矯正実習について、全般的な注意および器具を踏まえ、概要を学ぶ。	講義	川元 郡司掛	技工室
2	線屈曲と床装置 器械的保定に用いられる保定装置について学ぶ。保定について、その目的を踏まえながら、装置を製作し、その使用方法、使用時の注意点、適応症等を学ぶ。	模型実習	川元 郡司掛	技工室
3	線屈曲と床装置 器械的保定に用いられる保定装置について学ぶ。保定について、その目的を踏まえながら、装置を製作し、その使用方法、使用時の注意点、適応症等を学ぶ。	模型実習	川元 郡司掛	技工室
4	線屈曲と床装置 器械的保定に用いられる保定装置について学ぶ。保定について、その目的を踏まえながら、装置を製作し、その使用方法、使用時の注意点、適応症等を学ぶ。	模型実習	川元 郡司掛	技工室
5	印象採得と医療面接、資料の説明、歯列模型、咬合位の採得 不正咬合の診断ならびに治療計画作成等に使用する口腔模型の製作ならびに分析法を踏まえて、上下顎の印象採得法や中心咬合位の採得等について学ぶ。	相互実習 医療面接対応	川元 瀧口	相互実習室 石膏室
6	印象採得と医療面接、資料の説明、歯列模型、咬合位の採得 不正咬合の診断ならびに治療計画作成等に使用する口腔模型の製作ならびに分析法を踏まえて、上下顎の印象採得法や中心咬合位の採得等について学ぶ。	相互実習 医療面接対応	川元 瀧口	相互実習室 石膏室
7	印象採得と医療面接、資料の説明、歯列模型、咬合位の採得 不正咬合の診断ならびに治療計画作成等に使用する口腔模型の製作ならびに分析法を踏まえて、上下顎の印象採得法や中心咬合位の採得等について学ぶ。	相互実習 医療面接対応	川元 瀧口	相互実習室 技工室 石膏室
8	印象採得と医療面接、資料の説明、歯列模型、咬合位の採得 不正咬合の診断ならびに治療計画作成等に使用する口腔模型の製作ならびに分析法を踏まえて、上下顎の印象採得法や中心咬合位の採得等について学ぶ。	相互実習 医療面接対応	川元 瀧口	相互実習室 技工室 石膏室
9	タイポドント 歯の移動様式および固定源について、タイポドントのワイヤー屈曲を踏まえながら、メカニズムを学ぶ。	グループ実習	川元 郡司掛	72実習室
10	タイポドント 歯の移動様式および固定源について、タイポドントのワイヤー屈曲を踏まえながら、メカニズムを学ぶ。	グループ実習	川元 郡司掛	72実習室
11	舌側弧線装置 舌側弧線装置について、装置製作を踏まえながら、装置の構造、適応症、適用時期および装着時の指導等を学ぶ。	模型実習	川元 森田	石膏室 技工室
12	舌側弧線装置 舌側弧線装置について、装置製作を踏まえながら、装置の構造、適応症、適用時期および装着時の指導等を学ぶ。	模型実習	川元 森田	石膏室 技工室
13	舌側弧線装置 舌側弧線装置について、装置製作を踏まえながら、装置の構造、適応症、適用時期および装着時の指導等を学ぶ。	模型実習	川元 森田	石膏室 技工室
14	舌側弧線装置 舌側弧線装置について、装置製作を踏まえながら、装置の構造、適応症、適用時期および装着時の指導等を学ぶ。	模型実習	川元 森田	石膏室 技工室
15	急速拡大装置、緩徐拡大装置 急速拡大装置、緩徐拡大装置について、装置製作を踏まえながら、装置の構造、適応症、模型計測、治療方針・方法、拡大の経過を学ぶ。	グループ実習 模型実習	川元 瀧口	石膏室 技工室

2017年度

歯科矯正学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Orthodontics)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
16	チンチャップ チンキャップについて、装置製作を踏まえながら、装置の構造、適応症、適用時期および装着時の指導等を学ぶ。	グループ実習	川元 瀧口	技工室
17	アクチバートル (F.K.O) 矯正治療について、アクチバートルの製作を踏まえ、患者や保護者にわかりやすく説明するために必要な基本的知識、技能および態度を学ぶ。	模型実習	川元 黒石	石膏室 技工室
18	アクチバートル (F.K.O) 矯正治療について、矯正装置の製作を踏まえ、患者や保護者にわかりやすく説明するために必要な基本的知識、技能および態度を学ぶ。	模型実習	川元 黒石	石膏室 技工室
19	アクチバートル (F.K.O) 矯正治療について、矯正装置の製作を踏まえ、患者や保護者にわかりやすく説明するために必要な基本的知識、技能および態度を学ぶ。	模型実習	川元 黒石	石膏室 技工室
20	アクチバートル (F.K.O) 矯正治療について、矯正装置の製作を踏まえ、患者や保護者にわかりやすく説明するために必要な基本的知識、技能および態度を学ぶ。	模型実習	川元 黒石	石膏室 技工室
21	アクチバートル (F.K.O) 矯正治療について、矯正装置の製作を踏まえながら、患者や保護者にわかりやすく説明するために必要な基本的知識、技能および態度を学ぶ。	模型実習	川元 黒石	技工室
22	器具検査、実習試験 21回までの歯科矯正実習の製作物について、試験により、理解度をみる。	ペーパーテスト	川元 黒石	技工室
23	医療面接 矯正装置の説明のための環境作り、媒体の利用、保護者の理解度の確認、話法、疑問点の確認、矯正装置の必要性、種類、構造の説明、来院時ごとの確認事項の説明を踏まえて、医療面接を学ぶ。	グループ実習 (医療面接)	川元 森田	テュートリアル 演習室
24	医療面接 矯正装置の説明のための環境作り、媒体の利用、保護者の理解度の確認、話法、疑問点の確認、矯正装置の必要性、種類、構造の説明、来院時ごとの確認事項の説明を踏まえて、医療面接を学ぶ。	グループ実習 (医療面接)	川元 森田	テュートリアル 演習室
25	総合診断学実習 診断資料について、分析、診断、不正咬合の成り立ち、治療方針および治療方法を踏まえながら、診断資料の意味と意義を学ぶ。	グループ実習	川元 志賀	テュートリアル 演習室
26	総合診断学実習 診断資料について、分析、診断、不正咬合の成り立ち、治療方針および治療方法を踏まえながら、診断資料の意味と意義を学ぶ。	グループ実習	川元 志賀	テュートリアル 演習室
27	総合診断学実習 診断資料について、分析、診断、不正咬合の成り立ち、治療方針および治療方法を踏まえながら、診断資料の意味と意義を学ぶ。	グループ実習	川元 志賀	テュートリアル 演習室
28	総合診断学実習 診断資料について、分析、診断、不正咬合の成り立ち、治療方針および治療方法を踏まえながら、診断資料の意味と意義を学ぶ。	グループ実習	川元 志賀	テュートリアル 演習室
29	総合診断学実習 診断資料について、分析、診断、不正咬合の成り立ち、治療方針および治療方法を踏まえながら、診断資料の意味と意義を学ぶ。	グループ実習	川元 志賀	テュートリアル 演習室
30	総合診断学実習 診断資料について、分析、診断、不正咬合の成り立ち、治療方針および治療方法を踏まえながら、診断資料の意味と意義を学ぶ。	グループ実習	川元 志賀	テュートリアル 演習室

2017年度

地域口腔保健学 (Community Oral Health Promotion)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子、〔非常勤講師〕宮崎 秀夫、〔非常勤講師〕横山 博司						

授業の概要

地域保健活動のベースになる健康と疾病の概念およびヘルスプロモーション・プライマリヘルスケアの考え方を習得した上で、口腔衛生に関わる基本的知識とライフステージに応じた公衆衛生活動の実践方法を教授する。地域歯科保健活動のリーダーとなる人材になるための必須の知識と実際について教授する。

学生の到達目標

- 健康と疾病の概念ならびに健康の定義を説明できる。
- 疾病の自然史とレベルとクラークの予防を説明できる。
- プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションが説明できる。
- 口腔疾患や不正咬合、QOLの疫学および疫学的指標を説明できる。
- フッ化物の基礎とさまざまな現場での応用方法について説明できる。
- 口腔と全身の健康の関連について説明できる。
- 国際歯科保健の現状と課題について説明できる。
- 健康心理学・行動変容モデルの理論と実際を説明できる。
- ライフステージに応じた健康支援について説明できる。
- 歯科疾患からみた健康格差の現状と取り組みについて説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
B	1				健康の概念を説明できる。
B	1				口腔と全身の健康との関連を説明できる。
B	1				疾病の概念、種類および予防を概説できる。
B	2	2)			高齢者のおかれた社会環境を説明できる。
B	2	2)			地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。
B	2	2)			地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。
B	2	2)			地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。
B	3	1)			第一次、第二次および第三次予防を説明できる。
B	3	1)			プロフェッショナルケア、セルフケアおよびコミュニティケアを説明できる。
B	3	1)			プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。
B	3	2)			主な口腔疾患（う蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。【生活習慣病の改善指導を含む。】
B	3	2)			う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明できる。【予防填塞とプラークコントロールを含む。】
B	3	2)			ライフステージにおける予防を説明できる。
B	3	2)			集団レベルの予防と健康管理（地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健）を説明できる。
B	4	1)			疫学とEBMの概念を説明できる。
B	4	1)			口腔疾患の疫学的指標を説明できる。

2017年度

地域口腔保健学 (Community Oral Health Promotion)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子、〔非常勤講師〕宮崎 秀夫、〔非常勤講師〕横山 博司						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	6)	(1)		フッ化物の歯面塗布を実施できる。
E	1	6)	(1)		予防填塞を実施できる。
E	1	6)	(1)		歯周疾患の予防処置を実施できる。
E	1	6)	(2)		適切な食事指導(栄養指導)を実施できる。
E	1	6)	(2)		生活習慣に関して適切に指導できる。
E	1	6)	(2)		禁煙指導・支援による歯周疾患、口腔がん等の予防を実施できる。
E	1	6)	(2)		ライフステージに応じた食育について説明できる。

テキスト

新予防歯科学 第4版
出)医歯薬出版

著)

参考書

新口腔保健学
出)医歯薬出版

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
15コマの中で行う小テスト	20%
定期試験	80%

その他

(学習相談) 質問の受付および回答は講義終了後ないしオフィスアワーに受けつける。オフィスアワーは通常、月から金の午後5時~6時とする(11階研究室など)。相談時間予約にメールを利用することができる。

2017年度

地域口腔保健学 (Community Oral Health Promotion)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子、〔非常勤講師〕宮崎 秀夫、〔非常勤講師〕横山 博司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	健康と疾病の概念 エジプト・メソポタミア時代以来の健康の概念を俯瞰した上で、WHO憲章にみられる健康の定義さらには現在の考え方を学習する。	講義 スライド	安細	501講義室
2	ヘルスプロモーション総論・各論 ヘルスプロモーションとプライマリヘルスケアの概念を踏まえた上で、予防戦略の現状を学習する。	講義 スライド	安細	501講義室
3	口腔疾患の疫学と評価() う蝕の有病率など統計データを踏まえた上で、代表的なう蝕の指標や特徴を学習する。不正咬合、口腔機能、QOLに関する指標や特徴を学習する。	講義 スライド	角田	501講義室
4	口腔疾患の疫学と評価() 歯肉炎、歯周病の有病率など統計データを踏まえた上で、代表的な指標や特徴を学習する。	講義 スライド	角田	501講義室
5	口腔疾患の検査と評価 う蝕、歯周病(歯肉炎)、口臭等の最近の検査・評価方法の動向と課題を学習する。	講義 スライド	安細	501講義室
6	口腔と全身の健康の関わり：口腔の健康と健康寿命 歯・咀嚼・咬合の視点から口腔の健康と栄養の関係を学習する。	講義 スライド	岩崎	501講義室
7	フッ化物の基礎と応用() 自然界に存在するフッ化物とう蝕罹患との歴史的背景を踏まえた上で、体内での代謝や生体への為害作用と臨床的意義を学習する。	講義 スライド	岩崎	501講義室
8	フッ化物の基礎と応用() 自然界に存在するフッ化物とう蝕罹患との歴史的背景を踏まえた上で、体内での代謝や生体への為害作用と臨床的意義を学習する。	講義 スライド	岩崎	501講義室
9	WHOと国際保健活動 WHO口腔保健センターでの仕事経験がある研究者からWHOが進める口腔保健の現状と最新情報を学習する。	講義 スライド	宮崎	501講義室
10	地域住民ベースの健康支援・保健指導の進め方と地域支援ネットワーク 歯科保健の集団活動における留意点ならびに地域包括ケアの基本的しくみを学ぶ。地域歯科保健活動の策定・推進・評価について学習する。	講義 スライド	安細	501講義室
11	健康心理学・行動変容モデルに基づく保健指導・活動 健康教育・保健指導(禁煙指導を含む)に必要な理論とモデルを学習する。	講義 スライド	横山	501講義室
12	ライフステージに応じた健康支援・保健指導() 母子・妊産婦・子育て期における健康課題を整理し、問題解決のための生活支援・保健活動について学習する。	講義 スライド	安細	501講義室
13	ライフステージに応じた健康支援・保健指導() 学童期・思春期における健康課題を整理し、問題解決のための生活支援・保健活動について学習する。	講義 スライド	安細	501講義室
14	ライフステージに応じた健康支援・保健指導() 成人期・職場・高齢期における健康課題を整理し、問題解決のための生活支援・保健活動について学習する。	講義 スライド	岩崎	501講義室
15	健康格差と社会的要因、地域保健の課題と展望 公衆衛生上の課題としての健康格差・ソーシャル・キャピタルについて、歯科疾患を中心に整理し、現状と取り組みを学習する。	講義 スライド	安細	501講義室

2017年度

全部欠損補綴治療学（講義） (Complete Denture Prosthodontics)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、楨原 絵理、八木 まゆみ、河野 稔広、宮嶋 隆一郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘、〔非常勤講師〕皆木 省吾						

授業の概要

咀嚼機能の回復、発音機能の回復、審美性の回復、残存組織の保護という補綴の4大目標に対して、全部床義歯製作における理論的背景と手技を詳細に教授するとともに、国家試験合格のための咬合学を含むベーシックな知識を習得させる。

学生の到達目標

E-3-4)-(2) 可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯)

- 歯の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。
- 全部床義歯の種類、目的および意義を説明できる。
- 全部床義歯の特徴と適応症を説明できる。
- 全部床義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。
- 全部床義歯の咬合様式とその意義を説明できる。
- 全部床義歯の構成要素を説明できる。
- 印象採得の種類と方法を説明できる。
- 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。
- 下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。
- 全部床義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき、各基本的操作を適切に行うことができる。
- 全部床義歯の製作過程を説明でき、基本的手技ができる。
- 全部床義歯の設計原理を理解し、口腔内診察、検査、診断模型およびエックス線写真等により適切に設計を行うことができる。
- 全部床義歯の調整、術後管理、リラインおよび修理を説明でき、適切に行うことができる。
- 全部床義歯装着後における定期検診の重要性を説明し、指導できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
D	1				高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。【構造と物性は基本的かつ一般的なものに限る。また、歯科材料に使用される素材間の物性比較を含む。】
D	1				生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的の所要性質を説明できる。
E	3	4)	(2)		歯の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の種類、目的および意義を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。
E	3	4)	(2)		印象採得の種類と方法を説明できる。
E	3	4)	(2)		咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。
E	3	4)	(2)		下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき、各基本的操作を適切に行うことができる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の製作過程を説明でき、基本的手技ができる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の設計原理を理解し、口腔内診察、検査、診断模型およびエックス線写真等により適切に設計を行うことができる。

2017年度

全部欠損補綴治療学（講義） (Complete Denture Prosthodontics)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、榎原 絵理、八木 まゆみ、河野 稔広、宮嶋 隆一郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘、〔非常勤講師〕皆木 省吾						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の調整、術後管理、リラインおよび修理を説明でき、適切に行うことができる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯装着後における定期検診の重要性を説明し、指導できる。

テキスト

無歯顎補綴治療学 第3版
出)医歯薬出版

著)市川哲雄ほか

参考書

入門 無歯顎補綴治療
出)医歯薬出版

著)市川哲雄 編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
小テスト(2回)	100%

小テストの追試験は実施しない。
小テスト不合格者及びテスト欠席者には再試験を実施し、60点以上を合格とする。

その他

学習相談：鱒見進一 (月曜日17:00-18:00)

2017年度

全部欠損補綴治療学（講義） (Complete Denture Prosthodontics)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、楨原 絵理、八木 まゆみ、河野 稔広、宮嶋 隆一郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘、〔非常勤講師〕皆木 省吾						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	第1章 総論 無歯顎補綴治療の健康に果たす役割、無歯顎の病因と病態、全部床義歯の構成要素と役割、全部床義歯装着者にみられる主要症状について学ぶ。	講義	宮嶋	501講義室
2	第2章 診察，検査，診断 医療面接・インフォームドコンセント、診察・検査、診断と治療計画立案について学ぶ。 第3章 前処置 補綴的前処置，外科的前処置，その他の前処置について学ぶ。	講義	宮嶋	501講義室
3	第4章 印象採得 印象採得の目的、印象採得用材料、印象法の種類，概形印象採得、研究用模型の製作、精密印象採得、作業用模型について学ぶ。	講義	楨原	501講義室
4	第5章 顎間関係の記録 咬合床の製作、仮想咬合平面の決定、垂直的顎間関係の記録、水平的顎間関係の記録、標示線の記入（デンチャースペースの記録法を除く）について学ぶ。 第6章 下顎運動の記録と咬合器装着 下顎運動の記録、咬合器について学ぶ。	講義	楨原	501講義室
5	第7章 人工歯の排列 人工歯の歴史、前歯部人工歯の選択と排列、臼歯部人工歯の選択と排列について学ぶ。	講義	鱒見	501講義室
6	小テスト 第1章，第7章に関する知識を問う。	小テスト	全員	501講義室 601講義室
7	第5章 デンチャースペースの記録法 デンチャースペース、ニュートラルゾーンテクニック、フレンジテクニック、ピエゾグラフィについて学ぶ。	講義	鱒見	501講義室
8	第8章 歯肉形成とろう義歯試適 歯肉形成，ろう義歯試適について学ぶ。 第9章 埋没，重合，研磨 埋没法，流ろう，レジン填入，重合，義歯の取り出し，研磨について学ぶ。 第10章 重合義歯の咬合器再装着と咬合調整 重合完了した義歯の咬合器再装着，人工歯の削合について学ぶ。	講義	八木	501講義室
9	義歯と咬合（特別講義） 患者の訴えから原因を追及し，咬合を含めた義歯の調整方法について学ぶ。	講義	皆木	501講義室
10	義歯床用レジンの化学 義歯床用レジンの構造，理工学的性質について学ぶ。	講義	清水 永松 池田	501講義室
11	加熱重合型床用レジンと常温重合型床用レジンの物性 重合法の違いによる床用レジンの物性について学ぶ。	講義	清水 永松 池田	501講義室
12	第11章 義歯の装着 装着時の調整，患者指導，装着直後の調整，治療効果の評価について学ぶ。 第12章 義歯装着後の経過観察 装着後の生体と義歯の変化，定期検査と評価，修理，リライン，リベース，咬合面再形成について学ぶ。	講義	八木	501講義室
13	第13章 複製義歯による治療 複製義歯の製法，治療法について学ぶ。 第14章 金属床義歯による治療 金属床義歯の利点・欠点，構造，製作手順について学ぶ。 第15章 即時全部床義歯による治療 即時全部床義歯の利点・欠点，製法，注意事項について学ぶ。	講義	河野	501講義室

2017年度

全部欠損補綴治療学（講義） (Complete Denture Prosthodontics)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、榎原 絵理、八木 まゆみ、河野 稔広、宮嶋 隆一郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘、〔非常勤講師〕皆木 省吾						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
14	第16章 オーバーデンチャーによる治療 オーバーデンチャーの利点・欠点、適応症、処置法について学ぶ。	講義	河野	501講義室
15	小テスト 第5章 デンチャースペースの記録法，第8章?第16章に関する知識を問う。	小テスト	全員	501講義室 601講義室

2017年度

全部欠損補綴治療学（実習）（Preclinical Simulation Training of Complete Denture Prosthodontics）

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、楨原 絵理、八木 まゆみ、河野 稔広、宮嶋 隆一郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業の概要

本実習では、全部床義歯講義で学んだ知識を実習を通して整理するとともに、歯科医師をとなるためのベーシックな技術を習得させる。人工歯排列の実習によりトレーニングを行う。

学生の到達目標

- 全部床義歯の人工歯排列ができる。
- 咬合採得ができる。
- 半調節咬合器が使用できる。
- 咬合調整ができる。
- 歯肉形成ができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の構成要素を説明できる。
E	3	4)	(2)		咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。
E	3	4)	(2)		下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき、各基本的操作を適切に行うことができる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の製作過程を説明でき、基本的手技ができる。

テキスト

全部欠損補綴治療学実習書（オリジナルテキスト）
出）顎口腔欠損再構築学分野 著）

参考書

出） 著）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習試験（人工歯排列）	100%

2017年度

全部欠損補綴治療学（実習）（Preclinical Simulation Training of Complete Denture Prosthodontics）

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、槇原 絵理、八木 まゆみ、河野 稔広、宮嶋 隆一郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

その他

学習相談：鱒見進一（月曜日17:00-18:00）

2017年度

全部欠損補綴治療学（実習）（Preclinical Simulation Training of Complete Denture Prosthodontics）

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、榎原 絵理、八木 まゆみ、河野 稔広、宮嶋 隆一郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	無歯顎作業模型の咬合器付着 無歯顎作業模型を咬合器に付着する方法を学ぶ。	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室 石膏室
3,4	上顎前歯排列 上顎6前歯の排列法を学ぶ。	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室
5,6	下顎前歯排列 下顎6前歯の排列法を学ぶ。	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室
7,8	下顎臼歯排列 下顎臼歯の排列法を学ぶ。	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室
9,10	上顎臼歯排列 上顎臼歯の排列法を学ぶ。	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室
11,12	歯肉形成 歯肉形成法を学ぶ。	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室
13,14	咬合調整 人工歯の咬合調整法を学ぶ。	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室
15,16	咬合調整 人工歯の咬合調整法を学ぶ。	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室
17,18	緩衝腔,後堤法 緩衝腔と後堤法の付与の仕方を学ぶ。 実習試験準備	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室 石膏室
	レジン試験片製作（A,B班） 曲げ試験の試料作りを学ぶ。		清水 永松 池田	技工室 石膏室
19,20	緩衝腔,後堤法 緩衝腔と後堤法の付与の仕方を学ぶ。 実習試験準備	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室 石膏室
	レジン試験片製作（C,D班） 曲げ試験の試料作りを学ぶ。		清水 永松 池田	技工室 石膏室

2017年度

全部欠損補綴治療学（実習）（Preclinical Simulation Training of Complete Denture Prosthodontics）

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、榎原 絵理、八木 まゆみ、河野 稔広、宮嶋 隆一郎、清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
21,22	予備試験 本試験と同じ時間で行い，時間配分について学ぶ。	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室
23,24	指摘箇所の修正 インストラクターからの指摘事項について修正法を学ぶ。 実習試験準備	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室 石膏室
	レジン曲げ試験（A,B班） 曲げ試験の方法と床用レジンの特性を学ぶ。		清水 永松 池田	71実習室
25,26	試適箇所の修正 インストラクターからの指摘事項について修正法を学ぶ。 実習試験準備	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室 石膏室
	レジン曲げ試験（C,D班） 曲げ試験の方法と床用レジンの特性を学ぶ。		清水 永松 池田 宮嶋	71実習室
27,28	実習試験	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室 石膏室
29,30	追実習試験	少人数 個別指導	八木 榎原 河野 宮嶋	技工室 石膏室

2017年度

口腔インプラント学（講義） (Oral Implantology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、近藤 祐介、柄 慎太郎、森本 泰宏、古株 彰一郎、臼井 通彦、〔非常勤講師〕渡邊 文彦、〔非常勤講師〕阿部 伸一、〔非常勤講師〕坂本 菊男						

授業の概要

欠損補綴治療としてインプラント治療を行ううえで、必要な知識を習得することを目的とする。口腔インプラント治療における診査・診断、外科処置、補綴処置、メンテナンスについて理解する。また、実習を通して基本的なインプラント術前診断、外科術式および補綴術式を習得する。

学生の到達目標

一般目標

患者に口腔インプラント治療について適切に説明するために、また、適切な口腔インプラント治療を実践するために、必要な基礎知識を習得する。

到達目標

コアカリキュラム

1. 口腔インプラントの治療の利点と欠点を説明できる。
2. 口腔インプラントの種類と特性を説明できる。
3. 口腔インプラントの基本構造を説明できる。
4. インプラント治療のリスクファクターを説明できる。
5. インプラント治療の適応と禁忌を説明できる。
6. 口腔インプラント治療に必要な解剖学を理解できる。
7. 診断用ワックスアップ、ステントの意義を理解し、作製できる。
8. 口腔インプラントの治療過程について理解できる。
9. エックス線CTシミュレーション法の基礎的な理論を理解できる。
10. 口腔インプラントの手術術式について説明できる。
11. 口腔インプラントの補綴術式について説明できる。
12. インプラント上部構造の種類とその特徴を説明できる。
13. 口腔インプラント治療におけるメンテナンスの重要性を理解できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	4)	(3)		デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。
E	3	4)	(3)		デンタルインプラントの基本構造を説明できる。
E	3	4)	(3)		デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。
E	3	4)	(3)		デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。

テキスト

よくわかる口腔インプラント学
出)

著)

参考書

エッセンシャル口腔インプラント学
出)

著)

口腔インプラント治療指針 2012
出)

著)

2017年度

口腔インプラント学（講義） (Oral Implantology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、近藤 祐介、柄 慎太郎、森本 泰宏、古株 彰一郎、臼井 通彦、〔非常勤講師〕渡邊 文彦、〔非常勤講師〕阿部 伸一、〔非常勤講師〕坂本 菊男						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	80%
出席	20%

その他

(オフィスアワー) 12:00-13:00, 16:30-17:00

2017年度

口腔インプラント学（講義） (Oral Implantology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、近藤 祐介、柄 慎太郎、森本 泰宏、古株 彰一郎、臼井 通彦、〔非常勤講師〕渡邊 文彦、〔非常勤講師〕阿部 伸一、〔非常勤講師〕坂本 菊男						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	口腔インプラント総論 インプラントの歴史や基本構造を理解し、利点や欠点、種類や特性について学習する。	講義	細川	501講義室
2	医療面接 インプラント治療の適応症を把握する上で重要である全身疾患やリスクファクターについて学習する。	講義	近藤	501講義室
3	局所的な診査・診断について 術前診断における診断用ワックスアップやステント、CTシミュレーションの意義を学習する。	講義	正木	501講義室
4	インプラント治療に必要なエックス線読影 インプラント治療のための画像を評価するために必要となる用語や読影方法を理解する。特に、インプラントの術前検査及び術後評価としてのCT像について把握する。	講義	森本	501講義室
5	インプラント周囲の骨形成・骨代謝 インプラント埋入後の生体反応を生化学的に理解し、生体適合性やオッセオインテグレーションについて学習する。	講義	古株	501講義室
6	インプラントか天然歯か 歯周病学的にみた天然歯とインプラントの違いを理解し、インプラント周囲炎の特徴や治療法について学習する。	講義	臼井	501講義室
7	インプラント治療に必要な解剖学 上顎骨や下顎骨の形態や骨質、インプラントで注意すべき血管、神経などを理解する。また、歯槽骨の経時変化を把握する。	講義	阿部	501講義室
8	埋入術式・外科術式・荷重時期について インプラント治療に必要な基本的な外科手技を理解し、インプラント体埋入術式について学習する。荷重時期についても把握する。	講義	細川	501講義室
9	インプラントに必要な耳鼻咽喉科領域の基礎知識 インプラント治療に必要な耳鼻咽喉科領域の基礎知識と合併症に対する対処法について学習する。	講義	坂本	501講義室
10	インプラント関連手術について インプラント治療に伴う骨・軟組織のマネジメントを理解し、インプラント関連手術を学習する。	講義	正木	501講義室
11	暫間補綴の意義・印象採得・咬合採得 暫間補綴の重要性を理解し、エマーゼンスプロファイルの与え方などを学習する。また、印象法、作業模型の作製法を理解する。	講義	柄	501講義室
12	インプラント上部構造の種類と特徴 さまざまな上部構造の種類および特徴を学習する。	講義	近藤	501講義室
13	インプラントの偶発症・合併症について インプラント治療の偶発症や合併症について学習し、メンテナンス方法について理解する。	講義	正木	501講義室
14	インプラント学のまとめ インプラント治療全体の流れを理解するとともに、最新の術式について学習する。	講義	細川	501講義室
15	インプラント治療が社会に果たす役割 口腔インプラントの社会的な役割を理解する。	講義	渡邊	501講義室

2017年度

口腔インプラント学（実習）（Preclinical Simulation Training of Oral Implantology）

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、近藤 祐介、柄 慎太郎						

授業の概要

欠損補綴治療としてインプラント治療を行ううえで、必要な知識を習得することを目的とする。口腔インプラント治療における診査・診断、外科処置、補綴処置、メンテナンスについて理解する。また、実習を通して基本的なインプラント術前診断、外科術式および補綴術式を習得する。

学生の到達目標

一般目標

患者に口腔インプラント治療について適切に説明するために、また、適切な口腔インプラント治療を実践するために、必要な基礎知識を習得する。

到達目標

コアカリキュラム

1. 診断用ワックスアップ、ステントの意義を理解し、作製できる。
2. X線CTシミュレーション法の基礎的な理論を理解できる。
3. 口腔インプラントの手術術式について説明できる。
4. 口腔インプラントの補綴術式について説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	4)	(3)		デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。
E	3	4)	(3)		デンタルインプラントの基本構造を説明できる。
E	3	4)	(3)		デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。
E	3	4)	(3)		デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。

テキスト

よくわかる口腔インプラント学
出)

著)

参考書

エッセンシャル口腔インプラント学
出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習試験（筆記・実技）	100%

その他

（オフィスアワー）12:00-13:00，16:30-17:00

2017年度

口腔インプラント学（実習） (Preclinical Simulation Training of Oral Implantology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、近藤 祐介、柄 慎太郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	研究用模型作製 上下顎の模型のアルジネート印象を行い、研究用模型を製作する。	実習	全員	技工室 石膏室
2	咬合器装着 上下顎の模型を用いてインプラントの術前診査を行うため、咬合器装着を行う。	実習	全員	技工室 石膏室
3	診断用ワックスアップ 補綴主導型インプラント治療を实践するため、模型上で診断用ワックスアップを行う。	実習	全員	技工室 石膏室 鑄造室
4	診断用ステント作製 診断用ステントのためにワックスアップを行った模型の副模型を作製する。	実習	全員	技工室 鑄造室
5	診断用ステント作製 加熱吸引装置を利用して副模型から診断用ステントを作製する。	実習	全員	技工室 鑄造室
6	X線CTシミュレーション法を用いたインプラント治療計画の立案 下顎症例に対するSimplantRを用いたCT術前診断を行う。	実習	全員	コンピュータ演習室
7	X線CTシミュレーション法を用いたインプラント治療計画の立案 上顎症例に対するSimplantRを用いたCT術前診断を行う。	実習	全員	コンピュータ演習室
8	外科用ステント作製 診断用ステントを改造し、適切にインプラント埋入を行うための外科用ステントを作製する。	実習	全員	技工室 シミュレーション実習室
9	インプラント埋入実習 下顎右側遊離端欠損模型に対して、インプラントを2本埋入する。	実習	全員	技工室 シミュレーション実習室
10	インプラント埋入実習 ブタ下顎骨を用いて歯肉の切開、剥離、縫合など基本的な外科手技を習得する。	実習	全員	技工室
11	インプラント埋入実習 ブタ下顎骨にインプラント埋入を行い、1回法、2回法の違いを学習する。	実習	全員	技工室
12	概形印象採得、個人トレー作製 オープントレー法、クローズドトレー法それぞれの特徴を理解し、個人トレーを作製する。	実習	全員	技工室 石膏室
13	概形印象採得、個人トレー作製 オープントレー法、クローズドトレー法それぞれの特徴を理解し、個人トレーを作製する。	実習	全員	技工室 石膏室
14	精密印象採得（オープントレー法、クローズドトレー法） シリコン印象材を用いて印象コーピングによる精密印象を行う。	実習	全員	技工室 石膏室
15	作業用模型（ガム模型）作製 インプラントアナログを利用して、ガム模型を作製する。	実習	全員	技工室 石膏室

2017年度

歯科放射線学 (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業の概要

講義項目は系統的には放射線生物学、放射線物理学、写真工学、画像検査法、エックス線解剖学、画像診断学、放射線治療学、核医学、放射線防護学、医療法である。その中でも、歯科放射線学では主に放射線基礎を中心に物理学、生物学、防護学、放射線治療学及び画像検査法と画像診断学の総論について教授する。質の高い画像をもとに論理的に正しい診断を行う手法を身に付けることが歯科放射線学の最大のねらいである。そのためには第一に、画像の形成過程及びその適切な撮影方法を教授する。同時に、効果的な防護方法を学ぶことで、出来るだけ患者さんの被曝量を軽減すること及びその大切さを理解してもらう。更に、今後大いに飛躍が期待される放射線治療学についても基礎的事項を学んで貰う。

学生の到達目標

放射線とはどのようなものであるかを物理学的側面より理解できる。
質の高いエックス線写真を作成するための手法や質の判断基準が理解できる。
放射線被曝により引き起こされる生物学的作用の発生機序及び疾患が理解できる。
生物学的効果を利用した放射線治療法について使用装置や対象疾患が理解できる。
放射線従事者の身体を守るための防護方法について法律学的立場に準じた具体的方策が理解できる。
患者さんの被曝量を軽減するための方策について理解できる。
各種疾患に対して適切な画像検査を選択する必要性について理解できる。
基礎的な画像診断法について理解できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	2)			放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。
E	1	2)			放射線の人体（胎児を含む）への影響の特徴（急性影響と晩発影響等）を説明できる。
E	1	2)			放射線防護の基準と方法を説明できる。
E	1	2)			エックス線画像の形成原理を説明できる。【画像不良の原因を含む。】
E	1	2)			エックス線装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の種類および適応を説明できる。
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。
E	1	2)			頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。
E	1	2)			造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法（CT）、磁気共鳴撮像法（MRI）および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。
E	2	4)	(3)		炎症の診断に必要な検査法を説明できる。
E	2	4)	(3)		歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(5)		口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。
E	3	3)	(1)		う蝕の症状と診断を説明できる。【検査法を含む】
E	3	3)	(1)		う蝕およびその他の硬組織疾患の診察、検査および診断ができる。
E	3	3)	(2)		歯髄・根尖歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。【検査法を含む。疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】

2017年度

歯科放射線学 (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	3	3)	(2)		歯髄・根尖歯周組織疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。
E	3	3)	(2)		歯根吸収の原因、症状、診断および処置を説明できる。
E	3	3)	(3)		歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。【検査法、メンテナンス法を含む。】
E	3	3)	(3)		歯周疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。
E	3	3)	(4)		象牙質知覚過敏症の病因、病態、診断および治療法を説明できる。

テキスト

第5版 歯科放射線学

出)医歯薬出版

著)

国家試験問題集(実践、Answer等)

出)

著)

参考書

頭頸部のCT・MRI (2002)

出)MEDSi

著)多田 信平

頭頸部画像診断ハンドブック (2002)

出)MEDSi

著)

Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology 2nd edition (2004)

出)Mosby

著)

Diagnostic Imaging of the Jaws (1995)

出)Williams & Wilkins

著)

Oral Radiology:Principles and interpretation 5th edition (2004)

出)Mosby

著)

Oral Disease 3rd edition (2001)

出)Mosby

著)

Q & Aで学ぶ歯科放射線学：SBOs講義 (2011)

出)学建書院

著)

一步先のパノラマ診断力 (2012)

出)砂書房

著)

頭頸部の臨床画像診断学 (2012)

出)南江堂

著)

顎・口腔のCT・MRI (2016)

出)MEDSi

著)酒井 修、金田 隆

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

2017年度

歯科放射線学 (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて常に相談を受け付ける。分からないことはそのままにせず納得のいく迄質問しに来ること。

2017年度

歯科放射線学 (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	放射線物理学・装置（Ⅰ）：放射線（特にエックス線）とはどのようなものであるかについて理解する。	講義	森本	501講義室
2	放射線物理学・装置（Ⅱ）：エックス線の発生原理とその際利用する装置について理解する。	講義	森本	501講義室
3	器材・写真処理：エックス線写真撮影を行った後それを画像化するために必要な処理方法を理解する。	講義	森本	501講義室
4	放射線生物学：放射線被曝により引き起こされる生物学的作用の発生機序及び代表的疾患を理解する。	講義	森本	501講義室
5	放射線治療学（Ⅰ）：口腔癌の放射線治療についてその方法、作用機序及び効果的な腫瘍の種類について理解する。	講義	田中	501講義室
6	放射線治療学（Ⅱ）：口腔癌の放射線治療についてその方法、作用機序及び効果的な腫瘍の種類について理解する。	講義	田中	501講義室
7	放射線防護学：放射線従事者が放射線被曝による障害を避けるための考え方及び実践的方法を理解する。	講義	森本	501講義室
8	画像検査（Ⅰ）：歯科独特の口内法エックス線撮影についてその種類、撮影方法及び検査対象疾患を理解する（画質不良の原因を含む）。	講義	森本	501講義室
9	画像検査（Ⅱ）：口外法エックス線撮影についてその種類、撮影方法及び検査対象疾患を理解する（画質不良の原因を含む）。	講義	森本	501講義室
10	画像検査（Ⅲ）：デジタル画像についてその種類、画像表示機序及び検査対象疾患を理解する。	講義	田中	501講義室
11	画像診断・基礎（Ⅰ）：歯科画像診断において最も重要な口内法及びパノラマエックス線写真の基礎的読影方法を理解する。	講義	森本	501講義室
12	画像診断・基礎（Ⅱ）：総合画像診断において重要なCT、MRI及び超音波画像の基礎的読影方法を理解する。	講義	森本	501講義室
13	画像診断・歯の病変（Ⅰ）：歯科臨床において最も遭遇する歯に生じる疾患の特徴的画像所見を理解する。	講義	鬼頭	501講義室
14	画像診断・歯の病変（Ⅱ）：歯科臨床において最も遭遇する歯に生じる疾患の特徴的画像所見を理解する。	講義	鬼頭	501講義室
15	画像診断・歯周組織の病変：歯科臨床においてよく遭遇する歯周組織に生じる疾患の特徴的画像所見を理解する。	講義	若杉	501講義室

2017年度

歯科放射線学 (講義) (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒、〔非常勤講師〕本田 浩、〔非常勤講師〕桑原 康雄、〔非常勤講師〕一矢 有一						

授業の概要

講義項目は系統的には放射線生物学、放射線物理学、写真工学、画像検査法、エックス線解剖学、画像診断学、放射線治療学、核医学、放射線防護学、医療法である。その中でも、歯科放射線学（臨床）では特に重要な画像診断学の修得を中心に教授する。歯科放射線でも掲げているように質の高い画像をもとに論理的に正しい診断を行う手法を身に付けることが歯科放射線学の最大のねらいである。そのためには画像診断学を通して、一つでも多くの疾患名を身につけてもらう。身につけた多くの知識は鑑別診断を行う際の豊富な選択肢になる。自分の行った診断が治療に寄与し、さらに治癒に結びつけば臨床家として最高の喜びとなる。

学生の到達目標

頭頸部に発生する各種疾患（歯及び歯周組織の疾患、嚢胞、腫瘍、炎症、唾液腺疾患、顎関節疾患、上顎洞疾患、系統疾患）に対して各種画像（単純エックス線写真、CT、MRI、超音波、核医学検査）の有効性を理解できる。

頭頸部に発生する対象疾患に対して各種画像をもとに存在診断、部位診断及び質的診断を行う手法を理解できる。

頭頸部に発生する対象疾患に対する各種画像の特徴的所見を理解できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	2)			放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。
E	1	2)			放射線の人体（胎児を含む）への影響の特徴（急性影響と晩発影響等）を説明できる。
E	1	2)			放射線防護の基準と方法を説明できる。
E	1	2)			エックス線画像の形成原理を説明できる。【画像不良の原因を含む。】
E	1	2)			エックス線装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の種類および適応を説明できる。
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。
E	1	2)			頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。
E	1	2)			造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法（CT）、磁気共鳴撮像法（MRI）および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。
E	2	4)	(2)		歯の外傷の症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(2)		歯槽骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折および下顎骨骨折の症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(3)		炎症の診断に必要な検査法を説明できる。
E	2	4)	(3)		口唇・口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。
E	2	4)	(3)		歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(5)		口唇・口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状、診断法および治療法を説明できる
E	2	4)	(5)		口唇・口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法（組織診、画像診断）および治療法を説明できる。
E	2	4)	(5)		口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。

2017年度

歯科放射線学 (講義) (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒、〔非常勤講師〕本田 浩、〔非常勤講師〕桑原 康雄、〔非常勤講師〕一矢 有一						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4)	(6)		顎関節疾患(外傷、脱臼、炎症、顎関節症、顎関節強直症)の症状、診断法および治療法を概説できる。
E	2	4)	(7)		唾石症の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(7)		唾液腺炎の種類と特徴、症状、診断法および治療法を概説できる。
E	2	4)	(7)		唾液腺腫瘍の種類と特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(7)		Sjogren 症候群の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す系統的骨疾患の症状、診断および治療法を列挙できる。

テキスト

第5版 歯科放射線学

出)医歯薬出版

著)

国家試験問題集(実践、Answer等)

出)

著)

参考書

頭頸部のCT・MRI (2002)

出)MEDSi

著)

頭頸部画像診断ハンドブック (2002)

出)MEDSi

著)

Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology 2nd edition (2004)

出)Mosby

著)

Diagnostic Imaging of the Jaws (1995)

出)Williams & Wilkins

著)

Oral Disease 3rd edition (2001)

出)Mosby

著)

Oral Radiology:Principles and interpretation 5th edition (2004)

出)Mosby

著)

Q&Aで学ぶ歯科放射線学:SBOs講義 (2011)

出)学建書院

著)

難しいX線写真のやさしい見かた 口内法X線解剖マニュアル (2005)

出)医学情報社

著)

一步先のパノラマ診断力 (2012)

出)砂書房

著)

頭頸部の臨床画像診断学 (2012)

出)南江堂

著)

顎・口腔のCT・MRI (2016)

出)MEDSi

著)酒井 修、金田 隆

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

2017年度

歯科放射線学 (講義) (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒、〔非常勤講師〕本田 浩、〔非常勤講師〕桑原 康雄、〔非常勤講師〕一矢 有一						

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて常に相談を受け付ける。分からないことはそのままにせず納得のいく迄質問しに来ること。

2017年度

歯科放射線学 (講義) (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒、〔非常勤講師〕本田 浩、〔非常勤講師〕桑原 康雄、〔非常勤講師〕一矢 有一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	画像診断・嚢胞（Ⅰ）：顎骨に発生する嚢胞性疾患に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	森本	501講義室
2	画像診断・嚢胞（Ⅱ）：顎骨外に発生する嚢胞性疾患に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	森本	501講義室
3	画像診断・嚢胞（Ⅲ）：顎骨外に発生する嚢胞性疾患に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	森本	501講義室
4	画像診断・腫瘍（Ⅰ）：顎骨内に発生する腫瘍性疾患に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	森本	501講義室
5	画像診断・腫瘍（Ⅱ）：顎骨外に発生する腫瘍性疾患に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	森本	501講義室
6	画像診断・腫瘍（Ⅲ）：口腔に発生する悪性腫瘍に伴うリンパ節転移に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	森本	501講義室
7	核医学：口腔顔面領域に発生する炎症、悪性腫瘍等に対する核医学検査法の種類及び画像化機序を理解する。	講義	桑原	501講義室
8	放射線障害：頭頸部悪性腫瘍の放射線治療後に生じる障害の種類及び生じやすさを理解する。	講義	一矢	501講義室
9	放射線医学の進歩：MDCTや高磁場MRIといった最新の画像医療と重粒子線等放射線治療について理解する。	講義	本田	501講義室
10	画像診断・炎症：口腔顔面領域に発生する炎症性疾患に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	森本	501講義室
11	画像診断・外傷：口腔顔面領域に発生する外傷に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	森本	501講義室
12	画像診断・唾液腺疾患：唾液腺疾患に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	鬼頭	501講義室
13	画像診断・顎関節疾患：顎関節に発生する各種疾患に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	森本	501講義室
14	画像診断・上顎洞疾患：上顎洞を含む副鼻腔に発生する各種疾患に対して必要な画像検査とその特徴的所見を離解する。	講義	田中	501講義室
15	画像診断・系統疾患：口腔顔面領域に発生する系統疾患に対して必要な画像検査とその特徴的所見を理解する。	講義	森本	501講義室

2017年度

歯科放射線学（実習）（Preclinical Simulation Training of Oral and Maxillofacial Radiology）

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	24	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業の概要

歯科放射線学の講義項目は系統的には放射線生物学、放射線物理学、写真工学、画像検査法、エックス線解剖学、画像診断学、放射線治療学、核医学、放射線防護学、医療法である。実際の歯科臨床現場では、技術的側面として画像検査法と画像診断学の修得が重要である。そのため、歯科放射線学（臨床?実習）では、歯科用エックス線写真撮影、パノラマエックス線写真撮影、CT撮像、MRI撮像を体験する。更に、適切に診断する為に必要な最低限度のエックス線解剖も実際の写真を見ながら理解してもらう。同時に、撮影に際して必要な放射線被曝に対する患者さんへの適切な説明法も学んでもらう。

学生の到達目標

- 内法エックス線撮影の相互実習を通してその技術を理解できる。
- パノラマエックス線撮影の相互実習を通してその技術を理解できる。
- エックス線撮影装置、エックス線フィルム及び現像装置に対する理解を深める。
- CT、MRI及び超音波検査に関する理解を深める。
- 撮影された10枚法歯科用エックス線写真を正確にマウントできる。
- 放射線被曝の影響について、正確にしかも分かりやすく説明できる。
- 核医学検査に関する適応及び術式を理解できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	2)			放射線の人体（胎児を含む）への影響の特徴（急性影響と晩発影響等）を説明できる。
E	1	2)			放射線防護の基準と方法を説明できる。
E	1	2)			エックス線画像の形成原理を説明できる。【画像不良の原因を含む。】
E	1	2)			エックス線装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の種類および適応を説明できる。
E	1	2)			口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。
E	1	2)			造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法（CT）、磁気共鳴撮像法（MRI）および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。
F	1				適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正しい態度で患者に接することができる。
F	1				医療面接における基本的なコミュニケーションができる。
F	1				患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。
F	1				患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
F	1				患者の不安、不満や表情、行動の変化に適切に対応できる。
F	1				患者のプライバシーに配慮できる。

2017年度

歯科放射線学（実習） (Preclinical Simulation Training of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	24	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

テキスト

第5版 歯科放射線学

出) 医歯薬出版

著)

国家試験問題集(実践、Answer等)

出)

著)

実習中配布する資料

出)

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習試験(ペーパー試験・実地試験)	100%

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて常に相談を受け付ける。分からないことはそのままにせず納得のいく迄質問しに来ること。

2017年度

歯科放射線学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	24	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	口内法撮影技術：口内法エックス線撮影技術に関して実習に際し必要な全般的注意事項について理解する（画質不良の原因を含む）。	講義	森本	501講義室
2	総合的実習説明：実習で行うエックス線撮影、デンタル写真の整理及び患者への注意を総合的に理解する。	実習	田中 鬼頭 若杉	附属病院3階歯科放射線科診療室
3	パノラマエックス線写真撮影技術：パノラマエックス線撮影技術に関して実習を行う上で注意すべき事項を理解する（画質不良の原因を含む）。	講義	森本	501講義室
4	歯科用エックス線写真撮影：歯科用エックス線撮影装置及びフィルムを用いてその実際を相互実習として体験する。	実習	田中 鬼頭 若杉	附属病院3階歯科放射線科診療室
5	CT及び超音波検査技術：CT及び超音波検査技術に関して実習を行う上での注意事項を理解する。	講義	森本	501講義室
6	パノラマエックス線写真撮影：パノラマエックス線撮影装置及びフィルムを用いてその実際を相互実習として体験する。	実習	田中 鬼頭 若杉	附属病院3階歯科放射線科診療室
7	MRI検査技術：MRI検査技術に関して実習を行う上で注意すべき事項を理解する。	講義	森本	501講義室
8	10枚法歯科用エックス線写真のマウント及び放射線障害に関する患者への説明を体験する。	実習	田中 鬼頭 若杉	附属病院3階歯科放射線科診療室
9	核医学検査技術：実際に実習できないため講義により検査上注意する事柄を理解する。	講義	森本	501講義室
10	実習試験	ペーパー試験	森本 田中 鬼頭 若杉	501講義室
11	実習試験	実習試験	森本 田中 鬼頭 若杉	附属病院3階歯科放射線科診療室
12	実習試験	実習試験	森本 田中 鬼頭 若杉	附属病院3階歯科放射線科診療室

2017年度

歯科麻酔学 (Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代、〔非常勤講師〕趙 成三						

授業の概要

歯科麻酔学は循環・呼吸・神経生理学および臨床薬理学を基本とした生体管理学である。具体的には安全で苦痛ない歯科治療を行うための全身麻酔、鎮静麻酔、局所麻酔時の生体管理を行う。また顎口腔領域の疼痛性疾患の診断、治療も含んでいる。歯科麻酔学の主な授業内容は、麻酔に必要な生理学および薬理学、術前全身評価法、全身麻酔法、局所麻酔法、精神鎮静法、代表的な疾患を持つ患者の術中生体管理法、術中術後の疼痛管理法、救急処置法を習得することを目的とする。また、顎口腔領域の非歯原性疼痛および神経麻痺の診断・治療を習得することも目的とする。

学生の到達目標

- 歯科医療における歯科麻酔の役割を理解する。
- 中枢神経および末梢神経の機能評価を説明できる。
- 呼吸器の機能評価を説明できる。
- 循環器の機能評価を説明できる。
- 酸塩基平衡における緩衝系を説明できる。
- 局所麻酔薬の作用機序とイオンチャンネルの関係を説明できる。
- 局所麻酔添加の血管収縮薬が循環動態に与える影響を説明できる。
- 歯科治療時に注意が必要な生活習慣病を説明できる。
- 精神鎮静法と全身麻酔の相違点を列挙できる。
- 精神鎮静法の種類とその適応および禁忌を列挙できる。
- 疼痛の種類、発生機序および制御機構、方法を説明できる。
- 三叉神経痛および顔面神経麻痺の発症機序と治療法を説明できる。
- 救急時の心肺蘇生法を説明できる。
- 小児麻酔の呼吸循環管理の特徴を説明できる。
- 日帰り全身麻酔の適応、方法、禁忌、術前術後管理を説明できる。
- 血液の凝固、線溶系の機構を理解し、検査項目について説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3)	(3)		心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激(興奮)伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】
C	2	3)	(3)		肺循環と体循環の2系統を説明できる。
C	2	3)	(3)		動脈、毛細血管および静脈の構造と血管系の役割を説明できる。
C	2	3)	(3)		血液循環と血管運動、血圧の調節機構を説明できる。
C	2	3)	(3)		主な動脈と静脈を列挙できる。
C	2	3)	(4)		皮膚感覚器の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(4)		深部感覚の受容器の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(5)		脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。
C	2	3)	(5)		末梢神経系の機能分類(体性神経系と自律神経系)を説明できる。
C	2	3)	(5)		交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(5)		ニューロンとグリアの構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(5)		神経の活動電位の発生とその伝播の機序を説明できる。
C	2	3)	(5)		シナプスにおける興奮伝達を概説できる。

2017年度

歯科麻酔学 (Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代、〔非常勤講師〕趙 成三						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3)	(5)		神経伝達物質の種類と機能を説明できる。
C	2	3)	(7)		気道系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支）の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(7)		肺の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(9)		腎臓と尿路（尿管、膀胱、尿道）の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(9)		体液の量と組成および浸透圧の調節機構を説明できる。【ネフロンの働き（濾過、再吸収、分泌）を含む。】
C	2	3)	(9)		水代謝と主な電解質の出納を説明できる。
C	2	3)	(11)		止血と血液凝固の機序を説明できる。
C	3	2)			アレルギーの分類を説明できる。
C	4	3)			虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。
C	4	3)			出血の原因、種類および転帰を説明できる。
C	4	3)			血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。
C	4	3)			塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。
C	4	3)			梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。
C	4	3)			浮腫の原因とその転帰を説明できる。
C	4	3)			ショックの成因と種類を説明できる。
C	4	6)			疼痛の発生機序を説明できる。
C	4	6)			疼痛の制御機構・方法の概念を説明できる。
E	1	1)			診察、検査、診断および治療に必要な器材を説明できる。【患者監視装置(モニタ)を含む。】
E	1	3)	(1)		バイタルサインを列挙し、説明できる。
E	1	3)	(1)		血圧を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		脈拍数を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		呼吸数を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		体温を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		歯科治療時に注意を要する全身疾患(小児も含む)を説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	1	3)	(1)		患者の服用薬物と歯科治療の関連について説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	1	3)	(1)		小児、妊婦、授乳婦および高齢者の歯科治療時の注意点を説明できる。
E	1	3)	(1)		患者の全身状態評価を説明できる。
E	1	3)	(2)		精神鎮静法の特徴と目的および種類を説明できる。
E	1	3)	(2)		吸入鎮静法の適応と禁忌および使用薬物を説明できる。
E	1	3)	(2)		静脈内鎮静法の適応と禁忌および使用薬物を説明できる。
E	1	3)	(2)		精神鎮静法の周術期の管理を説明できる。

2017年度

歯科麻酔学 (Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代、〔非常勤講師〕趙 成三						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	3)	(2)		精神鎮静法を適切に介助できる。
E	1	3)	(3)		局所麻酔の目的を説明できる。
E	1	3)	(3)		局所麻酔薬を分類し、その作用機序を説明できる。
E	1	3)	(3)		局所麻酔作用に影響を及ぼす因子を説明できる。
E	1	3)	(3)		血管収縮薬の使用目的と種類、特徴および臨床使用上の注意を説明できる。
E	1	3)	(3)		局所麻酔法の種類と特徴を説明できる。
E	1	3)	(3)		局所麻酔時の合併症（偶発症）を説明できる。
E	1	3)	(3)		局所麻酔を実施できる。
E	1	3)	(4)		全身麻酔の目的と種類ならびに特徴を説明できる。【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用および使用機器・器具を含む。】
E	1	3)	(4)		全身麻酔の適応と禁忌および合併症を説明できる。
E	1	3)	(4)		全身麻酔時の周術期の管理を説明できる。
E	1	5)			歯科治療時の全身合併症（偶発症）を説明できる。
E	1	5)			意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。
E	1	5)			気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む】
E	1	5)			気道確保と呼気吹き込みによる人工呼吸を実施できる。
E	1	5)			胸骨圧迫と自動的体外式除細動器（AED）の操作を実施できる。
E	1	5)			救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。
E	2	1)			三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。
E	2	1)			嚥下の機序を説明できる。
E	2	4)	(8)		三叉神経痛の原因、症状および治療法を説明できる。
E	2	4)	(8)		口腔・顔面痛について概説できる。
E	2	4)	(8)		顔面神経麻痺の原因、症状および治療法を説明できる。
E	2	4)	(8)		三叉神経麻痺（感覚麻痺、運動麻痺）の原因、症状および治療法を説明できる。
E	4	4)			障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
E	4	5)			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。
E	4	5)			歯科治療恐怖症を説明できる。
E	4	6)			代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。
E	4	6)			主要な医科疾患の症候を説明できる。
E	4	6)			小児の代表的な疾患を説明できる。

2017年度

歯科麻酔学 (Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代、〔非常勤講師〕趙 成三						

テキスト

歯科麻酔学 第7版
出) 医歯薬出版

著)

参考書

口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック
出) 医歯薬出版

著)

スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科
出) 医歯薬出版

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	80%
出席点	20%

その他

2017年度

歯科麻酔学 (Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代、〔非常勤講師〕趙 成三						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	麻酔に必要な呼吸生理学 本講義により、歯科治療中の臨床的呼吸評価のため呼吸機能評価と肺ガス交換能の評価について学習する。また代表的な疾患（COPD、喘息など）の呼吸機能検査による重症度評価ができるようになる。	講義 スライド 資料配布	渡邊	501講義室
2	麻酔に必要な循環生理学 本講義により、歯科治療中の循環動態の臨床的評価のため心電図および心機能評価について学習する。また虚血性心疾患患者の歯科治療に際し循環モニタおよびその重症度評価ができるようになる。	講義 スライド 資料配布	渡邊	501講義室
3	麻酔に必要な血液、止血、凝固、抗凝固薬の薬理作用 血液の止血、凝固がどのような機序で起こるのかを知り、抗凝固薬がどのようにして効果を発揮しているのかを学習する。	講義 スライド 資料配布：サーバーからダウンロードで講義ノートとして提供 ・URLおよびpass wordは講義2週間前に総代に連絡	渡邊	501講義室
4	麻酔に必要な内分泌、腎、酸塩基平衡 腎の解剖、機能、体液と電解質のバランスについて学習し、酸塩基平衡における緩衝系を理解する。内分泌系の種類と機能について学習する。	講義 スライド 資料配布	渡邊	501講義室
5	麻酔に必要な脳生理と麻酔薬・麻酔法の影響 脳の血流調節、麻酔薬の血流と脳代謝率に及ぼす影響を理解する。	講義 スライド 資料配布	茂山	501講義室
6	麻酔に必要な体温管理・モニタリング 体温調節機構の学習と全身麻酔薬による影響を学習する。 術中体温維持法、術後シバリングに対する対応方法を学習する。	講義 スライド 資料配布	茂山	501講義室
7	筋弛緩薬の薬理作用 神経筋接合部の生理機構を知り、筋弛緩薬の種類、作用機序、拮抗薬を理解する。	講義 スライド 資料配布	渡邊	501講義室
8	気管挿管・呼吸モニタリング マスク換気、気管挿管、挿管困難症の予測について理解する。 SpO ₂ 、ETCO ₂ などの呼吸状態を評価するモニターを理解する。	講義 スライド 資料配布	趙	501講義室
9	循環モニタリング・埋め込み型ペースメーカーと除細動器 観血的動脈圧、中心静脈圧、心エコーの解釈について理解する。 心電図波形の成り立ちを理解し、不整脈、心筋虚血、心筋梗塞の所見がわかるように学習する。 ペースメーカー及び埋め込み型除細動器の機能、適応、注意点を学習する。	講義 スライド 資料配布	渡邊	501講義室
10	麻酔に必要な神経生理学 麻酔は中枢および末梢神経を抑制し意識消失、除痛を得ることを目的の一つとする。従って、神経細胞の興奮・刺激伝導・伝達メカニズムを熟知する必要がある。局所麻酔において末梢神経抑制、全身麻酔、精神鎮静法では中枢神経抑制メカニズムをイオンチャンネル、神経伝達物質の受容体を関連づけてのsimpleかつelementaryに電気生理学的に解説する	講義 スライド 資料配布サーバーからダウンロードで講義ノートとして提供 ・URLおよびpass wordは講義2週間前に総代に連絡	椎葉	501講義室
11	麻酔に必要な局所麻酔薬の薬理作用 局所麻酔薬がなぜ効くのかを知り、各種局所麻酔薬の特徴を学習する。 星状神経節ブロックの適応、作用機序を学習する。	講義 スライド 資料配布	左合	501講義室
12	局所麻酔法 局所麻酔をする際に必要な器具および各種浸潤麻酔法、伝達麻酔法について学習する。	講義 スライド 資料配布	左合	501講義室

2017年度

歯科麻酔学 (Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代、〔非常勤講師〕趙 成三						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
13	顎口腔領域におけるペインクリニック 口腔顔面痛は歯科臨床では不可欠の項目ではあるが国家試験に目標を絞って以下の項目に関して講義する。 発生起源からみた口腔顔面痛の分類 三叉神経痛、顔面神経麻痺の発症原因 知覚神経障害の原因と症状・治療法 歯に痛みを誘発する口腔顔面痛	講義 スライド 資料配布サーバーからダウンロードで講義ノートとして提供 URLおよびpass wordは講義2週間前に総代に連絡	椎葉	501講義室
14	ショック、救急処置、心肺蘇生法 日常の歯科臨床において起こりうるショックや救急事態について全体像を学習する。また、ショックや救急事態が生じた場合の対処法について学習する。	講義 スライド 資料配布	左合	501講義室
15	障害者・高齢者の麻酔 障害者の特徴ならびに障害者に対する麻酔の適応と禁忌を学習する。また障害者に対する麻酔管理法を学習する。	講義 スライド 資料配布	原野	501講義室

2017年度

歯科麻酔学 (講義) (Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代、大渡 凡人、〔非常勤講師〕茅島 顕治						

授業の概要

歯科麻酔は手術中の全身麻酔や精神鎮静法を施行するのみでなく術前、術後の管理も担当する。この手術および麻酔の前後も含めた時期を周術期と呼ぶ。それぞれの周術期をよく理解し、適切に対応することが患者の安全、苦痛の減少、早期離床につながる。特に高齢社会を迎え何らかの全身疾患を有する患者が増加傾向にあることより周術期管理には特別な配慮が必要である。本科目は歯科領域の手術を行う上での周術期麻酔管理を習得することを目的とする。

学生の到達目標

- 吸入麻酔薬の種類を列挙し、作用機序を説明できる。
- 吸入麻酔薬の導入および覚醒に影響を与える生理学的因子を説明できる。
- 静脈麻酔薬の種類を列挙し、作用機序を説明できる。
- 全静脈麻酔 (Total Intravenous Anesthesia : TIVA) の概念を説明できる。
- 筋弛緩薬の種類と列挙し、それぞれの作用機序を説明できる。
- 障害者に対する麻酔管理を説明できる。
- 日帰り全身麻酔の適応と注意点を説明できる。
- 生活習慣病を有する患者の全身麻酔時の注意すべき点を説明できる。
- 小児に対する全身麻酔時の注意すべき点を説明できる。
- 心疾患を有する患者の全身麻酔時の注意すべき点を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	3)	(1)		バイタルサインを列挙し、説明できる。
E	1	3)	(1)		歯科治療時に注意を要する全身疾患(小児も含む)を説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	1	3)	(1)		小児、妊婦、授乳婦および高齢者の歯科治療時の注意点を説明できる。
E	1	3)	(1)		患者の全身状態評価を説明できる。
E	1	3)	(2)		精神鎮静法の特徴と目的および種類を説明できる。
E	1	3)	(2)		吸入鎮静法の適応と禁忌および使用薬物を説明できる。
E	1	3)	(2)		静脈内鎮静法の適応と禁忌および使用薬物を説明できる。
E	1	3)	(2)		精神鎮静法の周術期の管理を説明できる。
E	1	3)	(2)		精神鎮静法を適切に介助できる。
E	1	3)	(4)		全身麻酔の目的と種類ならびに特徴を説明できる。【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用および使用機器・器具を含む。】
E	1	3)	(4)		全身麻酔の適応と禁忌および合併症を説明できる。
E	1	3)	(4)		全身麻酔時の周術期の管理を説明できる。
E	4	4)	(4)		障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
E	4	4)	(4)		障害者の行動調整(行動管理)と歯科治療に必要な注意点を説明できる。
E	4	4)	(4)		障害者およびその介護者に対して歯科保健指導ができる。
E	4	4)	(4)		障害者における口腔ケア処置について説明できる。
E	4	4)	(4)		障害者に対する基本的な対応ができる。

2017年度

歯科麻酔学 (講義) (Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代、大渡 凡人、〔非常勤講師〕茅島 顕治						

テキスト

歯科麻酔学 第7版
出) 医歯薬出版

著)

参考書

口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック
出) 医歯薬出版

著)

スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科
出) 医歯薬出版

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	80%
出席点	20%

・出席点20点のうち非常勤講師による講義の出席点は2回全ての出席をもって5点、それ以外は0点とする。

その他

2017年度

歯科麻酔学 (講義) (Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代、大渡 凡人、〔非常勤講師〕茅島 顕治						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	全身麻酔の実際、術前評価 全身麻酔の導入、維持、覚醒時における注意点、および術前全身評価（呼吸機能、循環機能、肝機能、腎機能、脳機能など）について学習する。	講義 スライド 資料配布	渡邊	501講義室
2	気道確保、挿管困難症 気道確保の方法と使用する器具について学習する。また、気道確保が困難な場合の対処法を学習する。	講義 スライド 資料配布	渡邊	501講義室
3	輸液と輸血、静脈路確保 絶飲、絶食時における輸液管理について輸液剤の種類、投与量、電解質組成などについて学習する。 術中出血、低アルブミン血症、血小板低下症に対する血液製剤の使用方法について学習する。 末梢静脈路及び中心静脈路の穿刺部位の選定、輸液路確保の方法、合併症について学習する。	講義 スライド 資料配布	渡邊	501講義室
4	鎮痛薬 歯科で使用される鎮痛薬の大部分は非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAID; non-steroidal anti-inflammatory drugs）であるが、その他にも解熱鎮痛剤、麻薬、抗うつ薬、抗癌薬も鎮痛薬として使用される。それぞれの作用機序、適応となる疾患、副作用について解説する。	講義 スライド 資料配布：URLおよびpass wordは講義2週間前に総代に連絡	椎葉	501講義室
5	がん性疼痛ケア がん性疼痛の80%はNSAIDs、麻薬、鎮痛補助薬などを適切に使用することによってコントロールできると言われている。しかし、がん性疼痛は侵害受容性疼痛のみでなく多面的であるため全人的に理解する必要がある。がん性疼痛の特徴、がん性疼痛に対して使用する鎮痛剤の種類と投与方法について解説する。	講義 スライド 資料配布：URLおよびpass wordは講義2週間前に総代に連絡	椎葉	501講義室
6	術後全身管理と疼痛ケア 術後管理の意義と目的について理解し、術後疼痛の予防・対策について学習する。	講義 スライド 資料配布	茂山	501講義室
7	全身麻酔（吸入麻酔薬・静脈麻酔薬） 臨床で使われる代表的な吸入麻酔薬・静脈麻酔薬、鎮痛薬の作用機序を知り、その薬剤の特徴を学習する。 吸入麻酔の取り込みと分布について学習する。 TIVA（全静脈麻酔）の使用薬剤、薬剤投与方法、薬理的動態（3コンパートメントモデル）、鎮静度評価について学習する。	講義 スライド 資料配布	茂山	501講義室
8	口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害（嚥下障害と味覚障害） 嚥下障害と味覚障害について全体像を学習する。また、嚥下障害と味覚障害の治療に必要な全身的な知識について学習する。	講義 スライド 資料配布	左合	501講義室
9	精神鎮静法（吸入鎮静法、静脈内鎮静法） 精神鎮静法に使用される薬剤について学習する。また、精神鎮静法の適応、禁忌症などを踏まえたうえで適切な管理方法を学ぶ。	講義 スライド 資料配布	原野	501講義室
10	障害者の麻酔 障害者の特徴ならびに障害者に対する麻酔の適応と禁忌を学習する。また障害者に対する麻酔管理法を学習する。	講義 スライド 資料配布	原野	501講義室
11	日帰り全身麻酔 日帰り全身麻酔の特徴ならびに適応と禁忌を学習する。	講義 スライド 資料配布	原野	501講義室
12	小児の麻酔 小児の生理学・解剖学的特徴を成人との違いを対比し学習する。また小児における全身麻酔の実践について学習する。	講義 スライド 資料配布	茅島	501講義室
13	心臓疾患の周術期管理 虚血性心疾患、先天性心疾患を理解し、周術期および歯科治療時における対応策を学習する。	講義 スライド 資料配布	瀬尾	501講義室

2017年度

歯科麻酔学 (講義) (Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代、大渡 凡人、〔非常勤講師〕茅島 顕治						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
14	手術室・歯科治療室内の医療安全、高圧ガス管理、感染症対策 手術室・歯科治療室内の安全管理のために、患者取り間違いへの対応策、高圧ガスボンベの取り扱い、ガスボンベ 配管接続誤認への対応策、また感染症対策としてスタンダードプリコーション法、手術室・治療室内で対応が必要な感染症について学習する。	講義 スライド 資料配布	左合	501講義室
15	歯科治療における全身的偶発症 歯科治療時に生じ得る偶発症について学習する。また、偶発症が生じた時の対応について学習する。	講義 スライド 資料配布	左合	501講義室

2017年度

歯科麻酔学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	26	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代						

授業の概要

少子高齢者社会と言われ始めてずいぶんと時間が経った。必然的に、歯科医院にも様々な疾患を持った患者が来院するようになってきた。成人では高血圧症や心臓病、糖尿病や脳梗塞など、小児では喘息やアレルギー疾患などを有する患者が増加しているが、歯科治療に当たっては患者背景を十分に把握し、慎重に対処することが要求されている。そればかりか、患者が急変した時の対応も、今後は必要とされてくるであろう。本実習では歯科医師が医療者として、より患者を把握し、疾患を理解し、適切な対応策を取ることができるように、一次救命処置、バイタルサインの測定、静脈路確保の実習を行う。個々の学生が体験する実習を行なうため、少人数でのシミュレーション学習となる。学生を10班に分け、毎週4班は次の相互実習を行う(Aコース[2班]:一次救急救命処置、自動体外式除細動器使用とバイタルサインの測定、Bコース[2班]:静脈路確保)。残りの6班はCコースとして、全身管理に関連した国家試験既出問題の演習を行う。実習と演習はローテーションで行っていく。習得した知識と技術は実習試験ならびに筆記試験にて評価する。

学生の到達目標

歯科治療における全身管理の基本を理解する。
救急処置の基本を身につける。
歯科治療時に注意を要する全身疾患を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	3)	(1)		バイタルサインを列挙し、説明できる。
E	1	3)	(1)		血圧を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		脈拍数を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		呼吸数を測定し、状況を把握できる。
E	1	5)			歯科治療時の全身合併症(偶発症)を説明できる。
E	1	5)			意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。
E	1	5)			気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む】
E	1	5)			気道確保と呼気吹き込みによる人工呼吸を実施できる。
E	1	5)			胸骨圧迫と自動的体外式除細動器(AED)の操作を実施できる。
E	1	5)			救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。

テキスト

歯科麻酔学実習書
出)1回目に配布予定

著)

参考書

BLSヘルスケアプロバイダー受講マニュアルAHAガイドライン2010準拠
出)シナジー出版事業部

著)

2017年度

歯科麻酔学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	26	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
OSCE形式の実習試験（静脈路確保、一次救命処置の課題）	60%
知識検定	40%

その他

2017年度

歯科麻酔学 (実習) (Preclinical Simulation Training of Dental Anesthesiology)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	26	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	実習内容説明 実習内容について学習する。また血圧・脈拍測定、静脈路確保、一次救命処置の手順を学習する。	講義	原野	501講義室
2-6	実習 A:一次救命処置、バイタルサイン(2班) バイタルサインの測定(血圧、脈拍)ならびに安全の確認、意識の確認、救急要請、呼吸の確認、CPR施行、AEDの使用までを実習する。 B:静脈路確保(2班) 静脈路確保の模型実習、ならびに相互実習を行う。 C:国家試験既出問題演習(6班) 全身管理に関連した過去の国家試験について学習する。	実習	渡邊 椎葉 原野 左合 茂山	501講義室 相互実習室
7-11	実習試験 A:一次救命処置実習試験(2班) B:静脈路確保実習試験(2班) C:国家試験既出問題演習(6班) 全身管理に関連した過去の国家試験について別室にて学習する。	実習	渡邊 椎葉 布巻 左合 茂山	501講義室 相互実習室
12	知識検定 全身管理に関連した国家試験の内容について筆記試験を行う。	試験	渡邊 椎葉 原野 左合 茂山	501講義室 601講義室
13	実習試験(再試験) 実習試験における不合格者に対して、再度実習試験を行う。	実習	渡邊 椎葉 原野 左合 茂山	501講義室 相互実習室

2017年度

口腔外科学 (Oral Surgery)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、吉岡 泉、笹栗 正明、土生 学、岩永 賢二郎、吉賀 大午、高橋 理、三次 翔、河野 通直						

授業の概要

口腔外科学は、口腔領域に発生する齲蝕と歯周病以外の各種疾患に対して主として外科的手法を用いて診断治療を行う学問である。口腔外科における各種疾患について、その概念、成因、病態、治療法を理解する。具体的には、顎顔面の外傷、炎症性疾患（消炎外科療法）、嚢胞性疾患、良性腫瘍、悪性腫瘍（外科療法）などについて理解し、さらに小手術学についてもその基本術式の知識と技能を学ぶ。また、顎骨欠損に対する骨接合材、骨移植、皮弁などを用いた顎骨再建方法やインプラント、顎顔面補綴、骨造成などを含めた先端医療としての口腔機能回復方法の概要を学ぶ。

学生の到達目標

- 一般的な骨折の種類と特徴および治療過程を説明できる。
- 歯の外傷と顎顔面骨折の原因と種類を列挙できる。
- 外傷時の検査法を列挙できる。
- 歯の外傷の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明できる。
- 歯槽骨骨折、上顎骨骨折および下顎骨骨折の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明できる。
- 骨折の治療原則を説明できる。
- 軟組織損傷を分類し、それぞれの症状と処置法を説明できる。
- 口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。
- 顎変形症を概説できる。
- 顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
- 顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
- 軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
- 口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状、診断法および治療法を概説できる。
- 歯原性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。
- 非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。
- 口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法（組織診、画像診断）および治療法を説明できる。
- エナメル上皮腫の特徴、症状および治療法を概説できる。
- 口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を概説できる。
- 腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。
- エプーリスの特徴、症状および治療法を概説できる。
- (21)顎関節疾患（外傷、脱臼、顎関節強直症）を概説できる。
- (22)抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。
- (23)小手術の偶発症と合併症を説明できる。
- (24)抜歯に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。
- (25)粘膜の切開、剥離に必要な器具の用法を説明できる。
- (26)縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。
- (27)手指と術野の消毒について説明できる。
- (28)簡単な抜歯ができる。
- (29)粘膜の切開、剥離ができる。
- (30)単純縫合、抜糸ができる。
- (31)埋伏智歯の抜歯法を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	4)			抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。
E	1	4)			小手術の偶発症と合併症を説明できる。
E	1	4)			抜歯に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。
E	1	4)			粘膜の切開、剥離に必要な器具の用法を説明できる。
E	1	4)			縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。

2017年度

口腔外科学 (Oral Surgery)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、吉岡 泉、笹栗 正明、土生 学、岩永 賢二郎、吉賀 大午、高橋 理、三次 翔、河野 通直						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	4)			手指と術野の消毒について説明できる。
E	1	4)			清潔と不潔の区別を説明できる。
E	1	4)			器具の滅菌、消毒について説明できる。
E	1	4)			埋伏歯（智歯を含む）の抜歯法を説明できる。
E	2	4)	(1)		口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。
E	2	4)	(1)		口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。
E	2	4)	(1)		顎変形症を概説できる。
E	2	4)	(2)		一般的な骨折の種類と特徴および治癒過程を説明できる。
E	2	4)	(2)		歯の外傷と顎顔面骨折の原因と種類を列挙できる。
E	2	4)	(2)		外傷時の検査法を列挙できる。
E	2	4)	(2)		歯の外傷の症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(2)		歯槽骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折および下顎骨骨折の症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(2)		骨折の治療原則を説明できる。
E	2	4)	(2)		軟組織損傷を分類し、それぞれの症状と処置法を説明できる。
E	2	4)	(5)		顎骨に発生する歯源性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		顎骨に発生する非歯源性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状、診断法および治療法を概説できる。
E	2	4)	(5)		歯源性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		非歯源性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法（組織診、画像診断）および治療法を説明できる。
E	2	4)	(5)		腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(5)		エプーリスの特徴、症状および治療法を概説できる。
E	2	4)	(5)		口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を概説できる。
E	2	4)	(5)		口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。
E	2	4)	(6)		顎関節疾患（外傷、脱臼、顎関節強直症）を概説できる。

テキスト

出)

著)

参考書

口腔外科学

出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦 編

コンサイス口腔外科学

出)学建書院

著)内山健志、大関 悟、近藤寿郎、坂下英明 編

2017年度

口腔外科学 (Oral Surgery)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、吉岡 泉、笹栗 正明、土生 学、岩永 賢二郎、吉賀 大午、高橋 理、三次 翔、河野 通直						

インプラント治療の骨造成法-基礎知識と臨床テクニック
出)医学情報社 著)高橋哲

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	40%
定期試験	60%

確認テストの追試験は実施しない。

その他

(教員名：オフィスアワー)
富永和宏：月～金：17:00～

2017年度

口腔外科学 (Oral Surgery)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、吉岡 泉、笹栗 正明、土生 学、岩永 賢二郎、吉賀 大午、高橋 理、三次 翔、河野 通直						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	口腔外科学：総論 口腔外科学の概要と歴史を学習し、口腔外科分野が口腔外科と口腔内科とに分かれた社会的背景を理解する。	講義 スライド	富永	501講義室
2	外傷(1)：総論・合併損傷 顎顔面外傷時に必要な全身的評価と初期治療を学習する。特に高エネルギー外傷時の対応を理解する。	講義 スライド	三次	501講義室
3	外傷(2)：軟組織・歯の損傷 顎顔面の軟組織損傷の原因や病態における分類、基本的治療法を学習する。歯の破折、脱臼に対する診断と治療法を学習する。	講義 スライド	富永	501講義室
4	外傷(3)：骨折(1) 歯槽骨骨折、下顎骨骨折、関節突起骨折の診断と治療法を学習する。	講義 スライド	富永	501講義室
5	外傷(4)：骨折(2) 上顎骨骨折、頬骨骨折、眼窩底骨折ならびに広範な顔面骨骨折の診断と治療法を学習する。	講義 スライド	富永	501講義室
6	嚢胞性疾患(1) 各種顎骨内の嚢胞(歯源性・非歯源性)の特徴と臨床病態ならびに治療法について学習する。	講義 スライド	岩永	501講義室
7	嚢胞性疾患(2) 顎顔面の軟組織の嚢胞ならびに偽嚢胞などの類似疾患の特徴と臨床病態ならびに治療法について学習する。	講義 スライド	岩永	501講義室
8	歯源性良性腫瘍(1) 各種歯源性腫瘍の特徴と臨床病態ならびに治療法について学習する。	講義 スライド	高橋	501講義室
9	歯源性良性腫瘍(2) 歯源性腫瘍の中でも特に重要度の高いエナメル上皮腫について詳しく学習する。臨床的分類だけでなく病理組織学的分類とも絡めて治療について学習する。	講義 スライド	高橋	501講義室
10	非歯源性良性腫瘍(1) 非歯源性良性腫瘍の分類、診断および治療について学習する。	講義 スライド	吉賀	501講義室
11	非歯源性良性腫瘍(2) 口腔顎顔面領域に発生する代表的な非歯源性腫瘍について、特徴と臨床病態ならびに治療について学習する。	講義 スライド	吉賀	501講義室
12	外傷・嚢胞・良性腫瘍についてのまとめ これまでの講義のまとめを行い、確認テストを行う。	講義 スライド	未定	501講義室
13	口腔癌(1) 上皮性悪性腫瘍、特に癌種について診断、病期分類、治療についての概要を学習する。	講義 スライド	未定	501講義室
14	口腔癌(2) 間葉性悪性腫瘍・その他の悪性疾患について分類、診断、治療について学習する。	講義 スライド	未定	501講義室
15	口腔癌(3) 腫瘍類似疾患について分類、特徴、臨床病態ならびに治療について学習する。	講義 スライド	土生	501講義室
16	口腔癌(4) 悪性腫瘍の治療法について手術療法を中心に詳しく学習する。	講義 スライド	富永	501講義室
17	再建(1) さまざまな疾患で形態や機能を損なわれた場合の再建方法について学習する。特に顎顔面の再建手術について詳しく学習する。	講義 スライド	笹栗	501講義室

2017年度

口腔外科学 (Oral Surgery)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、吉岡 泉、笹栗 正明、土生 学、岩永 賢二郎、吉賀 大午、高橋 理、三次 翔、河野 通直						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
18	再建 (2) さまざまな疾患で形態や機能を損なわれた場合の手術以外の再建方法について学習する。	講義 スライド	笹栗	501講義室
19	唇顎口蓋裂 (1) さまざまな先天異常について学習する。特に体表奇形として頻度の高い唇顎口蓋裂の発生、病態、治療の流れの概要について学習する。	講義 スライド	笹栗	501講義室
20	唇顎口蓋裂 (2) 唇顎口蓋裂の治療法について詳しく学習する。口唇形成術、口蓋形成術、その他の治療について学習する。	講義 スライド	笹栗	501講義室
21	顎変形症 (1) 顎変形症の分類、診断、治療法の概要について学習する。	講義 スライド	吉岡	501講義室
22	顎変形症 (2) 顎変形症の手術法についてそれぞれの利点、欠点、適応症を学習する。	講義 スライド	吉岡	501講義室
23	小手術学：総論 滅菌、消毒、小手術用器具の名称、扱いなどを学習する。	講義 スライド	三次	501講義室
24	小手術学：各論 (1) 切開法、縫合法、止血法など手術の基本となる手技について学習する。	講義 スライド	早川	501講義室
25	小手術学：各論 (2) 小帯伸展術、歯根端切除術、骨瘤除去術など行われる頻度の高い小手術について術式と注意点を学習する。	講義 スライド	土生	501講義室
26	抜歯 (1) 抜歯術について適応、禁忌、偶発症などを総論として学習する。	講義 スライド	早川	501講義室
27	抜歯 (2) 抜歯術の基本となる普通抜歯について学習する。使用器具を含めた準備から術前、術中、術後の注意点について学習する。	講義 スライド	藤井	501講義室
28	抜歯 (3) 粘膜骨膜弁を形成したり、骨や歯を削除、分割して行う難抜歯や埋伏歯抜歯について学習する。	講義 スライド	藤井	501講義室
29	インプラント (1) さまざまなインプラントについて歴史的な発展の経緯を学習し、現在のインプラントについて総論的に学習する。	講義 スライド	土生	501講義室
30	インプラント (2) インプラントについて各論的に学習する。特にインプラントにあたり骨の造成などが必要な症例に対する対処法を学習する。	講義 スライド	土生	501講義室

2017年度

口腔外科学 (Oral Surgery)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、土生 学、國領 真也、岩永 賢二郎、吉賀 大午、高橋 理、三次 翔、河野 通直、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平						

授業の概要

歯科臨床において遭遇する頻度の高い口腔外科小手術に関する実習を行う。
口腔外科小手術に必要な基本的知識と技能を身につける。また、口腔・顎顔面領域の診察、検査、および同領域の診断、治療を行うために必要な基本的な知識、技能および態度を身につける。
授業は実習書およびビデオによる講義を行った後、模型や相互実習にて手技を習得する。

学生の到達目標

診察、検査、診断および治療に必要な器材を説明できる。
清潔に配慮しながら手洗いおよび滅菌グローブ装着ができる。
頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察を行うことができる。
外科結びを行うことができる。
抜歯に必要な器具の準備および普通抜歯、粘膜下埋伏抜歯を行うことができる。
脱臼歯牙固定を行うことができる。
歯根端切除術を行うことができる。
骨隆起除去を行うことができる。
バイタルサインを理解し、血圧・脈拍測定ができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
F	6				清潔操作を実施できる。
F	6				抜歯(小手術を含む)の器材の準備ができる。
F	6				外来手術のための手洗いと滅菌手袋の装着ができる。
F	6				術野の消毒を実践できる。
F	6				局所麻酔を安全に実施できる。
F	6				単純抜歯を実施できる。
F	6				基本的な縫合操作、抜糸を実施できる。

テキスト

九州歯科大学口腔外科学実習書
出)(配布) 著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版 著)白砂兼光、古郷幹彦 集

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習試験(OSCE形式)	100%

・実習態度が悪い場合は、減点評価とする。

2017年度

口腔外科学 (Oral Surgery)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、土生 学、國領 真也、岩永 賢二郎、吉賀 大午、高橋 理、三次 翔、河野 通直、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平						

その他

(学習相談) 代表：三次 翔：月～金12:00～13:00・17:00～18:00

上記の時間に限らず相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

口腔外科学 (Oral Surgery)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、土生 学、國領 真也、岩永 賢二郎、吉賀 大午、高橋 理、三次 翔、河野 通直、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	器具の名称および基本手技 口腔外科小手術に使用する器具の名称および使用方法を習得する。	実習	全教員	シミュレーション実習室
2	手洗いと滅菌グローブ装着・頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察 外科手術前に行う手洗い、滅菌グローブの装着、診察時に必要な頭頸部の診察(咀嚼筋、顎関節、顎下リンパ節の触診等)方法を習得する。実習は3グループに分かれ、1コマにつき1項目の実習を行う(ローテーション)。	実習	全教員	シミュレーション実習室 相互実習室
3	手洗いと滅菌グローブ装着・頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察 外科手術前に行う手洗い、滅菌グローブの装着、診察時に必要な頭頸部の診察(咀嚼筋、顎関節、顎下リンパ節の触診等)方法を習得する。実習は3グループに分かれ、	実習	全教員	シミュレーション実習室 相互実習室
4	手洗いと滅菌グローブ装着・頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察 外科手術前に行う手洗い、滅菌グローブの装着、診察時に必要な頭頸部の診察(咀嚼筋、顎関節、顎下リンパ節の触診等)方法を習得する。実習は3グループに分かれ、1コマにつき1項目の実習を行う(ローテーション)。	実習	全教員	シミュレーション実習室 相互実習室
5	縫合 オペガムを使用し、外科結びを習得する。	実習	全教員	シミュレーション実習室
6	下顎埋伏智歯抜歯・縫合 下顎埋伏智歯の抜歯法および縫合を習得する。	実習	全教員	シミュレーション実習室
7	下顎埋伏智歯抜歯・縫合 下顎埋伏智歯の抜歯法および縫合を習得する。	実習	全教員	シミュレーション実習室
8	脱臼歯牙固定 上顎前歯の脱臼歯牙固定法を習得する。	実習	全教員	シミュレーション実習室
9	歯根端切除術 上顎中前歯の歯根端切除法を習得する。	実習	全教員	シミュレーション実習室
10	骨隆起除去術 下顎隆起除去術を習得する。	実習	全教員	シミュレーション実習室
11	バイタルサイン実習 バイタルサインを理解し、血圧・脈拍の測定を行う。	実習	全教員	シミュレーション実習室 相互実習室
12	補充実習 これまでに行った実習について復習を行う。	実習	全教員	シミュレーション実習室
13	実習試験 手洗い、滅菌グローブ装着、頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察、普通抜歯、縫合、バイタルサインの中より課題を組み合わせ、OSCE形式で実習試験(2コマ使用)を行う。	テスト	全教員	シミュレーション実習室 相互実習室 501講義室
14	実習試験 手洗い、滅菌グローブ装着、頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察、普通抜歯、縫合、バイタルサインの中より課題を組み合わせ、OSCE形式で実習試験(2コマ使用)を行う。	テスト	全教員	シミュレーション実習室 相互実習室 501講義室
15	追実習試験 実習試験にて60点未満の者に対して追実習試験を行う。	テスト	全教員	シミュレーション実習室 相互実習室

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、引地 尚子、國領 真也、〔非常勤講師〕山元 修						

授業の概要

口腔内科学(Oral medicine)は 歯科患者の口腔だけに視点を向けず、全身的背景を考慮した口腔疾患の診断と治療を目的とし、内科的なアプローチを主体として口腔の医療にあたる学問である。超高齢化社会の我が国では、全身疾患を持った患者が増加しており、医学的に問題のある患者に対応する能力やチーム医療のなかで他職種と連携することが求められる。このため以下の一般目標を掲げる。

全身疾患を考えながら口腔疾患の診断と治療を進めることができる。

全身疾患を持った患者の口腔疾患の治療を行うに際して、全身疾患を把握し、口腔疾患の治療が全身に及ぼす影響と全身疾患が口腔疾患の治療に与える影響について理解を深める。

他科の医師をはじめとした関連する職種の人達との医療連携、チーム医療を理解する。

学生の到達目標

- 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。
- 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。
- 白板症の特徴、症状および治療法を説明できる。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫不全とそれらの症状を列挙できる。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患(貧血、出血性素因、白血病)とスクリーニング検査法を列挙できる。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現す系統的骨疾患の症状、診断および治療法を列挙できる。
- 前癌病変(白板症、紅板症)の特徴、症状および治療法を概説できる。
- 前癌状態の種類と特徴を列挙できる
- 顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。
- 顎関節症を概説できる。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現す感染症の種類とその症状を列挙できる。
- 歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。
- 急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。
- 炎症の診断に必要な検査法を説明できる。
- 口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。
- 菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。
- 一般的な消炎療法の意義と特徴を説明できる。
- 主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、歯性上顎洞炎等)を概説できる。
- (21)歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。
- (22)消炎手術を概説できる。
- (23)代表的な医科疾患を説明できる。
- (24)主要な医科疾患の症候を説明できる。
- (25)主要な身体診察を説明できる。
- (26)歯科心身症を説明できる。
- (27)口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。
- (28)心理テストを説明できる。
- (29)舌痛症を概説できる。
- (30)心身医学的治療を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4)	(4)		口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。
E	2	4)	(4)		水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。
E	2	4)	(5)		前癌病変(白板症、紅板症)の特徴、症状および治療法を説明できる。
E	2	4)	(5)		前癌状態の種類と特徴を列挙できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患(貧血、出血性素因、白血病)とスクリーニング検査法を列挙できる。

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、引地 尚子、國領 真也、〔非常勤講師〕山元 修						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫不全とそれらの症状を列挙できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す系統的骨疾患の症状、診断および治療法を列挙できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。

テキスト

プリント配布
出)

著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦 編

口腔内科学
出)永末書店

著)山根源之、草間幹夫、久保田英朗

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(教員名 : オフィスアワー)
・吉岡 泉 : 月~金 : 17:00~

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、引地 尚子、國領 真也、〔非常勤講師〕山元 修						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	口腔内科学総論 内科学的なアプローチによる口腔疾患の診断や治療法を学習し、口腔疾患と全身疾患の関連性を学習する。	講義 (スライド・プリント)	吉岡	501講義室
2	口腔内科診断学 全身疾患も考慮した口腔診断法を、検査方法を含めて学習する。	講義 (スライド・プリント)	山元	501講義室
3	口腔粘膜疾患総論 口腔粘膜の構造と免疫学的特徴、口腔粘膜疾患の症候、診断法、治療法の概要を学習する。	講義 (スライド・プリント)	吉岡	501講義室
4	口腔粘膜疾患各論(1) 口内炎・アフタおよびアフタ性病変、水疱性疾患について病態、診断と治療法を学習する。	講義 (スライド・プリント)	吉岡	501講義室
5	口腔粘膜疾患各論(2) ウイルス性疾患、角化性病変について病態、診断と治療法を学習する。	講義 (スライド・プリント)	吉岡	501講義室
6	口腔粘膜疾患各論(3) 膠原病、色素異常、薬物による病変、舌の病変、口唇の病変、全身疾患と関連した口腔粘膜疾患について病態、診断と治療法を学習する。	講義 (スライド・プリント)	吉岡	501講義室
7	歯科心身症総論・各論(1) 歯科心身症の概要、心理テストおよび心身医学的治療について学習する。	講義 (スライド・プリント)	引地	501講義室
8	歯科心身症各論(2) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛み、舌痛症そのほかの歯科心身症について学習する。	講義 (スライド・プリント)	引地	501講義室
9	炎症性疾患総論・各論(1) 歯性感染症(智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎)について学習する。	講義 (スライド・プリント)	國領	501講義室
10	炎症性疾患各論(2) 歯性感染症(顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、顎骨周囲軟組織の炎症・歯性上顎洞炎)について学習する。	講義 (スライド・プリント)	國領	501講義室
11	炎症性疾患各論(3) 全身感染症・歯性病巣感染について学習する。	講義 (スライド・プリント)	國領	501講義室
12	炎症性疾患各論(4) 化学療法・抗炎症剤療法について学習する。	講義 (スライド・プリント)	國領	501講義室
13	顎関節疾患(1) 顎関節疾患総論;顎関節の機能と構造、顎関節疾患の分類、鑑別診断について学習する。	講義 (スライド・プリント)	吉岡	501講義室
14	顎関節疾患(2) 顎関節の発育異常、外傷、炎症、腫瘍、全身疾患に関連した顎関節疾患病態、診断、治療法について学習する。	講義 (スライド・プリント)	吉岡	501講義室
15	顎関節疾患(3) 顎関節症の病態、診断、治療法について学習する。	講義 (スライド・プリント)	吉岡	501講義室

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、國領 真也、坂口 修、大澤 賢次、河野 通直、田中 純平、〔非常勤講師〕大矢 亮一、〔非常勤講師〕平島 惣一						

授業の概要

口腔内科学(Oral medicine)は 歯科患者の口腔だけに視点を向けず、全身的背景を考慮した口腔疾患の診断と治療を目的とし、内科的なアプローチを主体として口腔の医療にあたる学問である。超高齢化社会の我が国では、全身疾患を持った患者が増加しており、医学的に問題のある患者に対応する能力やチーム医療のなかで他職種と連携することが求められる。このため以下の一般目標を掲げる。

1. 全身疾患を考えながら口腔疾患の診断と治療が進めることができる。
2. 全身疾患を持った患者の口腔疾患の治療を行うに際して、全身疾患を把握し、口腔疾患の治療が全身に及ぼす影響と全身疾患が口腔疾患の治療に与える影響について理解を深める。
3. 他科の医師をはじめとした関連する職種の人達との医療連携、チーム医療を理解する。

学生の到達目標

- 口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患(貧血、出血性素因、白血病)とスクリーニング検査法を列挙できる。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現す系統的骨疾患の症状、診断および治療法を列挙できる。
- 炎症の診断に必要な検査法を説明できる。
- 菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。
- 歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。
- 唾石症の特徴、症状および治療法を説明できる。
- 唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。
- 流行性耳下腺炎の原因ウイルス、症状および治療を説明できる。
- Sjogren症候群の特徴、症状および治療法を説明できる。
- 唾液腺疾患を概説できる。
- 代表的な医科疾患を説明できる。
- 主要な医科疾患の症候を説明できる。
- 主要な身体診察を説明できる。
- 病診連携、病病連携を理解する。
- 多職種連携のチーム医療を理解する。
- 心理テストを説明できる。
- 気管切開を説明できる。
- 歯科治療時の合併症や偶発症を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	5)			歯科治療時の全身合併症(偶発症)を説明できる。
E	2	4)	(3)		炎症の診断に必要な検査法を説明できる。
E	2	4)	(3)		菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。
E	2	4)	(3)		歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(7)		唾石症の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(7)		唾液腺腫瘍の種類と特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(7)		流行性耳下腺炎の特徴、症状、診断法および治療を説明できる。
E	2	4)	(7)		Sjogren 症候群の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
E	2	4)	(9)		口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患(貧血、出血性素因、白血病)とスクリーニング検査法を列挙できる。
E	2	4)	(9)		口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、國領 真也、坂口 修、大澤 賢次、河野 通直、田中 純平、〔非常勤講師〕大矢 亮一、〔非常勤講師〕平島 惣一						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4)	(9)		口腔・顎顔面領域に症状を現す系統的骨疾患の症状、診断および治療法を列挙できる。
E	2	4)	(9)		口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。
E	4	5)			心理テストを説明できる。
E	4	6)			代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。
E	4	6)			主要な医科疾患の症候を説明できる。
E	4	6)			主要な身体診察を説明できる。
F	5				病診連携、病病連携を理解し、体験する。
E	5				多職種連携(医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職)のチーム医療を理解し、体験する。

テキスト

プリント配布
出)

著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦 編

口腔内科学
出)永末書店

著)山根源之

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(教員名 : オフィスアワー)
・吉岡 泉 : 月~金 : 17:00~

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、國領 真也、坂口 修、大澤 賢次、河野 通直、田中 純平、〔非常勤講師〕大矢 亮一、〔非常勤講師〕平島 惣一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	血液疾患(1) 総論・出血性素因について口腔疾患との関連をふまえて学習する。	講義 スライド	大矢	501講義室
2	血液疾患(2) 赤血球性・白血球性疾患について口腔疾患との関連をふまえて学習する。	講義 (スライド・プリント)	平島	501講義室
3	唾液腺疾患(1) 唾液腺の形態および機能異常、炎症性疾患の病態、診断、治療法について学習する。	講義 (スライド・プリント)	大澤	501講義室
4	唾液腺疾患(2) 唾液腺の異物・唾液腺嚢胞・唾液腺腫瘍・唾液腺に症状を現す全身疾患の病態、診断、治療法について学習する。	講義 (スライド・プリント)	田中	501講義室
5	ビスフォスフォネート関連顎骨壊死 ビスフォスフォネート関連顎骨壊死について学習する。	講義 (スライド・プリント)	坂口	501講義室
6	症候群 口腔顎顔面に異常を現す症候群と骨系統疾患の病態、診断、治療法について学習する。	講義 (スライド・プリント)	河野	501講義室
7	口腔癌の非手術的治療法 口腔癌の化学療法、免疫療法などの非手術的治療法について学習する。	講義 (スライド・プリント)	未定	501講義室
8	歯科治療時の合併症・偶発症 気道閉塞や異物の迷入などの合併症や偶発症について学習する。	講義 (スライド・プリント)	未定	501講義室

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、笹栗 正明、大澤 賢次、河野 通直、坂口 修、〔非常勤講師〕神園 淳司						

授業の概要

口腔内科学(Oral medicine)は 歯科患者の口腔だけに視点を向けず、全身的背景を考慮した口腔疾患の診断と治療を目的とし、内科的なアプローチを主体として口腔の医療にあたる学問である。超高齢化社会の我が国では、全身疾患を持った患者が増加しており、医学的に問題のある患者に対応する能力やチーム医療のなかで他職種と連携することが求められる。このため以下の一般目標を掲げる。

1. 全身疾患を考えながら口腔疾患の診断と治療を進めることができる。
2. 全身疾患を持った患者の口腔疾患の治療を行うに際して、全身疾患を把握し、口腔疾患の治療が全身に及ぼす影響と全身疾患が口腔疾患の治療に与える影響について理解を深める。
3. 他科の医師をはじめとした関連する職種の人達との医療連携、チーム医療を理解する。

学生の到達目標

- 代表的な医科疾患を説明できる。
- 主要な医科疾患の症候を説明できる。
- 主要な身体診察を説明できる。
- 循環器疾患を有する患者の歯科治療について説明できる。
- 呼吸器、消化器、脳神経疾患を有する患者の歯科治療について説明できる。
- 肝、腎疾患・血液疾患を有する患者の歯科治療について説明できる。
- 自己免疫疾患・アレルギー疾患を有する患者の歯科治療について説明できる。
- 精神疾患・感染症を有する患者の歯科治療について説明できる。
- 代謝内分泌疾患・産婦人科疾患を有する患者の歯科治療について説明できる。
- 妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。
- 病診連携、病病連携を理解する。
- 多職種連携のチーム医療を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	4	6)	(1)		代表的な医科疾患を説明できる。
E	4	6)	(1)		主要な医科疾患の症候を説明できる。
E	4	6)	(1)		主要な身体診察を説明できる。
E	4	6)	(1)		妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。
F	5				病診連携、病病連携を理解する
F	5				多職種連携のチーム医療を理解する。

テキスト

プリントを配布する。
出)

著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦 編

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、笹栗 正明、大澤 賢次、河野 通直、坂口 修、〔非常勤講師〕神園 淳司						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(教員名 : オフィスアワー)
・吉岡 泉 : 月～金 : 17:00～

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、笹栗 正明、大澤 賢次、河野 通直、坂口 修、〔非常勤講師〕神園 淳司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	口腔疾患と全身疾患(1) 循環器疾患を有する患者の歯科治療について学習する。	講義 (スライド・プリント)	大澤	601講義室
2	口腔疾患と全身疾患(2) 呼吸器, 消化器, 脳神経疾患、産婦人科疾患を有する患者の歯科治療について学習する。	講義 (スライド・プリント)	坂口	601講義室
3	口腔疾患と全身疾患(3) 肝, 腎疾患・血液疾患を有する患者の歯科治療について学習する。	講義 (スライド・プリント)	河野	601講義室
4	口腔疾患と全身疾患(3) 代謝内分泌疾患、自己免疫疾患・アレルギー疾患を有する患者の歯科治療について学習する。	講義 (スライド・プリント)	大澤	601講義室
5	口腔疾患と全身疾患(4) 精神疾患、感染症を有する患者の歯科治療について学習する。	講義 (スライド・プリント)	坂口	601講義室
6	口腔疾患と全身疾患(4) 小児科疾患を有する患者の歯科治療について学習する。	講義 (スライド・プリント)	神園	601講義室
7	顎口腔機能評価 構音・咀嚼・嚥下の各機能評価法について学習する。	講義 (スライド・プリント)	笹栗	601講義室
8	医療連携 チーム医療を行うのに必要な病診連携、病病連携、医科歯科連携、多職種連携、コンサルテーションについて学習する。	講義 (スライド・プリント)	吉岡	601講義室

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中道 郁夫						
担当教員	中道 郁夫、福原 正代、藤澤 律子、井手 均						

授業の概要

内科学 では医療連携に必要な医学的知識を習得し、歯科患者に合併することが多い内科疾患について理解する。内容は下記に示したコアカリキュラム枝番号に沿い、共用試験でよく出題される内科関連問題についても学ぶ。授業は主に教科書の「歯科のための内科学（改訂第3版）」とCBT問題集などを用いて行い、歯科医師として必要な内科疾患の知識を具体的に解りやすく教える。

学生の到達目標

- 口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。
- 代表的な医科疾患（内科疾患）を説明できる。
- 主要な医科疾患の症候を説明できる。
- 主要な身体診察を説明できる。
- 各種臨床検査と異常値の意味を説明できる。
- 高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
- 有病者における歯科治療時の全身管理を説明できる。
- 代表的な呼吸器系疾患を説明できる。
- 代表的な消化器系疾患を説明できる。
- 血液・凝固系疾患を説明できる。
- 感染症の病原微生物、病態、予防法などを説明できる。
- アレルギーの発症機序を理解し、分類や代表的疾患を説明できる。
- 口唇・口腔・顎顔面に症状を表す疾患と検査方法を列挙できる。
- 代表的な内分泌系疾患を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	3)			針刺し事故の等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。
A	7	2)			医療面接の役割を説明できる。
C	2	3)	(6)		消化管（咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の基本構造と機能を説明できる。【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】
C	2	3)	(6)		肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明できる。
C	2	3)	(6)		膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。
C	2	3)	(7)		気道系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支）の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(7)		肺の構造と機能を説明できる。【内呼吸、外呼吸および呼吸運動の機序とその調節系を含む。】
C	2	3)	(8)		各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。【ホルモンの特徴と機能、内分泌系と神経系との機能相関を含む。】
C	2	3)	(11)		赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能を説明できる。
C	2	3)	(11)		止血と血液凝固の機序を説明できる。【線溶系を含む。】
C	3	1)			新興・再興感染症について説明できる。
C	3	1)			院内感染について、原因、予防法について説明できる。
C	3	2)			アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む。】
C	5	4)			薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
C	5	4)			各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中道 郁夫						
担当教員	中道 郁夫、福原 正代、藤澤 律子、井手 均						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	1)			口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	1	1)			処方と処方箋の書き方を説明できる。
E	1	3)	(1)		バイタルサインを列挙し、説明できる。
E	1	3)	(1)		血圧を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		脈拍数を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		呼吸数を測定し、状況を把握できる。
E	4	3)			高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
E	4	3)			高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
E	4	6)			代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。
E	4	6)			主要な医科疾患の症候を説明できる。
E	4	6)			主要な身体診察を説明できる。

テキスト

歯科のための内科学 改訂第3版
出)南江堂

著)井田和徳他 編集

参考書

セルフチェックCBT 臨床編2
出)学建書院

著)

セルフチェックCBT 基礎編5
出)学建書院

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

- ・定期試験は授業中の講義内容から出題する。ただし、下記の欠席・遅刻・早退点を100点から減点した点数を最終評価点数とする。
- ・欠席・遅刻・早退なしを0点。1回欠席で-2点、1回遅刻で-1点、1回早退で-1点とする(最大-10点となる)。これらのマイナス点を定期試験及び再試験の点数から減ずる。
- (例:欠席5回の場合は、定期試験や再試験が69点では、59点となり不合格となる。)
- ・定期試験・再試験-欠席・遅刻・早退点=60点以上を合格とする。

その他

(オフィスアワー)

- ・中道郁夫:月~金16:00~17:15/
- ・福原正代:月~金16:00~17:15/
- ・藤澤律子:月~金16:00~17:15/
- ・藤井裕樹:月~金16:00~17:15/

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中道 郁夫						
担当教員	中道 郁夫、福原 正代、藤澤 律子、井手 均						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	内科学の基本的事項： 内科学とは、内科学と歯科、臨床疫学とEBM、内科疾患の年次推移、内科疾患の原因、腫瘍、多臓器不全、脳死の判定、医の倫理について学習する。 (歯科のための内科学1～13頁)	講義(教科書とスライド)と資料	福原	501講義室
2	内科学的診断と臨床検査： 診断の意義・目的と方法、問診と病歴、身体所見のとり方、カルテの記載、生命徴候の診察、臨床検査について学習する。 (歯科のための内科学15～29頁)	講義(教科書とスライド)と資料	福原	501講義室
3	呼吸器疾患1： 呼吸器の構造と機能、主要症候と病態生理、呼吸器の検査法(喀痰検査、血液検査、画像検査、胸水検査、呼吸機能検査)について学習する。 (歯科のための内科学77～87頁)	講義(教科書とスライド)と資料	中道	501講義室
4	呼吸器疾患2： かぜ症候群、急性気管支炎、インフルエンザ、急性肺炎、誤嚥性肺炎、肺結核)、気管支喘息、COPD、間質性肺炎、原発性肺癌、転移性肺癌、胸膜中皮腫、肺血栓塞栓症、気胸、睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群、呼吸不全について学習する。 (歯科のための内科学87～115頁)	講義(教科書とスライド)と資料	中道	501講義室
5	消化管疾患1： 消化管の構造と機能、主要症候と病態生理、消化管の検査法(理学的検査、X線検査、内視鏡検査、胃液検査、ピロリ菌の検査)について学習する。 (歯科のための内科学117～125頁)	講義(教科書とスライド)と資料	中道	501講義室
6	消化管疾患2： 逆流性食道炎、食道癌、食道静脈瘤、消化管異物、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃腫瘍と癌、腸炎、急性虫垂炎、イレウス、腸結核、炎症性腸疾患、虚血性大腸炎、薬剤性腸炎、過敏性腸症候群、大腸ポリープと癌、ポイツ・イエガース症候群、ガードナー症候群について学習する。 (歯科のための内科学125～139頁)	講義(教科書とスライド)と資料	中道	501講義室
7	肝・胆・膵・腹膜疾患1： 肝臓(構造と機能、主要症候と病態生理、検査法)、胆道(構造と機能、主要症候、検査法)、膵臓(構造と機能、検査法)腹膜の構造について学習する。 (歯科のための内科学141～148頁)	講義(教科書とスライド)と資料	藤澤	501講義室
8	肝・胆・膵・腹膜疾患2： ウイルス性肝炎、薬剤性肝障害、アルコール性肝障害、脂肪肝炎、肝硬変、肝癌、胆石症、胆嚢炎、胆道系腫瘍、膵炎、膵癌、急性腹膜炎について学習する。 (歯科のための内科学148～174頁)	講義(教科書とスライド)と資料	藤澤	501講義室
9	血液・造血器疾患総論と各論1： 血液と造血、主要症候と病態生理、臨床検査法と赤血球系の異常(貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、二次性貧血等)、赤血球増加症)について学習する。 (歯科のための内科学249～264頁)	講義(教科書とスライド)と資料	中道	501講義室
10	血液・造血器疾患各論2： 白血球系の異常(白血病、骨髄増殖性症候群、骨髄異形成症候群、無顆粒球症、伝染性単核球症、悪性リンパ腫、形質細胞異常増殖症)について学習する。 (歯科のための内科学264～278頁)	講義(教科書とスライド)と資料	中道	501講義室
11	血液・造血器疾患各論3： 出血傾向(止血の機序、出血性素因(特発性血小板減少性紫斑病、血小板無力症、von Willebrand病、血友病、播種性血管内凝固、Henoch-Schonlein紫斑病、Osler病等))について学習する。 (歯科のための内科学278～296頁)	講義(教科書とスライド)と資料	中道	501講義室

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	4年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中道 郁夫						
担当教員	中道 郁夫、福原 正代、藤澤 律子、井手 均						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
12	アレルギー疾患： アレルギー反応の型、アレルギー反応の作用機序、検査方法、アナフィラキシー、アレルギー性鼻炎、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、金属アレルギー、について学習する。 (歯科のための内科学321～337頁)	講義(教科書とスライド)と資料	中道	501講義室
13	感染症・寄生虫疾患： 感染症の定義・分類・経路、感染症法、性行為感染症、院内感染症、主要症候、検査、敗血症、細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症(カンジダ、アスペルギルス、クリプトコッカス)、マイコプラズマ感染症、梅毒、スピロヘータ感染症、ツツガムシ病、クラミジア感染症、マラリア、赤痢、ニューモシスチス肺炎、寄生虫症について学習する。 (歯科のための内科学355～372頁)	講義(教科書とスライド)と資料	中道	501講義室
14	内分泌疾患総論と各論1： ホルモンの分泌と生理作用、内分泌疾患の病因、視床下部-下垂体疾患、甲状腺疾患について学習する。 (歯科のための内科学175～184頁)	講義(教科書とスライド)と資料	井手	501講義室
15	内分泌疾患各論2： 副甲状腺疾患、副腎疾患、異所性ホルモン産生腫瘍、性分化異常、マッキューン・オルブライト症候群について学習する。 (歯科のための内科学184～194頁)	講義(教科書とスライド)と資料	井手	501講義室

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代、中道 郁夫、井手 均						

授業の概要

歯科医師が歯科医療を行う患者さんの多くは全身疾患を合併している。特に高齢者においては複数の全身疾患を合併している。内科学 では歯科医師として必要な医科知識を理解する。共用試験でよく出題される医科関連問題についても学ぶ。下記の事項に示したコアカリキュラム枝番号に沿い、主に教科書の「歯科のための内科学（改訂第3版）」とCBT過去問題、歯科医師国家試験過去問題を用いて歯科医師として必要な医科知識を具体的に解りやすく教える。

学生の到達目標

- 口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。
- 代表的な医科疾患（内科疾患）を説明できる。
- 主要な医科疾患の症候を説明できる。
- 主要な身体診察を説明できる。
- 各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。
- 心臓の構造と機能を説明できる。
- 肺循環と体循環の2系統を説明できる。
- バイタルサインを列挙し、説明できる。
- 血圧を測定できる。
- 高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
- 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
- 脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。
- 歯科心身症を説明できる。
- 心身医学的治療を説明できる。
- 薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
- 老化の身体的、精神のおよび心理的特徴を説明できる。
- 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す代謝障害とその症状を列挙できる。
- 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症とその症状を列挙できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3)	(3)		心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激（興奮）伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】
C	2	3)	(3)		肺循環と体循環の2系統を説明できる。
C	2	3)	(5)		脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。【主要な自律機能（呼吸、循環、体温）の調節中枢の働きを含む。】
C	2	3)	(5)		反射、半自動運動、随意運動の発現と調節の機序を説明できる。
C	2	3)	(9)		腎臓と尿路（尿管、膀胱、尿道）の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(11)		赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能を説明できる。
C	2	3)	(11)		止血と血液凝固の機序を説明できる。【線溶系を含む。】
C	3	1)			新興・再興感染症について説明できる。
C	3	1)			院内感染について、原因、予防法について説明できる。
C	3	2)			アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む。】
C	5	4)			薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
E	1	1)			口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代、中道 郁夫、井手 均						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	1)			各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。
E	1	3)	(1)		バイタルサインを列挙し、説明できる。
E	1	3)	(1)		血圧を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		脈拍数を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		呼吸数を測定し、状況を把握できる。
E	1	5)			歯科治療時の全身合併症(偶発症)を説明できる。
E	1	5)			意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫不全とそれらの症状を列挙できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す代謝障害とその症状を列挙できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症とその症状を列挙できる。
E	4	3)			老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
E	4	3)			高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
E	4	5)			歯科心身症を説明できる。
E	4	5)			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。
E	4	5)			舌痛症を概説できる。
E	4	5)			歯科治療恐怖症を説明できる。
E	4	5)			心身医学的治療を説明できる。
E	4	6)			代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。
E	4	6)			主要な医科疾患の症候を説明できる。
E	4	6)			主要な身体診察を説明できる。

テキスト

歯科のための内科学 改訂第3版
出)南江堂

著)井田和徳他 編集

参考書

セルフチェックCBT 臨床編3
出)学建書院 著)

セルフチェックCBT 基礎編6
出)学建書院 著)

Key Words CBT 基礎編
出)医学評論社 著)

Key Words CBT 臨床編
出)医学評論社 著)

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代、中道 郁夫、井手 均						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

・定期試験を行い100点満点とする。この試験は授業中の講義内容から出題する。主にCBT形式あるいは、国家試験形式の客観問題とする。一部記述式問題を含む。ただし、下記の欠席・遅刻・早退点を100点から減点した点数を最終評価点数とする。

・欠席・遅刻・早退なしを0点。1回欠席で-2点、1回遅刻で-1点、1回早退で-1点とする(最大-10点となる)。これらのマイナス点を定期試験及び再試験の点数から減ずる。

(例：欠席5回の場合は、定期試験や再試験が69点では、59点となり不合格となる。)

・定期試験・再試験 - 欠席・遅刻・早退点 = 60点以上を合格とする。

その他

(オフィスアワー)

- ・福原正代：月～金16：00～17：15 /
- ・中道郁夫：月～金16：00～17：15 /
- ・井手均：月～金16：00～17：15 /

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代、中道 郁夫、井手 均						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	代謝疾患総論と各論 1 : 代謝と代謝疾患、代謝・栄養疾患の原因、三大栄養素の代謝、脂質、蛋白質、糖尿病を学習する。 (歯科のための内科学195~206頁)	講義(教科書とスライドと資料)	井手	501講義室
2	代謝疾患各論 2 : 脂質異常症、高尿酸血症・痛風、肥満症、るいそう、ビタミン欠乏症・過剰症、代謝性骨疾患、水・電解質異常を学習する。 (歯科のための内科学207~220頁)	講義(教科書とスライドと資料)	井手	501講義室
3	循環器疾患総論 : 循環器の構造と機能、主要症候と病態生理、検査法、心不全、急性循環不全、循環障害、高齢者における循環器疾患の診療について学習する。 (歯科のための内科学31~40頁)	講義(教科書とスライドと資料)	福原	501講義室
4	循環器疾患各論 1 : 不整脈(不整脈の種類)、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞、急性冠症候群、虚血性心疾患、心房細動に対する抗凝固・抗血小板療法)について学習する。 (歯科のための内科学40~51頁)	講義(教科書とスライドと資料)	福原	501講義室
5	循環器疾患各論 2 : 心筋疾患(心筋炎、心筋症、急性心膜炎)、先天性心疾患(心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症等)、後天性心疾患(リウマチ熱、心臓弁膜症、川崎病)、心膜疾患(心内膜疾患等)について学習する。 (歯科のための内科学51~66頁)	講義(教科書とスライドと資料)	福原	501講義室
6	循環器疾患各論 3 : 血圧異常(高血圧症、低血圧症)、動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈炎症候群、パージャヤー病)、静脈疾患(上大静脈症候群、深部静脈血栓閉塞症、静脈瘤)について学習する。 (歯科のための内科学66~76頁)	講義(教科書とスライドと資料)	福原	501講義室
7	救急処置法 : バイタルサイン、救急蘇生法、歯科治療中に起こりうる全身偶発症、酸素療法について学習する。 (歯科のための内科学409~420頁)	講義(教科書とスライドと資料)	福原	501講義室
8	神経・筋肉疾患総論と各論 1 : 神経系の構造と機能、主要症候と病態生理、神経疾患の診察法と検査法、脳血管障害(脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血、高血圧性脳症)、外傷性脳疾患について学習する。 (歯科のための内科学221~236頁)	講義(教科書とスライドと資料)	福原	501講義室
9	神経・筋肉疾患各論 2 : アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、パーキンソン病、多発性硬化症、末梢性顔面神経麻痺、ギラン・バレー症候群、糖尿病性ニューロパチー、癌性ニューロパチー、筋委縮性側索硬化症、進行性筋ジストロフィー症、筋緊張性ジストロフィー症、周期性四肢麻痺、重症筋無力症、代謝性栄養性・中毒性疾患、てんかんについて学習する。 (歯科のための内科学236~247頁)	講義(教科書とスライドと資料)	福原	501講義室
10	腎・泌尿器疾患総論と各論 1 : 腎・泌尿器の構造と機能、主要症候、病態生理、検査法、腎不全(急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病)を学習する。 (歯科のための内科学297~309頁)	講義(教科書とスライドと資料)	福原	501講義室
11	腎・泌尿器疾患各論 2 : 糸球体疾患、尿細管間質性腎炎、尿細管機能異常、全身性疾患による腎障害、中毒性腎症、血管系の疾患、腎尿路感染症、尿路結石、嚢胞性腎疾患、水腎症、腎腫瘍、妊娠と腎、下部尿路疾患、前立腺性疾患について学習する。 (歯科のための内科学309~319頁)	講義(教科書とスライドと資料)	福原	501講義室

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代、中道 郁夫、井手 均						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
12	<p>遺伝性疾患、歯科（口腔）心身症： 遺伝子病と染色体異常症の概念、家族性高コレステロール血症、家族性大腸ポリポーシス、血友病、フォンウィルブランド病、ハンチントン舞踏病、エーラーズ・ダンロス症候群、フォン・レックリングハウゼン病、結節性硬化症、フェニルケトン尿症、ウイルソン病、進行性筋ジストロフィー、ダウン症候群、クラインフェルター症候群、ターナー症候群、心身症と神経症の概念、統合失調症、双極性障害、人格障害、認知症について学習する。 （歯科のための内科学385～389頁） （歯科のための内科学399～407頁）</p>	講義（教科書とスライドと資料）	中道	501講義室
13	<p>膠原病およびリウマチ性疾患： 総論（臨床上の特徴、主要症状、検査所見）、各論（全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、多発性筋炎・皮膚筋炎、関節リウマチ、シェーグレン症候群、ミクリッツ病、ベーチェット病、血管炎症候群、混合性結合組織病、重複症候群）について学習する。 （歯科のための内科学339～353頁）</p>	講義（教科書とスライドと資料）	福原	501講義室
14	<p>中毒、物理的・環境的原因による障害： 中毒総論（急性中毒・慢性中毒、主要症候、診断・検査法）、中毒各論（薬物中毒、アルコール中毒、工業毒中毒、農薬中毒、食中毒）、物理的・環境的原因による障害（寒冷・高温、光線、電撃、気圧、光化学スモッグ、振動、熱傷、溺水）について学習する。 （歯科のための内科学373～383頁）</p>	講義（教科書とスライドと資料）	福原	501講義室
15	<p>高齢者医学、基準値一覧表： 高齢者医学（病気の特徴、薬物療法、医学的・社会的問題）と基準値一覧表（尿、便、血液・凝固・線溶系、血液生化学、循環機能、呼吸機能、内分泌学的、免疫学的、腫瘍関連、穿刺液等）について学習する。 （歯科のための内科学391～397頁） （歯科のための内科学421～431頁）</p>	講義（教科書とスライドと資料）	中道	501講義室

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

授業の概要

内科学 では、下記のコアカリキュラム内容と国家試験出題基準に沿い、主に国家試験の過去問題を用いて歯科医師として必要な医科知識を具体的に解りやすく教える。また、国試の医科関連問題増加に対応するため、医師国試と看護師国試の過去問も授業内容に加える。

学生の到達目標

歯科医師として必要な全身疾患（内科的疾患）を理解する。
 各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。
 口唇・口腔・顎顔面に症状を現す血液疾患とスクリーニング検査法を列挙できる。
 老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
 高齢者に多く見られる疾患を説明できる。
 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
 心臓の構造と機能を説明できる。
 肺循環と体循環の2系統を説明できる。
 薬物の一般的副作用、有害作用と口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
 処方と処方箋の書き方を説明できる。
 バイタルサインを列挙し、説明できる。
 血圧を測定できる。
 針刺し事故等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。
 医療面接の役割を説明できる。
 主要な身体診察を説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	3)			針刺し事故等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。
A	7	2)			医療面接の役割を説明できる。
C	2	3)	(3)		心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激（興奮）伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】
C	2	3)	(3)		肺循環と体循環の2系統を説明できる。
C	5	4)			薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
E	1	1)			口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。
E	1	1)			各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。
E	1	1)			処方と処方箋の書き方を説明できる。【インフォームドコンセントと医療面接についてはA-4 とA-7-2)を参照。】
E	1	3)	(1)		バイタルサインを列挙し、説明できる。
E	1	3)	(1)		血圧を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		脈拍数を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		呼吸数を測定し、状況を把握できる。
E	2	4)	(9)		口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患（貧血、出血性素因、白血病）とスクリーニング検査法を列挙できる。
E	4	3)			老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
E	4	3)			高齢者に多くみられる疾患を説明できる。

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	4	3)			高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
E	4	6)			代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。
E	4	6)			主要な医科疾患の症候を説明できる。
E	4	6)			主要な身体診察を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

歯科医師国家試験用参考書のAnswer
出)医学評論社 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	94%
事前指名での応答	4%
無作為指名での応答	2%

- ・定期試験(再試験)は94点満点とする。この試験は主に国家試験形式の客観問題とする。一部記述式問題を含む。
- ・講義ごとに予め(前回の授業時)7~8名を事前指名して最前列に着席させる(全員が1回当たる)。この学生に質問を行い4点満点とする。欠席であれば0点となる。
- ・これら以外に無作為指名でも採点する。全員が年に1回当たる。2点とする。指名時に不在であれば0点となる。
- ・欠席・遅刻・早退なしを0点。1回欠席で-2点、1回遅刻で-1点、1回早退で-1点とする。(最大-10点となる)。これらのマイナス点を定期試験(再試験)+小テスト+指名点の総合点100点から減ずる。(例:欠席5回の場合は、定期試験や再試験等の総合点が69点では、59点となり不合格となる。)
- ・総合点100点満点から欠席・遅刻・早退点を減じた点が60点以上を合格とする。
- ・上記計算方法は本試験だけでなく、再試験と追試験でも同様とする。

その他

(オフィスアワー)
・福原正代:月~金16:00~17:15/

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	頻度が高い全身疾患と老化： 頻度が高い全身疾患（糖尿病、高血圧、）と疾患系、全身の老化（肺機能、心機能、腎機能、基礎代謝、体液分布等）、我国の主要死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎）、栄養（アルブミン、BMI、総蛋白）について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
2	歯科診療時に遭遇する主な救急疾患： 神経原性ショック、過換気症候群、アナフィラキシーショック、心原性ショック、狭心症、喘息等と救急処置（心マッサージ、人工呼吸、除細動等）、バイタルサイン（血圧、脈、意識、呼吸、体温）について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
3	循環器疾患：高血圧等 症例、病歴・内科診察の方法、内科血液検査と基準値、特定健診、循環器リスクファクター、救急疾患と救急処置（血圧上昇と低下、意識消失、過換気症候群、呼吸困難）、バイタルサインについて学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
4	神経疾患： 症例、神経学的診察、要介護の原因、認知症、パーキンソン病、バイタルサイン、意識レベル、救急疾患と救急処置、ADL、抗血小板薬等について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
5	内分泌・代謝疾患：糖尿病、メタボリック症候群等 症例、内科血液検査と基準値、HbA1cと血糖、歯科と糖尿病、低血糖発作症例、ケトアシドーシスについて学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
6	循環器疾患：虚血性心臓病等 動脈硬化に関連した検査と基準値（総コレステロール、中性脂肪、LDL-コレステロール、HDL-コレステロール）、狭心症、心筋梗塞、局麻・抜歯と全身疾患、抗凝固・血小板薬、心電図判読（頻脈、T波、ST、心室細動、Brugada症候群）、心不全等について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
7	循環器疾患：不整脈等 頻脈、徐脈、心室性期外収縮、心室細動、上室性期外収縮、心房細動、房室ブロック、心臓弁膜症・先天性心疾患と心内膜炎、ワルファリンとPT-INR、新しい抗凝固薬、チアノーゼ、肺循環と体循環について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
8	腎不全と医療面接： 慢性腎不全症例、腎機能検査（Cr、BUN、Ccr、尿蛋白、eGFR等）、動脈血ガス分析（PaO ₂ 、PaCO ₂ 、PH、HCO ₃ ⁻ 、SpO ₂ ）、血液透析と歯科、脱水、浮腫、医療面接（質問法（共感的、支持的）、目的、現病歴、主訴等）について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
9	血液疾患：貧血等 症例、貧血に関連した検査と基準値、貧血の種類（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、続発性貧血）、貧血と口腔の変化（Plummer-Vinson症候群、Hunter舌炎など）、末梢血球（白血球、好中球、好酸球等）について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
10	血液疾患：出血傾向 症例、出血傾向に関連した検査と基準値（血小板数、出血時間、凝固時間、PT-INR、APTT、毛細血管抵抗試験）、播種性血管内凝固、Schonlein-Henoch紫斑病、von Willebrand病、壊血病、血友病A、Osler病、Christmas病、顆粒球減少症、ワルファリン治療について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
11	呼吸器疾患・感染症： 肺機能検査、気管支炎、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎）、間質性肺炎、肺癌、肺癌について学ぶ。気胸、睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群、呼吸不全について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
12	肝疾患と院内感染： 肝硬変・肝癌症例、B型・C型肝炎、肝機能検査（ALT、AST、GTP、ICG等）、院内感染予防（針刺し事故、消毒・滅菌方法、消毒薬）、HIV感染、結核、麻疹等について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室

2017年度

内科学 (Internal Medicine)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
13	薬剤と膠原病： 薬剤使用時の注意点、副作用・相互作用、適応症、高齢者・小児・妊産婦の注意点、処方箋、膠原病について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
14	医師国家試験問題・看護師国家試験問題： 代表的医科疾患について、医師国家試験、看護師国家試験から学ぶ。頻度が高い疾患で知っておくべき臨床と、全身の医療から見た臨床について学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室
15	第110回歯科医師国家試験問題： 知っておくべき医科知識について、最新の歯科医師国試問題から学ぶ。	講義 諮問	福原	601講義室

2017年度

外科学 (Surgery)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰、〔非常勤講師〕安永 親生、〔非常勤講師〕伊藤 重彦						

授業の概要

歯科医学の実施に必要な外科学の基礎知識を習得させる。
外科学の基礎知識を生かし、全身管理に配慮できる歯科医の育成を目的とする。

学生の到達目標

外科的診断法や外科の基本手技を理解し、説明できる。
バイタルサインなどの外科的全身管理法を理解し、説明できる。
術前・術後管理の基本的考え方を理解し、説明できる。
損傷や出血の管理、輸液・輸血・栄養管理の基礎を理解し、説明できる。
外科的侵襲とショック・生体反応・炎症反応を理解し、説明できる。
外科的感染症の管理と感染対策、及び医療安全管理を理解し、説明できる。
医療面接の基本について理解し、説明できる。
外科的な清潔・不潔の概念と滅菌・消毒の基本について理解し、説明できる。
外傷と救急外科、救急蘇生法について理解し、説明できる。
腫瘍の基本知識について理解し、説明できる。
免疫と臓器移植、移植免疫について理解し、説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	1)			医療関連感染症の原因および回避する方法を概説できる。
A	5	1)			医療上の事故等を防止するには、個人の注意力はもとより組織的なリスク管理が重要であることを説明できる。
A	5	2)			医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）の事例の原因を分析し、防止対策を説明できる。
A	5	2)			基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルプルーフの考え方など）について概説できる。
A	5	3)			標準予防策の必要性を説明できる。
A	5	3)			針刺し事故等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。
A	7	2)			医療面接の役割を説明できる。
C	1	1)			生体内におけるエネルギー利用を説明できる。
C	1	4)			受容体を介するホルモン、成長因子、サイトカイン等による細胞間、細胞内の情報伝達機構を概説できる。
C	2	3)	(9)		腎臓と尿路（尿管、膀胱、尿道）の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(11)		止血と血液凝固の機序を説明できる。【線溶系を含む。】
C	3	1)			清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。
C	3	1)			院内感染について、原因、予防法について説明できる。
C	3	2)			細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。【抗体の種類と特徴を含む。】
C	3	2)			免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。
C	3	2)			自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。
C	4	2)			創傷治癒に關与する細胞とその過程を説明できる。

2017年度

外科学 (Surgery)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰、〔非常勤講師〕安永 親生、〔非常勤講師〕伊藤 重彦						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	4	3)			出血の原因、種類および転帰を説明できる。
C	4	3)			ショックの成因と種類を説明できる。
C	4	4)			炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】
C	4	4)			炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。
C	4	5)			腫瘍の定義を説明できる。
C	4	5)			良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。
C	4	5)			局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。
C	5	4)			薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
E	1	1)			診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。
E	1	1)			診療室への患者の誘導を適切にできる。
E	1	1)			患者に挨拶して自己紹介できる。
E	1	1)			患者の訴えの中から主訴を的確に捉えることができる。
E	1	1)			的確な病歴聴取（現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等）を行い、必要な部分を抽出できる。
E	1	1)			病歴聴取、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。
E	1	1)			的確な診察と検査から得られた所見を適切に診療録に記載できる。
E	1	1)			基本的診察を行った後、次に必要となる検査を想定できる。
E	1	1)			基本的診察および検査結果よりの確な診断と治療方針を立案し説明できる。
E	1	1)			インフォームドコンセントを行うことができる。
E	1	1)			各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。
E	1	2)			造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法（CT）、磁気共鳴撮像法（MRI）および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。
E	1	3)	(1)		バイタルサインを列挙し、説明できる。
E	1	3)	(1)		血圧を測定し、状況を把握できる。
E	1	3)	(1)		患者の全身状態評価を説明できる。
E	1	4)			縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。
E	1	4)			手指と術野の消毒について説明できる。
E	1	4)			清潔と不潔の区別を説明できる。
E	1	4)			器具の滅菌、消毒について説明できる。
E	1	5)			意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。
E	1	5)			気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む。】
E	1	5)			胸骨圧迫と自動的体外式除細動器（AED）の操作を実施できる。
E	4	6)			主要な医科疾患の症候を説明できる。

2017年度

外科学 (Surgery)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰、〔非常勤講師〕安永 親生、〔非常勤講師〕伊藤 重彦						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	4	6)			主要な身体診察を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

歯科医のための外科学
出)医歯薬出版 著)

標準外科学
出)医学書院 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	60%
出席	40%

その他

(学習相談) 中島秀彰が対応。原則として月-金曜の12:00-13:00, 16:30-17:30に対応する。

2017年度

外科学 (Surgery)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰、〔非常勤講師〕安永 親生、〔非常勤講師〕伊藤 重彦						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	清潔・不潔と消毒・滅菌 医療における清潔・不潔の概念と、滅菌や消毒の方法や違いを、外科学の歴史を踏まえながら学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
2	外科的診断法 疾患の診断に至る手順について学習する。特に外科的疾患に対する、外科医的なアプローチの仕方について学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
3	外科の基本手技 止血/縫合/結紮等の外科の基本手技の基本的概念を学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
4	損傷 損傷(熱傷も含む)の定義や分類等の基礎的知識と対処方法について学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
5	ショックと救急蘇生法 ショックの成因や分類等の基礎的知識を学習する。また救急蘇生法の行い方、AEDの使い方等について、DVDも用いて学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
6	外傷と救急外科 緊急を要する外傷や腹部疾患(急性腹症)についての、基本的考え方・対応法について学習する。	プリントによる講義	中島 伊藤	501講義室
7	外科的感染症と感染対策 感染症、特に外科的感染症の基礎について学習する。また、院内感染対策の概念についても学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
8	術前管理 外科手術を安全に行う際、どのような検査や準備をして手術に臨むか、手術適応はどのように決定されるか、等を学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
9	術後管理、栄養と輸液 安全に、合併症なく手術から復帰できる様にするために、術中・術後の患者管理について学習する。創やドレンの管理や、栄養法・輸液の基礎についても学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
10	外科的侵襲の病態と炎症 病気が起きた時や外科的侵襲が加わった時、生体にはどのような反応が起き、どの様にしてこのような侵襲から立ち直ることが出来るのか、生体が持つ基本的システムを学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
11	腫瘍総論 日本人の死因の第一位である腫瘍の定義や基礎的知識について学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
12	腫瘍の診断と治療 各種臓器における腫瘍(特に癌)の診断や治療について学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
13	外科免疫と臓器移植 臓器移植、特に腎臓移植を通じて、臓器移植の基礎と外科免疫の意義について学習する。	プリントによる講義	中島 安永	501講義室
14	医療面接と安全管理、輸血 医療面接・医療安全の基礎について学習する。針刺し事故の実態と防止についても学習する。	プリントによる講義	中島	501講義室
15	確認テスト	テスト	中島	501講義室

2017年度

外科学 (Surgery)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰、〔非常勤講師〕三井 信介、〔非常勤講師〕後 信						

授業の概要

歯科医療に必要な外科学の基礎知識を習得し、全身管理などの要点を理解できることを目的とする。臨床に関連する代表的な外科疾患の診断や管理手法を学び全身管理を理解させる。

学生の到達目標

小児の特殊性および外科的管理（体温管理、体液管理、呼吸管理など）を理解し、説明できる。
消化器の機能と主な疾患の管理の要点を理解し、説明できる。
肺、呼吸器の機能と呼吸管理の要点を理解し、説明できる。
心・大血管など循環器の機能と呼吸管理の要点を理解し、説明できる。
頸部、縦隔、乳腺、脳・脊髄・神経系の機能や診断法を理解し、説明できる。
外科的救急（急性腹症、腸閉塞、ヘルニア、外傷など）への対応を理解し、説明できる。
癌の分子生物学的な発生・進展の基礎的知識を理解し、説明できる。
末期癌の疼痛管理と緩和ケアについて理解し、説明できる。
医療安全・医療事故対策や感染対策についての要点を理解し、説明できる。
最新の外科治療のトピックスについて理解し、説明できる。
患者満足度について理解し、説明できる。
外科的疾患が歯科治療に及ぼす影響について理解し、説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	1				患者の権利を説明できる。
A	1				患者の自己決定権を説明できる。
A	1				患者が自己決定ができない場合の対応を説明できる。
A	3				患者との信頼関係を築くことができる。
A	3				個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
A	3				患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
A	3				患者に最も適した医療を説明できる。
A	4				インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
A	4				説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
A	4				説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
A	4				患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
A	5	1)			医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例（経緯を含む）、やっではないけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
A	5	1)			医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントリポート、リスク管理者、事故防止委員会、事故調査委員会等）を概説できる。
A	5	1)			医療関連感染症の原因および回避する方法を概説できる。
A	5	2)			医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）が発生した時の緊急処置や記録、報告について説明できる。

2017年度

外科学 (Surgery)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰、〔非常勤講師〕三井 信介、〔非常勤講師〕後 信						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	3)			患者隔離の必要な場合について説明できる。
A	7	3)			患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
C	1	2)			遺伝性疾患の発生の機序を説明できる。
C	2	3)	(3)		肺循環と体循環の2系統を説明できる。
C	2	3)	(5)		脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。【主要な自律機能(呼吸、循環、体温)の調節中枢の働きを含む。】
C	2	3)	(6)		消化管(咽頭、食道、胃、小腸、大腸)の基本構造と機能を説明できる。【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】
C	2	3)	(6)		肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明できる。
C	2	3)	(6)		膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。
C	2	3)	(7)		肺の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(8)		各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。
C	2	4)			人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。
C	3	1)			院内感染について、原因、予防法について説明できる。
C	4	5)			腫瘍の病因を説明できる。
C	4	6)			疼痛の制御機構・方法の概念を説明できる。
C	5	2)			薬物療法(原因療法、対症療法)を説明できる。【歯科臨床において適用される薬物の特徴を含む。】
C	5	2)			薬物の連用の影響(薬物耐性、蓄積および薬物依存)を説明できる。
C	5	2)			薬物の併用(協力作用、拮抗作用、相互作用)を説明できる。
E	1	1)			基本的診察および検査結果よりの確な診断と治療方針を立案し説明できる。
E	1	1)			必要に応じて医科に対診できる。
E	1	3)	(1)		歯科治療時に注意を要する全身疾患(小児も含む)を説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	1	3)	(1)		患者の服用薬物と歯科治療の関連について説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】
E	1	4)			手指と術野の消毒について説明できる。
E	1	4)			清潔と不潔の区別を説明できる。
E	1	4)			器具の滅菌、消毒について説明できる。
E	4	6)			主要な医科疾患の症候を説明できる。
E	4	6)			小児の代表的な疾患を説明できる。

テキスト

出)

著)

参考書

歯科医のための外科学

出)医歯薬出版

著)

2017年度

外科学 (Surgery)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰、〔非常勤講師〕三井 信介、〔非常勤講師〕後 信						

標準外科学
出)医学書院 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	60%
出席	40%

その他

(学習相談) 中島秀彰が対応。原則として月-金曜の12:00-13:00, 16:30-17:30に対応する。

2017年度

外科学 (Surgery)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰、〔非常勤講師〕三井 信介、〔非常勤講師〕後 信						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	胃・十二指腸疾患 胃・十二指腸の外科的疾患の分類等の基礎知識と、診断・治療・術後管理法等について学習する。	講義	中島	601講義室
2	小腸・大腸・直腸 腸の外科的疾患の分類等の基礎知識と、診断・治療・術後管理等について学習する。	講義	中島	601講義室
3	腸閉塞・ヘルニア 腸閉塞とヘルニアの定義・分類等の基礎知識と、診断法・治療法等について学習する。	講義	中島	601講義室
4	急性腹症 急性腹症の定義等の基礎知識と基本的考え方を学ぶ。また、診断に至るまでの全身管理や検査法、更には治療法について学習する。	講義	中島	601講義室
5	食道・縦隔・頸部 食道、縦隔・頸部の外科的疾患の分類等の基礎知識と、診断・治療・術後管理法について学習する。	講義	中島	601講義室
6	肝・胆・膵 肝・胆・膵の外科的疾患の分類等の基礎知識と、診断・治療・術後管理法について学習する。	講義	中島	601講義室
7	心・血管・リンパ管、肺 心臓・血管等の外科的疾患の分類等の基礎知識と、診断・治療・術後管理法について学習する。	講義	中島 三井	601講義室
8	脳・脊髄・神経、乳腺 脳・脊髄・神経や乳腺の外科的疾患の分類等の基礎知識と、診断・治療・術後管理法について学習する。	講義	中島	601講義室
9	癌と分子生物学 遺伝子の病気である癌の診断・治療に、分子生物学的知見が活かされてことを学習する。	講義	中島	601講義室
10	疼痛管理と緩和ケア 癌末期患者の様々な苦痛（疼痛・肉体的・精神的）に対する総合的な全人的ケアの基本を学習する。	講義	中島	601講義室
11	小児の特性と小児外科、外科疾患と歯科治療、肺 大人のミニチュアではない小児の特性と小児に対する外科診断・治療について学習する。肺癌等の肺疾患について学習する。また、癌をはじめとする外科的疾患を有する歯科患者の抱える問題点について学習する。	講義	中島	601講義室
12	院内の感染対策と安全管理 院内感染を予防するための基礎知識、特に標準的感染予防策について学習する。また、医療安全対策の基礎となる事故発生メカニズムと予防策についても学習する。	講義	中島	601講義室
13	最新の外科治療、患者満足度 通常の外科手術に替わって行われるようになった、鏡視下手術やロボット手術等の低侵襲治療の基礎知識を学習する。また、患者の権利を重視し、患者中心の治療を行う等、患者満足度を高める医療について学習する。	講義	中島	601講義室
14	医療安全と医療事故対策 ヒヤリハット収集事業や医療事故調査制度等、医療事故の予防や対策のために行われている活動について学習する。	講義	中島 後	601講義室
15	確認テスト	テスト	中島	601講義室

2017年度

高齢・障害者歯科学 (講義) (Special Needs and Geriatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平、〔非常勤講師〕緒方 克也、〔非常勤講師〕遠藤 眞美、〔非常勤講師〕迫田 綾子						

授業の概要

高齢社会において、口腔の健康の回復・増進により高齢者の生活の質（QOL）の向上に貢献することは歯科医師の大きな責務である。そこで、高齢者の身体的、精神的及び心理的特長を理解した上で各種歯科治療上の留意点や摂食嚥下リハビリテーション、口腔ケア等について系統的に学習する。

要介護高齢者および障害者に対する歯科治療や在宅歯科診療、摂食嚥下リハビリテーション、口腔ケアについては、学内での見学実習の機会がほとんど無いことから、臨床の現場における積極的な取り組みの実践例についても学ぶ。

学生の到達目標

- 老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
- 老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。
- 高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
- 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
- 高齢者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。
- 要介護高齢者の歯科治療と口腔ケアを説明できる。
- 摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。
- 障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
- 障害者の行動調整（行動管理）と歯科治療を説明できる。
- 障害者に対して歯科保健指導ができる。
- 高齢者・障害者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。
- 高齢者の全身状態を考慮した口腔観察および漢方治療について説明できる。
- 高齢者の終末期の歯科的対応について説明できる。
- その他

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	1)			嚥下の機序を説明できる。
E	2	4)	(10)		咬合異常と咀嚼障害の原因と診察、検査、診断および治療方針を説明できる。
E	2	4)	(10)		嚥下障害を概説できる。
E	2	4)	(10)		言語障害を概説できる。
E	2	4)	(10)		味覚障害を概説できる。
E	2	4)	(10)		口腔乾燥を概説できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の調整、術後管理、リラインおよび修理を説明でき、適切に行うことができる。
E	4	3)			老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
E	4	3)			老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。
E	4	3)			高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
E	4	3)			高齢者における口腔ケア処置について説明できる。
E	4	3)			口腔機能向上による介護予防について説明できる。
E	4	3)			高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。

2017年度

高齢・障害者歯科学 (講義) (Special Needs and Geriatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平、〔非常勤講師〕緒方 克也、〔非常勤講師〕遠藤 眞美、〔非常勤講師〕迫田 綾子						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	4	3)			高齢者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。
E	4	3)			要介護高齢者（在宅要介護者も含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。
E	4	3)			歯科訪問診療について説明できる。
E	4	3)			摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。
E	4	3)			摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。
E	4	4)			障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
E	4	4)			障害者の行動調整（行動管理）と歯科治療に必要な注意点を説明できる。
E	4	4)			障害者およびその介護者に対して歯科保健指導ができる。
E	4	4)			障害者における口腔ケア処置について説明できる。
E	4	4)			障害者に対する基本的な対応ができる。
E	4	5)			舌痛症を概説できる。

テキスト

出) (著)

参考書

- 老年歯科医学
出)医歯薬出版 (著)
- 高齢者歯科ガイドブック
出)医歯薬出版 (著)
- スペシャルニーズデンティストリー・障害者歯科
出)医歯薬出版 (著)
- 歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学
出)医歯薬出版 (著)
- 歯科医師・歯科衛生士ができる舌診のすすめ
出)ヒョーロン (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	90%
レポート（小テストを含む）	10%

その他

2017年度

高齢・障害者歯科学 (講義) (Special Needs and Geriatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平、〔非常勤講師〕緒方 克也、〔非常勤講師〕遠藤 眞美、〔非常勤講師〕迫田 綾子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	高齢者歯科学総論 社会環境、社会福祉、介護予防の現状について理解し、口腔機能にどのような影響を与えるかについて理解する。	講義	柿木	501講義室
2	障害者の特徴 障害者の身体・精神・心理的な特徴について理解し、歯科治療上の注意点と対応・配慮について学習する。	講義	久保田	501講義室
3	障害者の歯科治療 行動調整法について理解するとともに、実際の歯科治療においてどのように応用するかについて学習する。	講義	遠藤	501講義室
4	加齢の科学 身体機能や組織の加齢変化、高齢者の基礎疾患、心理背景について学び、高齢者の全体像を把握する。	講義	柿木	501講義室
5	口腔の加齢変化と摂食機能 高齢者の全身状態と口腔の加齢との関連について理解し、口腔乾燥症、舌痛症、味覚異常などの高齢者に多くみられる口腔症状を学習する。	講義	木村	501講義室
6	高齢者の歯科治療 高齢者の特徴を考慮した臨床評価方法を学び、適切な治療方針の立て方や、それぞれの歯科治療の特徴について学習する。	講義	藤井	501講義室
7	高齢者の歯科訪問診療 歯科訪問診療における要介護高齢者の歯科治療と口腔ケアの実際について学習する。	講義	木村	501講義室
8	摂食嚥下機能の発達と障害 摂食機能の発達について理解した上で、障害とその原因、診断、治療方針、診療の実際について学習する。	講義	緒方	501講義室
9	高齢者の摂食嚥下リハビリテーション 摂食嚥下リハビリテーションの実際について学習する。また、誤嚥性肺炎予防との関連や歯科的対応についても学習する。	講義	藤井	501講義室
10	高齢者の終末期における歯科の関わり 1 高齢者の終末期における口腔衛生管理の実際について学習する。	講義	藤井	501講義室
11	高齢者の終末期における歯科の関わり 2 高齢者の終末期における食支援の実際について学習する。	講義	藤井	501講義室
12	高齢者の栄養と口腔保健 摂食機能障害者の食事指導方法について学習する。また、介護食に適した食形態やその実際について学習する。	講義	柿木	501講義室
13	高齢者の口腔ケア 高齢者医療の現場における栄養摂取の実際と要介護高齢者の口腔ケアについて学習する。	講義	迫田	501講義室
14	高齢者・障害者の歯科治療 高齢者・障害者の歯科治療に応用されている漢方医学と舌診の実際について学習する。	講義	多田	501講義室
15	今後の高齢・障害者歯科学 高齢者・障害者の食生活と口腔保健における歯科の役割について理解するとともに、今後の展望について学習する。	講義	柿木	501講義室

2017年度

高齢・障害者歯科学 (実習) (Special Needs and Geriatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						

授業の概要

高齢社会において、口腔の健康の回復・増進により高齢者の生活の質(QOL)の向上に貢献することは歯科医師の大きな責務である。そこで、高齢者の身体的、精神的及び心理的特長を理解した上で各種歯科治療上の留意点、特に要介護高齢者に対する口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーション、要介護高齢者の義歯についての基礎を系統的に学習する。

学生の到達目標

老化の身体的、精神のおよび心理的特徴を説明できる。
老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。
高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
高齢者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。
要介護高齢者の歯科治療と口腔ケアを説明できる。
摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。
高齢者の全身状態を考慮した口腔観察について説明できる。
要介護高齢者の義歯の調整法について説明できる。
その他

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	7	2)			患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。
B	3	2)			口腔ケアの意義と効果を説明できる。
E	1	1)			口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。
E	1	3)			患者の服用薬剤と歯科治療の関連について説明できる。
E	2	1)			嚥下の機序を説明できる。
E	2	4)	10		嚥下障害を概説できる。
E	2	4)	10		口腔乾燥を概説できる。
E	3	3)			可撤式義歯の調整、術後管理、リラインおよび修理を説明でき、適切に行うことができる。
E	4	3)			高齢者における口腔ケア処置について説明できる。
E	4	3)			口腔機能向上による介護予防について説明できる。
E	4	3)			要介護高齢者(在宅要介護者も含む)の歯科治療時の注意点を説明できる。
E	4	3)			歯科訪問診療について説明できる。
E	4	3)			摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。
E	4	3)			摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。

2017年度

高齢・障害者歯科学 (実習) (Special Needs and Geriatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						

テキスト

出) (著)

参考書

歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学
出)医歯薬出版 (著)

摂食嚥下障害の理解とケア
出)医歯薬出版 (著)

臨床オーラルケア
出)日総研出版 (著)

老年歯科医学
出)医歯薬出版 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
ワークショップでの取り組みや発表内容	50%

実習態度・身だしなみについては、別途配布する高齢者歯科学実習の心得に準
じること。各実習において、実習態度・身だしなみが2回不可の場合は、実習
を中止する。

その他

2017年度

高齢・障害者歯科学 (実習) (Special Needs and Geriatric Dentistry)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	実習：高齢・障害者の口腔内診査と口腔乾燥症への対応 高齢・障害者の口腔の特徴を考慮した口腔内診査法について学習する。また、高齢・障害者によくみられる口腔乾燥症への対応法を学ぶ。	講義 実習	全教員	相互実習室
3,4	実習：口腔機能低下に対するケアプラン作成と口腔ケアの実施 口腔機能の各検査法について系統的に学習するとともに、臨床ケースに応じたアセスメントを行い、ケアプランの作成について習熟する。また、要介護高齢者に対する口腔ケア方法を習得する。	講義 実習	全教員	相互実習室
5,6	実習：間接訓練 摂食機能障害に対する間接訓練の方法や注意点について学習する。	講義 実習	全教員	相互実習室
7,8	実習：嚥下内視鏡検査と直接訓練 嚥下内視鏡検査を体験し、診断後の対応法について理解する。直接訓練の方法や注意点、ならびに体位や姿勢についても理解する。	講義 実習	全教員	相互実習室
9,10	実習：高齢・障害者における義歯調整 高齢・障害者における義歯調整方法について理解する。舌接触補助床の作製方法・調整方法についても理解する。	講義 実習	全教員	相互実習室

2017年度

高齢・障害者歯科学 (Special Needs and Geriatric Dentistry)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						

授業の概要

高齢社会において、口腔の健康の回復・増進により高齢者の生活の質（QOL）の向上に貢献することは歯科医師の大きな責務である。そこで、高齢者の身体的、精神的及び心理的特長を理解した上で各種歯科治療上の留意点、特に要介護高齢者に対する摂食嚥下リハビリテーション、口腔ケア等について系統的に学習する。

学生の到達目標

老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
 老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。
 高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
 高齢者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。
 要介護高齢者の歯科治療と口腔ケアを説明できる。
 摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。
 高齢者の全身状態を考慮した口腔観察について説明できる。
 その他

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	7	3)			患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
A	7	3)			医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携...責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
A	7	3)			保険・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。
B	2	2)			介護保険制度を説明できる。
B	2	2)			高齢者のおかれた社会環境を説明できる。
B	2	2)			障害者のおかれた社会環境を説明できる。
B	2	2)			ノーマライゼーションの考え方を説明できる。
B	2	2)			地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。
B	2	2)			地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および多職種間の連携の必要性について説明できる。
B	3	2)			ライフステージにおける予防を説明できる。
B	3	2)			口腔ケアの意義と効果を説明できる。
E	4	3)			高齢者における口腔ケア処置について説明できる。
E	4	3)			口腔機能向上による介護予防について説明できる。
E	4	3)			要介護高齢者（在宅要介護者も含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。
E	4	3)			歯科訪問診療について説明できる。
E	4	3)			摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。

2017年度

高齢・障害者歯科学 (Special Needs and Geriatric Dentistry)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						

テキスト

出) (著)

参考書

老年歯科医学
出)医歯薬出版 (著)

歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学
出)医歯薬出版 (著)

摂食嚥下障害の理解とケア
出)医歯薬出版 (著)

臨床オーラルケア
出)日総研出版 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
ワークショップでの取り組みや発表内容	50%

実習態度・身だしなみについては、別途配布する高齢者歯科学実習の心得に準
じること。各実習において、実習態度・身だしなみが2回不可の場合は、実習
を中止する。

その他

2017年度

高齢・障害者歯科学 (Special Needs and Geriatric Dentistry)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1,2	実習：栄養摂取法と食形態 各種栄養摂取法について系統的に学習し、様々な食形態を実食し、物性や特徴について理解を深める。	相互実習	全教員	相互実習室
3,4	実習：学外実習事前学習 介護施設および病院における口腔ケアと口腔リハビリについて事前学習を行い、学習目的を明確にする。	ワークショップ	全教員	601講義室
5,6	学外実習（病院、介護保険施設など）あるいはビデオ実習 口腔ケアの臨床現場を見学する。あるいは相互に口腔乾燥度等の実習を行い、摂食機能の獲得についてもビデオ学習する。	前半：学外実習 後半：相互実習	全教員 実習協力 施設スタッフ	601講義室 学外施設
7,8	ビデオ実習あるいは学外実習（病院、介護保険施設など） 相互に口腔乾燥度等の実習を行い、摂食機能の獲得についてもビデオ学習する。あるいは口腔ケアの臨床現場を見学する。	前半：学外実習 後半：相互実習	全教員 実習協力 施設スタッフ	601講義室 学外施設
9,10	実習（ワークショップ） 学外実習後の気づきやまとめを班ごとに発表する。他班の見学施設についても、間接的に理解する。	ワークショップ	全教員	601講義室

2017年度

臨床推論学 (口腔内科系) (Oral Diagnostics)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、富永 和宏、國領 真也、大澤 賢次、田中 純平、坂口 修						

授業の概要

臨床推論学では臨床推論とは何であるのかを説明し、臨床現場において適確な診断能力を身につける事ができるようになることを目的とする。臨床の現場では教科書通りの疾患ばかりではなく、時に思いがけない診断結果となることもある。歯科臨床の場で必要な臨床推論能力を養う為、医療面接、視診、触診、各種検査（血液検査、画像検査等）のポイントを挙げ、一般的に必要な治療前の患者の評価法を教授する。

学生の到達目標

患者から正確な情報を得る事ができる。
情報を論理的に思考し、鑑別診断できる。
鑑別診断を考慮し、各種検査を適切に選択することができる。
各種検査を分析することができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	7	2)			医療面接の役割を説明できる。
A	7	2)			主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考えや治療に対する希望を把握できる。
A	7	2)			患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
F	1				患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。
F	1				患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
F	1				患者に診断結果と治療方針を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版 著)白砂兼光、古郷幹彦

コンサイス口腔外科学
出)学建書院 著)内山健志、大関 悟、近藤寿郎、坂下英明 編

口腔診断学
出)デンタルダイヤモンド社 著)下里常弘、藍 稔、長坂信夫、船越正也

口腔病変の鑑別診断
出)書林 著)増田 屯、内海順夫、和田卓郎、黒田洋生

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート・出席・授業態度	100%

・毎回のレポート、出席、授業態度で評価する。レポート未提出1回につき10点減点、欠席1回につき5点減点で評価する。授業態度が悪いときには10点減点する。欠席した講義のレポートのみの提出は認めない。
・60点に満たない場合は、追加の演習およびレポートを課す。20点に満たない場合、追加の演習やレポートは認めず、単位を認定しない。

2017年度

臨床推論学 (口腔内科系) (Oral Diagnostics)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、富永 和宏、國領 真也、大澤 賢次、田中 純平、坂口 修						

その他

(教員名 : オフィスアワー)

- ・富永和宏 : 月～金 : 17:00～
- ・吉岡 泉 : 月～金 : 17:00～
- ・國領真也 : 月～金 : 17:00～
- ・大澤賢次 : 月～金 : 17:00～

2017年度

臨床推論学 (口腔内科系) (Oral Diagnostics)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、富永 和宏、國領 真也、大澤 賢次、田中 純平、坂口 修						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	診断学：歯科疾患だけでなく、全身疾患との関連、患者の幅広い背景などから診断を行うために必要な基礎的な事項を学習する。	講義	富永	601講義室
2	臨床推論と何かを理解する。さまざまな臨床決断を下すための論理的思考方法を理解する。	講義	吉岡	601講義室
3	演習1：頬部の腫脹を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	國領	コンピュータ演習室
4	演習2：舌下部の腫脹を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	吉岡	コンピュータ演習室
5	演習3：頸部の腫瘍を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	富永	コンピュータ演習室
6	演習4：舌の運動障害を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	富永	コンピュータ演習室
7	演習5：顔面痛を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	國領	コンピュータ演習室
8	演習6：口蓋の腫瘍を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	國領	コンピュータ演習室
9	演習7：舌の疼痛を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	大澤	コンピュータ演習室
10	演習8：開口障害を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	國領	コンピュータ演習室
11	演習9：下顎骨のX線透過像を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	吉岡	コンピュータ演習室
12	演習10：口腔乾燥感を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	坂口	コンピュータ演習室
13	演習11：知覚麻痺を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	富永	コンピュータ演習室
14	演習12：歯肉出血を呈する疾患について診査や検査の進め方、鑑別診断の考え方を学習する。	演習	田中	コンピュータ演習室
15	臨床推論まとめ：適確な診断を行うための思考について、再度確認する。	演習	吉岡	コンピュータ演習室

2017年度

歯科診療システム管理学 (Dental Practice Administration And Problem Oriented System)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕笠井 史朗						
担当教員	〔非常勤講師〕笠井 史朗、〔非常勤講師〕林 恵子、〔非常勤講師〕白土 清司、〔非常勤講師〕柘植 紳平、〔非常勤講師〕中野 充、〔非常勤講師〕舟谷 文男、〔非常勤講師〕白木 裕子						

授業の概要

各学科で学んだ歯科医学の専門知識を実際に患者に応用する場合、技術だけで診療を成立させるのは不可能である。そこには患者の個人的あるいは社会的な生活背景があり、また個人の意思の尊厳を重視しなければならないからである。

歯科診療システム管理学は、歯科医学を患者に応用するシステムについて考究する。内容的には歯科医療管理学として歯科医療全体のシステムについて、また個々の事例についてはPOSを通して学習する。

歯科医療管理学は実際に診療を行うに当たって、いかにして学問を臨床に安心・安全に応用するかを目的とし、時代の要求から従来の診療室のみにとどまらず社会との接点を考察する。

POS (Problem Oriented System) とは「問題志向型システム：患者の問題を明確に捉えて、問題解決を論理的に進めていくひとつの体系」と提唱されている。全人的医療の必要性が唱えられている昨今ではPOSの重要性が一段と増している。医療界では医師、看護師、コ・メディカル間での情報の共有化にPOSが大いに役立っている。歯科領域でも活用できるようにPOSを学ぶ。正解は必ずしも一通りでなく、その思考過程が大切であるので、討論の形を基本とする。症例を示しながらSOAPの形式の診療録 (POMR) の作成を学ぶ。

学生の到達目標

歯科医学を実際に臨床に応用する場合の実務と問題点を理解する。

POSの基礎情報、問題リスト、初期計画、経過記録、サマリーの5段階を展開できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	1				患者の権利を説明できる。
A	1				患者の自己決定権を説明できる。
A	1				患者が自己決定ができない場合の対応を説明できる。
A	2				医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
A	2				医の倫理に関する規範・国際規範 (ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等) を概説できる。
A	2				生と死に関わる倫理的問題を説明できる。
A	3				患者との信頼関係を築くことができる。
A	3				個人的、社会的背景等異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
A	3				患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
A	3				患者に最も適した医療を説明できる。
A	3				歯科医師の法的義務を列挙できる。
A	4				インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
A	4				説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
A	4				説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
A	4				患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。

2017年度

歯科診療システム管理学 (Dental Practice Administration And Problem Oriented System)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕笠井 史朗						
担当教員	〔非常勤講師〕笠井 史朗、〔非常勤講師〕林 恵子、〔非常勤講師〕白土 清司、〔非常勤講師〕柘植 紳平、〔非常勤講師〕中野 充、〔非常勤講師〕舟谷 文男、〔非常勤講師〕白木 裕子						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	5	2)			医療事故と医療過誤の違いを説明できる。
A	5	2)			医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）の事例の原因を分析し、防止対策を説明できる。
A	5	2)			医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）が発生した時の緊急処置や記録、報告について説明できる。
A	5	2)			医療過誤に関連して歯科医師に科せられた社会的責任と罰則規定（行政処分、民事責任、刑事責任、司法解剖）の基本的事項を説明できる。
A	5	2)			基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルプルーフの考え方など）について概説できる。
A	5	3)			医療従事者の健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる。
A	5	3)			標準予防策の必要性を説明できる。
A	5	3)			患者隔離の必要な場合について説明できる。
A	5	3)			針刺し事故等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。
A	7	1)			コミュニケーションの目的と技法（言語的と非言語的）を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】
A	7	1)			信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
A	7	1)			コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
A	7	2)			医療面接の役割を説明できる。
A	7	2)			主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考えや治療に対する希望を把握できる。
A	7	2)			患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
A	7	2)			患者の不安、不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
A	7	2)			患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。
A	7	2)			必要に応じて、他の医療機関への適切な紹介を行うための手続きを説明できる。
B	1				健康の概念を説明できる。
B	1				口腔と全身の健康との関連を説明できる。
B	2	2)			保健・医療制度を説明できる。【産業保健および医療供給体制を含む。】
B	2	2)			医療保険制度を説明できる。【医療経済（国民医療費）を含む。】
B	2	2)			介護保険制度を説明できる。
B	2	2)			社会福祉制度を説明できる。
B	2	2)			高齢者のおかれた社会環境を説明できる。
B	2	2)			障害者のおかれた社会環境を説明できる。
B	2	2)			ノーマライゼーションの考え方を説明できる。
B	2	2)			地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。

2017年度

歯科診療システム管理学 (Dental Practice Administration And Problem Oriented System)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕笠井 史朗						
担当教員	〔非常勤講師〕笠井 史朗、〔非常勤講師〕林 恵子、〔非常勤講師〕白土 清司、〔非常勤講師〕柘植 紳平、〔非常勤講師〕中野 充、〔非常勤講師〕舟谷 文男、〔非常勤講師〕白木 裕子						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
B	2	2)			地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。
B	2	2)			地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。
B	3	2)			主な口腔疾患（う蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。【生活習慣病の改善指導を含む。】
B	3	2)			う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明できる。【予防填塞とブラークコントロールを含む。】
B	3	2)			ライフステージにおける予防を説明できる。
B	3	2)			集団レベルの予防と健康管理（地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健）を説明できる。
B	3	2)			口腔ケアの意義と効果を説明できる。
B	4	2)			主な保健医療統計（人口動態・静態統計、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、歯科疾患実態調査、学校保健統計調査）を説明できる。
B	4	3)			保健医療情報の取扱いと情報のセキュリティーを説明できる。【診療情報（診療録等）を含む。】
B	4	3)			医療情報の開示に関する注意点を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

 歯科医療管理
 出)医歯薬出版

 著)日本歯科医療管理学会編集 東京
 2011

 「POS」～医療と医学教育の革新のための新しいシステム～
 出) 著)日野原重明

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	80%
出席等	20%

その他

2017年度

歯科診療システム管理学 (Dental Practice Administration And Problem Oriented System)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕笠井 史朗						
担当教員	〔非常勤講師〕笠井 史朗、〔非常勤講師〕林 恵子、〔非常勤講師〕白土 清司、〔非常勤講師〕柘植 紳平、〔非常勤講師〕中野 充、〔非常勤講師〕舟谷 文男、〔非常勤講師〕白木 裕子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	・歯科医療管理学概論 ・医療と医学、医療面接、POSとDOS 歯科医療管理学を通して患者との関わりを理解する。	講義	笠井	601講義室
2	・日本の保険制度と歯科医療 ・ヘルスプロモーションと歯科医療 保険制度の中での歯科と歯科医療の方向性を学ぶ。	講義	笠井	601講義室
3	・社会と歯科医師との関わり 学校歯科及び各種保健活動を通して社会との接点を探る。	講義	柘植	601講義室
4	・医療安全、医療事故と防止法 ・機能分化 安全な医療の方策について学ぶ。	講義	笠井	601講義室
5	・歯科界の現状と課題 ・医療経費とマネジメント 現在の歯科の使命と課題について学ぶ。	講義	白土	601講義室
6	・歯科診療における決定要素 インフォームド・コンセント、EBM、クリティカルパス 歯科診療方針の決定過程を学ぶ。	講義	笠井	601講義室
7	・歯科医療とコンプライアンス 医療の中でのコンプライアンスについて理解する。	講義	白土	601講義室
8	・介護保険と歯科医療、地域医療連携 ・将来の歯科医療と歯科医師像 高齢社会を迎えたわが国の今後の医療形態について理解する。	講義	笠井	601講義室
9	・POSの概要 ・POSの成り立ち、歴史 ・歯科への導入の必要性について学ぶ。	講義	中野	601講義室
10	・地域包括医療のためのPOS ・多職種との連携の必要性について学ぶ。	講義	白木	601講義室
11	・歯科診療の現場での応用 ・SOAPについて学ぶ。 ・SOAPの形式で記録を残す。	講義	林	601講義室
12	・実際の症例でどのようにPOSが活用されているかを学ぶ。 ・歯科診療録の記載の仕方を学ぶ。	講義	林	601講義室
13	・高齢化社会と医療政策 ・地域包医療の必要性 ・クリティカルパス、情報提供のあり方	講義	舟谷	601講義室
14	・高齢者社会と歯科医療 ・訪問歯科診療の必要性 ・訪問歯科診療でのPOSの活用について学ぶ。	講義	林	601講義室
15	・訪問歯科診療での地域連携の必要性 ・歯科診療でのPOSの今後	講義	林	601講義室

2017年度

歯科法医学・災害歯科学 (Forensic and Disaster Dentistry)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中富 満城						
担当教員	中富 満城、〔非常勤講師〕山田 良広						

授業の概要

地震・津波・台風・洪水・噴火等の自然災害や、航空機墜落事故・大規模鉄道事故等の交通災害時に歯科医師として果たすべき役割（被災者に対する歯科医療や、身元確認の支援等）について講義する。また個人識別や死因究明に必要な法医学的基礎知識について講義する。

学生の到達目標

- 一般的な個人識別について説明できる。
- 歯科による個人識別について説明できる。
- 災害時の歯科医療の必要性について説明できる。
- 災害時の検案支援に必要な歯型図を作製できる。
- 鑑定に必要な基礎知識を習得し、鑑定書を作製できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
B	2	2)			災害時の歯科医療の必要性について説明できる。
B	2	3)			個人識別について説明できる。
B	2	3)			歯科による個人識別について説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

- 法医学歯科学
出)医歯薬出版 著)山本勝一
- 歯の鑑定入門
出)医歯薬出版 著)山本勝一
- 標準法医学
出)医学書院 著)石津日出雄他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

質問等は随時受け付けるので中富（本館9階解剖学分野・内線7933）まで連絡すること。

2017年度

歯科法医学・災害歯科学 (Forensic and Disaster Dentistry)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	中富 満城						
担当教員	中富 満城、〔非常勤講師〕山田 良広						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	歯科法医学総論：歯科法医学の概要・法医解剖・歯科法医学史について学ぶ。	講義	中富	601講義室
2	歯科法医学各論1：死因論・内因死・外因死・死体現象について学ぶ。	講義	中富	601講義室
3	歯科法医学各論2：一般的な個人識別や歯科所見を用いた個人識別について学ぶ。	講義	中富	601講義室
4	歯科法医学各論3：死因究明制度・警察捜査協力・鑑定書作成法について学ぶ。	講義	中富	601講義室
5	災害歯科学総論：災害の概要や、災害に対する歯科の関わりについて学ぶ。	講義	中富	601講義室
6	災害歯科学各論1：災害医療の必要性和特殊性、災害時に必要な行政や他職種との連携、被災者への口腔ケアについて学ぶ。	講義	山田	601講義室
7	災害歯科学各論2：身元確認支援の為の歯科所見採取法について学ぶ。	講義	中富	601講義室
8	災害歯科学演習：死後歯型図および生前歯型図の作成について実習を行う。	講義	中富	601講義室

2017年度

顎顔面補綴学 (Maxillofacial Prosthodontics)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	講義	時間数	8	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、楨原 絵理、笹栗 正明、吉岡 泉						

授業の概要

先天的または後天的な顎顔面領域の欠損に対する臨床及び技工手技を詳細に教授するとともに、国家試験合格のためのベーシックな知識を習得させる。

学生の到達目標

- 上顎顎欠損に伴う障害と病態を説明できる。
- 下顎顎欠損に伴う障害と病態を説明できる。
- 顎顔面補綴の目的および意義を説明できる。
- オブチュレーターについて説明できる。
- パラタルリフトについて説明できる。
- 摂食嚥下補助床について説明できる。
- エビテーゼについて説明できる。
- 外科的再建手術の目的および意義を説明できる。
- 化学療法、放射線療法について説明できる。
- チームアプローチの意義と必要性について説明できる。
- 術後機能検査と術後管理について説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	2	4)	(1)		口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。
E	2	4)	(1)		口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。
E	2	4)	(5)		口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。
E	2	4)	(5)		口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。
E	2	4)	(10)		咬合異常と咀嚼障害の原因と診察、検査、診断および治療方針を説明できる。
E	2	4)	(10)		嚥下障害を概説できる。
E	2	4)	(10)		言語障害を概説できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の種類、目的および意義を説明できる。
E	3	4)	(2)		可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。

テキスト

出) (著)

参考書

顎顔面リハビリテーション：補綴的，外科的対応
出)クインテッセンス出版 (著)田代英雄，大山喬史訳

顎顔面補綴の臨床
出)医学情報社 (著)大山喬史，谷口 尚編

無歯顎補綴治療学 第2版
出)医歯薬出版 (著)細井紀雄，平井敏博ほか

口腔外科学
出)医歯薬出版 (著)白砂兼光，古郷幹彦編

2017年度

顎顔面補綴学 (Maxillofacial Prosthodontics)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	講義	時間数	8	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、槇原 絵理、笹栗 正明、吉岡 泉						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
テスト	100%

テスト不合格者及びテスト欠席者には再試験を実施し、60点以上を合格とする。

その他

2017年度

顎顔面補綴学 (Maxillofacial Prosthodontics)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	講義	時間数	8	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、楨原 絵理、笹栗 正明、吉岡 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	1. 頭頸部癌患者の抱える問題 2. 化学療法と放射線療法 3. 外科療法 4. 後天的上下顎および顔面欠損	講義	笹栗	601講義室
2	1. 補綴前処置としての外科的対応 ・ 再建手術 ・ 顎顔面インプラント	講義	笹栗 吉岡	601講義室
3	1. 顎顔面補綴の目的と意義 2. チームアプローチの重要性 ・ 術前術後の口腔ケア ・ 術前合同カンファレンス 3. 口蓋裂に対する補綴処置 4. パラタルリフト	講義	楨原 鱒見	601講義室
4	1. 上顎顎欠損に対する補綴治療 ・ オブチュレーター ・ 分割トレー, 分割義歯 2. 下顎顎欠損に対する補綴治療 ・ 咬合滑面板 ・ 舌補綴 3. 顔面欠損の補綴治療 ・ エピテーゼ ・ 眼球, 耳, 鼻, 手指 4. 術後機能検査と術後管理	講義	楨原 鱒見	601講義室

2017年度

摂食機能療法学 (Dysphagia Rehabilitation)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	講義	時間数	8	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、〔非常勤講師〕岩佐 康行						

授業の概要

摂食機能障害は「食べる」という生命の根源にかかわる問題である。摂食機能療法により摂食機能障害患者の生活の質（QOL）の向上に貢献することは、歯科医師の大きな責務である。そこで、摂食機能障害の診断・評価、摂食機能と栄養、及びNSTと多職種連携について理解した上で、摂食機能療法について系統的に学習する。

学生の到達目標

- 摂食・嚥下のメカニズムについて説明できる。
- 摂食機能障害の病態について説明できる。
- NSTについて説明できる。
- 栄養摂取法について説明できる。
- 食形態について説明できる。
- 摂食機能障害のスクリーニング法について説明できる。
- 摂食機能障害の精密検査法について説明できる。
- 摂食機能障害のスクリーニング法について説明できる。
- 摂食機能障害に対する食形態指導について説明できる。
- 摂食機能障害に対する食環境指導について説明できる。
- 摂食機能障害に対する間接訓練について説明できる。
- 摂食機能障害に対する直接訓練について説明できる。
- その他

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	7	3)			医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
B	2	2)			地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。
B	2	2)			地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および多職種間の連携の必要性について説明できる。
E	2	1)			嚥下の機序を説明できる。
E	2	4)	(10)		嚥下障害を概説できる。
E	4	3)			摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。
E	4	3)			摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。

テキスト

出) _____ 著) _____

参考書

老年歯科医学
出) 医歯薬出版 著) _____

歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学
出) 医歯薬出版 著) _____

2017年度

摂食機能療法学 (Dysphagia Rehabilitation)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	講義	時間数	8	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、〔非常勤講師〕岩佐 康行						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート（小テストを含む）	100%

その他

2017年度

摂食機能療法学 (Dysphagia Rehabilitation)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	講義	時間数	8	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、〔非常勤講師〕岩佐 康行						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	摂食機能と栄養状態 摂食機能障害患者の栄養状態について理解するとともに、口腔機能に合わせた栄養摂取法や食形態について学ぶ。	講義	柿木	601講義室
2	NSTと多職種連携 摂食機能障害患者をとりまく多数の職種について理解した上で、チーム医療としての栄養サポートチームについて学ぶ。	講義	藤井	601講義室
3	摂食機能障害の診断・評価 正常な摂食の機序について理解するとともに、摂食機能障害のスクリーニング検査法、精密検査法、診断について学ぶ。	講義	藤井	601講義室
4	摂食機能障害の治療 食形態指導、食環境指導、摂食嚥下リハビリテーションについて理解した上で、摂食機能療法の実際を学ぶ。	講義	岩佐	601講義室

2017年度

総合講義 (Integrated Lectures)

開講年次	6年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長、6年次生学年主任・副主任						
担当教員	有田 正博、歯学科長、竹内 弘、岩崎 正則、正木 千尋、諸富 孝彦、吉岡 泉、富永 和宏、椎葉 俊司、中島 啓介、白井 通彦、川元 龍夫、福泉 隆喜、柿木 保明、牧 憲司						

授業の概要

5年次までに学んできた『基礎および臨床歯科医学』の知識を『歯科医療』に展開するために必要な知識の整理と統合を図り、臨床推論の展開法、適正な医療判断の手法などについて、網羅的に習得を図ることを目的とした講義を行う。

学生の到達目標

『基礎および臨床歯科医学』の知識を歯科医師として『歯科医療』に展開できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A					全項目
B					全項目
C					全項目
D					全項目
E					全項目

テキスト

出) 著)

参考書

国家試験出題基準(平成26年度版)
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
知識検定試験	100%

知識検定試験3、4の結果が合格基準を満たした上で、2回の試験結果の平均が60点以上を合格とする。

その他

2017年度

総合講義 (Integrated Lectures)

開講年次	6年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長、6年次生学年主任・副主任						
担当教員	有田 正博、歯学科長、竹内 弘、岩崎 正則、正木 千尋、諸富 孝彦、吉岡 泉、富永 和宏、椎葉 俊司、中島 啓介、白井 通彦、川元 龍夫、福泉 隆喜、柿木 保明、牧 憲司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	欠損補綴設計と治療法選択の実際(Ⅰ) 部分欠損症例に対する可撤性補綴装置の設計原則を復習し、部分欠損症例に対する補綴装置の選択およびその特徴について学習する。	プリント配布 講義 問題演習	有田	301講義室
2	歯科医療における予防とプライマリ・ケア プライマリケアの定義をおさえた上でWHOが進めるプライマリ・ヘルスケアの骨子、欧米各国や我が国で行われている健康増進施策の現状と課題を学習する。	プリント配布 講義 問題演習	岩崎	301講義室
3	欠損補綴設計と治療法選択の実際(Ⅱ) 欠損補綴の設計と治療選択に至った過程について、少数歯欠損症例をもとに固定性補綴装置を中心に学習する。また、インプラント補綴治療について知識のまとめを行う。	プリント配布 講義 問題演習	正木	301講義室
4	口腔粘膜疾患の鑑別診断 口腔粘膜疾患の病態、検査、鑑別診断を学習する。	プリント配布 講義 問題演習	吉岡	301講義室
5	実践「歯の治療学」 歯の治療学で学習した基礎知識・技能と、臨床実習で実践した知識・技能を関連づけると共に、学習(特に保存修復治療学、歯内治療学)の過程で生じた疑問点を解決し、統合的な知識を学習する。	プリント配布 講義 問題演習	諸富	301講義室
6	歯科小手術のポイント 日常臨床で行うことの多い歯科小手術を器具の取り扱いを含め解説し、迅速で安全な手術法を学習する。	プリント配布 講義 問題演習	富永	301講義室
7	疼痛治療と障害者治療の実際 非歯原性疼痛および麻痺性疾患について以下の項目を重点に講義、問題演習を行う。 発生起源からみた口腔顔面痛の分類、三叉神経痛、顔面神経麻痺の発症原因、知覚神経障害の原因と症状・治療法、歯に痛みを誘発する口腔顔面痛 歯科治療時に特別な配慮が必要となる発達障害と生活習慣病患者に重点を置いて講義、問題演習を行う。障害とは何か、発達障害患者の歯科治療時の留意点、発達障害患者の行動調整法、生活習慣病患者の歯科治療時の留意点	プリント配布 講義 問題演習	椎葉	301講義室
8	アドバンス歯周治療(Ⅰ) 実際の症例を供覧しながら、歯周病の多様性に富んだ病因・病態・治療法について概説する。	プリント配布 講義 問題演習	白井	301講義室
9	矯正歯科治療の考え方 小児および成人症例における、矯正歯科治療の診断および治療方法について学習する。	プリント配布 講義 問題演習	川元	301講義室
10	必須社会歯科学(Ⅰ) 「衛生」領域の学習項目のうち、学生からの要望が多いものについて解説を行い、あわせて関連事項や制度改正のポイントなどについても学習する。	プリント配布 講義 問題演習	福泉	301講義室
11	アドバンス歯周治療(Ⅱ) 歯周病患者の症例を通じて、歯周治療による歯周組織の変化を学習する。	プリント配布 講義 問題演習	中島	301講義室
12	歯科小手術の合併症とその予防 小手術に伴う合併症を知り、その予防法解説する。危険予知訓練などを通じて常に危険を予知する習慣を身に付けることの重要性を学習する。	プリント配布 講義 問題演習	富永	301講義室
13	歯科における漢方治療と嚥下障害治療 高齢者に対する漢方診療が急速に普及していることから、漢方薬の作用と歯科における応用について講義する。また、嚥下障害の治療とリハビリについて講義する。	プリント配布 講義 問題演習	柿木	301講義室
14	小児歯科医療における注意点 成長発育期にある小児の肉体的、精神的、機能的な面を考慮しての歯科医療上の注意点を学習する。	プリント配布 講義 問題演習	牧	301講義室

2017年度

総合講義 (Integrated Lectures)

開講年次	6年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長、6年次生学年主任・副主任						
担当教員	有田 正博、歯学科長、竹内 弘、岩崎 正則、正木 千尋、諸富 孝彦、吉岡 泉、富永 和宏、椎葉 俊司、中島 啓介、臼井 通彦、川元 龍夫、福泉 隆喜、柿木 保明、牧 憲司						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
15	必須社会歯科学(II) 「衛生」領域の学習項目のうち、学生の要望する領域について解説及び問題演習等を行い、当該領域の重点事項を学習する。	プリント配布 講義 問題演習	福泉	301講義室

2017年度

総合講義 (Integrated Lectures)

開講年次	6年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長、6年次生学年主任・副主任						
担当教員	中原 孝洋、歯学科長、細川 隆司、正木 千尋、竹内 弘、牧 憲司、椎葉 俊司、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、白井 通彦、笹栗 正明、吉岡 泉、瀬田 祐司、富永 和宏、永松 浩、永松 有紀、福泉 隆喜、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業の概要

5年次までに学んできた『基礎および臨床歯科医学』の知識を『歯科医療』に展開するために必要な知識の整理と統合を図り、臨床推論の展開法、適正な医療判断の手法などについて、網羅的に習得を図ることを目的とした講義を行う。

学生の到達目標

『基礎および臨床歯科医学』の知識を歯科医師として『歯科医療』に展開できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A					全項目
B					全項目
C					全項目
D					全項目
E					全項目

テキスト

出) 著)

参考書

国家試験出題基準(平成26年度版)
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
右記	100%

卒業試験の結果が合格基準に達し、全講義時間の2/3以上の出席および15回目の講義への参加により合格とする。

その他

2017年度

総合講義 (Integrated Lectures)

開講年次	6年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長、6年次生学年主任・副主任						
担当教員	中原 孝洋、歯学科長、細川 隆司、正木 千尋、竹内 弘、牧 憲司、椎葉 俊司、諸富 孝彦、鷺尾 絢子、吉居 慎二、臼井 通彦、笹栗 正明、吉岡 泉、瀬田 祐司、富永 和宏、永松 浩、永松 有紀、福泉 隆喜、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	歯科医学と歯科医療、問題解決法と弱点克服法 歯科医師国家試験で求められる知識や考え方を理解する。また、国家試験の全容を把握すると共に、実践的な問題解決方法についてロールプレイを行う。	プリント配布 講義 問題演習	中原	301講義室
2	欠損補綴・機能回復における問題解決(Ⅰ) 可綴性補綴装置に関わる知識の総点検を行う。義歯の製作過程を中心として、臨床検査、臨床操作、技工操作について詳細に解説する。	プリント配布 講義 問題演習	細川 正木	301講義室
3	成長発育期における歯科的問題点の解決 成長発育を考慮した小児期の包括的治療(口腔外科、矯正、保存など)を学習する。	プリント配布 講義 問題演習	牧	301講義室
4	欠損補綴・機能回復における問題解決(Ⅱ) インプラントを含めた固定補綴装置に関わる知識の総点検を行う。ブリッジの製作過程を中心として、臨床検査、臨床操作、技工操作について詳細に解説する。	プリント配布 講義 問題演習	細川 正木	301講義室
5	歯の治療における問題解決 歯の治療学における講義・基礎実習、および臨床実習で修得した知識をもとに、臨床(特に保存修復治療学、歯内治療学)における症例の問題解決法を統合的に学習する。	プリント配布 講義 問題演習	諸富 鷺尾 吉居	301講義室
6	歯科麻酔・高齢者歯科における問題解決 超高齢社会を迎え何らかの全身疾患を有する患者が増加しており歯科治療時にも特別の配慮が必要である。以下の項目について講義する。日本人の死亡原因、生活習慣病とは何か、内服薬でわかる全身疾患、NSAIDs(非ステロイド性消炎鎮痛剤)と内服薬の相互作用、代表的な心疾患の心電図、歯科用局所麻酔薬に含まれるアドレナリンが循環器疾患を有する患者に与える影響	プリント配布 講義 問題演習	椎葉	301講義室
7	歯周治療における問題解決 実際の症例を提示し、どのように歯周治療を行い、どのような結果となったかを詳細に概説する。	プリント配布 講義 問題演習	臼井	301講義室
8	口腔外科における問題解決(Ⅰ) 安心と安全の医療を実践するための基本知識として、口腔外科治療に関連する外科解剖を整理する。併せて歯科で使用する各種薬剤の副作用を整理してもう一度学ぶ。	プリント配布 講義 問題演習	笹栗	301講義室
9	口腔内科における問題解決 高齢社会における歯科医療で重要視しなければならないさまざまな全身疾患を持つ患者の歯科治療上の注意点を整理してもう一度学ぶ。	プリント配布 講義 問題演習	吉岡	301講義室
10	「機能系」基礎歯科医学における問題解決 学生に事前に卒業試験や模擬試験で良くわからないところ、または詳しく説明して欲しい項目を挙げてもらい、これらの項目に対して、「生理」「薬理」「生化」の教員が講義をおこない、不得意な項目をもう一度学ぶ。	プリント配布 講義 問題演習	自見	301講義室
11	「形態系」基礎歯科医学における問題解決 解剖・組織・病理領域における基礎知識の確認を行い、実際の問題をどのように解決していくのかを学習する。	プリント配布 講義 問題演習	瀬田	301講義室
12	口腔外科における問題解決(Ⅱ) 学生に事前に卒業試験や模擬試験で良くわからないところ、または詳しく説明して欲しい項目を挙げてもらい、これらの項目に対して講義を行い、不得意な項目をもう一度学ぶ。	プリント配布 講義 問題演習	富永	301講義室
13	生体材料における問題解決 生体材料学関連科目で学習した基礎的な事項をもとに、補綴、保存、矯正等各臨床分野で応用・統合する上で必要な知識を学習する。事前のアンケートにより理解の困難な事項についての学習を深める。	プリント配布 講義 問題演習	永松(浩) 永松(有)	301講義室
14	社会歯科学と衛生学における問題解決 「衛生」領域の出題基準に準拠した問題演習と解説を行い、必要な知識の整理を行う。	プリント配布 講義 問題演習	福泉	301講義室

2017年度

総合講義 (Integrated Lectures)

開講年次	6年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	歯学科長、6年次生学年主任・副主任						
担当教員	中原 孝洋、歯学科長、細川 隆司、正木 千尋、竹内 弘、牧 憲司、椎葉 俊司、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、臼井 通彦、笹栗 正明、吉岡 泉、瀬田 祐司、富永 和宏、永松 浩、永松 有紀、福泉 隆喜、〔非常勤講師〕自見 英治郎						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
15	歯科医学と歯科医療の総括 卒業後の臨床研修を視野に入れ、診療におけるいくつかの留意点を学習する。	プリント配布 講義 問題演習	学年主任	301講義室

2017年度

基礎数学 (Mathematics)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	深井 康成						
担当教員	深井 康成						

授業の概要

現代の科学・技術は、数学的記述や発想法を抜きにしては考えられない。量と量の関係は数式で明確に表現され、数学的方法を使えば、精密な解析が可能となり、厳密な論理を構築できる。論理的に物事を考察して認識を深めていくことは、自然科学は言うに及ばず、すべての科学において不可欠である。数学は論理的考察をより純粋な形で展開させる学問体系である。したがって、数学的考察法を体得していることは、今後、専門分野で論理的考察を行う上で重要である。ここでは、論理的考察の雛型としての数学という観点を柱にした講義を行う。

学生の到達目標

- 論理的な考察法を体得する。
- 数の概念を理解する。
- n 次元ユークリッド空間における距離の概念を理解する。
- 関数の極限や連続性の概念を理解する。
- 微分演算と多項式近似定理を体得する。
- 積分法と面積の計算法を体得する。
- 極限の厳密な定義を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文章を準備できる。

テキスト

プリント配布
出)

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	90%
レポート	10%

その他

(学習相談) 深井康成：月、火、水、木 16:20～17:15

2017年度

基礎数学 (Mathematics)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	深井 康成						
担当教員	深井 康成						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	集合と数の体系 集合と自然数、整数、有理数、無理数、実数について学ぶ。	講義	深井	301講義室
2	実数の上限と下限 実数の上限と下限の定義と性質について学ぶ。	講義	深井	301講義室
3	距離 距離の公理、距離空間、 n 次元空間について学ぶ。	講義	深井	301講義室
4	数列 数列の極限について学ぶ。	講義	深井	301講義室
5	関数の定義 関数の定義と指数関数、三角関数について学ぶ。	講義	深井	301講義室
6	関数の極限と連続性 1変数関数の極限、連続性と連続関数の性質について学ぶ。	講義	深井	301講義室
7	微分法(その1) 微分係数と導関数について学ぶ。	講義	深井	301講義室
8	微分法(その2) 和、積、商と合成関数の微分公式について学ぶ。	講義	深井	301講義室
9	微分法(その3) 平均値の定理について学ぶ。	講義	深井	301講義室
10	微分法(その4) 中間値の定理について学ぶ。	講義	深井	301講義室
11	微分法(その5) 逆関数の定義と逆関数の微分公式について学ぶ。	講義	深井	301講義室
12	積分法(その1) 定積分の定義と微分積分学の基本定理について学ぶ。	講義	深井	301講義室
13	積分法(その2) 部分積分と置換積分について学ぶ。	講義	深井	301講義室
14	確認試験	試験	深井	301講義室
15	まとめ 確認試験の解説と本講義の総括を行う。	講義	深井	301講義室

2017年度

統計学概論 (Statistics)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	深井 康成						
担当教員	深井 康成						

授業の概要

統計学の数学的基礎は確率論である。我々のまわりにはその結果が偶然性に支配される現象も多い。このような確率的な現象を数理的に解析する数学の分野が確率論である。すなわち、確率論とは偶然性（デタラメさ）の中に法則性を見出すための数学である。統計学の考え方を理解し統計的解析を行うためには、確率論の知見が必須である。ここでは、確率論を概説する。次いで、確率論を用いた統計的概念や諸特性量に関する講義を行い2年次前期の統計学概論IIへの橋渡しとする。

学生の到達目標

- 確率論における諸概念の理解と基本的な確率演算を体得する。
- 事象、標本空間、確率変数とその分布を理解する。
- 平均、分散、標準偏差、共分散、相関係数など確率変数とその分布を特徴づける諸量を理解する。
- 2つの確率変数の独立性の概念を理解する。
- 二項分布、ポアソン分布、正規分布の理解と、それらに関連した確率演算を体得する。
- 中心極限定理や統計学に頻出する t -分布、カイ二乗分布、 F -分布を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文章を準備できる。
B	4	2)			調査方法と統計的分析を説明できる。

テキスト

例題中心 確率・統計入門（改訂版）
出）学術図書出版社

著）水原昂廣、宇野力

参考書

出）

著）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	90%
レポート	10%

その他

（学習相談）深井康成：月、火、水、木16:20～17:15

2017年度

統計学概論 (Statistics)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	深井 康成						
担当教員	深井 康成						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	確率論のガイダンス 試行、標本空間、事象について学ぶ。	講義	深井	301講義室
2	公理論的確率の定義(その1) 確率の定義について学ぶ。	講義	深井	301講義室
3	公理論的確率の定義(その2) 確率の性質について学ぶ。	講義	深井	301講義室
4	確率論の基礎概念 確率変数について学ぶ。	講義	深井	301講義室
5	散型確率変数の分布 二項分布とポアソン分布について学ぶ。	講義	深井	301講義室
6	独立性 確率変数の独立性とその応用について学ぶ。	講義	深井	301講義室
7	離散型確率変数(その1) 離散型確率変数の平均と分散の定義について学ぶ。	講義	深井	301講義室
8	離散型確率変数(その2) 離散型確率変数の平均と分散の性質について学ぶ。	講義	深井	301講義室
9	離散型確率変数(その3) 離散型確率変数の共分散と相関係数について学ぶ。	講義	深井	301講義室
10	連続型確率変数(その1) 連続型確率変数と確率密度関数について学ぶ。	講義	深井	301講義室
11	連続型確率変数(その2) 連続型確率変数の諸平均量について学ぶ。	講義	深井	301講義室
12	正規分布 正規分布とその性質について学ぶ。	講義	深井	301講義室
13	統計学に現れる確率分布 t - 分布、カイ二乗分布、F - 分布、中心極限定理について学ぶ。	講義	深井	301講義室
14	確認試験	試験	深井	301講義室
15	まとめ 確認試験の解説と本講義の総括を行う。	講義	深井	301講義室

2017年度

統計学概論 (Statistics)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	深井 康成						
担当教員	深井 康成						

授業の概要

統計的手法は、医学・歯学、工学、農学、生物学、経済学、社会学、人間行動学などにかかわり、多方面で利用されている。特に、歯学を含む生命科学においては実験、調査結果がバラツキをもつことが多く、これらのデータを解析し解釈する方法を体得することは必須である。さらに、与えられたデータから背景にある集団（母集団）の特性を検定、推定することは重要である。ここでは、統計学を数学的に基礎づけながら数理統計学の講義を行い、さまざまな統計的手法を理解し体得することを目指した講義を行う。

学生の到達目標

基本的な統計的手法の手順、考え方および理論的根拠について理解する。
統計学の考え方（母数、標本、統計量、仮説検定法、区間推定法など）を理解する。
歯学によく現れる仮説検定法（母平均の検定、2つ母集団の等平均の検定、出現率の検定、分割表による独立性の検定、適合度検定など）の熟知と、演習を通しての統計的手法を体得する。
統計的推定の考え方と手法を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	4				必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文章を準備できる。
B	4	2)			調査方法と統計的分析を説明できる。

テキスト

例題中心 確率・統計入門（改訂版）
出）学術図書出版社

著）水原昂廣、宇野力

参考書

出）

著）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	90%
レポート	10%

その他

平方根が計算できる電卓を持参すること。

（学習相談）深井康成：月、火、水、木16:20～17:15

2017年度

統計学概論 (Statistics)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	深井 康成						
担当教員	深井 康成						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	データ解析 データのまとめ方について学ぶ。	講義	深井	401講義室
2	統計学の考え方 母集団、母数、標本、統計量について学ぶ。	講義	深井	401講義室
3	統計的推定(その1) 点推定と不偏推定量について学ぶ。	講義	深井	401講義室
4	統計的推定(その2) 区間推定法について学ぶ。	講義	深井	401講義室
5	統計的検定(その1) 仮説検定法、帰無仮説、対立仮説、危険率、棄却領域について学ぶ。	講義	深井	401講義室
6	統計的検定(その2) 正規母集団の母平均の検定について学ぶ。	講義	深井	401講義室
7	統計的検定(その3) 出現率の検定について学ぶ。	講義	深井	401講義室
8	統計的検定(その4) 2つの正規母集団の等平均の検定について学ぶ。	講義	深井	401講義室
9	統計的検定(その5) 2つの母集団の出現率の比較検定について学ぶ。	講義	深井	401講義室
10	統計的検定(その6) 独立性の検定について学ぶ。	講義	深井	401講義室
11	統計的検定(その7) 適合度の検定について学ぶ。	講義	深井	401講義室
12	統計的検定(その8) 相関係数の検定について学ぶ。	講義	深井	401講義室
13	演習 これまでに学んだ内容に関する問題演習とその解説を行う。	演習とその解説	深井	401講義室
14	確認試験	試験	深井	401講義室
15	まとめ 確認試験の解説と本講義の総括を行う。	講義	深井	401講義室

2017年度

保健医療統計学 (Statistics for health care)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子						

授業の概要

医療関係者が地域に出ていき、調査や研究を実施し、その結果を正しく解釈でき、地域にフィードバック（施策立案）するための知識とノウハウを習得することを念頭に置いて講義ならびに演習を行う。将来的に地域歯科保健活動のリーダーとなる人材になるための必須の知識と実際に教授する。

学生の到達目標

保健医療に関連する調査のしくみと意義を説明できる。
調査方法とデータ集計ならびに統計的分析法の各論を説明できる。
保健医療情報の取扱いと情報のセキュリティを説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
B	4	1)			スクリーニング検査を説明できる。
B	4	2)			主な保健医療統計（人口動態・静態統計、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、歯科疾患実態調査、学校保健統計調査）を説明できる。
B	4	2)			調査方法と統計的分析法を説明できる。
B	4	3)			保健医療情報の取扱いと情報のセキュリティーを説明できる。【診療情報（診療録等）を含む。】

テキスト

地域診断のすすめ方
出)医学書院

著)

参考書

アンケート調査入門
出)東京図書

著)

日常臨床にすぐに使える臨床統計学 改訂版
出)羊土社

著)

医学的研究のデザイン
出)MEDSi

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	20%
定期試験	80%

その他

質問の受付および回答は講義終了後ないしオフィスアワーに受けつける。オフィスアワーは通常、月～金の午後5時～6時とする（11階研究室など）。相談時間予約にメールを利用することができる。

2017年度

保健医療統計学 (Statistics for health care)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、角田 聡子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	問題解決のプロセス() 根拠に基づいた公衆衛生・健康施策を展開していくにあたり必要な地域診断の意味を踏まえた上で、情報収集、問題設定、計画、評価といったPDCAサイクルの基本について習得する。	講義 スライド	安細	401講義室
2	問題解決のプロセス() 国の疫学調査を例としてPDCAの『現状把握と分析』について習得する。	講義 スライド	安細	401講義室
3	調査の計画() リクルート・サンプリングの基本について習得する。	講義 スライド	岩崎	401講義室
4	調査の計画() 疫学研究方法の概要および利点・欠点について習得する。	講義 スライド	岩崎	401講義室
5	調査の計画() 記述疫学、分析疫学、介入疫学の目的と流れを習得する。	講義 スライド	岩崎	401講義室
6	評価方法() 測定方法、測定のスケール、尺度(量的評価, 質的評価)について習得する。	講義 スライド	角田	401講義室
7	調査の計画() 疫学調査を企画・実施する。とくに質問紙調査のデザインについて習得する。	講義 スライド	角田	401講義室
8	評価方法() 評価の標準化、キャリブレーションについて習得する。	講義 スライド	岩崎	401講義室
9	評価方法() スクリーニング、診断方法の評価: 感度、特異度、ROC曲線、尤度比について習得する。	講義 スライド	安細	401講義室
10	データの解釈 これだけは知っておきたい記述統計、分析統計について習得する。	講義 スライド	安細	401講義室
11	保健活動と情報セキュリティ 調査等で得られたデータの管理、セキュリティとデータベース作成、ならびにレコード・リンケージ・データ・マッチングについて習得する。	講義 スライド	岩崎	401講義室
12	疫学と倫理 国の倫理指針を紹介し、個人情報の取り扱い等のポイントを習得する。	講義 スライド	安細	401講義室
13	演習() 既存の統計データや課題を用いてグループ学習を行う。	演習	全員	401講義室
14	演習() グループ発表 課題についてプレゼンを行う。	演習	全員	401講義室
15	演習() グループ発表 課題についてプレゼンを行う。	演習	全員	401講義室

2017年度

Evidence-Based Dentistry (Evidence-Based Dentistry)

開講年次	歯学科4年、口腔保健学科3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業の概要

Evidence-Based Dentistryを実践する歯科医療人に必要な知識と応用力の涵養を目的とする。歯科医学文献を検索および批判的吟味し、科学的根拠に基づく診療の実践力を養う。臨床疫学・臨床統計学の基礎知識を身につけ、さらに国内外の診療ガイドラインの検索及び読解を行う。

学生の到達目標

- Evidence-Based Dentistry(EBD)の概念を理解することができる。
- 国内外の歯科医学に関する情報を収集および検索できる。
- 臨床疫学研究デザインに応じて、論文を批判的に吟味することができる。
- 自らの歯科医療に関する疑問を定式化し、科学的根拠に基づき解決することができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	6	1)			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	6	1)			歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。
A	6	2)			患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の進化につなげることができる。
B	4	1)			疫学とEBMの概念を説明できる。

テキスト

Evidence-Based Dentistry入門 (2015年)
出)永末書店 著)角館直樹

参考書

歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド
出)医歯薬出版 著)角館直樹

成績評価方法・基準

評価項目	割合
毎回の講義で行われる確認テスト	30%
4回の演習の提出物	30%
文献検索テスト	15%
小テスト	25%

- ・演習(全6回実施)を欠席した場合、当該回の提出物は0点として評価する。
- ・60点に満たない者に対して、再試験を行う。

その他

(学習相談)角館直樹：相談は随時受け付け可能。

2017年度

Evidence-Based Dentistry (Evidence-Based Dentistry)

開講年次	歯学科4年、口腔保健学科3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	Evidence-Based Dentistry (EBD) の概念について： EBDの定義と基本的理念、エビデンスレベルについて理解する。横断研究のデザインについて理解し、感度・特異度について学ぶ。	講義	角館	501講義室
2	研究デザインとバイアス： コホート研究、ランダム化比較試験などの研究デザインについて理解し、3大バイアスについて学ぶ。	講義	角館	501講義室
3	文献検索演習（研究論文の検索）： 診療上の疑問を解決するのに必要な論文等の文献を、インターネットを用いて英語と日本語で検索する方法を学ぶ。	演習	角館	コンピュータ演習室
4	論文の種類と構成： 医学系論文の種類、基本的な構成および読解法を理解する。臨床研究の事前登録についても学ぶ。	講義	角館	501講義室
5	論文の批判的吟味：横断研究 横断研究論文の批判的吟味を行い、その研究デザインおよび利点と欠点について学習する。	演習	角館	501講義室
6	論文の批判的吟味：ランダム化比較試験 ランダム化比較試験論文の批判的吟味を行い、その研究デザインおよび利点と欠点について学習する。	演習	角館	501講義室
7	データ統合型研究・診療ガイドライン システマティックレビュー・メタアナリシス・診療ガイドラインの詳細について学ぶ。	講義	角館	501講義室
8	論文の批判的吟味：メタアナリシス メタアナリシス論文の批判的吟味を行い、その研究デザインおよび利点と欠点について学習する。	演習	角館	501講義室
9	文献検索演習（診療ガイドラインの検索）： 国内外の診療ガイドラインを、インターネットを用いて検索する方法を学ぶ。	演習	角館	コンピュータ演習室
10	文献検索演習（疑問に基づく文献検索）： 歯科診療に関する疑問に基づいて文献検索を行い、抄録を読んでその結果を要約する。	演習	角館	コンピュータ演習室
11	文献検索テスト	テスト	角館	コンピュータ演習室
12	EBDのための臨床統計学の基礎 論文の読解で必要となる、データの種類、統計学的仮説検定、P値および95%信頼区間等について学ぶ。	講義	角館	501講義室
13	EBDのための臨床統計学の基礎 論文の読解で必要となる、各種の統計学的検定方法について学ぶ。	講義	角館	501講義室
14	EBDと臨床疫学研究 EBDを支えるエビデンスを構築するための臨床疫学研究の概要について学ぶ。	講義	角館	501講義室
15	小テスト	テスト	角館	501講義室 601講義室

2017年度

臨床体験実習 (Early Clinical Exposure)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、村岡 宏祐、森川 和政 臨床実習運営部会教員						

授業の概要

シミュレーション実習体験、相互実習体験ならびに病院見学実習を通して、歯科医師を志す歯学生としての意識向上を図り、プロフェッナリズムを涵養する。

学生の到達目標

- シミュレーション実習を体験する。
- 相互実習を体験する。
- 歯科医療の現場を体験する。
- クリニカルクラークシップを理解する。
- 附属病院のシステムを理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	1)			歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
F	1				適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正しい態度で患者に接することができる。
F	4				医療安全対策を実践できる。
F	4				標準予防策を実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出欠状況	50%
レポート	40%
実習時の積極性・態度	10%

- ・実習の欠席は原則認めない。
- ・出欠状況50点満点（総点数より実習未修了は50点減点）、レポート評価40点満点（1レポートにつき1～10点、未提出総点数より10点減点で採点する）、実習時の積極性・態度（10点）により総合的に評価する。

その他

2017年度

臨床体験実習 (Early Clinical Exposure)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、村岡 宏祐、森川 和政 臨床実習運営部会教員						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	実習説明	講義	栗野 村岡 森川	301講義室
2	シミュレーション実習体験	実習	栗野 村岡 森川	シミュレーション実習室
3	相互実習体験	実習	栗野 村岡 森川	相互実習室
4-5	病院見学実習(1)	実習	全員	病院
6-7	病院見学実習(2)	実習	全員	病院
8	実習総括、振り返り、グループワーク	実習	栗野 村岡 森川	72実習室

2017年度

臨床体験実習 (Early Clinical Exposure)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	52	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、森川 和政、高橋 由希子						
	口腔保健学科教員						

授業の概要

附属病院での患者体験・病院見学実習ならびにPBL実習を通して、患者の悩みや苦しみを理解し、患者本位の歯科医療を実践できる歯科医療人を育成することをめざす。更に、医療現場における問題点を指摘し、改善策が提案できる能力を引き出せるよう、また口腔保健学科の学生との合同実習により歯科衛生士の役割を知り、チーム医療の重要性について理解できるよう、歯科医師を目指す学生としてのプロフェッショナリズムを涵養する。

学生の到達目標

- 患者の権利を認識できる。
- 患者との信頼関係の重要性を認識できる。
- インフォームドコンセントの重要性を認識できる。
- 医療行為においてコミュニケーションの大切さを認識できる。
- 医療行為において優しさ、気遣いの重要性を認識できる。
- 患者の置かれている心理的状況を理解できる。
- 医療現場における問題点を探し出し、その改善策を提示することができる。
- 課題の内容と問題点を抽出して、文章または口頭でわかりやすく表現し、自分の考えを説明できる。
- 歯科医療における他の医療従事者の役割と連携を説明できる。
- 病院システムを把握し、教育機関としての病院の役割と、その問題点を探し出し、その改善策を提示することができる。
- 基本的診療器具を使用できる。
- 口腔衛生指導を体験する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	1				患者の権利を説明できる。
A	3				患者との信頼関係を築くことができる。
A	3				患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
A	4				インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。
A	4				説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
A	7	1)			信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
A	7	3)			患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
A	7	3)			医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
B	3	2)			口腔ケアの意義と効果を説明できる。
E	1	1)			歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
E	1	1)			診療室への患者の誘導を適切にできる。
E	1	1)			患者に挨拶して自己紹介できる。
E	1	1)			病歴聴取、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。
E	1	1)			診療室における患者の心理と行動を理解し配慮できる。
E	1	6)	(2)		口腔の健康度やリスクを評価し、対象者に説明できる。
E	1	6)			適切な口腔清掃法を指導できる。

2017年度

臨床体験実習 (Early Clinical Exposure)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	52	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、森川 和政、高橋 由希子						
	口腔保健学科教員						

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出欠状況	50%
レポート	40%
実習時の積極性・態度	10%

・実習の欠席は原則認めない。
・出欠状況50点満点（総点数より実習未修了は50点減点）、レポート評価40点満点（1レポートにつき1～10点、未提出総点数より10点減点で採点する）、実習時の積極性・態度（10点）により総合的に評価する。

その他

2017年度

臨床体験実習 (Early Clinical Exposure)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	52	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、森川 和政、高橋 由希子						
	口腔保健学科教員						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	総説 本授業に関する説明ならびに本学附属病院のシステムに関して学習する。	実習(説明)	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	401講義室 テュートリアル 演習室
2	テュートリアル(PBL)実習1 歯科医療について、グループ毎に考察を行い学習する。	PBL実習 発表・討論	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	401講義室 テュートリアル 演習室
3	PBL実習2 医療：歯科医療に関するテーマをグループ毎に学習する。	PBL実習	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	401講義室 テュートリアル 演習室
4	PBL実習2(全体討論) 医療：歯科医療に関するテーマを全体討論し学習する。	発表・討論	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	401講義室 テュートリアル 演習室
5	患者体験・病院見学実習説明 本学附属病院における患者体験実習に関する説明をする。	説明	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	401講義室 テュートリアル 演習室
6	PBL実習3(患者体験・病院見学実習のための準備) 患者体験実習における課題をグループ毎に抽出する。	PBL実習	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	401講義室 テュートリアル 演習室
7-8	患者体験実習1-2 患者体験を通じて、患者本位の歯科医療について学習する。	体験実習	全員	病院
9-16	患者体験実習3-12 患者体験を通じて、患者本位の歯科医療について考察し学習する。	体験実習 PBL実習	全員	病院 テュートリアル 演習室
17	PBL実習4 患者体験を通じて、患者本位の歯科医療について考察し学習する。	PBL実習	森川 口腔保健 学科教員	テュートリアル 演習室
18	診療体験実習・口腔衛生指導体験実習説明 診療体験実習ならびに口腔衛生指導体験実習について説明し、事前に必要な知識を学習する。	実習(説明)	森川 口腔保健 学科教員	401講義室
19-20	診療体験実習 相互実習を通じて、ユニットの操作法、介助ならびに口腔内診査の方法を学習する。	相互実習	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	相互実習室
21-22	口腔衛生指導体験実習 口腔衛生指導体験を通じて、指導時に必要な基本的な知識、態度、技能を学習する。	相互実習	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	相互実習室

2017年度

臨床体験実習 (Early Clinical Exposure)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	52	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、森川 和政、高橋 由希子						
	口腔保健学科教員						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
23	PBL実習5 チーム医療の重要性についてグループ討論を通じて学習する。	TBL実習	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	72実習室
24	PBL実習5 (全体発表・討論) チーム医療の重要性について全体討論を通じて学習する。	発表・討論	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	72実習室
25-26	総括・アンケート・レポート作成 授業の総括を行い、自分自身の歯科医療人としてのあり方について考察する。	実習 (総括)	栗野 森川 高橋 口腔保健 学科教員	401講義室

2017年度

臨床体験実習 (Early Clinical Exposure)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、村岡 宏祐 臨床実習運営部会教員 臨床系基礎実習責任者						

授業の概要

5年次生より始まる臨床実習を円滑に行うため、また3年次生及び4年次生に行ってきた臨床系科目での基礎実習を包括的に理解するため、本学附属病院における実際の臨床現場を見学し、振り返りを行っていく。

学生の到達目標

本学附属病院のシステムを理解する。
 医療現場におけるコミュニケーションの重要性を理解する。
 インフォームドコンセントの重要性を理解する。
 診断に至るまでの過程について理解する。
 治療方法ならびにそれに使用した器材、材料および薬剤について理解する。
 診療現場における問題点を抽出し解決方法を示す。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	4				インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。
A	7	1)			コミュニケーションの目的と技法（言語的と非言語的）を説明できる。
A	7	1)			信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
A	7	1)			コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
A	7	3)			患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
A	7	3)			医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
E	1				診療の基本に必要な基本的な知識、技能を理解する。
E	2				口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患を理解する。
E	3				歯と歯周組織の常態と疾患を理解する。
E	4				歯科医療の展開（不正咬合、小児の歯科治療、高齢者の歯科治療、障害者の歯科治療、心因性疾患、歯科医師に必要な医学的知識）を理解する。

テキスト

出) _____ 著)

参考書

出) _____ 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出欠状況	50%
レポート	40%

・実習の欠席は原則認めない。
 ・出欠状況50点満点（総点数より実習未修了は50点減点）、レポート評価40点満点（未提出総点数より5点減点で採点する。ただし最後のまとめレポートは10点満点で採点する）、実習時の積極性・態度（10点）により総合的に評価する。

2017年度

臨床体験実習 (Early Clinical Exposure)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、村岡 宏祐 臨床実習運営部会教員 臨床系基礎実習責任者						

評価項目	割合
実習時の積極性・態度	10%

その他

2017年度

臨床体験実習 (Early Clinical Exposure)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、村岡 宏祐 臨床実習運営部会教員 臨床系基礎実習責任者						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	実習説明 本授業の概要について説明する。	講義	栗野	501講義室
2	本学のクリニカルクラークシップについて	講義	栗野	501講義室
3	臨床系基礎実習の振り返り1 3年次に履修した臨床系基礎実習のポイントを振り返り学習する。	講義 実習	臨床実習 運営部会 委員	501講義室
4	臨床系基礎実習の振り返り2 4年次前期に履修した臨床系基礎実習のポイントを振り返り学習する。	講義 実習	臨床系基 礎実習責 任者	501講義室
5-14	病院見学実習1～10 本学附属病院における希望診療科での診療見学ならびに診療介助実習を通じて、歯科医療について学習する。	見学実習	臨床実習 運営部会 委員	病院
15	病院見学振り返り・まとめレポート作成 病院見学の振り返りを行い、まとめレポートを作成する。	実習	栗野	501講義室

2017年度

スキルアップ実習 (Clinical Skill-up Training)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	栗野 秀慈、村岡 宏祐、岩崎 正則、角田 聡子、安細 敏弘						

授業の概要

臨床実習に参加する前に必要なスキルである「水準1：指導者の指導・監視のもとに実施が許容される歯科医療行為」において、特に頻度が高いと考えられる内容に関して習得する。学生は、実際の診療を想定した相互実習を行い、診療参加型臨床実習の素地を養う。

学生の到達目標

口腔内診査ができる。
歯周ポケット測定ができる。
ブラッシング指導ができる。
スケーリングができる。
機械的歯面清掃(PMTC)ができる。
概形印象が採れる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
F	1				良好な患者 - 歯科医師関係を築くとともに、患者の情報を聴取し、診断をして治療計画を立てるための知識、技能および態度を修得する。
F	2	3)			口唇・口腔内の状態を診察できる。
F	2	3)			診察した口唇・口腔内状態を診療録に記載できる。
F	4				歯科診療を実施するために必要な医療安全・感染予防についての知識、技能および態度を修得する。
F	7	3)			歯周組織疾患の診察、検査、診断が正しくできる。
F	7	3)			正しくブラークコントロールができる。
F	7	3)			適切なスケーリング・ルートプレーニングができる。
F	8	2			印象採得を適切に行うことができる。

テキスト

歯科保存学・歯周病学実習書
出)

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習試験	70%
レポート	30%

・実習の欠席は原則認めない(欠席による実習未修了は総点数より50点減点)。
・実習試験は70満点で、レポートは30満点(未提出総点数より5点減点)で採点する。
ただし実習試験を受験するためにはすべての課題を終了することを条件とする。

2017年度

スキルアップ実習 (Clinical Skill-up Training)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	栗野 秀慈、村岡 宏祐、岩崎 正則、角田 聡子、安細 敏弘						

その他

2017年度

スキルアップ実習 (Clinical Skill-up Training)

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	栗野 秀慈、村岡 宏祐、岩崎 正則、角田 聡子、安細 敏弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1-2	口腔内診査・プローピング・TBI・超音波スケーリング・PMTC・印象採得	実習	全員	相互実習室
3-4	口腔内診査・プローピング・TBI・超音波スケーリング・PMTC・印象採得	実習	全員	相互実習室
5-6	口腔内診査・プローピング・TBI・超音波スケーリング・PMTC・印象採得	実習	全員	相互実習室
7-8	実習試験	実習	全員	72実習室 相互実習室

2017年度

スキルアップ実習 (Clinical Skill-up Training)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	40	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	粟野 秀慈、村岡 宏祐 (実習責任者)						
担当教員	粟野 秀慈、村岡 宏祐、小城 辰郎、河野 通直、河野 稔広、諸富 孝彦 臨床実習運営室員						

授業の概要

クリニカルクラークシップ と併行して自験に必要なスキルである「水準1：指導者の指導・監視のもとに実施が許容される歯科医療行為」において、特に頻度が高いと考えられる内容に関して習得する。学生は、実際の診療を想定した相互実習およびシミュレーション実習を行い、診療参加型臨床実習の素地を養う。

学生の到達目標

- 診療機器・器材の正しい取扱いができる。
- 診査用模型の作製ができる。
- 歯周ポケット測定ができる。
- ブラッシング指導ができる。
- スケーリングができる。
- 窩洞形成ができる(単純・複雑)。
- コンポジットレジン修復ができる。
- メタルインレー修復ができる(単純)。
- 根管治療ができる。
- 支台歯形成・修復処置(簡単なもの：支台築造・暫間修復 含む)ができる。
- 基本的な縫合操作と抜糸ができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
F	1				良好な患者 - 歯科医師関係を築くとともに、患者の情報を聴取し、診断をして治療計画を立てるための知識、技能および態度を修得する。
F	2	3)			口唇・口腔内の状態を診察できる。
F	2	3)			診察した口唇・口腔内状態を診療録に記載できる。
F	4				歯科診療を実施するために必要な医療安全・感染予防についての知識、技能および態度を修得する。
F	6				基本的な縫合操作、抜糸を実施できる。
F	7	1)			う蝕およびその他の硬組織疾患の治療のため、コンポジットレジン修復についての知識、技能および態度を修得する。
F	7	2)			根管拡大、根管洗浄が適切にできる。
F	7	2)			根管充填が適切にできる。
F	7	3)			歯周組織疾患の診察、検査、診断が正しくできる。
F	7	3)			正しくブラークコントロールができる。
F	7	3)			適切なスケーリング・ルートプレーニングができる。
F	8	1)			支台歯の状態に応じて適切な支台築造法を選択し、支台歯築造を実施できる。
F	8	1)			形成部位に応じて適切な支台歯形成用のバーの選択ができる。
F	8	1)			適切なハンドピース操作ができる。
F	8	1)			装着予定の歯冠補綴装置に応じて適切な支台歯形成ができる。
F	8	1)			テンポラリークラウン(ブリッジ)を作製し、支台歯に適切に仮着できる。

2017年度

スキルアップ実習 (Clinical Skill-up Training)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	40	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	粟野 秀慈、村岡 宏祐 (実習責任者)						
担当教員	粟野 秀慈、村岡 宏祐、小城 辰郎、河野 通直、河野 稔広、諸富 孝彦 臨床実習運営室員						

項1	項2	項3	項4	項5	内容
F	8	2)			印象採得を適切に行うことができる。

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習試験	70%
レポート	30%

- ・実習の欠席は原則認めない(欠席による実習未修了は総点数より50点減点)。
- ・実習試験は70満点で、レポートは30満点(未提出総点数より5点減点)で評価する。
- ただし実習試験を受験するためにはすべての課題を終了することを条件とする。

その他

2017年度

スキルアップ実習 (Clinical Skill-up Training)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	40	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	粟野 秀慈、村岡 宏祐 (実習責任者)						
担当教員	粟野 秀慈、村岡 宏祐、小城 辰郎、河野 通直、河野 稔広、諸富 孝彦 臨床実習運営室員						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1-2	スキルアップ実習1オリエンテーション (クリニカルクラークシップ オリエンテーション含)	講義	粟野 村岡	601講義室
3-4	A班: プローピング、TBI、超音波スケーリング、PMTC、印象採得、模型作成 B班: 窩洞形成 (class -) / コンポジットレジン修復	実習	全員	相互実習室 技工室 シミュレーション実習室
5-6	A班: プローピング、TBI、超音波スケーリング、PMTC、印象採得、模型作成 B班: 窩洞形成 (class -) / コンポジットレジン修復	実習	全員	相互実習室 技工室 シミュレーション実習室
7-8	B班: プローピング、TBI、超音波スケーリング、PMTC、印象採得、模型作成 A班: 窩洞形成 (class -) / コンポジットレジン修復	実習	全員	相互実習室 技工室 シミュレーション実習室
9-10	B班: プローピング、TBI、超音波スケーリング、PMTC、印象採得、模型作成 A班: 窩洞形成 (class -) / コンポジットレジン修復	実習	全員	相互実習室 技工室 シミュレーション実習室
11-12	インレー窩洞(複雑) 印象採得	実習	全員	シミュレーション実習室
13-14	抜髄(前歯/小臼歯)・根充	実習	全員	シミュレーション実習室
15-16	前歯/小臼歯支台築造(メタルコア印象・レジンコア)・支台歯形成	実習	全員	シミュレーション実習室
17-18	前歯/小臼歯TeC作成	実習	全員	シミュレーション実習室
19-20	抜髄(大臼歯)・根充	実習	全員	シミュレーション実習室
21-22	大臼歯支台築造(レジンコア)・支台歯形成	実習	全員	シミュレーション実習室
23-24	大臼歯TeC作成	実習	全員	シミュレーション実習室
25-26	FMC、メタルコア除去	実習	全員	シミュレーション実習室
27-28	縫合、抜糸	実習	全員	シミュレーション実習室
29-30	実習試験	実習	全員	シミュレーション実習室

2017年度

スキルアップ実習 (Clinical Skill-up Training)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	40	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	粟野 秀慈、(実習責任者)村岡 宏祐						
担当教員	粟野 秀慈、村岡 宏祐、小城 辰郎、河野 稔広、吉居 慎二 臨床実習運営室員						

授業の概要

クリニカルクラークシップ と併行して自験に必要なスキルである「水準1：指導者の指導・監視のもとに実施が許容される歯科医療行為」において、特に頻度が高いと考えられる内容に関して習得する。

学生の到達目標

診療機器・器材の正しい取扱いができる。
窩洞形成ができる(単純・複雑)。
コンポジットレジン修復ができる。
メタルクラウンとメタルコアの除去ができる。
根管治療ができる。
支台歯形成ができる。
テンポラリークラウンを作製できる。
メタルクラウンの研磨ができる。
レジン床義歯の研磨ができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
F	4				歯科診療を実施するために必要な医療安全・感染予防についての知識、技能および態度を修得する。
F	7	1)			う蝕およびその他の硬組織疾患の治療のため、コンポジットレジン修復についての知識、技能および態度を修得する。
F	7	2)			根管拡大、根管洗浄が適切にできる。
F	7	2)			根管充填が適切にできる。
F	8	1)			支台歯の状態に応じて適切な支台築造法を選択し、支台歯築造を実施できる。
F	8	1)			形成部位に応じて適切な支台歯形成用のバーの選択ができる。
F	8	1)			適切なハンドピース操作ができる。
F	8	1)			装着予定の歯冠補綴装置に応じて適切な支台歯形成ができる。
F	8	1)			テンポラリークラウン(ブリッジ)を作製し、支台歯に適切に仮着できる。
F	8	2)			印象採得を適切に行うことができる。

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

2017年度

スキルアップ実習 (Clinical Skill-up Training)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	40	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈、(実習責任者)村岡 宏祐						
担当教員	栗野 秀慈、村岡 宏祐、小城 辰郎、河野 稔広、吉居 慎二 臨床実習運営室員						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
総合評価	100%

- ・実習の欠席は原則認めない(欠席による実習未修了は総点数より50点減点)。
- ・実習試験(PCC?OSCE)は100点満点で評価する。ただし実習試験を受験するためにはすべての課題を終了することを条件とする。

その他

2017年度

スキルアップ実習 (Clinical Skill-up Training)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	実習	時間数	40	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	粟野 秀慈、(実習責任者)村岡 宏祐						
担当教員	粟野 秀慈、村岡 宏祐、小城 辰郎、河野 稔広、吉居 慎二 臨床実習運営室員						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	研磨(床用レジン, 金属, 硬質レジンなど)(A班)	実習	全員	シミュレーション実習室
2	FMCの調整と合着(練和トレーニング) FMCの除去とメタルコアの除去(A班)	実習	全員	シミュレーション実習室
3	窩洞形成(class -) / コンポジットレジン修復(A班)	実習	全員	シミュレーション実習室
4	インレー窩洞(複雑) 印象採得(A班)	実習	全員	シミュレーション実習室
5	抜髄(前歯/小臼歯)・根充(A班)	実習	全員	シミュレーション実習室
6	抜髄(大臼歯)・根充(A班)	実習	全員	シミュレーション実習室
7	前歯/小臼歯支台築造(メタルコア印象・レジンコア)・支台歯形成(A班)	実習	全員	シミュレーション実習室
8	大臼歯支台築造(レジンコア)・支台歯形成(A班)	実習	全員	シミュレーション実習室
9	前歯・小臼歯テンポラリークラウンの作製(A班)	実習	全員	シミュレーション実習室
10	大臼歯テンポラリークラウンの作製(A班)	実習	全員	シミュレーション実習室
11	研磨(床用レジン, 金属, 硬質レジンなど)(B班)	実習	全員	シミュレーション実習室
12	FMCの調整と合着(練和トレーニング) FMCの除去とメタルコアの除去(B班)	実習	全員	シミュレーション実習室
13	窩洞形成(class -) / コンポジットレジン修復(B班)	実習	全員	シミュレーション実習室
14	インレー窩洞(複雑) 印象採得(B班)	実習	全員	シミュレーション実習室
15	抜髄(前歯/小臼歯)・根充(B班)	実習	全員	シミュレーション実習室
16	抜髄(大臼歯)・根充(B班)	実習	全員	シミュレーション実習室
17	前歯/小臼歯支台築造(メタルコア印象・レジンコア)・支台歯形成(B班)	実習	全員	シミュレーション実習室
18	大臼歯支台築造(レジンコア)・支台歯形成(B班)	実習	全員	シミュレーション実習室
19	前歯・小臼歯テンポラリークラウンの作製(B班)	実習	全員	シミュレーション実習室
20	大臼歯テンポラリークラウンの作製(B班)	実習	全員	シミュレーション実習室

2017年度

クリニカルクラークシップ (Clinical Clerkship)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	8
授業方法	実習	時間数	250	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、歯学部長、歯学科長、附属病院長 臨床実習運営室長、臨床系教員						

授業の概要

専門分野における歯科医療を理解し、併せて診療参加型臨床実習に必要な基本的歯科医療の知識、態度、技能を習熟させる。

学生の到達目標

- 全人的歯科医療を説明する。
- 歯科医療従事者としての必要な態度を実践する。
- 歯科における医療安全・感染予防を習得する。
- 歯科医療制度を説明する。
- 歯科医療におけるMinimal Intervention を説明する。
- 一口腔単位の歯科診療を説明する。
- 専門分野における歯科医療を説明する。
- 地域医療を説明する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
F					全項目

テキスト

出) (著)

参考書

国家試験問題集
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
右記	100%

- 5年次クリニカルクラークシップ 評価の合格基準は以下の通りとする。
- ・規定の出席日数を満たすこと。
 - ・規定の必須項目(必須ケース、リンクノート、レポート提出、試問の合格等)を取得すること。
 - ・知識検定試験1で規定の合格基準を満たすこと。

その他

- (使用テキスト)
- ・臨床実習の手引き
 - ・臨床実習手帳
 - ・リンクノート
 - ・スケジュールブック
 - ・ケース表
 - ・臨床実習連携手帳
 - ・自験ガイドライン

2017年度

クリニカルクラークシップ (Clinical Clerkship)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	8
授業方法	実習	時間数	250	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、歯学部長、歯学科長、附属病院長 臨床実習運営室長、臨床系教員						

授業計画

第2 総合診療科での診療参加型臨床実習の他、総合歯科教育ユニット（保存治療科、歯周病科、義歯科、口腔インプラント科）、専門外来教育ユニット（口腔外科・病棟、口腔内科、歯科麻酔科、あんしん科、口腔環境科、歯科放射線科、小児歯科、矯正歯科）、医系教育ユニット（内科、外科）において臨床実習を行う。

本実習時間内で、併行して高齢・障害者歯科学実習、臨床救急救命実習を実施する。

2017年度

クリニカルクラークシップ (Clinical Clerkship)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	30
授業方法	実習	時間数	1000	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、歯学部長、歯学科長、附属病院長 臨床実習運営室長、臨床系教員						

授業の概要

診療参加型臨床実習を通じて、実際に様々な患者に接する中で、患者本位の医療を実践し、基本的歯科医療に必要な知識、態度、技能を習熟させる。

学生の到達目標

- 全人的歯科医療を説明する。
- 歯科医療従事者としての必要な態度を実践する。
- 歯科における医療安全・感染予防を習得する。
- 歯科医療制度を習得する。
- 歯科医療におけるMinimal Intervention を実践する。
- 一口腔単位の歯科診療を実践する。
- 専門分野において先進的歯科医療を体験する。
- 地域医療を体験する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
F					全項目

テキスト

出) (著)

参考書

国家試験問題集
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
右記	100%

- 5年次クリニカルクラークシップ 評価の合格基準は以下の通りとする。
- ・規定の出席日数を満たすこと。
 - ・規定の必須項目(必須ケース、リンクノート、レポート提出、試問の合格等)を取得すること。
 - ・臨床能力検定試験1において規定の合格基準を満たすこと。
 - ・知識検定試験 において規定の合格基準を満たすこと。

その他

- (使用テキスト)
- ・臨床実習の手引き
 - ・臨床実習手帳
 - ・リンクノート
 - ・スケジュールブック
 - ・ケース表
 - ・臨床実習連携手帳
 - ・自験ガイドライン

2017年度

クリニカルクラークシップ (Clinical Clerkship)

開講年次	5年	期区分	後期	科目	必修	単位数	30
授業方法	実習	時間数	1000	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、歯学部長、歯学科長、附属病院長 臨床実習運営室長、臨床系教員						

授業計画

第2 総合診療科を基盤に、その他総合歯科教育ユニット（保存治療科、歯周病科、義歯科、口腔インプラント科）、専門外来教育ユニット（口腔外科・病棟、口腔内科、歯科麻酔科、あんしん科、口腔環境科、歯科放射線科、小児歯科、矯正歯科）、医系教育ユニット（内科、外科）においても自験中心の診療参加型臨床実習を行い、加えて訪問診療ならびに周術期口腔機能管理等の学外実習を行う。
本実習時間内に併行してスキルアップ実習を行う。

2017年度

クリニカルクラークシップ (Clinical Clerkship)

開講年次	6年	期区分	前期	科目	必修	単位数	30
授業方法	実習	時間数	1000	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、歯学部長、歯学科長、附属病院長 臨床実習運営室長、臨床系教員						

授業の概要

診療参加型臨床実習を通じて、実際に様々な患者に接する中で、患者本位の医療を実践し、基本的歯科医療に必要な知識、態度、技能を習得させる。

学生の到達目標

- 全人的歯科医療を習得する。
- 歯科医療従事者としての必要な態度を習得する。
- 歯科における医療安全・感染予防を習得する。
- 歯科医療制度を習得する。
- 歯科医療におけるMinimal Intervention を実践する。
- 一口腔単位の歯科診療を習得する。
- 専門分野において先進的歯科医療を体験する。
- 地域医療を実践する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
F					全項目

テキスト

出) (著)

参考書

国家試験問題集
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
右記	100%

- 6年次クリニカルクラークシップ 評価の合格基準は以下の通りとする。
- ・規定の出席日数を満たすこと。
 - ・規定の必須項目(必須ケース、リンクノート、レポート提出、試問の合格等)を取得すること。
 - ・臨床能力検定試験2において規定の合格基準を満たすこと。
 - ・知識検定試験3で規定の合格基準を満たすこと。

その他

- (使用テキスト)
- ・臨床実習の手引き
 - ・臨床実習手帳
 - ・リンクノート
 - ・スケジュールブック
 - ・ケース表
 - ・臨床実習連携手帳
 - ・自験ガイドライン

2017年度

クリニカルクラークシップ (Clinical Clerkship)

開講年次	6年	期区分	前期	科目	必修	単位数	30
授業方法	実習	時間数	1000	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈、歯学部長、歯学科長、附属病院長 臨床実習運営室長、臨床系教員						

授業計画

第2 総合診療科を基盤に、その他総合歯科教育ユニット（保存治療科、歯周病科、義歯科、口腔インプラント科）、専門外来教育ユニット（口腔外科・病棟、口腔内科、歯科麻酔科、あんしん科、口腔環境科、歯科放射線科、小児歯科、矯正歯科）、医系教育ユニット（内科、外科）において自験中心の診療参加型臨床実習を行い、加えて訪問診療ならびに周術期口腔機能管理等の学外実習を行う。
本実習時間内に併行して必要に応じてスキルアップ実習を行う。

2017年度

歯科医療リスクマネジメント

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	大渡 凡人						
担当教員	大渡 凡人						

授業の概要

1. 重篤な全身疾患を有する高齢者の歯科治療を安全に行うためのリスクマネジメントを医学的エビデンスを基に解説する。
2. TBLを活用し、学生自身が自力で医学情報を収集し、プロブレムリストを作製し、包括的なリスクマネジメント計画を医学的エビデンスに基づいて立案できるよう導く。

学生の到達目標

重篤な全身疾患を有する高齢者の歯科治療を安全に行うためのリスクマネジメントの基礎を理解し、医学的エビデンスに基づいて説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	4	6)			歯科医師に必要な医学的知識
E	4	3)			高齢者の歯科治療
E	1	5)			救急処置
E	1	3)			全身管理
C	5	4)			薬物の副作用と有害作用
C	4	3)			循環障害
C	2	3)	(11)		血液、造血器、リンパ性器官
C	2	3)	(9)		泌尿器系
C	2	3)	(8)		内分泌系
C	2	3)	(7)		呼吸器系
C	2	3)	(5)		神経系
C	2	3)	(3)		循環器系
A	7	3)			患者中心のチーム医療
A	7	2)			医療面接
A	5	2)			医療上の事故等への対処と予防
A	5	1)			安全性の確保
A	5				歯科医療における安全性への配慮と危機管理

テキスト

全体的偶発症とリスクマネジメント 高齢者歯科診療のストラテジー
出) 医歯薬出版 著) 大渡凡人

参考書

Dental Management Of The Medically Compromised Patient 8ed.
出) Mosby 著) James W. Little et al

2017年度

歯科医療リスクマネジメント

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	大渡 凡人						
担当教員	大渡 凡人						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレテスト	30%
ポストテスト	40%
TBLにおける発表	30%

その他

2017年度

歯科医療リスクマネジメント

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	大渡 凡人						
担当教員	大渡 凡人						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	総論 1.加齢と老化、その概念と仮説 2.高齢者の生理学的・精神医学的特徴 3.高齢者の人口動態と医療経済的側面 4.高齢歯科患者の実態 5. 歯科治療に必要なリスクマネジメント 6. 治療前のリスクマネジメント 6-1 術前状態評価 6-1-1. 患者情報収集 6-1-2. 全身状態評価	講義 (TBL)	大渡	テュートリアル演習室
2	7. 治療中のリスクマネジメント 7-1 局所麻酔 7-2 モニタリング 7-3 血小板凝集抑制剤とワルファリン、NOACs	講義 (TBL)	大渡	テュートリアル演習室
3	7 治療後の基本的注意点と対策 7-1 . 高齢者の薬剤処方における注意点 7-2.実際の投薬はどうか 7-2-1 抗菌薬 7-2-2 NSAIDs非ステロイド性抗炎症薬	講義 (TBL)	大渡	テュートリアル演習室
4	各論: 全身疾患と歯科治療 1. 循環器疾患と歯科治療 1-1 血圧異常 1-1-1 高血圧 1-1-2 低血圧 1-2 虚血性心疾患 1-2-1 狭心症 1-2-2 心筋梗塞 1-3 不整脈 1-3-1 心房細動 1-3-2 リスクの高いその他の不整脈	講義 (TBL)	大渡	テュートリアル演習室
5	1. 循環器疾患と歯科治療(続き) 1-4心不全 1-5心臓弁膜症と感染性心内膜炎 1-5-1 歯科疾患との関連 1-5-2 NICE2008のインパクト 1-6 成人先天性心疾患 1-7 心筋疾患 1-8大動脈疾患 1-9 不整脈デバイスと最新のME 1-9-1 ペースメーカー,ICD,CRT 1-9-2 カテーテルアブレーション 1-9-3 補助人工心臓 TAVIその他	講義 (TBL)	大渡	テュートリアル演習室
6	2.神経疾患と歯科治療 2-1 脳血管障害 2-2 認知症 2-3 パーキンソン病とパーキンソニズム 2-4 脊髄小脳変性疾患 2-5 失神・めまい 3.精神障害と歯科治療 4.呼吸器疾患と歯科治療 5 代謝疾患と歯科治療	講義 (TBL)	大渡	テュートリアル演習室

2017年度

歯科医療リスクマネジメント

開講年次	4年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	大渡 凡人						
担当教員	大渡 凡人						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
7	6 内分泌疾患と歯科治療 7 腎尿路疾患と歯科治療 7-1. 腎不全 7-2. 血液透析 8 肝疾患と歯科治療 9 血液疾患と歯科治療 10 膠原病と歯科治療	講義 (TBL)	大渡	テュートリアル演習室
8	11 心電図の基礎と解析 12 誘導心電図実習	講義 (TBL)	大渡	テュートリアル演習室

2017年度

連携医学（小児科学）（Pediatrics）

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	〔非常勤講師〕河田 泰定						

授業の概要

- ・小児の正常な成長（形態的特性）および発達（機能的特性）について理解する。
- ・小児期特有の主要な疾患について、その概念、症状、治療などについて学習する。
- ・歯科医師として必要な小児科診療上の知識を習得する。

学生の到達目標

- ・小児の一般的特性および代表的疾患について理解する。子どもの接し方なども会得する。
- 疾患については、概念、病因、臨床像、治療法、予後などを理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

出) (著)

参考書

小児・思春期診療 最新マニュアル 日本医師会雑誌 第141巻 特別号
(1)平成24年
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認試験	60%
出席	40%

- ・出席について；1回欠席-10点，遅刻・早退-5点。-30点以上で受験資格なし不合格。
- ・確認試験は ×問題と選択問題(選択肢5題中2個など)，最終日は必ず出席のこと。

その他

(学習相談) 授業中ないし講義終了毎に受けつける。ただし、試験に関する質問は受けつけない。

2017年度

連携医学（小児科学）（Pediatrics）

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	〔非常勤講師〕河田 泰定						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	小児概論，小児のBLS (Basic Life Support)，歯科国家試験出題基準 小児の一般的発育・発達について基礎知識を学ぶ。病気になった時，小児科診療の流れについて、大まかに把握する。小児の一次救急の実際を自分でできる程度習得する。小児科関連の国家試験出題基準。	講義	河田	601講義室
2	新生児，先天異常・遺伝性の病気 新生児特有の病態，疾患の基礎知識を獲得する。低出生体重児，母子感染(ToRCH)など。先天異常について；ダウン症，口唇口蓋裂など一般的病気。稀ではあるが，歯科医として知っておくべき疾患；Pierre Robin症候群等。	講義	河田	601講義室
3	神経・筋肉・骨の病気 神経疾患；熱性けいれん，てんかん，脳性まひなど。筋肉の病気；脊髄性筋萎縮症，筋ジストロフィーなど。骨の病気；骨形成不全症，軟骨無形成症など。	講義	河田	601講義室
4	呼吸・循環・消化器の病気 呼吸器；インフルエンザ，肺炎など。循環器；先天性心奇形，感染性心内膜炎，川崎病など。消化器；口腔内疾患，腸重積，急性虫垂炎など。	講義	河田	601講義室
5	感染症、免疫、アレルギーの病気 感染症；各種炎症性疾患，発疹症など。免疫；免疫不全，SLE，若年性特発性関節炎(JIA)など。アレルギー；気管支喘息、アトピー性皮膚炎など。	講義	河田	601講義室
6	血液・腎・腫瘍の病気 血液；鉄欠乏性貧血，再生不良性貧血，血小板減少性紫斑病，血友病など。腎臓；ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎など。小児白血病，脳腫瘍など。	講義	河田	601講義室
7	心身症・精神疾患・内分泌の病気 心身症；不登校，起立性調節障害，摂食障害など。小児精神；発達障害など。内分泌；低身長症，クルル症など。 1-7回のまとめ	講義	河田	601講義室
8	まとめ（歯科国家試験から）過去問を解説する。 最後：確認テスト(約30分)	まとめ&確認試験	河田	601講義室

2017年度

連携医学（精神医学）（Psychiatry）

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	〔非常勤講師〕稲員 修平						

授業の概要

歯科医療現場においても、精神疾患を抱えた患者への対応が求められる場合がある。その際には、患者がより安心して歯科診療を受けられるように、各精神疾患の特徴に応じた関わりや配慮が伴うことが望ましい。

本講義では、「精神医学の基礎的知識と精神医療の基本スキルを学ぶこと」、「各精神疾患に応じた支持的アプローチや心理的援助の方法について学び、歯科医療者として精神疾患を抱えた患者の診療にあたる際の心理的支援スキルの向上を図ること」、「各精神疾患について理解し、必要に応じて専門医との連絡や協力ができる力を身につけること」を目的としている。講義は、各精神疾患についての知識と対応方法を中心に進める予定である。

学生の到達目標

精神医学および精神医療の特徴や特質を理解する。

患者の状態像や精神症状について精神医学用語を用いて理解し、適切に表現することができる。

各精神疾患について理解し、基本的な精神医療的な対応方法や姿勢を身につけている。

コンサルテーション・リエゾン精神医学について理解し、専門医との協力関係を築けるようになる。

歯科医療の場において、精神疾患を抱えた患者へ、精神医学的な知識を活用して支持的な対応を行える。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

出) (著)

参考書

精神医学テキスト 第6版

出)医学出版社

著)森温理 著

学生のための精神医学 第2版

出)医歯薬出版

著)太田保之・上野武治 / 編集

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	60%
出席	40%

その他

(学習相談) 授業中や授業の後に質問を受けつける。

2017年度

連携医学（精神医学）（Psychiatry）

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	〔非常勤講師〕稲員 修平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	精神医学における症状、診断、 コンサルテーション・リエゾン精神医学 精神医学における症状のとらえ方や診断の方法について、精神医学や診断方法の歴史的な変遷をふまえながら、基本的な視点を学ぶ。コンサルテーション・リエゾン精神医学について学び、精神科医との連携の方法を知る。	講義	稲員	601講義室
2	統合失調症 統合失調症の病因や症状について学ぶ。 統合失調症患者への支持的アプローチについて学ぶ。	講義	稲員	601講義室
3	統合失調症、気分障害、身体因性の精神障害、物質関連障害 統合失調症患者への支持的アプローチについて学ぶ。 気分障害の病因、症状、治療について学ぶ。 身体因性および物質関連性の精神障害について、基本的な病因や症状について学ぶ。	講義	稲員	601講義室
4	パーソナリティ障害 パーソナリティ障害とはどのような疾患であるか、性格や心の発達、心の構造的な理解という視点をふまえながら学ぶ。各パーソナリティ障害の基本的特徴について学ぶ。	講義	稲員	601講義室
5	心因性精神障害 心因性の精神障害について、力動的な精神医学や認知行動療法の視点などを参考にしながら、症状の発生メカニズムや各疾患の特徴、支持的アプローチについて学ぶ。	講義	稲員	601講義室
6	心因性精神障害・摂食障害 心因性の精神障害について、力動的な精神医学や認知行動療法の視点などを参考にしながら、症状の発生メカニズムや各疾患の特徴について学ぶ。 摂食障害の症状や病因、支持的アプローチについて学ぶ。	講義	稲員	601講義室
7	発達障害 発達障害の症状や診断基準について、具体的な事例を参考にしながら、基礎的な視点を学ぶ。また、支持的アプローチについて、TEEACHプログラムの考え方に基づいて学ぶ。	講義	稲員	601講義室
8	確認テスト	テスト	稲員	601講義室

2017年度

連携医学（医療心理学） (Medical Psychology)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	〔非常勤講師〕安田 弘之						

授業の概要

適切な歯科医師-患者関係の構築は、よりよい診療を行うための基盤であるとともに、トラブル発生防止のためにも重要なものである。歯科医師-患者関係は人間関係のひとつであることを認識し、歯科医師は患者の心情に心を配りながら接し、説明等を行っていかなければならない。その際に留意すべき様々な点について説明する。さらに、歯科心身症について解説する。歯科心身症は自覚症状と他覚所見との間に乖離がみられ、医療者側の対応によっては診療上のトラブルを引き起こすこともみられる病態である。歯科医師として、歯科心身症患者に適切に対応できるための知識が得られるよう、各種関連疾患を含めて解説を行う。

学生の到達目標

診療場面でみられる患者の様々な心理に対する知識を持ち、これに配慮できる。
歯科心身症の病態・症状を理解し、適切に対処できるための知識を得る。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

院内ルールと医師のマナー
出)エルゼビア・ジャパン

著)日野原重明

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
テキストに対するレポート(第6回講義前に提出)	20%
確認テスト	80%

毎回、講義に対する質問を提出し、次回に回答を行う。
第6回目には、これまでの授業全体に対する感想および質問を提出する。

不合格者には再試験を実施。再試験はレポートを実施する。

その他

電話、FAXにて質問に応じる。

2017年度

連携医学（医療心理学） (Medical Psychology)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	〔非常勤講師〕安田 弘之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	患者心理理解のための総論 適切な歯科医師-患者関係の構築、患者への説明における注意点等について学ぶ。 身体症状を訴えるものの、器質的異常を認めない患者への適切な対応について学ぶ。	講義	安田	601講義室
2	気分障害 気分障害患者に対し、歯科治療上留意すべき点について学ぶ。	講義	安田	601講義室
3	身体表現性障害 口腔領域に主訴を持つ身体表現性障害患者の特徴を学ぶ。 歯科治療を求めて来院した本症患者に対して、歯科医師としての対処法および専門医への紹介の仕方について学ぶ。	講義	安田	601講義室
4	口臭恐怖症 口臭恐怖症を理解するため、口臭以外の症例を含め自己臭恐怖の症状の特徴について全般的に学ぶ。 口臭恐怖症を鑑別するための知識および適切な対応について学ぶ。	講義	安田	601講義室
5	不安障害 パニック障害の病態、症状を基本モデルとして学ぶ。 歯科治療に不安を抱く不安障害患者の心理を理解し、歯科治療を行う上での適切な対応について学ぶ。	講義	安田	601講義室
6	歯科診療における向精神薬への臨床的理解 歯科診療において、向精神薬の副作用（唾液分泌の減少に伴う症状等）は、しばしば診るところであるが、これを診た時、原疾患への配慮とともに患者心理への配慮も併せて行わなければならない。患者を全人的に診る上での必要な知識について学ぶ。	講義	安田	601講義室
7	テキスト「院内ルールと医師のマナー」を基に、患者への対応および医療者としてのあり方の確認 臨床現場における様々な患者心理への理解と適切な対応について考え、学ぶ。	講義	安田	601講義室
8	確認テスト	テスト	安田	601講義室

2017年度

連携医学（連携医学） (Medical Cooperation)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	34	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、大渡 凡人、藤井 航、〔非常勤講師〕古田 功彦、〔非常勤講師〕喜久田 利弘、〔非常勤講師〕笠井 新一郎、〔非常勤講師〕村岡 衛、〔非常勤講師〕尼田 覚、〔非常勤講師〕高島 健、〔非常勤講師〕中島 健、〔非常勤講師〕大野 友久、〔非常勤講師〕小柳 靖裕、〔非常勤講師〕鈴木 裕也、〔非常勤講師〕賀屋 邦彦、〔非常勤講師〕瀬戸口 雅裕						

授業の概要

（周術期口腔機能管理）

がん治療では治療によって起こる諸問題を多職種でサポートすることが患者のQOLの維持には欠かせない。がん治療や心臓血管手術の合併症を低減させるためには、支持療法が重要であり、口腔機能管理もその一つである。また緩和医療でも口腔のトラブルは多彩で、それに対応することが求められる。授業では歯科医師がこれらの医療において果たすべき役割について学ぶ。

（救急医学）

救急医療には多職種の関与が欠かせない。救急の現場では患者の状況が変化しやすく、その状況に応じてそれぞれの職種がそれぞれの専門的知識や技術を根拠に診療に加わる。授業では救急医療における歯科医師の役割について学ぶ。

（音声言語医学）

口蓋裂や舌強直症、頭頸部がんの術後など言語機能に問題を生じる疾患は多い。授業では言語機能検査および構音機能リハビリテーションについて学ぶ。

（産婦人科学）

代表的な婦人科疾患と妊娠、分娩、出産について学習する。

（頭痛学）

口腔顎顔面痛と鑑別が必要な頭痛の診断と治療について学ぶ。

（急性期病院でのチーム医療）

急性期病院での歯科医師の役割とその概要について学ぶ。

（リハビリテーション医学）

リハビリテーション医学は、疾病により生じた障害の診断（評価）と治療（リハビリ）を実施し、社会的・心理的再適応を含め、家庭復帰や社会復帰までを直接取り扱う臨床医学である。歯科医療とリハビリテーション医学との関連は深く「障害者歯科」関連の発達も著しい。本講義では、歯科治療を行うにあたり、頻度の多い障害に対する評価や対応、リハビリテーションの実際について概説する。

（耳鼻咽喉科学）

現在の医学分野では、飛躍的な進歩を遂げつつあり、数年前までは最新医歯学であったものが今日では当たり前のものになっている。又、細分化も非常に進み、その分野での専門家も多数存在するようになった。耳鼻咽喉科領域も同様である。歯科領域と耳鼻咽喉科領域は、非常に密接な関係があり、耳鼻咽喉科学（耳科学・めまい学・鼻副鼻腔学・口腔咽頭頭頸学など）を学ぶことは、諸君の将来にきっと役立つことと信じて疑わない。

学生の到達目標

（周術期口腔機能管理）

- 頭頸部がん治療における口腔のトラブルと口腔機能管理について概説できる。
- 消化器がん・呼吸器がん治療における口腔のトラブルと口腔機能管理について概説できる。
- 血液がん治療における口腔のトラブルと口腔機能管理について概説できる。
- 心臓血管外科治療における口腔のトラブルと口腔機能管理について概説できる。
- 緩和医療における口腔のトラブルと口腔機能管理について概説できる。

（救急医学）

- 初期救急について概説できる。
- 救急時の診察について説明できる。
- 救急病態疾患の鑑別について説明できる。
- 重要臓器の機能状態の把握について説明できる。
- 顔面頸部外傷(高エネルギー外傷)について説明できる。

（音声言語医学）

- 言語障害を概説できる。
- 言語機能検査について説明できる。
- 呼吸持続時間の測定、発声持続時間の測定、発語明瞭度検査、単音節復唱検査、パラトグラム検査、鼻咽腔閉鎖機能検査について説明できる。

。ブローイング検査、発声言語の聴覚判定、鼻漏出検査、構音機能リハビリテーションについて説明できる。

（産婦人科学）

- 代表的な婦人科疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、更年期障害、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌）を説明できる。
- 妊娠、分娩、産褥の生理と代表的な異常妊娠（子宮外妊娠、妊娠中毒症、前置胎盤、切迫早産）を説明できる。
- 妊産期の就労者の健康管理について説明できる。

（頭痛学）

- 片頭痛について説明できる。
- 緊張型頭痛について説明できる。
- 群発頭痛について説明できる。

（急性期病院でのチーム医療）

- 急性期病院でチーム医療について説明できる。
- 急性期病院でチーム医療において歯科医師が果たす役割を説明できる。

2017年度

連携医学（連携医学） (Medical Cooperation)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	34	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、大渡 凡人、藤井 航、〔非常勤講師〕古田 功彦、〔非常勤講師〕喜久田 利弘、〔非常勤講師〕笠井 新一郎、〔非常勤講師〕村岡 衛、〔非常勤講師〕尼田 覚、〔非常勤講師〕高島 健、〔非常勤講師〕中島 健、〔非常勤講師〕大野 友久、〔非常勤講師〕小柳 靖裕、〔非常勤講師〕鈴木 裕也、〔非常勤講師〕賀屋 邦彦、〔非常勤講師〕瀬戸口 雅裕						

（リハビリテーション医学）

リハビリテーション医学の対象となる障害を理解する。

リハビリテーション課題・評価・訓練を理解する。

多職種が参加するリハビリテーションのチームアプローチについて理解する。

（耳鼻咽喉科学）

耳（外耳・中耳・内耳）、鼻副鼻腔、咽頭・喉頭、頸部及び、耳下腺・顎下腺・舌下腺の解剖、機能を理解し、それらの疾患についての検査法及び治療法などを理解し、将来これらの知識を的確に実践し、必要があれば専門医に紹介できるようになる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
B	3	2)			口腔ケアの意義と効果を説明できる。
E	1	1)			口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。
E	1	3)	(1)		バイタルサインを列挙し、説明できる。
E	1	5)			歯科治療時の全身合併症（偶発症）を説明できる。
E	1	5)			意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。
E	1	5)			気道閉塞および気道確保法を説明できる。
E	2	4)	(5)		言語障害を概説できる。
C	2	3)	(10)		女性生殖器の構造と機能を説明できる。
E	4	6)			妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。
E	1	3)	(1)		妊婦、授乳婦の歯科治療時の注意点を説明できる。
E	2	4)	(8)		三叉神経痛の原因、症状および治療法を説明できる。
E	2	4)	(8)		口腔・顔面痛について概説できる。
A	7	3)			患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
A	7	3)			医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
E	4	3)			摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。
E	4	3)			摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。
E	4	4)			障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
E	4	4)			障害者の行動調整（行動管理）と歯科治療に必要な注意点を説明できる。
E	4	4)			障害者およびその介護者に対して歯科保健指導ができる。
E	4	4)			障害者における口腔ケア処置について説明できる。
E	4	4)			障害者に対する基本的な対応ができる。

2017年度

連携医学（連携医学） (Medical Cooperation)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	34	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、大渡 凡人、藤井 航、〔非常勤講師〕古田 功彦、〔非常勤講師〕喜久田 利弘、〔非常勤講師〕笠井 新一郎、〔非常勤講師〕村岡 衛、〔非常勤講師〕尼田 覚、〔非常勤講師〕高島 健、〔非常勤講師〕中島 健、〔非常勤講師〕大野 友久、〔非常勤講師〕小柳 靖裕、〔非常勤講師〕鈴木 裕也、〔非常勤講師〕賀屋 邦彦、〔非常勤講師〕瀬戸口 雅裕						

テキスト

プリントを配布する。
出) 著)

著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦 編

口腔内科学
出)永末書店

著)山根源之

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	100%

その他

(教員名 : オフィスアワー)
 ・吉岡 泉 : 月~金 : 17:00~
 ・大渡凡人
 ・藤井 航

2017年度

連携医学（連携医学） (Medical Cooperation)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	34	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、大渡 凡人、藤井 航、〔非常勤講師〕古田 功彦、〔非常勤講師〕喜久田 利弘、〔非常勤講師〕笠井 新一郎、〔非常勤講師〕村岡 衛、〔非常勤講師〕尼田 覚、〔非常勤講師〕高島 健、〔非常勤講師〕中島 健、〔非常勤講師〕大野 友久、〔非常勤講師〕小柳 靖裕、〔非常勤講師〕鈴木 裕也、〔非常勤講師〕賀屋 邦彦、〔非常勤講師〕瀬戸口 雅裕						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	周術期口腔機能管理 頭頸部がん治療・消化器がん・呼吸器がん治療における口腔機能管理について学習する。	講義	古田	601講義室
2	急性期病院でのチーム医療 急性期病院での歯科医師の役割とその概要について学習する。	講義	中島	601講義室
3	救急医学 救急医療における歯科医師の役割について学習する。	講義	喜久田	601講義室
4	産婦人科学 代表的な婦人科疾患について学習する。	講義	尼田	601講義室
5	産婦人科学 妊娠、分娩、産褥の生理と異常妊娠について学習する。	講義	高島	601講義室
6	緩和医療における口腔機能管理 緩和医療における口腔機能管理について学習する。	講義	大野	601講義室
7	頭痛学 口腔顎顔面痛と鑑別が必要な頭痛の診断と治療について学習する。	講義	村岡	601講義室
8	音声言語医学 言語機能検査・構音機能リハビリテーションについて学習する。	講義	笠井	601講義室
9	リハビリテーション医学1 リハビリテーション総論・神経筋疾患 リハビリテーション医学の定義、特徴、障害分類、評価法、日常生活動作などについて学習する。 パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、筋障害の病態とリハビリテーションについて学習する。	講義	小柳	601講義室
10	リハビリテーション医学2 急性期、回復期におけるリハビリテーション・脳卒中・骨関節疾患 急性期、回復期におけるリハビリテーションについて学習する。 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、関節リウマチ、変形性関節症の病態とリハビリテーションについて学習する。	講義	鈴木	601講義室
11	リハビリテーション医学3 維持期におけるリハビリテーション・地域リハビリテーション 在宅や施設におけるリハビリテーションや地域連携について学習する。	講義	賀屋	601講義室
12	リハビリテーション医学4 認知症・高次脳機能障害 失語・失行・失認、注意障害、記憶障害などの高次脳機能障害、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症などについて学習する。	講義	賀屋	601講義室
13	耳鼻咽喉科学 耳鼻咽喉科総論 ビデオにて、実際の鼓膜、鼻腔、咽喉頭の正常所見を確認し、これらを図示できるようにする。又、耳鼻咽喉科が取り扱う疾患について学習する。	講義	瀬戸口	401講義室
14	耳鼻咽喉科学 口腔・咽頭・喉頭 口腔・咽頭・喉頭の構造と機能を理解し、それらの疾患及び治療法を学習する。	講義	瀬戸口	401講義室
15	耳鼻咽喉科学 鼻・副鼻腔 鼻・副鼻腔の構造と機能を理解し、それらの疾患及び治療法を学習する。	講義	瀬戸口	401講義室

2017年度

連携医学（連携医学） (Medical Cooperation)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	34	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、大渡 凡人、藤井 航、〔非常勤講師〕古田 功彦、〔非常勤講師〕喜久田 利弘、〔非常勤講師〕笠井 新一郎、〔非常勤講師〕村岡 衛、〔非常勤講師〕尼田 覚、〔非常勤講師〕高島 健、〔非常勤講師〕中島 健、〔非常勤講師〕大野 友久、〔非常勤講師〕小柳 靖裕、〔非常勤講師〕鈴木 裕也、〔非常勤講師〕賀屋 邦彦、〔非常勤講師〕瀬戸口 雅裕						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
16	耳鼻咽喉科学 外耳・中耳・内耳 外耳・中耳・内耳の疾患及び治療法を学習する。 目まい、聴力障害の分類を学習する。	講義	瀬戸口	401講義室
17	耳鼻咽喉科学 頭頸部 頭頸部の構造と機能を理解し、頭頸部疾患の診断及び治療法を学習する。	講義	瀬戸口	401講義室

2017年度

臨床救急救命実習

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	左合 徹平						
担当教員	渡邊 誠之、左合 徹平、栗野 秀慈						

授業の概要

歯科診療室において患者様の容態が突発的に急変することがある。このような時には、冷静な対応が求められる。この実習では、救急車に実際に同乗し、救急車で搬送されるという生体の突発的な状態に遭遇することで、4年次に学習した救急救命処置の意義を現実的に考え、実際の救急医療現場での適用方法を学ぶ。

学生の到達目標

- 救急救命分野に置ける救急救命士の役割を理解できる。
- 救急救命分野に置ける二次医療の役割を理解できる。
- 一次救急救命処置の基本の実際を理解できる。
- 自動体外式除細動器使用（AED）の実際を理解できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
E	1	5)			歯科治療時の全身合併症（偶発症）を説明できる。
E	1	5)			意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。
E	1	5)			気道閉塞および気道確保法を説明できる。
E	1	5)			気道確保と呼気吹き込みによる人工呼吸を実施できる。
E	1	5)			胸骨圧迫と自動的体外式除細動器（AED）の操作を実施できる。
E	1	5)			救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

BLSヘルスケアプロバイダー受講者マニュアルAHAガイドライン2010準拠
出) American Heart Association・シ 著)
ナジー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習前確認試験	20%
実習態度	50%
実習後のレポート	30%

その他

2017年度

臨床救急救命実習

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	0.5
授業方法	実習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	左合 徹平						
担当教員	渡邊 誠之、左合 徹平、栗野 秀慈						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	全体説明 救急車同乗実習の目的と意義について理解する。	講義 スライド	左合	601講義室
2	全体説明 救急車同乗実習の目的と意義について理解する。	講義 小テスト	左合	601講義室
3	救急車同乗実習：実際に救急車に同乗し、救急医療現場の実際を理解する。	実習	左合	学外
4	救急車同乗実習：実際に救急車に同乗し、救急医療現場の実際を理解する。	実習	左合	学外
5	救急車同乗実習：実際に救急車に同乗し、救急医療現場の実際を理解する。	実習	左合	学外
6	救急車同乗実習：実際に救急車に同乗し、救急医療現場の実際を理解する。	実習	左合	学外

2017年度

英語 (A) (English (A))

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	高尾 浩二						
担当教員	高尾 浩二						

授業の概要

TOEIC Listening & Reading Test受験対策用テキストを用いて、ListeningとReadingの演習を集中的に行う。具体的には、Listeningの場合、写真描写問題、応答問題、会話問題、説明文問題、また、Readingの場合、短文穴埋め問題、長文穴埋め問題、読解問題の演習を行い、併せて、各Partの攻略法を紹介する。さらにまた、2016年5月の公開テストから導入された新形式問題についても、その変更点と対策を紹介する。

学生の到達目標

TOEIC Listening & Reading Testで、500～600点をとれる英語力を修得する。
英語でコミュニケーションを図ることができる。
アメリカ英語とイギリス英語の違いを理解し、説明することができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

Get Your Best Marks for the TOEIC Test!
出) 松柏社 著) 鶴岡公幸、Gary Malmgren 著

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	70%
平常点(出席状況、授業への取り組みなど)	30%

不合格者には再試験を実施し、再試験：70%、平常点：30%で評価する。

その他

(学習相談) 高尾 浩二 月～金12:00～13:00

2017年度

英語 (A) (English (A))

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	高尾 浩二						
担当教員	高尾 浩二						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	TOEIC Listening & Reading Test (以下、TOEICと略記する) について説明する。 repeating (プリントを見ながら、native speakerの英語を聞き、聞き取った英語を一字一句、同じように繰り返す) の学習効果について説明する。 アメリカ英語とイギリス英語の違いについて説明する。	講義	高尾	312 講義室
2	Unit 1 旅行 空港や機内のアナウンス、旅行代理店からの手紙など、旅行に関する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
3	Unit 2 オフィス 会議、オフィスでの会話、電話、メールのやり取りなど、TOEIC頻出のビジネスに関する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
4	Unit 3 レストラン メニューの紹介、開店時間、レシピの内容など、レストランでよく使われる表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
5	Unit 4 新聞・雑誌 災害、交通渋滞などのレポート、雑誌の定期購読の申し込み、書評などに関する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
6	Unit 5 広告 求人広告と応募方法、また、レクリエーション施設の広告などに頻出する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
7	Unit 6 就職活動 職位の空き、面接試験、紹介状、履歴書、採用に関するレターやメールなど、就職活動に関する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
8	Unit 7 休暇 夏季休暇やクリスマス休暇など、休暇に関する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
9	Unit 8 オフィス コピー機の紙やインクの不足、顧客との会合、パーティでの挨拶、新人オリエンテーションなど、TOEIC頻出の、オフィスでよく使われる表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
10	Unit 9 ショッピング 衣料品店や店員とのやり取り、不良品に対する消費者からの交換や返金のリクエストに関する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
11	Unit 10 国際会議 カンファレンスやセミナー、招待状、講演の礼状など国際会議に関する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
12	Unit 11 娯楽 スポーツ観戦、音楽、美術、演劇、ミュージカルの鑑賞など、娯楽に関する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
13	Unit 12 マーケティング 広告宣伝に関するオフィスでの会話、新製品の発売、特売の案内、顧客調査など、マーケティングに関連する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
14	Unit 13 オフィス ミーティングやセミナーの場所や時間の確認、変更、退職予定者の送別会など、TOEIC頻出のオフィス内での会話表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室
15	Unit 14 金融 銀行口座の開設、ATMの使用法、請求書の読み方など、TOEIC頻出の金融取引に関する表現を学ぶ。	演習	高尾	312 講義室

2017年度

英語 (B) (English (B))

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕船方 浩子						
担当教員	〔非常勤講師〕船方 浩子						

授業の概要

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。

学生の到達目標

実践的な英語力(リスニング及びリーディング)を向上させることができる。
語彙を増やし文法確認することにより、総合的な英語力を向上させることができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

Overall Skills for the TOEIC Test
出)成美堂

著)石井隆之 他著

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	70%
平常点(課題及び小テスト)	30%

不合格者には定期試験と同じ範囲で再試験を実施する。

その他

2017年度

英語 (B) (English (B))

開講年次	1年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕船方 浩子						
担当教員	〔非常勤講師〕船方 浩子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	ガイダンス TOEICの説明及び日常語彙の確認をおこなう。	講義 演習	船方	312講義室
2	Unit 1 Restaurant 文法：動詞（現在と過去・進行時制）について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
3	Unit 2 Hotel 文法：動詞（未来時制・完了時制）について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
4	Unit 3 Shopping及びUnit1,2の小テスト 文法：動詞（受動態）について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
5	Unit 4 Financing 文法：動詞（使役）について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
6	Unit 5 Hospital及びUnit3,4の小テスト 文法：助動詞（can, may, must）について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
7	Unit 6 Airport 文法：助動詞（仮定法）について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
8	Unit 7 Transportation及びUnit5,6の小テスト 文法：準動詞（不定詞と動名詞）について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
9	Unit 8 Sightseeing 文法：準動詞（現在分詞と過去分詞）について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
10	Unit 9 Office Issues及びUnit7,8の小テスト 文法：形容詞と副詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
11	Unit 10 Business 文法：冠詞と名詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
12	Unit 11 Sports Events及びUnit9,10の小テスト Unit 1-10の単語テスト 文法：前置詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
13	Unit 12 Computers 文法：接続詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
14	Unit 13 Personnel及びUnit11,12の小テスト 文法：関係詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
15	Unit 14 Hiring and Training 文法：話法と時制の一致について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室

2017年度

英語 (A) (English (A))

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕船方 浩子						
担当教員	〔非常勤講師〕船方 浩子						

授業の概要

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。

学生の到達目標

実践的な英語力(リスニング及びリーディング)を向上させることができる。
語彙を増やし文法確認することにより、総合的な英語力を向上させることができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST
出)成美堂 著)石井隆之他著

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	70%
平常点(課題及び小テスト)	30%

不合格者には定期試験と同じ範囲で再試験を実施する。

その他

2017年度

英語 (A) (English (A))

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕船方 浩子						
担当教員	〔非常勤講師〕船方 浩子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	ガイダンス 日常生活の語彙の確認をおこなう。	講義 演習	船方	312講義室
2	Unit 1 Airport、単語小テスト (Day1) 文法：動詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
3	Unit 2 Train Station、単語小テスト (Day2) 文法：準動詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
4	Unit 3 Department Store、単語小テスト (Day3) 文法：5文型について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
5	Unit 4 Restaurant、単語小テスト (Day4) 文法：関係詞と接続詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
6	Unit 5 Hotel、単語小テスト (Day5) 文法：助動詞と仮定法について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
7	Unit 6 Hospital、単語小テスト (Day6) 文法：前置詞と冠詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
8	Unit 7 Bank、単語小テスト (Day7) 文法：否定と比較について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
9	Unit 8 Workplace、単語小テスト (Day8) 語彙：接頭辞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
10	Unit 9 Fitness Club、単語小テスト (Day9) 語彙：接尾辞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
11	Unit 10 Sightseeing、単語小テスト (Day10) 文法、語彙：複数の品詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
12	Unit 11 International Conference、 単語まとめ小テスト (Day1～Day10) 文法、語彙：形容詞について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
13	Unit 12 Computer Society 語彙：類似語について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
14	Unit 13 Employment 語彙：同音異義語について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室
15	Unit 14 Job Training 語彙：綴りが似ている単語について学ぶ。	講義 演習	船方	312講義室

2017年度

英語 (B) (English (B))

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	高尾 浩二						
担当教員	高尾 浩二						

授業の概要

TOEIC Listening & Reading Test受験対策用テキストを用いて、ListeningとReadingの演習を集中的に行う。具体的には、Listeningの場合、写真描写問題、応答問題、会話問題、説明文問題、また、Readingの場合、短文穴埋め問題、長文穴埋め問題、読解問題の演習を行い、併せて、各Partの攻略法を紹介する。さらにまた、2016年5月の公開テストから導入された新形式問題についてもその変更点と対策を紹介する。

学生の到達目標

TOEIC Listening & Reading Testで、500～600点をとれる英語力を修得する。
英語でコミュニケーションを図ることができる。
アメリカ英語とイギリス英語の違いを理解し、説明することができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

TOEIC Test: On Target <Book 1>
出)南雲堂

著)大賀リ工他著

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
定期試験	70%
平常点(出席状況、授業への取り組みなど)	30%

不合格者には再試験を実施し、再試験：70%、平常点：30%で評価する。

その他

(学習相談)高尾 浩二 月～金12:00～13:00

2017年度

英語 (B) (English (B))

開講年次	1年	期区分	後期	科目	必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	高尾 浩二						
担当教員	高尾 浩二						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	TOEIC Listening & Reading Test (以下、TOEICと略記する) について説明する。 repeating (プリントを見ながら native speaker の英語を聞き、聞き取った英語を一字一句、同じように繰り返す) の学習効果について説明する。 アメリカ英語とイギリス英語の違いについて説明する。	講義	高尾	312講義室
2	Unit 1 Going Overseas 旅行、ツアーのスケジュール、空港での手続きなどについて学ぶ。 文法：5文型について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
3	Unit 2 Going Shopping 日常の買い物、交渉の仕方に関する表現を学ぶ。 文法：名詞とその修飾句の用法について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
4	Unit 3 Talking about Food and Health 食事、食材、健康などに関する表現を学ぶ。 文法：形容詞と副詞の用法について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
5	Unit 4 Enjoying Sports and Entertainment 劇場、映画、コンサート、ミュージカル、スポーツ観戦などに関する表現を学ぶ。 文法：間違いやすい前置詞について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
6	Review Test 1 Units 1-4の復習問題を学習する。	演習	高尾	312講義室
7	Unit 5 Preserving Nature 自然と環境についての語彙表現を学ぶ。 文法：助動詞の用法について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
8	Unit 6 Giving Directions TOEIC頻出の道順、交通事情、公共輸送機関に関する語彙を学ぶ。 文法：使役動詞と知覚動詞の用法について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
9	Unit 7 Going Job Hunting 就職、職種、労働条件などに関する語彙表現を学ぶ。 文法：接続詞の用法について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
10	Unit 8 Working in the Office TOEIC頻出の会社組織に関する語彙表現を学ぶ。 文法：関係詞の用法について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
11	Review Test 2 Units 5-8の復習問題を学習する。	演習	高尾	312講義室
12	Unit 9 Paying the Bills 請求書の支払い、銀行口座、送金、入金などに関する語彙表現を学ぶ。 文法：時制について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
13	Unit 10 Advertising a New Product TOEIC頻出の広告、販売促進に関する表現を学ぶ。 文法：数量詞と動詞の関係について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
14	Unit 11 Renting an Apartment 住居に関する表現を学ぶ。 文法：仮定法の用法について学ぶ。	演習	高尾	312講義室
15	Unit 12 Troubleshooting 苦情の申し立て方、対応の仕方などに関する表現を学ぶ。 文法：動名詞の用法について学ぶ。	演習	高尾	312講義室

2017年度

ドイツ語 (German)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕平川 要						
担当教員	〔非常勤講師〕平川 要						

授業の概要

英語以外の外国語、およびその国の文化・風土・思想を知ることによって、複眼的なものの見方や考え方が培われ、自国の言語・文化に対する反省・認識も、より一層深められる。

授業ではドイツ語圏への旅行や日常生活で実際に使えるドイツ語の習得を目指す。そのため複雑な文法事項は必要最低限（独検4級程度）にとどめ、現代の生きた日常的表現を聞き、話し、読み書きする能力を訓練する。

学生の到達目標

- ドイツ語特有の母音・子音の発音が正確にできる。
- 正確なアクセント、イントネーションでドイツ文を読み、話すことができる。
- 名詞の性、数、格について説明できる。
- 動詞の現在人称変化を説明できる。
- 基本的なドイツ文の構成を理解し、説明できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）
出）同学社 著）森 公成 ほか

参考書

独和辞典「やさしいドイツ語の学習辞典」
出）同学社 著）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	50%
発音・読みのテスト	20%
平常点（出席状況、授業への取り組みなど）	30%

不合格者には課題を出し、そのレポートの成績によって合否を判定する。

その他

〔参考書〕・独和辞典「やさしいドイツ語の学習辞典」（同学社）（本書でなくても良いが、独和辞典は必ず用意すること）

2017年度

ドイツ語 (German)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕平川 要						
担当教員	〔非常勤講師〕平川 要						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	ドイツ語授業の概要 なぜドイツ語を学ぶのか。ドイツとはどのような国か。異文化体験の意味について考える。 ドイツ語の概要、とくに他言語との類似点や相違点から見たドイツ語の特徴について学ぶ。	講義	平川	311講義室
2	Das Alphabet ドイツ語の発音 文字の読み方と発音、発音の原則（注意すべき母音の発音、注意すべき子音の発音）について学ぶ。 ドイツ歌曲	講義 演習	平川	311講義室
3	動詞の現在人称変化（1） 規則的な動詞 ドイツ語による自己紹介	講義 演習	平川	311講義室
4	口調上注意すべき動詞 重要な不規則動詞 haben, sein, werden 定動詞の位置 練習問題	講義 演習	平川	311講義室
5	名詞の性 定冠詞 der 定冠詞 + 名詞の格変化 D-Pop	講義 演習	平川	311講義室
6	不定冠詞 ein 不定冠詞 + 名詞の格変化 練習問題	講義 演習	平川	311講義室
7	名詞の複数形 男性弱変化名詞 練習問題	講義 演習	平川	311講義室
8	動詞の現在人称変化（2） 命令形 練習問題	講義 演習	平川	311講義室
9	定冠詞類 定冠詞類 + 名詞の格変化 不定冠詞類 不定冠詞類 + 名詞の格変化 ドイツ・クラシック音楽	講義 演習	平川	311講義室
10	人称代名詞 3格目的語と4格目的語 練習問題	講義 演習 試験	平川	311講義室
11	前置詞 2格支配の前置詞 3格支配の前置詞 4格支配の前置詞 3・4格支配の前置詞	講義 演習	平川	311講義室
12	前置詞と定冠詞の融合形 前置詞と人称代名詞の融合形 慣用表現 nichtの位置 ドイツ民謡	講義 演習	平川	311講義室

2017年度

ドイツ語 (German)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕平川 要						
担当教員	〔非常勤講師〕平川 要						

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
13	従属の接続詞と副文 練習問題 復習問題	講義 演習	平川	311講義室
14	前期のまとめ 発音・読みのテスト	講義 演習	平川	311講義室
15	確認テスト	試験	平川	311講義室

2017年度

ドイツ語 (German)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕平川 要						
担当教員	〔非常勤講師〕平川 要						

授業の概要

前期「ドイツ語」に引き続き、ドイツ語の学習を進める。一通り文法事項を説明し、ドイツ語の全体像を把握させる。ドイツ文を形作っている厳格な発想法を知ることにより、日本語を使う上でも、英語とも異なる厳密な文法事項を鏡として、あいまいな表現の多い日本語の特殊性を反省できるようにする。また文化や国民性の違いについても折に触れ解説していく。

学生の到達目標

- 基本的なドイツ語の構文を概説できる。
- ドイツ文の意味を理解しながら、正しいイントネーションで発音できる。
- 独検4級程度をパスすることができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）
出）同学社 著）森 公成 ほか

参考書

独和辞典「やさしいドイツ語の学習辞典」
出）同学社 著）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	50%
発音・読みのテスト	20%
平常点（出席状況、授業への取り組みなど）	30%

その他

〔参考書〕・独和辞典「やさしいドイツ語の学習辞典」（同学社）（本書でなくても良いが、必ず独和辞典は用意すること）

2017年度

ドイツ語 (German)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕平川 要						
担当教員	〔非常勤講師〕平川 要						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	「ドイツ語」の復習 ドイツ語の特徴を説明する。「ドイツ語」で覚えた文法事項を反復する。	講義 演習	平川	311講義室
2	話法の助動詞 助動詞構文 本動詞としての用法	講義 演習	平川	311講義室
3	未来形 練習問題	講義 演習	平川	311講義室
4	分離動詞 前つづりと基礎動詞 非分離動詞	講義 演習	平川	311講義室
5	再帰動詞 非人称の主語es 練習問題	講義 演習	平川	311講義室
6	形容詞の変化 形容詞の名詞化	講義 演習	平川	311講義室
7	比較の表現 練習問題	講義 演習	平川	311講義室
8	動詞の3基本形 話法の助動詞の3基本形	講義 演習 試験	平川	311講義室
9	動詞の過去人称変化 練習問題	講義 演習	平川	311講義室
10	現在完了形 habenとseinの使い分け 過去完了形 練習問題	講義 演習	平川	311講義室
11	受動態 zu不定詞 分詞 練習問題	講義 演習	平川	311講義室
12	指示代名詞 関係代名詞 練習問題 接続法	講義 演習	平川	311講義室
13	復習問題 辞構造 数の表現	講義 演習	平川	311講義室
14	後期のまとめ 発音・読みのテスト	講義 演習	平川	311講義室
15	確認テスト	試験	平川	311講義室

2017年度

中国語 (Chinese)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕板谷 俊生						
担当教員	〔非常勤講師〕板谷 俊生						

授業の概要

日本の約26倍の国土面積を有する中国。人口13億人以上の内、93%以上が漢民族。彼らが話す中国語を「漢語」といい、共通語を「普通話」という。私たちはこの「普通話」を学習する。授業では、中国語圏に旅行・留学した際に実際にすぐ使える、すぐ役に立つ中国語の習得を目指す。初級段階の話す・聴く・読む・書くという4技能の習得をじっくりと実践していく。併せて伝統的な中国文化や日中文化比較、そして現代中国事情も解説する。

学生の到達目標

- 中国語の発音が習得できる。
- 中国語入門・初級文法が習得できる。
- 中国語入門・初級会話が習得できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

いま始めよう！アクティブラーニング 初級中国語
出)朝日出版社 著)陳淑梅・張国? 著

参考書

はじめての中国語学習辞典
出)朝日出版社 著)相原茂 編著

成績評価方法・基準

評価項目	割合
平素の授業への取り組み・発表	40%
定期試験	60%

その他

2017年度

中国語 (Chinese)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕板谷 俊生						
担当教員	〔非常勤講師〕板谷 俊生						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	中国語の授業の概要、中国語の授業の進め方、中国語学習方法について理解する。声調・単母音の発音について学ぶ。	講義 演習	板谷	312講義室
2	声調・単母音の発音の復習をする。複母音の発音を学び練習する。あいさつ用語(1)を学び、発音練習する。	講義 演習	板谷	312講義室
3	複母音の発音の復習をする。子音の発音について学び、発音練習する。あいさつ用語(2)を学び、発音練習する。	講義 演習	板谷	312講義室
4	前回の授業内容の復習をする。鼻音の発音練習と数詞(1~99)の発音練習をする。声調変化と軽声を学び、発音練習をする。	講義 演習	板谷	312講義室
5	前回の授業内容の復習をする。教室用語(1)について学び、発音練習をする。これまでの発音の特徴の総まとめを行い、理解を深める。	講義 演習	板谷	312講義室
6	前回の授業内容の復習をする。指示代名詞について学ぶ。指示代名詞を使った作文と会話練習を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
7	前回の授業内容の復習をする。「請」(「どうぞ~してください」)文型について学び、作文・会話練習を行う。文末疑問助詞「?」の疑問文について学び、作文・会話練習を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
8	前回の授業内容の復習をする。反復疑問文について学びと作文・会話練習を行う。人称代名詞(1)について学び、作文・会話練習を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
9	前回の授業内容の復習をする。形容詞述語文(1)の肯定文・否定文について学び、作文・会話練習を行う。名前の尋ね方・答え方について学ぶ。	講義 演習	板谷	312講義室
10	前回の授業内容の復習をする。形容詞述語文(2)の句末疑問助詞「?」と反復疑問文について学び、作文・会話練習を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
11	前回の授業内容の復習をする。名詞述語文「是」(「~です」)文型(AはB)について学び、作文・会話練習(肯定文・否定文)を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
12	前回の授業内容の復習をする。文型名詞述語文における「?」の疑問文と反復疑問文と疑問詞疑問文について学び、作文・会話練習を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
13	前回の授業内容の復習をする。代名詞+「的」+名詞の文型(「~之」)の用法について学び、作文・会話練習を行う。常用する程度副詞について学び、作文・会話練習を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
14	前回の授業内容の復習をする。さまざまな疑問文のまとめについて学ぶ。自己紹介の作文・会話練習を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
15	前期学習内容のまとめをする。基本的な中国語の構成について再確認する。	講義 演習	板谷	312講義室

2017年度

中国語 (Chinese)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕板谷 俊生						
担当教員	〔非常勤講師〕板谷 俊生						

授業の概要

日本の約26倍の国土面積を有する中国。人口13億人以上の内、93%以上が漢民族。彼らが話す中国語を「漢語」といい、共通語を「普通話」という。私たちはこの「普通話」を学習する。授業では、中国語圏に旅行・留学した際に実際にすぐ使える、すぐ役に立つ中国語の習得を目指す。初級段階の話す・聴く・読む・書くという4技能の習得をじっくりと実践していく。併せて伝統的な中国文化や日中文化比較、そして現代中国事情も解説する。

学生の到達目標

- 中国語の発音が習得できる。
- 中国語初級文法が習得できる。
- 中国語初級会話が習得できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

いま始めよう！アクティブラーニング 初級中国語
出)朝日出版社 著)陳淑梅・張国? 著

参考書

はじめての中国語学習辞典
出)朝日出版社 著)相原茂 編著

成績評価方法・基準

評価項目	割合
平素の授業への取り組み・発表	40%
定期試験	60%

その他

2017年度

中国語 (Chinese)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕板谷 俊生						
担当教員	〔非常勤講師〕板谷 俊生						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	前期の総復習をし、理解を深める。 声調・単母音・複母音・変調等発音について再度学習し、理解を深める。	講義 演習	板谷	312講義室
2	動詞述語文の用法について学ぶ。 動詞+目的語（肯定と否定）の作文・会話練習を行う。 動詞述語文の疑問文（疑問詞疑問文、「？」の諾否疑問文、反復疑問文）について学習する。	講義 演習	板谷	312講義室
3	前回の授業内容の復習をする。 場所を示す代詞の用法について学び、作文・会話練習を行う 所有・所持を示す「有」の用法について学ぶ。	講義 演習	板谷	312講義室
4	前回の授業内容の復習をする。 変調（「不」「一」）の用法について学ぶ。 助数詞（一人、兩個人、三口人）等について学習する。	講義 演習	板谷	312講義室
5	前回の授業内容の復習を行う。 数を尋ねる疑問詞「几」の用法について学ぶ。 存在を表す「有」の用法について学ぶ。	講義 演習	板谷	312講義室
6	前回の授業内容の復習をする。 年月日、曜日、の用法について学び、作文・会話練習を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
7	前回の授業内容の復習を行う。 時刻の言い方・尋ね方について学習する。 時間名詞の副詞的表現「いつ～する」の用法について学ぶ。	講義 演習	板谷	312講義室
8	前回の授業内容の復習を行う。 疑問詞「怎麼」「怎麼樣」の用法について学習する。 文末の“了”について学ぶ。	講義 演習	板谷	312講義室
9	前回の授業内容の復習を行う。 主述述語文「ゾウは鼻が長い」文型の用法について学ぶ。 年齢の尋ね方・答え方について学習する。	講義 演習	板谷	312講義室
10	前回の授業内容の復習を行う。 動詞の重ね型「ちょっと…する」文型の用法について学び、作文・会話練習を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
11	前回の授業内容の復習を行う。 数量を尋ねる疑問詞「多少」の用法について学習する。 ショッピングにて：値段の言い方・答え方について学ぶ。 お金の単位、100以上の数について学習する。	講義 演習	板谷	312講義室
12	前回の授業内容の復習を行う。 二重目的語をとれる動詞「給」の用法について学習し、作文・会話練習を行う。	講義 演習	板谷	312講義室
13	前回の授業内容の復習を行う。 語気助詞「？」（推測・相談・命令を示す）の用法について学習する。 文末の語気助詞で変化を示す「了」について学ぶ。	講義 演習	板谷	312講義室
14	前回の授業内容の復習を行う。 場所を導く前置詞「在」の用法について学ぶ。 比較を表す前置詞「比」の用法について学ぶ。	講義 演習	板谷	312講義室
15	後期学習内容のまとめを行う。 基本的な中国語の構成について再確認を行う。	講義 演習	板谷	312講義室

2017年度

韓国語 (Korean)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕元 道吉						
担当教員	〔非常勤講師〕元 道吉						

授業の概要

韓国語（ハングル）の文字は基本母音10字と子音14字の組み合わせによって出来ている。その母音と子音の書き方と音声記号による発音の練習を繰り返して行う。ハングルは一字一音の原則にそって発生する言語であり、基本的な字音の書き、読みの修得を目指す。前期は基本文章と語法を中心にハングルを学ぶ。

学生の到達目標

ハングル文字の読み書きができる。
簡単な挨拶をはじめ生活用語を使って基礎会話ができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

楽しく学ぶ韓国語
出)

著)元 道吉

参考書

韓日辞典
出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	70%
授業の際に課す練習問題（1回4点、最大20点）	20%
無欠席	10%

その他

2017年度

韓国語 (Korean)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕元 道吉						
担当教員	〔非常勤講師〕元 道吉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	ハングル文字、子音14文字と基本母音10文字を覚える。	講義 演習	元	301講義室
2	ハングル文字の書き順を覚え、発生の聞き取りを練習する。	講義 演習	元	301講義室
3	平音・激音・濃音などの音の違いを学び、発音を練習する。	講義 演習	元	301講義室
4	パッチム(終音子音)がつくハングル文字の発声を練習する。	講義 演習	元	301講義室
5	助詞の使い方を実際の文例を通じて学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
6	音の変化、liaison elision assimilation latetalityなどについて、実例を通じて学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
7	教科書の第1課「出迎え」 発声練習及び実際の会話を通じて、出迎えの会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
8	教科書の第2課「電話」 発声練習及び実際の会話を通じて、電話での会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
9	教科書の第3課「買物」 発声練習及び実際の会話を通じて、買い物に必要な会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
10	教科書の第4課「夏」 発声練習及び実際の会話を通じて、韓国人の四季の暮らしを学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
11	教科書の第5課「旅行」 発声練習及び実際の会話を通じて、旅行の際に必要な会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
12	教科書の第6課「留学」 発声練習及び実際の会話を通じて、韓国語の敬語体の作り方を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
13	韓国映画の鑑賞 映画を鑑賞し、韓国語及び韓国人の生活を理解する。	講義 演習	元	301講義室
14	まとめ これまでの学習をまとめた模擬テストを行い、理解度を確認する。	講義 演習	元	301講義室
15	確認テスト	講義 演習	元	301講義室

2017年度

韓国語 (Korean)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕元 道吉						
担当教員	〔非常勤講師〕元 道吉						

授業の概要

前期で学習した基礎的な文章に、副詞や形容詞などを加えた文型をつくる練習を重点的に指導する。また、韓国語の応用会話を通じて、しっかりと聞き取りができるよう学習を行う。

学生の到達目標

- 難字（終声子音）の発音ができる。
- 動詞及び形容詞の活用ができる。
- 短文のメッセージ作成ができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

楽しく学ぶ韓国語
出)

著)元 道吉

参考書

韓日辞典
出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
確認テスト	70%
授業の際に課す練習問題(1回4点、最大20点)	20%
無欠席	10%

その他

2017年度

韓国語 (Korean)

開講年次	1年	期区分	後期	科目	選択必修	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕元 道吉						
担当教員	〔非常勤講師〕元 道吉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	教科書の第七課「喫茶店」 発声練習及び実際の会話を通じて、喫茶店での会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
2	教科書の第八課「空港・バス」 発声練習及び実際の会話を通じて、空港やバスでの会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
3	教科書の第九課「ジャンケン」 発声練習及びアジア共通の文化から異文化を知りながら実際の会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
4	教科書の第十課「師の日」 発声練習及び韓国人の目上の人への尊敬心を通して実際の会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
5	教科書の第十一課「結婚」 発声練習及び韓国の結婚式の風習を通して実際の会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
6	教科書の第十二課「訛」 発声練習及び朝鮮八道の方言やアクセントを通して実際の会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
7	教科書の第十三課「白頭山」 発声練習及び朝鮮の霊山の紹介を通して実際の会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
8	教科書の第十四課「約束」 発声練習及び六何原則にそった質問を通して実際の会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
9	教科書の第十五課「闘牛」 発声練習及び韓国の遊戯・風俗を通して実際の会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
10	教科書の第十六課を学ぶ。「屋台」 発声練習及び韓国の庶民文化を通して実際の会話を学ぶ。	講義 演習	元	301講義室
11	まとめ これまでの学習をまとめた模擬テストを行い、理解度を確認する。	講義 演習	元	301講義室
12	韓国映画の鑑賞 映画を鑑賞し、韓国語及び韓国人の心を理解する。	講義 演習	元	301講義室
13	韓国の歌 韓国の叙情歌曲や民謡などの歌を通じて、韓国語を理解する。	講義 演習	元	301講義室
14	まとめ 発音・単語・文法・作文の模擬テストを行い、理解度を確認する。	講義 演習	元	301講義室
15	確認テスト	講義 演習	元	301講義室

2017年度

医学英語 (Medical English)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕 Michael Thomas MacKay						
担当教員	〔非常勤講師〕 Michael Thomas MacKay						

授業の概要

This course is an introduction to academic writing, training students to explore their opinions, discuss their ideas and share their experiences through written communication at a formal level.

学生の到達目標

The goal of the course is to provide students with the necessary skills to communicate their opinions and ideas at a formal level to a general audience. Students should be able to write well structured, informative paragraphs describing, elucidating, or instructing the reader.

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

MacMillan Writing Series: Writing Paragraphs (ISBN 978-0-230-41593-5)
出) MacMillan Press 著) Dorothy Zemach, Carlos Islam

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
Exam	60%
Assignments	40%

その他

Contact me by email.

2017年度

医学英語 (Medical English)

開講年次	3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕 Michael Thomas MacKay						
担当教員	〔非常勤講師〕 Michael Thomas MacKay						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	paragraph structure; developing a paragraph; common features	講義 演習	MacKay	402講義室
2	combining sentences; topic sentences	講義 演習	MacKay	402講義室
3	how to write descriptive paragraphs; writing about people and places; adjectives; concluding sentences	講義 演習	MacKay	402講義室
4	writing about a trend; peer feedback	講義 演習	MacKay	402講義室
5	how to write opinion and example paragraphs; forming and using the simple present; subject-verb agreement	講義 演習	MacKay	402講義室
6	writing about explanations and excuses; expressing personal feelings	講義 演習	MacKay	402講義室
7	writing about interesting or unusual experiences; narrative paragraphs	講義 演習	MacKay	402講義室
8	comparison paragraphs; writing about life changes	講義 演習	MacKay	402講義室

2017年度

医学英語 (Medical English)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕 Michael Thomas MacKay						
担当教員	〔非常勤講師〕 Michael Thomas MacKay						

授業の概要

This course introduces the student to formal scientific writing, suitable for peer reviewed publication in the general scientific literature. How to find, read, and analyze appropriate information and how to present research findings in a concise, unbiased way will be emphasized.

学生の到達目標

The aim of this course is to instruct students how to write a formal scientific research paper for journal publication and how to read and understand the scientific literature.

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
Assignments	60%
Final exam	40%

その他

2017年度

医学英語 (Medical English)

開講年次	3年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	〔非常勤講師〕 Michael Thomas MacKay						
担当教員	〔非常勤講師〕 Michael Thomas MacKay						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	Introduction to scientific writing	講義 演習	Mackay	402講義室
2	Strategy for writing research papers	講義 演習	Mackay	402講義室
3	Structure, format, content, and style of a scientific paper	講義 演習	Mackay	402講義室
4	Title, authors, affiliation, abstract, and introduction	講義 演習	Mackay	402講義室
5	Methods, results, tables and figures, statistics	講義 演習	Mackay	402講義室
6	Discussion, references, abbreviations, units of measure	講義 演習	Mackay	402講義室
7	Plagiarism, web resources, search engines	講義 演習	Mackay	402講義室
8	Review	講義 演習	Mackay	402講義室

2017年度

国際歯科医学概論 (Global Dental Education)

開講年次	歯学科4年、口腔保健学科3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹、久藤 元、〔非常勤講師〕長谷川 了						

授業の概要

「Think globally, act locally(国際的な視野で考え、現場から行動する。)」を実践する歯科医療人に必要な国際性の涵養を目的とする。さらに、英文手紙や英語ポスターを作成する演習を通して、国際的コミュニケーション能力を高める。国際社会における日本を取り巻く環境や海外の歯科医療の事情についても学習する。

学生の到達目標

歯科医学英語で頻出する単語・英語表現を理解できる。
国際的な視野で歯科医療にかかわる問題について考えることができる。
英文手紙・国際学会発表用ポスターを作成することができる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	6	1)			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	6	1)			歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。

テキスト

出) 著)

参考書

歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド
出)医歯薬出版 著)角館直樹

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義中に行われる確認テスト	30%
演習の提出物	20%
小テスト	50%

・演習を欠席した場合、当該回の提出物は0点として評価する。

その他

(学習相談)角館直樹：相談は随時受け付け可能。

2017年度

国際歯科医学概論 (Global Dental Education)

開講年次	歯学科4年、口腔保健学科3年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹、久藤 元、〔非常勤講師〕長谷川 了						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	英文医療記事の読解 英文医療記事を読解し、内容を理解する。歯科専門英単語を学習し、覚える。	講義	角館	501講義室
2	英文手紙作成演習： 英文手紙（e-mail）の書き方を学び、実際に自己紹介および大学訪問を依頼する内容の手紙を作成する。	演習	角館	コンピュータ演習室
3	歯科医療英語リスニング： 歯科医療における種々のシーンにおける英会話のリスニングについて、実際の音声をもとに学ぶ。歯科専門英単語を学習し、覚える。	講義	角館	501講義室
4	歯科医療の国際比較： 歯科医療の国際比較について学ぶ。歯科専門英単語を学習し、覚える。	講義	角館	501講義室
5	国際学会発表用ポスターデザイン： 国際学会発表ポスターのデザイン・レイアウトについて学習する。	演習	角館	コンピュータ演習室
6	国際社会論： 日本、アメリカ、ヨーロッパおよびアジア諸国の社会構造や文化の違いを学ぶ。	講義	久藤	501講義室
7	海外の歯科医療： ミャンマーにおける歯科医療および国際的な活動について学ぶ。	講義	長谷川	501講義室
8	小テスト	テスト	角館	501講義室 601講義室

2017年度

国際歯科医学実習 (KDU-GSE Program)

開講年次	歯学科3年、歯学科4年、口腔保健学科3年	期区分	通年	科目	選択	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科、口腔保健学科						
科目責任者	学長						
担当教員	学長、角館 直樹						

授業の概要

九州歯科大学国際交流プログラム（Kyushu Dental University Global Scholarly Exchange Program: KDU-GSEプログラム）に参加し、本学と連携協定を締結している海外の歯科大学・歯学部において講義・実習の見学ならびに国際交流を体験する。これにより、“Think globally, act locally”を実践する歯科医療に必要な国際的視野と国際的コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。

学生の到達目標

海外の歯科医療・歯科医学教育について学ぶことで、国際的な視野で考える能力を身につける。
海外での国際交流体験を通じて、国際的コミュニケーション能力を身につける

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	6	1)			自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。
A	7	1)			コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。

テキスト

派遣先の大学に応じてプリントを配布する。
出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実施報告書	100%

選考について
・履修希望者は申請書を提出し、学部教授会において、一定の選考基準のもとで選考される。

評価について
・帰国後に実施報告書を提出することを必須要件とする。

その他

(学習相談) 角館直樹：相談は随時受け付け可能。

2017年度

国際歯科医学実習 (KDU-GSE Program)

開講年次	歯学科3年、歯学科4年、口腔保健学科3年	期区分	通年	科目	選択	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科、口腔保健学科						
科目責任者	学長						
担当教員	学長、角館 直樹						

授業計画

- (1) H29年度派遣可能大学(予定)
- ・シーナカリンウィロート大学(タイ)
 - ・高雄医科大学(台湾)

- (2) 派遣期間
- ・7日間(予定)

- (3) 実習方法
- ・プログラム説明会で配布する資料の通り

2017年度

研究室配属 (Research practice assigned to the laboratory)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拓 (研究室配属運営部会長)						
担当教員	松尾 拓 研究室配属担当教員 (別冊の「研究室配属手引書」を参照のこと)						

授業の概要

研究室配属は、学生諸君が研究に対する理解を深めリサーチマインドを持った歯科医師になることを目的とする。研究室配属を通してリサーチを行っている研究者としての教員と接し、歯科医学に対する科学的な見方・考え方を養ってもらいたい。

学生の到達目標

九州歯科大学の研究室で実施されている研究に参加し、実験・調査・論文抄読及び演習等を通して研究の意義を理解し、実験・研究の方法、データの解析方法、考察の仕方およびプレゼンテーションなどについて学ぶこと。
世界的規模で、歯科学生による研究成果の実践発表 (スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム、SCRIP) が行われているが、このプログラムに参加し、発表することも視野に入れて研究を行う。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	6	2			生命科学や医療技術の成果について生涯を通じて学び、病因や病態を解明するなどの研究マインドを涵養する。

テキスト

研究テーマによって、使用するテキストや参考文献が異なる。詳しくは担当教員に尋ねること。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
研究室配属時の出席点	30%
研究に関わる意欲や姿勢を加味した担当教員が付ける評価	30%
研究ノートの記載状況	20%
ポスター発表・発表会でのプレゼンテーション能力	20%

- ・全分野統一の評価基準 (評価シート) により、積極性・洞察力・協調性・参加態度を個別点数化して評価する。
- ・指導教員は配属当日の研究内容や結果を研究ノートを確認し、検印する (出席確認を兼ねる)。
- ・研究成果発表会 (ポスター発表・口頭発表) は定期試験と同等の取り扱いとする。
- ・「出席点 (30点)」とあるが、研究室配属は実習科目のため、欠席は認められないことに十分注意すること。

その他

各テーマの担当教員、研究室配属運営会議が相談に応じる。
研究室配属運営会議 (代表: 松尾 拓)

2017年度

研究室配属 (Research practice assigned to the laboratory)

開講年次	2年	期区分	前期	科目	必修	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	松尾 拡 (研究室配属運営部会長)						
担当教員	松尾 拡						
	研究室配属担当教員 (別冊の「研究室配属手引書」を参照のこと)						

授業計画

別冊の「研究室配属手引書」を参照のこと。(実験、調査、セミナーなど)

2017年度

最新生命科学 (Advanced Biosciences)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、小野 堅太郎、〔非常勤講師〕自見 英治郎、〔非常勤講師〕脇坂 聡、〔非常勤講師〕田畑 純、〔非常勤講師〕羽地 達次、〔非常勤講師〕山村 健介、〔非常勤講師〕小見山 道、〔非常勤講師〕加藤 隆史、〔非常勤講師〕片桐 岳信、〔非常勤講師〕仲村 一郎						

授業の概要

教科書にはまだ記載されていないような生命科学の最新の研究内容や情報を、それぞれ第一線で活躍されている先生方を講師に迎え、講義、解説して頂く。毎回、講義の内容に関する課題が提出されるので、レポートを作成し提出する。

学生の到達目標

- 最新の生命科学研究の現状を理解する。
- リサーチマインドを育む。
- 課題について調査し、レポートにまとめる。レポートの書き方を学ぶ。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
C	2	3)	(1)		硝子軟骨、弾性軟骨および線維軟骨の特徴を説明できる。
C	2	3)	(1)		内軟骨性骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。
C	2	3)	(1)		硬組織石灰化の基本的機序を説明できる。
C	2	3)	(1)		筋組織の構造と機能を説明できる。
C	2	3)	(2)		生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。
C	2	3)	(2)		骨の基本構造と結合様式を説明できる。
C	2	3)	(2)		骨の改造現象と全身および局所因子による調節機構を概説できる。
C	2	3)	(5)		脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。
C	3	2)			免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。
E	2	2)			咀嚼の意義と制御機構を説明できる。
E	3	1)			歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。
E	3	1)			歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。
E	4	5)			口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

2017年度

最新生命科学 (Advanced Biosciences)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、小野 堅太郎、〔非常勤講師〕自見 英治郎、〔非常勤講師〕脇坂 聡、〔非常勤講師〕田畑 純、〔非常勤講師〕羽地 達次、〔非常勤講師〕山村 健介、〔非常勤講師〕小見山 道、〔非常勤講師〕加藤 隆史、〔非常勤講師〕片桐 岳信、〔非常勤講師〕仲村 一郎						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	32%
レポート	68%

1. レポート：

A4用紙を用い、1つのテーマにつき表紙を含め用紙3枚以上。表紙にはテーマ、担当講師名、出席番号、氏名を記入すること。すべて手書き。

2. 提出期限：

一週間後の水曜日の午後5時までとする。提出期限厳守のこと。

3. 提出場所：

各担当分野の研究室前に置いてあるレポート提出ボックス

【レポート提出先】

瀬田先生担当（3、4、5回）：9階口腔組織機能解析学分野

小野先生担当（1、2、6回）：10階生理学分野

自見先生担当（7、8回）：10階分子情報生化学分野

4. 評価方法

1/3以上の欠席は留年とする。3回欠席すると留年

出席点を32点（満点）、レポート点を68点（満点）とする。

出席点は1回欠席するとマイナス4点とする（例：2回休んだら32 - (4 × 2) = 22点）。レポートを提出しなければ、出席点を与えない。

レポート点はA:100点、B:80点、C:60点、D:40点、E:20点、で評価し、平均点を70点に換算する。レポートの提出が遅れた場合、1週間以内であれば受け付けるが、点数は8掛けとする。欠席した場合、レポートの提出があっても点数は6掛けとする。

欠点者は、C(60点)以下の評価のレポートをすべて再提出すること（提出先：10階分子情報生化学分野）。提出期限については、後日連絡する。再評価を行った後、可否を決定する。

その他

（学習相談）月～金曜日、随時受け付ける。原則として、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

最新生命科学 (Advanced Biosciences)

開講年次	2年	期区分	後期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、小野 堅太郎、〔非常勤講師〕自見 英治郎、〔非常勤講師〕脇坂 聡、〔非常勤講師〕田畑 純、〔非常勤講師〕羽地 達次、〔非常勤講師〕山村 健介、〔非常勤講師〕小見山 道、〔非常勤講師〕加藤 隆史、〔非常勤講師〕片桐 岳信、〔非常勤講師〕仲村 一郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	歯科医学に必要な睡眠の基礎知識 ブラキシズムなど歯科医学に関連した睡眠時の現象について学習する。	講義	加藤 (小野)	401講義室 11月22日(水) 2限目
2	痛みの不思議 - 歯が原因でない歯の痛み - 非歯原性疼痛に関する臨床診断と治療法を通して痛みのメカニズムについて学習する。	講義	小見山 (小野)	401講義室 11月29日(水) 2限目
3	組織・細胞培養と生命科学 組織・細胞培養をどのようにして生命科学に応用するか、私達の研究を紹介して概要を学ぶ。	講義	羽地 (瀬田)	401講義室 12月6日(水) 2限目
4	歯根膜感覚受容の形態学 歯根膜における感覚受容機構の発育や神経損傷後の再生等について形態学的所見から学習する。	講義	脇坂 (瀬田)	401講義室 12月13日(水) 2限目
5	歯の発生 様々な動物の歯やその類似器官の発生から、歯の発生の概略について学習する。	講義	田畑 (瀬田)	401講義室 12月20日(水) 2限目
6	摂食嚥下の生理学 - バイオメカニクスと神経制御 - 摂食嚥下障害を通して、摂食と嚥下の生理機序について学習する。	講義	山村 (小野)	401講義室 1月10日(水) 2限目
7	硬組織の疾患と基礎研究の間に橋をかける 臨床応用を目指した基礎研究の実際を学習する。	講義	片桐 (自見)	401講義室 1月17日(水) 2限目
8	骨の細胞生物学 骨代謝疾患を通して、骨形成と骨吸収を司る細胞の骨代謝制御機構を学習する。	講義	仲村 (自見)	401講義室 1月24日(水) 2限目

2017年度

最新応用生命科学 (Advanced Bioscience for Clinical Application)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、竹内 弘、中島 啓介、細川 隆司、富永 和宏、〔非常勤講師〕竹中 繁織、〔非常勤講師〕中澤 浩二、〔非常勤講師〕望月 慎一						

授業の概要

治療法や診断法の開発といった歯科医療の最前線に関わる領域において、歯学系および工学系等といった複数領域の研究者が協力して実施している先端研究（例：歯工学連携研究）についてわかりやすく講義する。

学生の到達目標

歯科および医科の臨床に直結する研究について理解できる。
臨床志向のリサーチマインドを共有できる。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容
A	6	2)			研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。
A	6	2)			患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の進化につなげることができる。
A	6	2)			検索・検出した医学・医療情報から新たな課題・仮説を設定し、解決に向けて科学的研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加することができる。

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

・毎回、講義内容に対するレポートを1枚提出させる。レポートに対し、各担当者が5段階評価（90、80、70、60、50の点数）を行い、その平均点を各学生の点数とする。
・8回の講義における各評価の平均が不可と判断された場合、再レポート提出および面談を実施する。

その他

（学習相談）相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。
・代表：北村知昭

2017年度

最新応用生命科学 (Advanced Bioscience for Clinical Application)

開講年次	5年	期区分	前期	科目	必修	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、竹内 弘、中島 啓介、細川 隆司、富永 和宏、〔非常勤講師〕竹中 繁織、〔非常勤講師〕中澤 浩二、〔非常勤講師〕望月 慎一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	歯科保存領域における連携研究 最新応用生命科学講義の概要を知り、歯の治療（保存修復治療学・歯内治療学・歯冠補綴学）において工学、基礎医学、及び再生医療学分野と連携した先端研究を学習する。	講義 スライド 資料配布	北村	601講義室
2	歯科薬理学領域における連携研究 ロボット工学や情報工学を駆使して発展するタンパク質の立体構造解析やオミクス研究の成果を統合したシステムズバイオロジーがこれからの創薬研究分野に果たす役割を学習する。	講義 スライド 資料配布	竹内	601講義室
3	歯工学連携研究（1） テロメラーゼは、がん細胞の異常増殖と関連している。従って、テロメラーゼを標的とすればがんの迅速診断や新しい抗癌剤開発が実現できると期待されている。本講義では、テロメラーゼ研究の現状とそれを標的とした診断や創薬についての最先端研究について工学的な立場から学習する。	講義 スライド 資料配布	竹中	601講義室
4	歯周治療領域における連携研究 歯周病の病態を知る上でP. gingivalisが産生する酵素は重要である。本酵素の測定器開発を通じて、歯学系分野と工学系分野との連携の重要性を学習する。	講義 スライド 資料配布	中島	601講義室
5	歯工学連携研究（2） 最近の核酸医薬やタンパク質製剤の実用化にはそれらの薬剤を臓器や細胞まで送り届ける薬物送達技術（DDS）が不可欠である。本講義では、DDSに関する基本と最先端の研究を学習する。	講義 スライド 資料配布	望月	601講義室
6	インプラント・補綴領域における連携研究 歯科補綴学は、工学（生体材料学、生体力学等）と生命科学（生化学、生理学、再生医学等）の巧みな連携によって先進的治療が開発される。ここでは、連携によって開発されつつある先進的補綴歯科治療技術の実例と未来展望について学習する。	講義 スライド 資料配布	細川	601講義室
7	歯工学連携研究（3） 現在の医療技術において生体材料の利用は不可欠である。ここでは、生体材料の表面で起こる反応や材料表面特性と生体分子間の関係を理解するとともに、生体適合性材料の設計に関する先端研究を学習する。	講義 スライド 資料配布	中澤	601講義室
8	口腔外科領域における連携研究 口腔外科領域における工学との連携研究と歯学発の技術を医療の広い分野へ応用する試みを紹介し、歯学部における起業家精神について学習する。	講義 スライド 資料配布	富永	601講義室

2017年度

教養特講 (Special lecture of liberal arts)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科, 口腔保健学科						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎 (非常勤)まなびと特任教員、北九州市立大学、九州女子大学、西南女学院大学、九州栄養福祉大学						

授業の概要

本授業では、ESD (Education for Sustainable Development : 持続可能な発展のための教育) に必要となる、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とする。また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。

講義は概ね土曜日に、まなびとESDステーション (小倉北区魚町3丁目3 - 20) で行う。

学生の到達目標

環境と福祉、環境と地域活動、地域と生活の関係性等、横断的学習を通じて、一つの専門分化した領域だけでなく、その他分野の相互関係を理解する。

持続可能な社会の構築を念頭に各専門分野の話を理解する。

地域活動との連結を想定して、授業で得た知識や経験を日々の地域活動にフィードバックする。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

講義ごとに資料を配付予定。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
授業への貢献度 (授業に積極的に参加しているか、意欲があるか、授業態度が良いか、等)	10%
小レポート×4回	40%
学習成果報告会でのプレゼンテーション	50%

その他

(教員名 : オフィスアワー)

・秋房住郎 : 月～金7:00～9:00・16:30～17:30

2017年度

教養特講 (Special lecture of liberal arts)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎 (非常勤)まなびと特任教員、北九州市立大学、九州女子大学、西南女学院大学、九州栄養福祉大学						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	ESDとは何か? (オリエンテーション) 環境・福祉・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習するうえで必要な心構えと講義の概要について学ぶ。	講義	北九州市立大学	まなびとESDステーション
2~3	まなびとESDステーション活動と地域協働(コクラボ) We Love 小倉協議会が主催する“まちなか講座~コクラボ”と連携して、小倉のまちを愛し、まちの情報を共有し、明るく楽しく研究する。	講義	まなびと特任教員	まなびとESDステーション
4~6	ESDと地球環境~科学的視点から考える地球の自然~ 地球は子孫から借りているものという視点で環境問題を考える。	講義	九州女子大学	まなびとESDステーション
7~9	生活の再考~ESDの視点から身近な生活を見つめ直す~	講義	西南女学院大学	まなびとESDステーション
10~12	ESDと福祉~社会的弱者に対するケアの技法~ 北九州におけるノーマライゼーションの現状と課題について学ぶ。	講義	九州栄養福祉大学	まなびとESDステーション
13	学習成果報告会に向けたワークショップ 1~12回まで行ってきた学習内容の成果を発表するためにワークショップを開催する。発表に必要な媒体も作成する。	演習	北九州市立大学	まなびとESDステーション
14,15	学習成果報告会 他学の学生と協働して学習の成果について媒体を用いて発表する。	演習	教員全員	まなびとESDステーション

2017年度

高齢者支援学

開講年次	2年	期区分	後期	科目	歯学科(選択)、口腔保健学科(必修)	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎、引地 尚子、泉 繭依、〔非常勤講師〕荒木 剛、〔非常勤講師〕納戸 美佐子、〔非常勤講師〕坂巻 路可、〔非常勤講師〕新木 真理子、〔非常勤講師〕竜口 隆三						

授業の概要

西南女学院大学、西日本工業大学、九州歯科大学の3大学による連携講義で、アクティブシニアを支援する方法について、PBLを含む集中講義により、福祉、看護、栄養、口腔保健、住宅デザインの5分野の視点から学ぶ。

座学4コマ(西日本工業大学小倉303教室)で口腔保健以外の科目を受講し多職種理解にかかる基礎的知識を養った上で、PBL4コマ(場所:九州歯科大学)でアクティブシニアの支援方法について他大学の学生とともにグループ学習を行う。

【福祉】介護保険制度の内容及び動向を概観し、現在、進められている地域包括ケアシステムの背景、考え方、展開方法について解説する。また、地域包括ケアシステムの実現においてアクティブ高齢者等に期待される役割をボランティア活動や社会参加の視点から解説する。

【看護】高齢者が健康でアクティブな生活を維持増進するために必要な「生活機能」について解説し、生活機能の具体的な評価の視点とその評価方法について述べる。高齢者総合的機能評価(CGA)の項目を用いて、各々の評価方法について解説していく。ただし、栄養・口腔以外の活動面(ADL・IADLを含む)、及び活動に影響を与える認知面を中心に講義を進め、それらに関する観察・評価能力を養うことをめざす。

【栄養】高齢者が健康で活動的なライフスタイルを維持するための「栄養」について解説し、併せて高齢期(前期/後期)に起こりやすい疾患と栄養管理について述べる。また、高齢者の栄養状態を評価・判定する際の重要な指標として用いられる身体計測の意義についても解説し、人体の構成成分と栄養状態の変化が関連づけられるよう簡単な演習も交えながら講義を進める。

【口腔保健】口腔保健を通じた、アクティブシニアが健康を維持・増進するために必要な支援のあり方を理解するため、口腔機能の生理学・解剖学的特徴と、老化に伴う機能低下とその予防方法について学ぶ。

【住宅デザイン】高齢者が健康でアクティブな生活を送り続けるための、安全で快適な食卓をメインに住居デザインの基本について学ぶ。

学生の到達目標

【福祉】

- 介護保険制度の内容及び動向について説明できる。
- 地域包括ケアシステムの背景、考え方、具体的な展開方法について説明できる。
- 高齢者等によるボランティア活動の現状と意義について説明できる。
- 高齢者等のボランティア活動に対する支援方法について説明できる。

【看護】

- 高齢者が健康でアクティブな生活を維持増進するために、高齢者の生活機能を評価する意義が説明できる。
- 介護予防の視点から、高齢者の維持すべき運動機能・ADL機能・IADL機能について説明できる。
- 高齢者の自立した生活機能と認知力の関係について説明できる。

【栄養】

- 高齢者が健康でアクティブな生活を維持増進するために必要なエネルギー及び栄養素(食事摂取基準)について説明できる。
- 高齢者の低栄養・過栄養と疾患との関連について説明できる。
- 高齢者の栄養状態の評価・判定(身体計測)の意義について説明できる。

【口腔保健】

- 口腔機能の生理学・解剖学的特徴について概要を理解する。
- 歯科疾患の特徴とその予防方法に関する概要を理解する。
- 老化に伴う口腔機能の低下とその予防について理解する。
- 口腔機能の維持向上による摂食支援について理解する。

【住宅デザイン】

- ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いを理解する。
- ユニバーサルデザインの7原則とその考え方を理解する。
- 安全で快適な食卓(キッチン)の考え方を理解する。

コア・カリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

各講義での配付資料
出)

著)

参考書

出)

著)

2017年度

高齢者支援学

開講年次	2年	期区分	後期	科目	歯学科(選択)、口腔保健学科(必修)	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎、引地 尚子、泉 繭依、〔非常勤講師〕荒木 剛、〔非常勤講師〕納戸 美佐子、〔非常勤講師〕坂巻 路可、〔非常勤講師〕新木 真理子、〔非常勤講師〕竜口 隆三						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
事後レポート	50%
PBL発表会	40%
PBL学修態度	10%

その他

2017年度

高齢者支援学

開講年次	2年	期区分	後期	科目	歯学科(選択)、口腔保健学科(必修)	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学科,口腔保健学科						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎、引地 尚子、泉 繭依、〔非常勤講師〕荒木 剛、〔非常勤講師〕納戸 美佐子、〔非常勤講師〕坂巻 路可、〔非常勤講師〕新木 真理子、〔非常勤講師〕竜口 隆三						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	講義室等
1	【福祉】 地域包括ケアシステムの構築と高齢者の社会参加 1. 介護保険制度の内容と動向について 2. 地域包括ケアシステムの背景、考え方、具体的な展開方法について 3. 高齢者等によるボランティア活動の現状と意義について 4. 高齢者等に対するボランティア活動への支援方法について	講義	荒木、納戸	西日本工業大学小倉 303教室
2	【看護】 高齢者の生活機能 1. 高齢者の生活機能を評価する意義 2. 高齢者総合的機能評価(CGA)の概要と評価の視点 3. 基本動作・ADL・IADLの見方 4. 活動と認知力の関係性 5. 高齢者の生活機能をみるために	講義	新木	西日本工業大学小倉 303教室
3	【栄養】 高齢者の栄養管理 1. 高齢者の栄養管理 2. 高齢者における低栄養・過栄養の問題について 3. 栄養状態の評価・判定について 4. 人体の構成成分と栄養状態の関連性	講義	坂巻	西日本工業大学小倉 303教室
4	【住宅デザイン】 ユニバーサルデザインの必要性を理解する。 ・ユニバーサルデザインの基礎知識(バリアフリーからユニバーサルデザインへ) ・ユニバーサルデザインの7原則とその考え方 (使いやすいモノづくり、住みやすい家づくり、暮らしやすいまちづくり) ・食卓をメインに「キッチンの種類」「収納方法」「使いやすい食器」等の考え方 (特に食卓・キッチンについては人間工学的配慮の必要性に重点を置く)	講義	竜口	西日本工業大学小倉 303教室
5	アクティブシニアの支援方法を考える(1) ・チュートリアル教育と具体的な方法(時間配分、日程、学生とチュータ組合せ等)を説明する。 ・シナリオを基にグループ内で討論、学習項目選定、発表担当項目を決定する。	講義 チュートリアル	担当教員 全員	401講義室 チュートリアル演習室
6	アクティブシニアの支援方法を考える(2) コンピュータ演習室、図書館などのPCを利用してシナリオの学習項目を自己学習する。	チュートリアル	担当教員 全員	チュートリアル演習室
7	アクティブシニアの支援方法を考える(3) ・グループ発表とグループ内討論を行う。 ・学習項目をパワーポイントで発表し疑問点や不足部分を話し合い補う。 ・全体発表会の準備を行う。	チュートリアル	担当教員 全員	チュートリアル演習室
8	アクティブシニアの支援方法を考える(4) ・グループ単位でまとめた項目を教室で発表する。 ・その際他の班の発表を評価する。	発表と討論	担当教員 全員	401講義室